

取扱人ヲ監督シ其勤惰ヲ局長ヘ具申ス  
一量水標ニ關スル回議文書ハ各川ニ區別シ一箇年毎ニ取纏第四部編纂課ヘ送付スヘシ

調査課

第七條 直轄河川流域作業取締上ヨリ生スル事項ヲ調査シ處分案ヲ草スル事

但規則ニ關スルモノハ庶務課ニ合議スルヲ要ス

一處務ノ順序ハ第一條一項二項三項四項ニ同シ

第八條 各地出張所ヨリ進達スル水位日表ヲ調査スル事

一調査ヲ了シタルモノハ局長ノ閱覽ヲ得每一箇年製本シ若表中不明瞭ノ廉アルトハ更正ノ達案ヲ草シ局長ノ裁決ヲ乞フ

一水位日表ハ河川毎ニ部門ヲ分チ目錄ノミニ登録スヘシ

第九條 直轄工事ニ係ル要領ヲ摘録シ毎月末第四部編纂課ヘ送付スヘキ事

第十條 官報掲載ニ關スル事

但庶務課ヲ經テ總務局報告課ヘ送付スルモノトス

第二部 事務取扱手續

工事課

第一條 河川堤塘道路橋梁港灣新築變更等府縣ノ申牒ニ係ルモノハ其目論見豫算圖面ヲ勘査シ其處分案ヲ草スル事

一調査ヲ爲スニ方リ不明瞭ノ廉ハ推問案ヲ草シ局長ノ決判ヲ經テ照會往復ノ上處分ノ本案ヲ起草スヘシ

一主任ニ於テハ議案ヲ提出シタル上ハ何日局長ノ決判ヲ了シ何日官房ニ出ル等常ニ其運ヒ方ニ注意シ結局施行迄ノ責ニ任スヘシ

一國費支出ニ關スル事件ハ第三部ニ直轄ニ渉ル事件ハ第一部ニ合議スヘシ

一回議施行済ノ書類ハ速ニ之ヲ第四部ニ回付スヘシ只事件他日ニ牽連スル者ハ部長ニ於テ完結マテ留置コアルヘシ

但調査課關涉スル文書ハ同課ニ協議シ分離セサル様蒐輯スヘシ

第二條 河川堤防道路橋梁港灣等ニ係ル一切ノ工事及工費ヲ調理スル事

一國庫支出ニ係ル金額ハ豫算精算トモ決判済ノ上之ヲ帳簿ニ登記スヘシ

一地方税及協議費ノ豫算金額ヲ摘録シ置キ地方税ハ決算報告及一村限金高帳ニ對照シ其増減ヲ取調局長ノ閱覽ヲ經ヘシ

一各府縣ヨリ進呈スル一村限り金高帳ヲ勘査シ局長ノ檢閱ヲ得タル上更ニ工種及費途ヲ區分シタル統計表ヲ作り局長ノ檢閱ヲ經總務局統計課ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 河川港灣ノ名數及國道線路ノ變換伸縮ヲ調整スル事

一河川ノ名數流域ノ經界及航路ノ長短ヲ調査ス

一國道線路ノ變換里程ノ伸縮等ハ府縣ノ申牒ニ基テ整頓ス

一港灣ノ位置及其景況ヲ調査ス

調査課

第四條 河川堤塘道路橋梁等免許工事ニ係ル者及請願書建白等ヲ調査スル事

一處務順序ハ第一章一項二項三項四項ニ同シ

第五條 里道及溜池用惡水路等ノ諸工事竣功箇所ヲ調査スル事

一本項ハ當部ノ調査ニ係ルモノ及地理局ヨリ合評シ來ル者ニ據リ別帳ニ登記シ竣工届ト照合シテ一箇年毎ニ製表シ後第四部編纂課ヘ回付ス

第六條 臨時水害調査ノ事

一地方水害ノ報告ハ悉ク謄錄蒐集シ一覽表ヲ製シ局長ノ檢閱ニ供ス

第七條 國縣道及河川港灣等工費補助ニ係ル者及地方税ヲ以テ施行スルモノノ要領ヲ摘録スル事



一本條ハ當初調査ノ節其要領ヲ摘録シ置キ毎月末取纏メ第四部編纂課ニ送付ス

第八條 地方經營ニ係ル土木事業上法規ニ關スル達指令ヲ起草スル事

一本項ハ庶務課ニ合議スルヲ要ス

第九條 道路ノ制ニ關スル事項ヲ調理スル事

第十條 官報掲載ニ關スル事

但庶務課ヲ經テ總務局報告課ヘ送付スルモノトス

第四部 事務取扱手續

編纂課

第一條 局中各部課主任ヨリ回送シ來ル書類ハ左ノ部類ヲ分チ編纂スル事

一 諸回議書類

一直轄八箇所ニ分チ統管ハ府縣ニ分チ各件銘ヲ付シ之ヲ編纂ス

一 官省布告布達類

件銘ヲ付シ之ヲ編纂ス

一 內務卿命令書

年序ニ從ヒ之ヲ編纂シ本書ハ倉庫ニ藏メ寫本ヲ以テ需用ニ供ス

一 局長意見書付復命書

件銘ヲ付シ年序ニ從ヒ之ヲ編纂ス

一 局長復命書付設計書

同上

一 工師復命書付建議書

同上原書ハ倉庫ニ藏メ翻譯書ヲ以テ需用ニ供ス但別ニ翻譯書一部ヲ寫シ原書ト同ニ倉庫ニ藏メ置クヘシ

一 雜書類

件銘ヲ付シ年序ニ從ヒ之ヲ編纂ス

第二條 本局必要ノ書類編纂ノ事

一 一切ノ成規定例中本局要用ニ係ルモノヲ撰擇拔萃類別ニ抄輯ス

一直轄並統管工事中緊要ノ事項及其事數年ニ連亘シ事理複雜ノ患アルモノハ別ニ其要領ヲ摘録シ參考ニ便ニス

第三條 圖書保存ノ事

一 局員調製ノ繪圖ハ主任ヨリ局長檢印ノ引繼目錄ヲ添ヘ本課ヘ送り本課ハ之ヲ受ケ基帳ニ登記シ番號ヲ付シ所藏印ヲ捺シ之ヲ保存ス

一 官省各局其他ヨリ配付ノ圖書ハ庶務課ヨリ之ヲ受ケ基帳ニ登記シ局長ノ閱覽ヲ得之ヲ保存ス

第四條 圖書貸借ニ關スル事

一本局ニテ所藏外ノ圖書ヲ要スルコトアルハ式ニ依リ回議書ヲ作り局長ノ檢印ヲ請ケ典籍取扱者ノ借用證ニ局長ノ檢印ヲ得タルモノト引換ヘ之ヲ受ケ基帳ニ登記シ後其要ニ充ツ

一 局員圖書ノ公借ヲ請求スルハ本局所藏ノ圖書ハ直ニ貸渡ノ手續ヲ爲シ所藏ナキ圖書ハ所要者ヨリ請求ヲ出サシメ本課ニテ前項ノ手續ヲ爲ス

但借用證ニハ其期限ヲ記入セシム可シ

一 圖書貸渡ハ總テ典籍借覽心得ニ據リ公借證ニハ所要者ニ於テ局長ノ檢印ヲ受ルモノトス

但一時参照ニ止マルモノハ證書ニ局長ノ檢印ヲ要セス

第五條 凡翻譯ヲ要スルコトアルハ主任ヨリ翻譯料豫算書ヲ本課ヘ受ケ局長ニ經伺シ譯成ルノ後本課ニテ淨書シ之ヲ局長ニ出シ原書ハ本課ニ保存ス

第六條 各部課ニ於テ寫字生ヲ要スルハ本課ニ於テ本人ノ手鑑ヲ出サシメ之ヲ檢查シ日給生ハ局長ニ經伺シ枚數生ハ課長之ヲ定メ本人ニ口達ス但等級及ヒ取扱方等ハ寫字生規則ニ依ル

官制 內務省一



第七條 報告編製内規ニ依リ左ノ各項取調局長ノ閱覽ヲ得庶務課ヲ經總務局報告課ヘ回付スル事  
一直轄竝統管工事ノ景況

一 水害ノ景況

一本局事務ノ重要ナルモノ

第八條 本省年報ニ要スル左ノ各項取調局長ノ閱覽ヲ得庶務課ヲ經總務局報告課ヘ回付スル事

一 量水表廢設表

一直轄竝統管工事ノ統計

一 水害ノ統計

一 全國工費ノ統計

一直轄竝統管工費豫算ノ統計

一 局員増減ノ統計

一文書往復ノ統計

製圖課

第九條 直轄竝統管工事ニ係ル測量圖其他ノ繪圖原本謄本共局長ノ命ヲ承ケ之ヲ調製ス

第十條 同上圖面ノ本局ニ保存スヘキモノハ目錄ヲ付シ著手ト落成ノ月日ヲ記シ局長ノ檢印ヲ得編纂課ヘ回付ス

土木局達 十八年八月五日

本局第三部事務取扱手續別紙之通改正候條此旨相達候也

土木局第三部事務取扱手續

第一章 調査課審査掛

第一 工費ニ係ル收支ノ豫算ヲ整理シ其説明及進達令達案ヲ起草スル事

土木局第三部事務取扱  
手續改正

十九年一月十六日本省  
例ヲ改正シ二月十六日土  
木局事務分掌ヲ定ム

第二 工費ニ關スル本部又ハ他部局ノ諸回議ニ對シ得失意見ヲ辨明商議討論シ其決シ難キハ決裁ヲ請フモノトス

第三 收支日計表及豫算殘高表等ヲ審査シ現金ノ納拂ヲ監察スヘシ

一 收支ノ切符ヲ證憑ニ照シ該切符ト證憑ト割印スヘシ

一 國庫金ノ領收證書ハ傳票ニ照シ該簿冊ト割印スヘシ

一 金券交付ノ領收證書ハ支出證憑ニ照シ審査スヘシ

一 管守證書ハ受入證憑ニ照シ該簿冊ト割符スヘシ

第四 工費ニ關スル諸回議ノ金員ハ勿論調書等其方略ノ如何ト科目ノ區別トヲ審査シ明確ナルニ於テハ悉ク調査印ヲ捺スヘシ

第五 會計ニ關スル成規廢立ノ意見アルハ局長ニ請フテ議案ヲ起草スル事

第六 會計ニ關スル法規ニ對シ伺指令等ハ勿論疑問照會説明等ハ商議討論シ考案ヲ起草シ尙決シ難キハ局長ノ決裁ヲ需ム

第七 費額ノ増減流用ヲ要スルニ際シテハ其方略ノ伺及照會案ヲ起草スル事

第八 各出張所ヨリ差出ス仕拂證書及府縣ヨリ進達スル精算豫算等ハ科目ノ類別ヲ精査勘算シ調査印ヲ捺シ到達後十日以内ニ查了スルモノトス

第九 諸器械及物品等購買スルハ其見積書ト物品標本トヲ比較點檢シ其得失如何ヲ審議シ務テ冗費ナカラシムヘシ

第十 諸器械及ヒ物品等基簿ニ照シ監視スヘシ

ナカラシムヘシ

第二章 主計掛

第十一 收支及報告等ノ命令書ヲ簿記條例ニ基キ各簿冊ニ詳悉登錄ノ上年月日ノ順序及毎小科目ヲ區分

分類集シ保管スル事

第十二 記帳濟正當證書ハ每細科目ニ區分集シ總テ調理順序ニ照シ編整主管廳ヘ送付ノ手續ヲ爲



- ス事
- 第十三 諸計表ヲ成規ノ如ク調製シ審査掛ヲ經テ出納課ヘ回付シ現金突合セノ後チ部長ノ檢印ヲ請クヘシ
- 第十四 豫算外臨時増額ノ裁可ヲ得タル科目ノ新設ニ係ルモノハ整理科目主管廳ヘ照會案ヲ起草スル事
- 第十五 收支現計書及報告書並決算帳等成規ニ依リ調整主管廳ヘ進達案ヲ付シ決裁ヲ請フノ手續キヲ爲ス事  
但府縣ヨリ差出ス決算帳ヲ查閱シ本項決算帳ト共ニ送付ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第十六 每一週年度決算完結スルキハ成規ノ決算報告書ヲ調整シ進達案ヲ付シ決裁ヲ請フノ手續キヲ爲ス事
- 第三章 文書掛
- 第十七 他局部合評ノ諸回議册並諸公文ヲ受理シ其件銘ヲ各簿册ニ登録シ順次番號月日ヲ付シ主務ノ各掛ニ配付シ之カ領收ノ證印ヲ受クルモノトス
- 第十八 本部ヨリ發遣スヘキ諸回議文書等ハ各簿册ニ登録シ局長及部長ノ決裁ヲ請フモノハ庶務課ニ送付スヘシ
- 第十九 本部ヨリ發遣ノ諸回議達濟又ハ決判濟ノモノハ其事由ヲ各簿册ニ登記シ主任ニ返付スヘシ
- 第二十 諸公文等受理ノ後每一箇月分翌月五日迄ニ取調處分未濟ニ係ルモノハ其主任ニ就キ延滞ノ事由ヲ糾シ主任者ノ詳記シタル付箋ヲ以テ局長ノ閱覽ニ備フルモノトス
- 第二十一 本部ニ屬スル一切ノ文書ヲ類別シ便覽ノ爲メ番號及要領ヲ摘記シタル目錄ヲ付シ編輯スヘシ
- 第二十二 他局部ヨリ合評ノ諸回議再回アルキハ主務ノ各掛ヘ協議シ其議册ノ全部又ハ其要領ノ部分ヲ謄寫シ編輯スヘシ

- 第二十三 編輯ニ際シ其區別決シ難キハ原案者又ハ審査掛ニ協議ノ上部長ニ請フテ處分スルモノトス
- 第二十四 公布公達ハ番號ノ順次ニ目錄ヲ付シ官報ハ番號ノ順次ニ編輯スヘシ
- 第二十五 官報中參照トナルヘキ部分ハ審査掛ト協議シ謄寫ノ上特ニ編纂スヘシ
- 第二十六 金券添付ノ公文ハ特ニ金券證印簿ヲ設ケ金員及送付先ヲ記明シ審査掛ヲ經テ部長ノ檢印ヲ請ケ而シテ主務ノ掛ヘ送付スヘシ
- 第四章 出納課收支掛
- 第二十七 工費ノ金錢收支ニ係ル各種ノ請求書及上納書ヲ得テ直ニ收支ノ議案ヲ起草シ決裁ヲ需ムルモノトス
- 第二十八 各出張所ヨリ進達ノ仕拂證書及府縣ヨリ差出ス精算帳等審査掛ノ證印アルヲ認メ之レカ收支ノ費途ヲ調ヘ三日間以内ニ本拂更訂ノ議案ヲ起草スヘシ
- 第二十九 收支ノ議案ヲ起草スルヤ先其費途及科目ノ區別豫算帳ニ依リ金額ノ有無ヲ糾シ收支報告等ノ番號及科目印ヲ捺シ主計掛ヲ經テ審査掛ヘ回送スヘシ
- 第三十 各費ノ傳票議案ヲ起草シ會計局ヘ要求ノ手續ヲナスヘシ
- 第五章 金錢納拂掛
- 第三十一 國庫金ノ受入ハ其證憑ヲ得テ領收證書ヲ作り同割符帳ニ記入シ受取方ノ手續ヲ爲シ其領收シタル金券ハ直ニ返納切符ヲ調整シ之レニ金券ヲ添へ出納局ヘ送付シ管守證ト交換ヲ爲スヘシ
- 第三十二 前條國庫金ノ外府縣委託金並不用物品賣拂代金其他諸上納金等ノ受入ハ其證憑ヲ得テ納人ヲ換方ヲ招喚シ其出頭ノ日ニ至リ返納切符ヲ發遣シ納人ニ渡シ出納局ヘ納メシムルモノトス
- 第三十三 出納局管守證書ヲ得レハ直チニ現金受拂簿ニ登録シ受入證憑ニ受入月日ヲ記入シ其證憑ハ主計掛ヘ回付スヘシ
- 第三十四 金錢ノ支出ハ其證憑ヲ得ル毎ニ之ヲ取纏メ置支出定日ニ至リ現金受拂簿ニ登録シ支出切符ヲ調製スルモノトス



第三十五 前條ノ手續ヲ了シタル上乙號切符ハ出納局へ送付シ甲號切符ヲ受取人ニ交付スヘシ尤交付スルハ先ツ請求書ト領收證書トヲ照合シ本課長ノ立會ヲ受ケ交付ノ上該證書ヲ支出證憑ニ添付シ渡シ月日ヲ記入シ審査掛ヲ經テ主計掛ニ送付スヘシ

第三十六 管守證及金券預證等總テ部長證印ヲ受ケ保管スヘシ

第三十七 通常支拂ノモノハ毎月五十ノ日ヲ以テ拂出ノ定日トス自然休暇ニ際スルハ前日ニ於テスヘシ

但臨時至急ヲ要スルモノハ此限りニアラス

第三十八 每一月受拂殘ノ金額ヲ收調出納局へ突合ノ照會案ヲ草シ調査課ニ合議シ部長ノ決裁ヲ需ムヘシ

第六章 調査掛

第三十九 局員需用ノ物品等會計局ヨリ領置シ請求ニ應シ交付スヘシ

但授受共部長ノ證印ヲ受ケヘシ

第四十 工事須要ノ諸器械其他物品等各地出張所ヨリ請求スルヤ之レカ當否ヲ查覈シ汎ク投票ヲ以テ其價直ノ低廉ナルト物質ノ精粗トヲ點檢シ其價格ヲ比準シ審査掛協議ノ上之ヲ定ムルモノトス但測器製圖用器等ハ投票ノ限りニアラス

第四十一 諸器械及物品ノ購買ハ其品名ト見積リ代價ヲ付シ購買ノ議案ヲ起草シ決裁ヲ需ムルモノトス

第四十二 購買セル器械物品ハ各其臺帳ニ購入ノ年月日品名數量ヲ明瞭ニ記載シ置クヘシ交付納付ノ片モ亦同シ

但器械ハ必ス番號ヲ付スヘシ

第四十三 物品代價ハ納人ヨリ請求書ヲ差出シ之ト購買伺議冊ト照查シ之レカ金員ヲ該議冊ニ登錄シ請求書トノ割符ヲ爲シ審査掛ヲ經テ收支掛ニ廻送スヘシ

第四十四 局中ノ營繕ハ審査掛ト協議ノ上照會案ヲ起草シ決裁ヲ需ムルモノトス

第四十五 各出張所及量水標番小屋等ノ營繕ヲ伺出テルハ其當否ヲ查覈シ答達案ヲ起草シ第一部ヘ合議シ決裁ヲ需ムルモノトス

第四十六 通常需用ノ物品ハ壹個家屋營繕一箇所五十圓未滿ハ局長限リ其他ハ內務卿ノ決裁ヲ請フヘシ

第四十七 運搬物ハ海陸ノ便ヲ謀リ其運送ニ先チ物品種類數量代價等ヲ詳記シタル通知書ヲ作り部長ノ檢印ヲ受ケ發遣スヘシ

第四十八 局中ノ諸器械物品等不用ノモノアルハ會計局ヘ納付ノ手續ヲナスヘシ

第四十九 出張所用ノ家屋及諸物品不用又ハ損廢セシモノ處分伺出ノ節ハ其當否ヲ查覈シ答達案ヲ起草シ決裁ヲ需ムルモノトス

第五十 毎歳一月本局現在ノ諸器械物品等審査掛員ト立會數量ノ調書ヲ調製シ局長ノ閱覽ニ備フヘシ

土木局達 十八年八月十二日

是迄各部課ニ於テ局長ノ指揮ヲ受ケ可キ回議書類又ハ各局合評書類等緩急之別ナク都テ庶務課ヘ回付ノ上一纏メニテ決判ヲ受ケ來候處往々遲延ノ恐ナキ能ハス不都合ニ付自今各部課長ニ於テ緊要又ハ至急ヲ要スル書類ト認ムルモノハ直ニ局長ニ提出其事由ヲ陳述シ決判ヲ受ケ候様可致此段相達候事

內務省及舊工部省へ達 十八年十二月二十三日  
舊工部省所轄營繕ノ事務自今內務大臣ノ管理ニ付シ土木局ニ屬ス

內閣書記官 同 十八年十二月二十三日  
舊工部省所轄營繕ノ事務ヲ內務大臣ノ管理ニ付セララル、ノ事

(備考)  
土木局記録節錄

十九年一月十四日本局中營繕事務ハ舊工部省内ニ於テ取扱ヒレカ本日ヨリ局内ニ移轉シ事務ヲ取扱フ

土木局各部回議提出方  
十九年一月十八日公文書  
受取手續ヲ定ム

舊工部省營繕事務ヲ內  
務省土木局ニ屬ス  
十九年一月二十七日營繕  
事業ヲ廢ス



土木局公文書授受手續

- 公文書授受手續 十九年一月十八日
- 一 親付竝往復課ヨリ受クル文書ハ書記ニ於テ件名簿ヘ記載シ該簿ニ添ヘ局長ヘ差出ス局長ハ主務課長ヲ招キ直チニ之ヲ交付シ件名簿ヘ證印セシメ其處分方ヲ指圖ス
  - 一 主務課ニ於テ調査シタル回議ヲ書記ヘ受クルハ前ノ件名簿ニ依リ例規ノ期限ニ違ハサルヤヲ點檢シ局長ヘ差出シ檢印濟ノ上往復課ヘ送付ス
  - 一 往復課ヨリ受ケタル文書例規ノ期限内ニ調査難相成モノハ主務課長ヨリ其事由ト延期ノ日數ヲ見込ミ別紙短冊ヘ式ノ如ク記載シ課長檢印シ局長エ中立局長ニ於テ事實已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ書記ニ命シ式ニ依リ往復課長ヘノ通知書ヲ取調ヘシム
  - 一 但延期承認ノ分ニシテ調査濟ノ時主任官ハ書記ニ就キ豫テ差出シ置所ノ短冊延期書ヲ取戻スヘシ又書記ニ於テハ期限一日前主務課ニ就キ調査ノ成否ヲ推問スヘシ
  - 一 往復課ヨリ配送シ來ル合評回議書ハ書記ニ受ケ件名簿ヘ記載シ回議書ヘハ式ニ依リ月日等ヲ記注シ直チニ主務課ヘ交付シ調査濟ノ上書記ヲ經テ局長ヘ差出ス
  - 一 但滯滞シタル回議ヲ受クルハ書記ニ於テ式ニ依リ往復課長ヘノ通知書ヲ取調ヘ又當局ニテ期限内ニ調査シ難キ分ハ第三項ノ手續ニ由ル
  - 一 府縣其他諸官衙ヨリ局長宛ニ來タル文書ハ書記ニ於テ記帳ノ上局長ヘ差出シ局長ヨリ直チニ主務課長ニ交付シ其回答案ヲ取調書記ヲ經局長ヘ差出スヘシ
  - 一 同上司回議竝局長ヨリ府縣其他ヘ照會ニ限ル回議ハ書記ニ受ケ件名簿ニ登錄ノ上局長ヘ差出シ局長決判ノ上其儘主務課ヘ交付シ主務課ニテ之ヲ淨書シ原本ニ添ヘ書記ヘ差出シ書記ニ於テ決判竝送達ノ日ヲ書入淨書ニ局長ノ印ヲ捺シ直チニ發遣シ原本ハ主務課ヘ戻ス
  - 一 出張所其他々向ニ關セサル回議ハ都テ主務課ヨリ直チニ局長ノ決判ヲ承ケ書記ニ於テ記帳セス

土木局處務條例

十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム

内務省處務條例節錄 十九年一月十六日(全文ハ本省)

土木局

長一人 次長一人

治水課

長一人 課僚 若干員

一本省直轄ノ河川堤防港灣等ノ工事ニ關スル事

一府縣ノ經營ニ屬スル河川堤防港灣等ノ工事ヲ監督スル事

一運河等私營ニ係ル工事ヲ許否スル事

一用惡水路疏通ノ事

道路課

長一人 課僚 若干員

一本省直轄ノ道路橋梁等ノ工事ニ關スル事

一府縣ノ經營ニ屬スル道路橋梁等ノ工事ヲ監督スル事

一道路橋梁等私營ニ係ル工事ヲ許否スル事

計算課

長一人 課僚 若干員

一直轄工事ノ費用豫算決算竝出納ノ事

一府縣ノ工事ニ付官費補助其他費用ニ關スル事

土木局中務課ニ關スル事務ノ概

内務省諸議 十九年一月一日  
今般舊工部省所管營繕ニ係ル事務ヲ以當省ヘ屬セラレタルニ右營繕ノ事タル共初大藏省ニ營繕司ヲ置カレシヨリ十餘年ヲ經ルノ間内務省ニ於テ其幾部ヲ分管シ又之ヲ工部省ニ屬シ變遷一ナラス又事務取扱方ニ至リテモ始ハ宮殿社寺官舎ノ官營一切ノ事ヲ監督シ後ニハ今日ノ如ク官私ノ委託ヲ受ケ堂院屋



請議ノ通

宇ノ經畫ヲ定メ共建築ヲ監スルコト、爲リタリ抑他ノ委託ヲ受ケテ事務ヲ執ルモノナレハ其委託者ナキトキハ自ラ廢停ニ屬セサルヲ得ス且輒近民間建築ノ事業日ニ進ミ別ニ此委託所ヲ設クルノ要ナキカ如シ願フニ民間該業者ニ於テ或ハ此委託所アルカ爲ニ其生計ヲ妨害セラル、モノナキヲ保シ難ク獨リ此營繕ノミナラス此際官設ノ作業ニテ荷モ民間ノ營業ニ妨害ヲ爲スノ恐レアルモノハ篤ト調査ノ上廢止セラレンコト希望スル所ナリ依テ現今已ニ委託ヲ受ケ營繕ニ著手スルモノハ中途ニ於テ止ムヘキニ非サレハ其殘務ヲ了スルヲ竣テ終局シ新規ノ委託ハ一切受ケスニテ該事務ヲ廢セントス然ルトキハ官廳ニ在テハ經費ヲ節減シ民間ニ在テハ該業ヲ獎勵スルノ一端トナルヘシ仍テ閣議ヲ請フ

指令 十九年一月二十七日

請議ノ通

內閣書記官議案 十九年一月十八日

別紙內務大臣京議ノ要旨ハ今般舊工部省所管營繕ニ係ル事務ヲ內務省土木局ニ屬セラレタル處營繕ノ事タル其變遷一ナラス始ハ宮殿社寺官舎等官營ノ事業ニ止リタルモ今日ニ在テハ官私ノ委託ヲ受クルニ至リ之カ爲メ官廳ニ在テハ經費ヲ要シ民間ニ在テハ營業ヲ妨害スル等其弊不少輒近民間建築ノ事業日ニ進ミ別ニ此委託所ノ必要ヲ見ス依テ右事務ヲ廢止シ已ニ著手中ニ屬スルモノハ其殘務ヲ了スルヲ以テ終局スヘシ且此際官設ノ作業ニシテ荷モ民業ヲ妨クルノ恐レアルモノハ總テ廢止セラレンコトヲ希望スト云フニアリ

右ハ左ノ通指令可相成歟開裁ヲ仰ク

土木局事務分掌

土木局事務分掌 十九年二月十六日

局長附書記

- 一局長ノ命ニ依リ機密ニ關スル文書ヲ取扱ヒ及之レカ文案ヲ起草スル事
- 一本局竝各地出張所官吏ノ進退及其身分ニ關スル事項ヲ取扱フ事
- 一雇外國工師ニ關スル諸件ヲ取扱フ事
- 一公文書往復受付ヲ管理スル事
- 一各課ニ屬セサル事務ヲ取扱フ事
- 治水課
  - 一直轄治水工事ノ計畫ニ於テ其得失利害ヲ勘査スル事

一直轄治水工事ノ伺届ヲ調査スル事

一直轄治水工事ニ對シ人民寄附ノ事項ヲ調査スル事

一直轄治水工事ノ日報ヲ調査スル事

一府縣治水工事ニ係ル國庫金補助請求ヲ調査スル事

一府縣治水工事ニ係ル臨時國庫金下ケ渡請求ヲ調査スル事

一府縣治水工事ニ係ル國庫金拜借請求ヲ調査スル事

一府縣治水工事ニ係ル伺届ヲ調査スル事

一私營治水工事ニ係ル伺届ヲ調査スル事

一治水ニ關スル請願及建白書ヲ調査スル事

一治水ニ關スル他省又ハ他局課ヨリノ合議ヲ調査スル事

一治水上法規ニ關スル伺及報告類ヲ調査スル事

一築港又ハ港灣浚渫等ノ爲メ港灣若クハ帆足錢ヲ收立又ハ新タニ渡津場ヲ設ケ渡船賃ヲ取立ル等ノ事項ヲ調査スル事

一直轄河川流域作業取締上ヨリ生スル事項ヲ調査スル事

一量水標ニ關スル諸般ノ事項ヲ調査シ及之ヲ管理スル事

一治水工事ニ係ル國庫金支出及補助ノ支拂ヲ記帳スル事

一國庫金補助ニ係ル府縣治水工事ノ年度報告ヲ編製スル事

一府縣ノ治水工費惣計表ヲ調査スル事

一東京府下廊内外竝各開港場外國人居留地其他沖繩縣小笠原島等ノ治水ニ關スル官費定式工事ノ目論見及精算ヲ計算スル事

一直轄治水工事ノ目論見竝竣功表及府縣ノ稟申ニ屬スル治水工事ノ目論見仕樣帳ヲ計査スル事

一治水ニ關スル書類ヲ管理スル事



- 一 治水ニ關スル圖籍貸借ノ取締ヲ爲ス事
- 一 治水ニ關スル官報々告及ヒ本省年報其他本局諸般ノ報告ヲ調理スル事
- 一 水害表ヲ調査スル事
- 一 府縣治水工事ノ竣功届ヲ調査スル事
- 一 治水ニ關スル諸般ノ繪圖ヲ調製シ及之ヲ管理スル事

道路課

- 一 直轄道路工事ノ計畫ニ於テ其得失利害ヲ勘査スル事
- 一 直轄道路工事ノ伺届ヲ調査スル事
- 一 直轄道路工事ニ對シ人民寄附ノ事項ヲ調査スル事
- 一 直轄道路工事日報ヲ調査スル事
- 一 府縣道路工事ニ係ル國庫金補助請求ヲ調査スル事
- 一 府縣道路工事ニ係ル臨時國庫金下渡請求ヲ調査スル事
- 一 府縣道路工事ニ係ル國庫金拜借請求ヲ調査スル事
- 一 府縣道路工事ニ係ル伺届ヲ調査スル事
- 一 私營道路工事ニ係ル伺届ヲ調査スル事
- 一 道路ニ關スル請願及建白書ヲ調査スル事
- 一 道路ニ關スル他省又ハ他局課ヨリノ合議ヲ調査スル事
- 一 道路上法規ニ關スル伺及報告類ヲ調査スル事
- 一 新道開鑿又ハ架橋等ノ爲メ路錢若クハ橋錢ヲ取立ル等ノ事項ヲ調査スル事
- 一 馬車軌道築設ニ係ル事項ヲ調査スル事
- 一 國縣道線路變更ヲ調査スル事
- 一 道路工事ニ係ル國庫金支出及補助ノ支拂ヲ記牒スル事

- 一 國庫金補助ニ係ル府縣道路工事ノ年度報告ヲ編製スル事
- 一 府縣ノ道路工費總計表ヲ調査スル事
- 一 東京府下廓内外竝各開港場外國人居留地其他沖繩縣小笠原島等ノ道路ニ關スル官費定式工事ノ目論見及精算ヲ計算スル事
- 一 直轄道路工事ノ目論見竝竣功表及府縣ノ稟申ニ屬スル道路工事ノ目論見仕様帳ヲ計査スル事
- 一 道路ニ關スル書類ヲ管理スル事
- 一 道路ニ關スル圖籍貸借ノ取締ヲ爲ス事
- 一 道路ニ關スル官報々告及本省年報其他本局諸般ノ報告ヲ調理スル事
- 一 府縣道路工事ノ竣功届ヲ調査スル事
- 一 道路ニ關スル諸般ノ繪圖ヲ調製シ及之ヲ管理スル事

營繕課

- 一 地質ヲ検査スル事
- 一 諸測量ヲ爲ス事
- 一 家屋構造ノ計畫及室内裝飾ニ關スル一切ノ繪圖ヲ調製スル事
- 一 工事ノ仕様書ヲ調製スル事
- 一 築品ヲ検査スル事
- 一 工事ヲ監督スル事
- 一 工事竣成ノ後一切ノ圖面ヲ縮寫スル事
- 一 模形ヲ作ル事
- 一 新築竝裝飾ニ要スル一切經費ノ豫算ヲ立ツル事
- 一 建築ニ要スル外國品購買ノ豫算ヲ調理スル事
- 一 建築表及卒業表ヲ調成スル事



計算課

- 一 直轄及府縣工費ノ豫算ヲ調理スル事
- 一 直轄及府縣工費ノ決算ヲ整理スル事
- 一 本局各地出張所ノ金銭出納ヲ監査スル事
- 一 本局各地出張所需費ノ成績ニ就キ其得失ヲ監査シ儉省ノ方法ヲ建議スル事
- 一 直轄及府縣工費ヲ收支スル事
- 一 工費ノ流用増減ヲ調理スル事
- 一 諸器械及物品ヲ購買スル事
- 一 各出張所々屬ノ家屋借入及管轄等ヲ管理スル事
- 一 諸器械及物品等罹災又ハ不用ニ屬スルモノヲ處理スル事
- 一 局員需用ノ器械物品ヲ授受スル事
- 一 工役人夫死傷手當ニ係ル件ヲ處理スル事
- 一 工費會計上ニ關スル伺届等ヲ調査スル事

計算課事務取扱順序

第一章 通則

- 第一條 各掛主管ノ文書ヲ受ルキハ成規定例ニ據リ處分案ヲ起草シ回議ニ付スヘシ
- 第二條 工費收支ノ法規ニ對シ伺届令及成規廢設竝改正追加等ノ意見アルキハ之ヲ回議ニ付スヘシ
- 第三條 本課及他局課ノ諸回議ニ意見アルキハ付箋シ返付スルヲ得ルト雖モ可成的面議シ事務ノ速ニ運ブコトニ注意スヘシ

第二章 出納掛

- 第四條 直轄及府縣工費ノ豫算ハ治水道路ニ課ヨリ其目論見帳ヲ得テ豫算ヲ調整シ主管廳ヘ送付ノ順序ヲ爲スヘシ

第五條 決算費額ノ支出月額ヲ取調主管廳ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 工費ノ増減流用ヲ要スルキハ精密ニ其事由ヲ取調主管廳ヘ照會ノ順序ヲ爲スヘシ

第七條 豫算ニ基キ増減差引ヲ詳悉シ決算ノ終結迄整理スヘシ

第八條 科目改廢増設ノ取調ヲ爲シ主管廳ヘ照會ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 工費ノ收支ニ係ル各種ノ請求書及上納書ヲ得ルキハ其費途及豫算ノ有無ヲ糾シ直ニ收支ノ順序ヲ爲スヘシ

但治水ニ係ルモノハ治水課道路ニ係ルモノハ道路課ニ合議スヘシ

第十條 各出張所及府縣ヨリ差出ス精算牒竝支拂證書等到達後三日以内ニ元受金員等ヲ查照シ科目類別ヲ精査シ検査掛ニ送付シ查了返付ノ上ハ三日以内ニ本拂ニ更訂スヘシ

但本條日限内ニ手續ヲ爲シ難キモノハ其旨局長ニ具申スヘシ

第十一條 收支ニ關スル一切ノ金員更訂ヲ要スルモノハ之カ整理ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 收支及報告等ノ命令書ヲ簿記條例ニ基キ各簿册ニ詳悉登錄ノ上年月日ヲ逐ヒ毎科目ニ區分

類集シ保管スヘシ

第十三條 記牒濟正當證書ハ總テ調理順序ニ照シ編整主管廳ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 諸計表ヲ成規ノ如ク調製シ検査掛ヲ經テ檢閱ヲ請フヘシ

第十五條 收支報告書決算帳等成規ニ依リ調整主管廳ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

但府縣ヨリ差出ス決算帳ヲ査閱シ本條決算帳ト共ニ送付スヘシ

第十六條 每一周年度決算完結スルキハ成規ノ決算報告書ヲ調整シ主管廳ヘ送付ノ手續ヲナスヘシ

第十七條 府縣委託金竝不用物品賣拂代金其他諸上納金等ノ受入ハ其證憑ヲ得テ納人ヲ召喚シ其出頭

ノ日ニ至リ返納切符ヲ發遣シ納人ニ渡シ金庫局ヘ納メシムヘシ

第十八條 金錢ノ支出ハ其證憑ヲ得ル毎ニ之ヲ取纏メ置キ支出日ニ至リ支出切符ヲ調製スヘシ

第十九條 前條ノ手續ヲ了シタル上乙號切符ハ金庫局ヘ送付シ甲號切符ヲ受取人ニ交付スヘシ尤交付



スルハ先ツ請求書ト領收證書トヲ照合シ交付ノ上該證書ヲ支出證憑ニ添付シ渡月日ヲ記入シ検査掛ノ檢印ヲ受クヘシ

第二十條 金券預證等ハ總テ檢閲ヲ受ケ保管スヘシ

第二十一條 通常支拂ノモノハ毎月五十ノ日ヲ以テ排出ノ定日トス休暇ニ際スルハ前日ニ於テスヘシ

但臨時至急ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第三章 検査掛

第二十二條 直轄並府縣工費豫算決算ヲ審査シ及出張所金錢物品ノ出納ヲ監査スヘシ

第二十三條 各出張所ノ需費ニ就キ其當否ニ注目シ務メテ儉省ノ方法ヲ建議スヘシ

第二十四條 收支日計及報告表豫算殘高表等ヲ審査シ本局金錢物品ノ出納ヲ監査スヘシ

一 收支ノ切符ヲ證憑ニ照シ該切符ト證憑トニ割印スヘシ

一 金券交付ノ領收證書ハ支出證憑ニ照シ審査スヘシ

第二十五條 工費ニ關スル諸回議ノ金員ハ勿論科目ノ區別トヲ審査シ其明確ナルニ於テハ悉ク金員

調査印ヲ捺スヘシ

第二十六條 各出張所ヨリ差出ス仕拂證書及府縣ヨリ進達スル精算牒等出納掛ヨリ送付セシ日ヨリ三

日以内ニ査閱シ違算又ハ明瞭ナラサル廉ハ推問訂正セシメ查了ノ後出納掛ニ返付スヘシ

但事故アリテ三日以内ニ査閱シ能ハサルモノハ局長ニ具申スヘシ

第二十七條 諸器械及物品ノ購買等注意ヲ加ヘ務メテ冗費ナカラシムヘシ

第二十八條 各掛ニ於テ取扱ノ回議既濟ノ書ハ取纏メ編纂スヘシ

第四章 用度掛

第二十九條 諸器械其他物品購入ハ一箇家屋營繕ハ一箇所五十圓未満ハ局長限リ五十圓以上ハ内務大

臣ノ決裁ヲ請フヘシ

一 諸器械及物品ノ購買ハ其品名ト價格書トヲ付シ家屋ノ營繕ハ箇所付ト仕樣見積書ヲ添ヘシ

第三十條 諸器械及物品等購買スルハ汎ク投票ヲ以テ其品質ノ精粗ト其價格ノ當否ヲ審査スヘシ

一 檢本アルモノハ之ヲ示スモ妨ケナシト雖モ通常檢本及價格書ヲ徴スルヲ例トス

一時機ニヨリ投票ノ順序ヲ經スシテ購買ヲ要スルハ同業者三名以上各檢本並價格書ヲ徴シ品質及

價格ヲ比較シ精査ノ上購入スヘシ尤貴重ノ器械多數ヲ要スルハ東京或ハ横濱商店ニ就キ直ニ購

入スルコトアルヘシ

一 購買スル物品重大ニ涉リ檢本運搬ニ容易ナラサルモノハ實地ニ就キ検査スヘシ

一 前項ノ場合ニ於テハ検査掛並治水課ト協議ノ上定ムルモノトス

第三十一條 購買ノ器械物品ハ各臺帳ニ部類ヲ分チ購入セシ年月日品名數量ヲ明瞭ニ記載シ置クヘシ

交付納付ノ片モ亦同シ

但諸器械ニハ必ス番號ヲ付スヘシ

一 各出張所ニ於テ直チニ購入ノ器械物品モ届出アル毎ニ本條ニ準シ各臺帳ヘ記入スヘシ

第三十二條 各出張所用ノ家屋及量水標番小屋等ノ營繕並借入又ハ諸器械物品不用或ハ損廢セシモノ

ハ其處分案ヲ草シ治水課ヘ合議スヘシ

第三十三條 毎年一月各出張所一箇所毎ニ現在ノ諸器械物品數量ノ表ヲ製シ検査掛ヲ經テ局長ノ閱覽

ニ供スヘシ

第三十四條 局員需用ノ物品ハ會計局ヨリ領置シ置キ請求ニ應シ交付スヘシ但授受共課長ノ檢印ヲ徴

スヘシ

第三十五條 局中ノ諸物品等不用ノモノアルハ會計局ヘ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 物品代價ハ納人ヨリ請求書ヲ差出サセ之ト價格書ト照合シ其相違ナキヲ證スル爲メ請求

書ト割印ヲ爲シ検査掛ヲ經テ出納掛ニ回付スヘシ

第三十七條 運搬物ハ海陸ノ便ヲ謀リ其運送ニ先チ物品種類數量代價等ヲ詳記シ通知スヘシ



第三十八條 局中各課ニ於テ謄寫ヲ要求セシキハ寫字生ヲシテ謄寫セシメ枚數等ヲ調査シ各課ニ交付スヘシ

土木局官制

勅令節錄 十九年二月二十六日(全文ハ本省)

第十七條 土木局ニ治水課道路課及計算課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第十八條 治水課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省直轄ノ河川堤防港灣等ノ工事ニ關スル事項

二 府縣ノ經營ニ屬スル河川堤防港灣等ノ工事ヲ監督スル事

第十九條 道路課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省直轄ノ道路橋梁等ノ工事ニ關スル事項

二 府縣ノ經營ニ屬スル道路橋梁等ノ工事ヲ監督スル事

第二十條 計算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 直轄工事ノ費用豫算決算並出納ニ關スル事項

二 府縣ノ工事ニ付官費補助其他費用ニ關スル事項

大阪府へ達 八年五月二十八日

今般其府下ニ於テ土木寮分局ヲ置キ澱川流域ニ關スル事務ヲ取扱候條此旨相達候事

京都府兵庫奈良堺滋賀三重五縣へ達 八年五月二十八日

今般大阪府下ニ土木寮分局ヲ置キ澱川流域ニ關スル事務ヲ取扱候條此旨相達候事

內務省伺 八年五月十四日

兼テ相伺置候澱川改修ノ工事愈著手施行ノ儀今般御決議相成候處右ハ一大事業ニシテ以往十年ノ後ニ無之候テハ其成功ヲ難奏尤成功ノ後モ引續永遠保存ノ定規ヲ相立申度就テハ該川流域便宜ノ地大阪府下ニ土木寮支寮ヲ設ケ右事務施行候條仕度依テ大阪府并ニ沿川府縣へ御達案取調此段相伺候也

土木寮分局ヲ大阪ニ置キ澱川治水ノ事ヲ管ス

十年二月十三日分局ヲ廢シ工務局ヲ設ケ

指令 八年五月二十七日 伺之趣聞届候條土木寮分局ト稱スヘキ事

大藏省へ達 八年五月二十七日 別紙內務省伺土木寮分局設置ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

內務課議案 八年五月十九日 別紙內務省伺土木寮支寮設置ノ件澱川改修ノ工事著手ノ上ハ尤ノ儀ニ付御聽許相成可然但支寮ノ名義ハ不都合ニ付分局ト相唱候方可然依テ左ノ通御指令御達案取調仰高裁候也

土木寮達 八年五月八日

本邦治河ノ術未タ精美ニ至ラス年毎ニ水害ノ夥シキ土田家屋ヲ損害シ從テ修補スレハ從テ崩潰ス是他

ナシ平時河狀水勢ノ實況ニ通曉スル能ハス偶々時ニ際シテ姑息ノ工ヲ施スニ過キサルヲ以テ也蓋シ和

蘭水政タルヤ全國ヲ區分シテ支局ヲ設ケ毎局工師幾名ヲ配付シ當ニ親シク其各區ノ工務ヲ分掌セシム

是レ害ヲ未然ニ防ク者ニシテ尤治河ノ術ヲ得ル者ト謂可シ今試ミニ水害ノ由テ起ル所以ノ一端ヲ證ス

ルニ凡ソ河ノ源タル大率僻陬ノ地ニ在テ沿河人民ノ情專ラ土田開墾ノ利ヲ規ルニ不過シテ其河狀水勢

ニ關スルヤ否ヲ顧慮スルニ暇アラス經年ノ久シキ漸ク岸堤ノ位置ヲ變換シ其害終ニ全河ノ流線ヲ轉移

スルニ至ル是縣治ノ未タ洽カラサルト民知ノ開ケサルトニ由テ勢亦已ムヲ得サル者ニシテ本務ノ最モ

親シク監護ヲ加ヘサル可ラサル者ト今澱河ナル者京阪兩都ノ間ニ跨リ兵庫港ニ接ス是レ内外交通ノ

巷ニシテ樞要ノ地ニ位スル者ト謂可シ然而地形起伏シ土質堅實ナラス河床漸ク淤塞シ氾濫ノ患害從テ

加ハリ漕輪ノ不便亦從テ甚タシ終ニ方今特ニ修治ノ舉アルニ至ル今夫一タヒ之カ修治ノ功ヲ竣フルト

雖モ次テ其實地ニ就キ益々治術ヲ精究シ常ニ監護ヲ加フルニ非レハ再ヒ大經費ヲ要スルノ悔ナキヲ期

ス可ラス然ト雖モ本邦今其人少ナキヲ以テ未タ俄ニ和蘭水政ノ制ヲ用ユ可ラサレハ先ツ分局ヲ大阪ニ

設置シ澱全河幹支ノ工事ニ從事シ常ニ親シク河狀水勢ノ實況ニ通曉セシメハ則チ彼患害ヲ未然ニ防キ

且施事ノ得失ヲ經驗スルニ足テ異日水政ヲ立ツルノ基局ヲ成スニ庶幾ラントス依テ分局事務規程並局

長權限ヲ定立スル左ノ如シ

土木寮大阪分局事務規程

十年二月六日土木寮分局ヲ土木局出張所ト改稱ス



土木寮大阪分局事務規程

第一條

澱河全体ニ屬スル治水ノ事務ハ其工業上親管ト統管トヲ區分シ之ヲ掌管ス可シ

第二條

治水ノ工事ハ之ヲ分ツテ預防禍害ノ因ヲ防禦目下ノ禍害ニトノ二ツトス預防ノ工ニ屬スル者概ネ左ノ如シ

上流壑澤ニ艸木ヲ繁茂セシムル事

横渠ヲ山腹ニ設ル事

濾堰ヲ溪澗ニ築ク事

平原ニ至リ地ヲ選テ溜池ヲ開ク事

以上雨水ノ河床ニ歸スルヲ遲滯セシメ下流暴漲ノ因ヲ減シ併セテ砂土ノ流落河床堆淤ノ害ヲ防ク者

河ノ流心ヲ矯ル事

河積ヲ適度ニ保ツ事

洲及島嶼位置ノ便宜ニ從ヒ之ヲ一方ノ岸ニ結テ亂流ヲ防ク事

河内ノ障礙岸ニ結フ能ハサルノ洲島ヲ除キテ流降ヲ快フスル事

放水ノ節度

以上河流ヲ良好ニ維持シ衝激滯滯河床堆淤水面亢隆横溢等ノ害ヲ除キ併セテ舟漕ノ便益ヲ計ル者

防禦ノ工ニ屬スル者概ネ左ノ如シ

沿水本支ノ隄防

前地堤外ノ地面ノ保護

護岸ノ工

以上水ノ地ヲ侵スヲ防禦スル者

第三條

預防ニ屬スル工事ハ都テ分局ニ於テ之ヲ親管スヘシ

第四條

防禦ノ工ニ屬スル前地ノ保護護岸ノ工及ヒ新タニ堤防ヲ築キ又ハ其位置ヲ變換スル等ハ緊要ノ工事ニ屬スルヲ以テ分局之ヲ親管ス可シ

第五條

在來ノ堤防其位置ニ隨テ修繕シ即チ上置腹付等ノ工ハ都テ地方官ニ委ネテ分局之ヲ統管ス可シ

但地方官ニ於テ施業落成ノ上ハ其出來形帳一部分局へ出サシムヘシ

第六條

用水吸吐ノ口河ニ開ク處ノ諸工樋門及此口河ニ關スル堤防等修營ノ類ハ分局之ヲ親管ス可シ

但修繕ハ地方官ニ於テ處置スヘシ

第七條

澱河幹支ニ架スル橋梁及渡場等ハ分局ノ掌管ニ屬セスト雖モ水理ニ關スル重キヲ以テ其府縣ニ在テハ之カ工事ヲ施スノ前預メ分局ニ合議スルヲ要ス

第八條

親管ノ工事ニ在テハ其新築變更及非常ノ修繕ニ係リ或ハ別途其費用ヲ請取ル可キ者ト尋常保存ニ係ル者トヲ分別シ新築變更ニ係ル者ハ分局ニ於テ議案ヲ付シ之ヲ本寮ニ送付シ御輔ノ裁決ヲ乞テ處分シ其尋常保存ニ係ル者ハ分局ニ於テ之ヲ處決シ而シテ後旨ヲ本寮ニ開申ス可シ

但工事アル毎ニ其事ノ大小ニ不拘都テ其地方官ニ協議シ會合ノ上著手スルヲ要ス

第九條



親管ニ屬スル預防工費ハ分局ニ於テ管理シ預メ一歳ノ費額ヲ概算シ之ヲ本寮ヨリ請取置其遣拂金額ハ一箇月毎ニ勘定簿冊ヲ製シテ本寮ニ開申ス可シ其他防禦ニ屬スル經費ノ取扱及民費賦課ノ方法等ニ至テハ從前一般ノ成規ニ準シ都テ其府縣ニ於テ掌管ス可シ

第十條

統管ノ工事ニ於テハ其府縣ヨリ事由ヲ分局ニ開申セシメ分局ニ於テ其利害ヲ考案シ尋常保存ニ係ル者ハ之ヲ處決スルヲ得可シ

第十一條

土砂留ニ屬スル工事 柵ヲ山腹ニ設ケ土砂ハ都テ預メ定メタル該府縣土砂留經費金ヨリ支給ス可シ

但此金員ハ分局ニ於テ管理シ其工事アル毎ニ之ニ充テ一箇月毎ニ勘定帳ヲ製シ本寮ニ申牒ス可シ

第十二條

親管ニ屬スル工事ト雖モ其實地經驗ノ上地方ニ委ネテ妨ナキ者ハ之ヲ委任スルヲ得可ク又統管ノ工ニ屬スル者ト雖モ其工樞要ニ渉ル者ハ故ヲニ之ヲ親管スルヲアル可シ

第十三條

不慮ノ事故ニ際シ速ニ新築又ハ更正ヲ要スル時ハ著手ノ上其旨ヲ開申ス可シ此場合ニ於テハ眞ニ猶預ス可ラサル者ノミヲ治メツトメテ費用ヲ省略シ而シテ指令ヲ待テ其他ニ及フ可シ

第十四條

分局官員ハ毎年何季幾次 例ハ春 秋 各一時 沿河ノ各所ヲ巡檢シテ其親管ノ工事ヲ監護ス可ク且工事ノ急要ヲ察レハ定期ノ外臨時巡檢ヲ行フ可シ

但定期巡檢ノ時ニ方テハ預メ之ヲ關係ノ地方官ニ報シテ現地ニ會セシメ而得失ヲ議判スルヲ要ス

第十五條

統管ノ工ニ於テハ該地方官ニ於テ巡檢ヲ行フ第十四條ニ準ス可シ

但地方官ニ於テ事ノ須要ナルヲ察スレハ預メ巡檢ノ時日ヲ分局ニ報シ現地ニ會スルヲアルヘシ

第十六條

工營ノ際暴雨急水等ニ當リ臨機土料ヲ耕田ニ採リ竹木ヲ近傍官林ニ伐ル等便宜處分シ其景況ヲ速ニ本寮ニ報シ事平ノ後其地積竹木ノ員數等詳細具狀スヘシ

第十七條

管轄流域内ノ量水標ハ建設ハ勿論修繕及ヒ番人給料其他右ニ屬スル雜費等ニ至ル迄其統管ニ係ル者ト雖モ直ニ分局ニ於テ處分ス可シ

第十八條

分局ニ於テハ直ニ其統管ノ工事ヲ指令ス可ラス若シ意見アルニ當テハ其地方官ニ向ツテ之ヲ議スルヲ要ス

但第十六條所掲ノ際ニ方テハ統管ノ工事ト雖モ直ニ之ヲ指令スルヲアル可シ

第十九條

工事ニ際シ工夫役夫ノ勉否ヲ案檢シ其尤勉ル者ハ便宜之ヲ賞スルヲ得可シ

但賞金ハ二圓五十錢ヲ與フルニ限ル可シ

第二十條

分局常用ノ諸雜費及官員月給旅費其他器械購入金及其修補費等ハ凡月額ヲ概計シ假リニ之ヲ本寮ヨリ受ケ月末ニ至リ詳記決算シタル牒簿ヲ製シテ本寮ニ送付シ更ニ翌月諸費ヲ需ム可シ

第二十一條

臨時購求セサル可ラサル物品ハ一品ノ價十圓以上ニ昇ル者ハ本寮ノ許可ヲ經テ之ヲ購入ス可シ但工師等ノ請求ニ因リ至急之ヲ購入セサレハ工事ヲ休止スル等ノ品ハ此限ニ非ス

分局長權限

局長ハ掌管ノ工事ニ於テハ其實際ヲ審ニシ彼ヲ急ニシ此ヲ緩ニスル等臨機處分シ而シテ其工務ヲ整理スルニ於テハ御輔又ハ寮頭ニ對シテ保任ノ責ヲ有ス



局長ハ其屬員ヲ左右指令シ且其勤惰能否ヲ審視シ之ヲ土木頭ニ具狀シ黜陟スルヲ得ヘシ  
 局長ハ築品ノ需用其他ノ事故ニ由リ其屬員ヲシテ他ノ府縣へ出張セシムルヲ得可シ  
 工業ニ屬スル事件ニ於テ府縣ニ往復スルノ文書ハ局長ノ各ヲ以テスルヲ得可シ  
 分局官員ハ其長ニ下議セサレハ進退増減セサル可シ  
 局長ハ其掌管ノ工事ヲ便捷ナラシムル爲メ其權限内ニ於テ規則ヲ製シ局限リ之ヲ施行スルヲ得可シ  
 局長ハ掌管ノ事務ニ付管轄廳ヲ不經直ニ區戸長ヲ呼出スヲ得ヘシ  
 此事務規程並權限中他日加除ヲ要スル事アレハ之ヲ土木頭ニ具陳シ内務卿ノ決判ヲ經テ便宜更正スルヲ得可シ

土木寮官員各府縣應在勤地方水政事務取扱心得規則

土木寮官員各府縣應在勤地方水政事務取扱心得規則 八年五月日  
 内務卿ノ命ニ因テ本寮官員ヲ各府縣ニ在勤セシメ地方水政ノ事務ヲ執ルニ方テ處務ノ規程ヲ立ル左ノ如シ

第一則

在勤中ハ地方官ノ心得ヲ以テ長官ノ指揮ニ隨ヒ總テ廳規ヲ守リ奉職ス可シ

第二則

本寮ニ對スル願届ハ地方長官捺印ノ奥書ヲ以テ差出ス可シ

但成規アルモノハ長官ニ於テ許可ノ上追テ本寮ニ届出ルモ妨ナシ

第三則

在勤ノ期ハ一箇年ヲ以テ定規トスト雖モ本寮及ヒ地方廳ノ都合ニ因リ或ハ六箇月ヨリ少カラサル間タニ交代シ或ハ滿期後猶六箇月ヨリ多カラサル間タ在勤セシムルコトアル可シ

第四則

在勤中ハ月給旅費共其地方廳ニ於テ豫備金ノ内ヲ以テ操替置追テ受取方當省へ申出可シ

第五則

地方長官ハ奉職ノ勤惰品行ノ善惡ヲ監視シ土木頭ニ具申スルノ權ヲ有ス

右ハ省裁ヲ經テ決定スル所ナリ

明治八年五月

土木頭 林 友 幸

内務省記録節錄 (内務省記録ヲ節錄スルモノ)

八年六月十六日土木寮出張所ヲ千葉縣下關宿向河岸ニ設置ス

(備考)

土木局記録節錄  
 八年五月二日刀根川工業中掛官員出張及旅費ノ義ヲ伺フテ刀根川改修工事ハ追テ著手スルニ及テハ其流域中便宜ノ地ニ就キ出張所ヲ設置シ擔任ノ官員ヲシテ在勤セシメ工業ニ從事スヘキナレ共本年ハ測量中ナレハ別ニ出張所ヲ設ケス暫本寮ヲ以テ出張所ト見做シ擔任ノ官員ハ勿論寮頭モ其實況監視ノ爲メ出張スル時ハ伺ヲ經テ出立歸京共御届ノミニシテ直ニ場所へ往返シ旅費モ曾テ伺濟ノ如ク府縣管内ノ比較ヲ以テ給與ノ義ヲ同定ス  
 土木局記録節錄  
 八年六月十六日出張所ヲ千葉縣下關宿向河岸ニ設置シ利根川ヲ改築ス

利根川工場假規則 十年一月日

利根川修築掛ヲ分ツテ検査掛施業掛出納掛トス

検査掛ハ諸務ヲ取扱ヒ諸帳簿ヲ検査シ計算仕上表ヲ製シ各丁場ヲ監督ス

施業掛ハ區域ヲ分テ一丁場ヲ擔當シ工事ヲ董シ検査掛へ申請シテ物品ヲ購求スルヲ司トル尤該丁場

仕拂金ノ義ハ出納ノ規程ニ隨テ取計ヘシ

出納掛ハ施業掛ノ報知ヲ得テ諸手形ヲ精算シ正金員仕拂ヲ司ル

但シ施業掛ノ報知ヲ得テ金員ヲ仕拂フト雖モ若シ規程ニ齟齬スル事アラハ施業掛ニ照會シテ正誤

ヲ要スヘシ

土木寮利根川出張所ヲ設ク  
 十年一月日土木局出張所ト爲ス

利根川工場假規則ヲ定ム



右ノ通豫メ區分スルト雖モ施爲ノ得失事ノ便否及ヒ總業ノ體裁ニ關スル義ハ衆議決定ノ上取計フヘシ  
 土木局出張所ヨリ出張員ヘ達 十年三月二十二日  
 工事ノ成効ヲ奏セントスル者ハ謹テ其私ヲ省リミ上下ニ信ヲ失スルナキヲ要ス  
 出張所ハ苟モ官衙ナリ出勤ノ刻限ヲ誤ラスシテ毎朝出勤簿ニ捺印シ畢テ後チ事務ヲ取扱フ要ス  
 出張所ヨリ時々布達スル處ノ規則ハ則チ工事ノ規律修築掛事務ノ章程ナリ決シテ犯シ背クナキヲ要ス  
 右ノ通相違候也

内務省記録節録

十年一月土木局出張所ヲ千葉縣下ニ置ク

再度出張所ヲ設クルモノハ十年一月十一日寮ヲ廢シ更ニ土木局ヲ置レタルヲ以テ前工ヲ繼續セシナリ

(備考)

十九年内務省功報報告節録  
 利根川ハ源ヲ上野國ニ發シ一府五縣ニ綿亘シ流長六十六里餘大小支流川ヲ合流シテ下總銚子港ニ注キ海  
 ニ入ル其運輪ノ便ハ大ナリト雖モ氾濫横流ノ害モ亦渺カラズ出水毎トニ流心變遷砂泥填塞船路ヲ障碍  
 スルヲ以テ改修工事ヲ施サ、ルヲ得ス就中尤改修セサルヘカヲサハ區域ハ埼玉縣幡羅郡妻沼ヨリ下流  
 茨城縣鹿島郡太田村ニ至ル四十里間及派流江戸川筋千葉縣東葛飾郡關宿ヨリ東京府管內南葛飾郡今井  
 村ニ至ル十五里間ニシテ皆測量ヲ了セリ本流中最大工事トスルハ栗橋以下境町迄及結佐曲ノ潮換及渡  
 真瀬川鬼怒川合流ノ瀬割工事ニシテ或ハ以テ通船ニ便ニシ或ハ以テ堤岸防ヲ爲トス其工費金四  
 百五十九萬八千三百九十七圓餘ノ内九年度ヨリ十九年度迄消費スル金額ハ五十六萬五千九百九十九圓餘ニ  
 シテ其殘金ト外ニ流域諸山砂防費金五十四萬圓ヲ合シ金四百五十七萬三千二百九十八圓餘ヲ以テ二十  
 年度ヨリ三十七年度ニ至ルマテ順次施工竣功ヲ期ス

土木局ヨリ京都府滋賀縣三重縣堺縣ヘ掛合 十年二月十三日

今般大阪土木寮分局ヲ廢シ淀川工營場ヲ設置シ六等屬佐藤守一ヘ検査掛申付候條該川工事ニ係ル照會  
 等之儀ハ已來前同人ヨリ御通知可致義モ可有之候間無支障御取計相成度就テハ御府 土木掛主任ノ姓名  
 兼テ承知致度阪地元分局迄御送付相成候條致度此段及御掛合候也

土木寮利根川出張所ヲ  
 土木局出張所ト爲ス  
 十九年七月内務省令第十  
 四號ヲ以テ土木寮掛格  
 ヲ廢ク

土木寮分局ヲ廢シ淀川  
 工營場ヲ置ク  
 十九年七月内務省令第十  
 四號ヲ以テ土木寮掛格  
 ヲ廢ク

追テ從前於大阪分局取扱來候御管下量水番人給之外已來ハ六箇月毎ニ取纏内務省ヘ御上陳有之度此  
 段申添候也

(備考)

十九年内務省功報報告節録  
 淀川ハ京阪二府ノ間利用交通ノ要流ナリ然ルニ近世泥沙埋堆シ往々船底ヲ膠スルノ患アリテ橋ニ大阪  
 築港及上流浚疏ノ舉アル所以ナリ其業一旦廢棄ニ屬スト雖モ改修セサルヲ得ヘカヲサハ以テ八年度  
 ヲリ水源ノ流沙ヲ禦ク爲メ諸山ニ防沙工事ヲ設ケ伏見觀月橋ヨリ大阪天滿橋迄凡ソ十里間運送利通ノ  
 改修工事ヲ施シ既ニ中八九ハ竣功セリ當初計畫工費金五十一萬七百五十四圓餘ノ内八年度ヨリ十九  
 年度迄支消スル金額ハ四十六萬七千七百八十四圓餘ニシテ改修工事ハ來ル二十年度ヨリ年々金二萬五千圓ヲ支出シ三  
 十七年度ニ至リ全ク竣功スルノ見込ナリ

淀川工營掛事務規程 十年二月日關

- 第一條 凡工事創立ノ位置ハ雇工師ニ照會シ一箇所毎ニ番號ヲ付シ錯雜冗費ナキヲ要ス
- 但役夫ノ多寡及ヒ物品受拂等ハ明了日記スヘシ
- 第二條 工營需用ノ物品及ヒ人夫等請負又ハ買入ノ分ハ總テ検査掛ニ商議シ廣ク入札ヲ以テ公正ニ處  
 分スヘシ
- 但受賃金高一人ニ付一品百圓以上竝ニ三箇月已上需用ニ充ルモノハ本局回議ニ付スヘシ
- 第三條 物料人夫賃拂渡ハ各丁場ニ於テ毎月兩度ノ期日ヲ定メ金高品員ヲ報狀ニ記載シ主任検査掛連  
 印ノ上之ヲ渡シ受取人ノ證印ヲ報狀扣ニ捺セシムヘシ
- 但受取人ノ印影ニ葉ヲ要メ一葉ハ大阪府ニ回シ一葉ハ主任ニ留メ置キ照會ニ供ス
- 第四條 工營箇所落成ノ都度仕上表ヲ本局ニ呈シ合計表ハ毎年兩度十二月差出シ月表ハ報狀扣簿ヲ付  
 シ翌月五日迄ニ検査掛ニ回付スヘシ
- 第五條 諸色請負人違約ノ節ハ請負金高百分ノ二ヲ取立ルヲ以テ該金員ニ滿ル迄ハ納品代價ノ内二分  
 ヲ預ルヲ法トス故ニ其報狀裏面ニ朱書シ検査掛連印ヲ以テ本人ニ預リ證書ヲ渡スヘシ

淀川工營掛事務規程



- 第六條 請負人等へ假受取渡スヘキハ検査掛連印ノ上二十五日限ノ印ヲ捺シ日限外ハ廢止タルヘキ受書ヲ取置クヘシ
- 第七條 工業時間ハ時季ノ長短ニ應シ各工營掛検査係熟識ノ上動止ヲ定ムヘシ  
但役夫賃金一人ニ付一日二十錢ト定メ強怠ヲ檢シテ定額賃金ノ分割ヲ増減スルハ場所掛ノ權トス
- 第八條 役夫ノ特効犯罪及村落土人奇特ノ者等處分ハ凡テ本局之決裁ヲ乞フヘシ
- 第九條 本局上陳及地方官へ往復ノ事務ハ検査掛商議ノ上取計フヘシ  
但區戸長打合セモ事ノ輕重ニ依テ本文ニ準スヘシ
- 第十條 各員毎月旅費仕上公勤表ハ検査掛ヲ經テ本局ニ呈スヘシ  
右箇條中他日加除ヲ要スル者ハ之ヲ本局ニ具陳シ決裁ヲ乞フテ便宜更正スルヲ得ヘシ

土木局出張員ヨリ土木局へ届 十年五月二日

信濃川改修工業之手配ニ付是迄旅寓ニテ事務取扱來候處創業ノ際事務多端ノミナラス旅寓ニテハ不都合モ不都合ニ付三條古城町ニ當區用務扱所有之右家屋ノ内借上當分假出張所トシテ右ニテ本日ヨリ事務取扱申候最モ工業著手夫々順序相立候上ハ引拂可申積リニ御座候此段御聞置被下度御届申上候也

(備考)

十九年内務省功報報告節錄  
信濃川ハ曩ニ大河南堀割ノ舉アリ當時雇工師リンドウヲシテ點檢セシムルニ其非舉ナルヲ詳陳セルヲ以テ之ヲ中止セリ然ルニ地方ハ依然水害ヲ被リ人民頻リニ其再舉ヲ囑請シ政府モ亦改修セサルヘカラサルノ要ヲ認メ其工事ニ着手セリ其工費金二百一十一万三千四百四十四圓餘ノ内九年度ヨリ十九年度迄ニ支消スル金額ハ三十三万六千六百三十三圓餘ナリ而シテ新潟縣知事ハ地方税金百四十六万四千九百十二圓餘ノ豫算ヲ以テ別ニ堤防工事ヲ起サンコトヲ稟請セリ其工事區域ハ越後國長岡長生橋以下新潟河口ニ至ル凡ソ二十里間運輸防禦ノ二工事ヲ併行シ俱ニ二十年度ヨリ年々支出施行三十一年度ニ至テ竣功ノ豫定ナリ

信濃川出張所ヲ設ク  
十九年七月内務省令第十四號ヲ以テ土木監督官位  
置ヲ定ム

信濃川工場事務假規程  
ヲ定ム

信濃川工場事務假規程 十年月日

信濃川河身改修事務ヲ上下二款ニ分ツ其上款ハ本局ノ議決ヲ經テ之ヲ施行ス其下款ハ出張吏員ニ於テ協議專行スルヲ得ヘシ

上款

- 第一條 河狀水勢ヲ審確シテ治理ノ方法ヲ立ル事
- 第二條 測定ノ方法ニ基キ經費ノ豫算ヲ立ル事
- 第三條 豫算外工事ヲ設計スル事
- 第四條 豫算外ノ物品ヲ買辦スル事
- 第五條 他府縣ニ文書ヲ往復スル事
- 第六條 附屬ヲ雇入或ハ免黜スル事
- 第七條 量水標ヲ建設スル事
- 第八條 築品需用及他ノ事故アリテ部外ノ地へ派出スル事
- 第九條 各掛ヲ廢置スル事
- 第十條 勉勵ノ役夫ニ慰勞金ヲ與ル事
- 第十一條 操事ノ際傷痕ニ罹ル役夫へ療養手當金ヲ遣ス事
- 第十二條 役夫賃格ヲ定ムル事
- 第十三條 規外ノ物件ヲ處分スル事
- 第十四條 規程ノ條款ヲ追加及刪除スル事
- 第十五條 諸例規ヲ立ル事

下款

- 第十六條 測定ノ方法ニ基キ經費豫算内ヲ以テ工業ヲ施爲スル事
- 第十七條 普通修繕ノ工事ハ豫メ地方官ノ經理ニ任スルモノト雖モ俱ニ巡檢查了シテ得失ヲ商議スル



事

第十八條 工務ニ關スル物件ニ付管廳へ照會推問ヲナス事

但重要ニ涉ル事項ハ第五條ニ由ルヘシ

第十九條 暴雨急水等ノ爲メ不慮ノ工事ニ際シ土料ヲ田園ニ採リ或ハ竹木ヲ官林ニ伐ル等之ヲ地方官

ニ議シテ便宜處分セシムル事

第二十條 役夫ノ勉否ニ由テ賃金ヲ彼此増減スル事

第二十一條 工務關係ノ事件ニ付管廳ヲ經由セス臨時區戸長等ヲ召出ス事

第二十二條 物料購求及拂下等ノ爲メ一般ノ入札ヲ要シ相當ノ價格ヲ以テ請負人ヲ命スル事

第二十三條 附屬雇ヲ各掛へ左右交替シ或ハ購品等ノ爲メ近地へ派遣セシムル事

第二十四條 簿書ヲ類纂保存スル事

第二十五條 役夫取締等ノ爲メ便宜方法ヲ設クル事

第二十六條 約束上ノ都合ニヨリ人民ヨリ抵當品ヲ徵スル事

第二十七條 工師ヨリ至急要請スル物品ハ經費年額内ヲ以テ購求シ願末ヲ具狀スル事

内務省記録節録

十一年三月十六日土木局出張所ヲ岐阜縣下ニ設置ス

(備考)

十九年内務省功報報告節録  
木曾川ハ源ヲ信濃國西筑摩郡ニ發シ長眞榊斐ノ支流ヲ合シ伊勢國桑名郡ニ至リ海ニ注ク而シテ幹支流  
各水勢ヲ異ニシ古來治水ノ方法宜キヲ得スシテ水患常ニ絶ヘス是ヲ以テ木曾長眞榊斐ノ三川トモ一大  
改直セサルヲ得ス其工事ノ區域ヲ舉レハ木曾川ハ美濃國中島郡八神村ヨリ伊勢國桑名郡都羅新田沖ニ  
至ル八里餘榊斐川ハ美濃國安八郡西結村ヨリ伊勢國桑名郡赤須新田ニ至ル十一里トス其費用ハ金四百  
三十一萬九千七百五十圓ニシテ内金三百四十二萬六千五百四十二圓ハ國庫金此他明治十年度ヨリ十  
九百三十四年八十九萬三千二百七圓餘ハ三重愛知岐阜三縣ノ人民負擔トシ來二十年年度ヨリ三十五年  
至ル十六年間に支出シ以テ工事ヲ竣ルノ豫定ナリ

土木局木曾川出張所ヲ  
設ク  
十九年八月四日土木監督  
署出張所ヲ發ク

野嶽出張所ヲ設ク工務  
取扱順序并出張心得ヲ  
定ム

十九年十月二十二日東  
名(即チ野嶽)運河ノ管理  
ヲ官職縣ニ屬ス

土木局ヨリ野嶽出張所へ達 十一年四月十六日

官城縣下野嶽開港ニ付テハ工務取扱順序并出張心得等別紙ノ通相定候條右様可被相心得此旨相達候

也  
官城縣下北上川通高屋敷ヨリ運河ヲ疏鑿シ港ヲ野嶽ニ開設スルニ付工務取扱ノ順序并出張心得ヲ開  
示スル如左

第一條 北上川高屋敷ヨリ運河ヲ疏鑿シ港ヲ野嶽ニ開築スルノ工ハ都テ工師トールン氏ノ設計ヲ確守  
スヘシ

第二條 物料ヲ他方ニ購求スル爲メ更ニ出張ヲ要スル等其他尋常ニ屬スル一切ノ事務ハ眾員ノ協議ニ  
出ツルト雖モ結局僚長ノ所決ニ依ル可シ

第三條 工業上最初允裁ヲ經タル目論見書ノ外ニ涉ル事件アルニ當テハ細大ト無ク本局ノ決ヲ得テ後  
處分スヘシ

第四條 築品ノ需用工夫ノ出入其他營築ニ屬スル尋常ノ事件ニ付各所へ往復スル文書ハ都テ出張土木  
局ノ名ヲ以スルヲ得ヘシ

第五條 工費ハ工業ノ運ニ從ヒ目途金ノ内漸次其幾分ヲ請取り正金出納ハ縣廳ニ委託シ場所掛ハ報狀  
切符ヲ製シ仕拂勘定相立ツ可シ其他之ニ屬スル順序ノ細目ハ渾テ關宿出張所ノ例ニ準スヘシ

出張心得  
場所受負人ハ私宿ニ於テ面談スルヲ許サス若シ休日或ハ夜中等ニ於テ延引シ難キ急事アルニ當テハ同  
僚立會ノ上私宿ニ於テ面談スルヲ得可シ  
同僚中怠惰ノ者アリテ後來事務上ノ不都合ヲ生ス可キ見込アレハ連名ニテ其旨趣ト證跡トヲ本局ニ具  
申スヘシ



十三年一月四日出張所ヲ  
野蒜村ニ移轉ス

祝日祭日并雨天等ニテ工事施行シ難キ日ヲ除クノ外休暇スルヲ許サス  
野蒜出張員ヨリ土木局へ上申十一年五月八日  
野蒜築港ニ付此度宮城縣下第五大區小三區杜鹿郡蛇田村ノ内高屋敷百二十四番地へ假ニ土木局出張所  
ヲ設ケ工師始メ局員一同該村へ當分止宿仕候此段御届申上候也

野蒜出張所ヲ野蒜村ニ  
移轉ス

野蒜出張員ヨリ土木局へ上申十三年一月四日  
當出張所ノ義ハ是マテ宮城縣下杜鹿郡蛇田村ニ設置ノ處當所事業ハ追々相運候ニ付去月三十一日同縣  
下桃生郡野蒜村ニ移轉候間此段御届申上候也

十九年十月二十二日退河  
ノ管理ヲ宮城縣ニ屬ス

清水越出張所ヲ設ケ

清水越出張員ヨリ土木局へ上申十四年六月十二日  
本月六日乙第二拾二號ヲ以上申候通リ利根全郡ハ路線再調相濟候ニ付一ト先湯檜曾村へ立歸リ山中之  
景况實檢候處未タ殘雪處々ニ有之充分之著手ハ出來兼候得共武能邊迄ハ大概著手可相成ニ付確乎路線  
ヲ定メ開鑿可致ト存人夫招募等ノ儀縣官へ及協議候處上州地方ハ目今養蠶之折柄ニテ何分人夫ニ差支  
依テ去ル九日清水村へ立越新瀉縣官へ篤ト協議ヲ盡シ同村及三郎丸村邊ニテ差向人夫五六十人召集シ  
湯檜曾村土合ヨリ黑澤之邊ニ著手可致積ヲ以昨今專ラ小屋掛ケ等ニ取掛リ居申候就テハ當事業本出張  
所之義兼テ見込申上候通リ湯檜曾村ニ設置致度幸ニ同村戸長阿部儀十郎持家ニテ建坪十五坪餘之明キ  
家有之候間縣官ヨリ掛合候處本年中ハ差支無之趣申出本年而已ニテハ不都合ト存候得共追テハ何トカ  
取計方モ可有之ニ付差向右建家一箇月金二圓五十錢之家賃ニテ借受申候則別紙ヲ以テ御届申上候因テ  
追々人夫モ立入候義ニ付群馬新瀉兩縣へ別紙之金員至急御送付相成候様致度隨テ計算事務モ有之候間  
竹中十等屬神崎小右衛門兩名共來ル二十日頃當出張所へ罷越候様御下命有之度存候將又新瀉縣下之景  
况過日同縣官ヨリ承リ候處南北魚沼郡古志郡共一圓潰地ハ獻納之事ニ相決シ村々願書差出候由ニ御座  
候唯南魚沼郡之内三四箇村未決之村モ有之候得共到底獻地可相成趣ニ有之道敷潰地ハ意外ニ都合宜有

十八年八月二十七日工事  
積成出張所ヲ設ケ

之候群馬縣下西群馬郡之義モ即今同縣官田五等屬及同郡長ト同行ニテ專ラ說諭中之趣未タ獻地等之摸  
様ハ不相分候得共是又都合宜敷相運ヒ可申哉ト存候此段上申候也  
清水越出張員ヨリ土木局へ上申十八年八月二十七日  
清水越開道式來ル九月七日御執行ノ事ニ御治定相成北白川宮ヲ始メ外諸官九月五日東京御出立臨場相  
成候ニ付右之心得ヲ以テ夫々準備方可取計旨御達ノ趣御請申上候也

土木局記錄節錄

十四年十二月十日富士川測量ノ爲メ靜岡縣下駿河國庵原郡岩淵村ニ假出張所ヲ定メ北上川工費金ノ内  
ヲ流用支辨シ山梨縣下巨摩郡齋澤村ヨリ以下海口ニ至ル間ノ測量ニ著手ス後十六年三月ニ至テ成ル

土木局ヨリ本局及各出張所へ達十五年三月二十三日

各工場派出土木局會計掛處務順序別冊ノ通相定候條此段相達候也

(別紙) 各工場派出土木局會計掛處務順序

總則

- 第一條 凡各工場派出土木局工費會計掛ハ土木局長兼會計主務官ノ命令ニヨリ該工場經費出納一切ノ  
事務ヲ調理シ其責ニ任スヘキモノトス
- 第二條 工費ハ總テ出張所長ノ檢印ヲ證トシ出納ヲナスヘシ尤豫算科目外ニ係ル支拂ハ其都度本局へ  
伺出ヘシ
- 第三條 甲月ニ屬スル費用ハ不得止事故アルノ外乙月ニ於テ支拂ヲ得ス
- 第四條 金錢物料ノ出納及ヒ器械等ヲ調査スル爲メ臨時本局員ヲ派遣セシムルコトアルヘシ
- 第五條 伺ヲ經スシテ工費ヲ他ノ費用ニ繰換支出スルヲ許サス

各工場派出土木局會計  
掛處務順序  
十六年八月一日處務順序  
ヲ改正ス

富士川假出張所ヲ設ケ  
十六年八月二十五日再  
置ス



豫算

- 第六條 收支豫算決定額ハ前年度六月中ニ本局ヨリ達スヘシ
- 第七條 前條收支豫算調整ノ爲メ前々年度ノ實額及ヒ前年度豫算額ニ對シ増減ノ見込書ヲ作り前年度十一月十日迄ニ其地發遣本局ヘ差出スヘシ
- 第八條 經費ノ仕拂ハ細科目ト雖豫算ニ超過スルヲ許サス若シ豫算額ヲ増減又ハ流用セント欲スルハ其意見ヲ具シ本局ヘ伺出ヘシ
- 第九條 收入金豫算額ト増減ヲ生シタルハ其事由ヲ具シテ本局ヘ届出ヘシ
- 經費 收入 授受
- 第十條 經費ハ其年額ヲ四分シ交付スヘシト雖モ其他實際支消スヘキハ臨ミ交付スルコトモアルヘシ
- 第十一條 諸收入金ハ一箇月分取纏メ翌月五日マテニ本局ヘ上納スヘシ
- 帳簿
- 第十二條 豫算差引簿現金受拂簿假拂簿操替簿器械及廳中物品受拂簿官員以下俸給仕出基簿ヲ設ケ出納ノ時々主任者捺印シ總テ錯雜ノ患ナカラシムヘシ
- 第十三條 總テ出納ニ關スル請求書ハ綴込ニシテ出張所ニ保存シ置クヘシ
- 諸給與
- 第十四條 官員以下俸給仕出基簿ハ進退ノ時々速ニ基簿ヲ更正スヘシ
- 第十五條 官員以下俸給ハ基簿ニ據リ仕出ヲ爲シ本人ヘ渡方ヲ爲スヘシ
- 第十六條 官員以下他方出張ノ際旅費ノ請求書ハ定則ニ照シ一旦假拂トシ本人ヘ渡方ヲナスヘシ
- 第十七條 前條明細表ハ本局ノ調査ヲ受ケ若シ過不足アラハ本人ヘ示シ追給返納等ノ處分ヲ爲シ後本拂トナスヘシ
- 物品購求
- 第十八條 總テ廳中物品并器械等ノ渡方ヲ爲シハ所長檢印アル請求簿ヲ以テ請求ナサシメ證印ヲ點檢シ

雜形ハ財政門出納規則ニ  
據ス

渡方ヲナシ直チニ受拂簿ヘ騰記スヘシ

第十九條 諸物品ヲ買入シトスル時其數多量又ハ高價ノ品ハ其筋業體ノモノヘナルヘク入札ニ付シ購入スルモノトス

第二十條 廳中及工場等ニ於テ不用ニ屬シタル物品又ハ家屋等ハ入札拂下ケノ積リヲ以テ見積代價取調本局ヘ伺出ヘシ

精算

第二十一條 毎月經費仕拂ノ内本拂ノ分證書ヘ別紙第一號雜形ノ通仕譯書ヲ添翌月五日迄ニ其地發遣

本局ヘ差出スヘシ尤年度末期ニ限リ一箇月迄ヲ猶豫ス

但經費中仕切ノタメ六月三十日迄ノ本拂高ノ總額及假拂并同日迄ニ屬スルモノニシテ將來仕拂ヲ要スルモノハ金員一廉限詳細取調事由明瞭ニ記入シ七月三日ニ其地發遣本局ヘ差出スヘシ

第二十二條 諸收入金ハ每一箇月上納書ヘ別紙第二號雜形ノ通仕譯書ヲ添前條同時ニ本局ヘ差出スヘシ

但收入金之ナキ月ハ其旨經費仕譯書送付ノ節届書ヲ差出スヘシ

第二十三條 左ノ各項ハ前二箇條仕譯書ニ相添差出スヘシ

一 旅費ノ本拂ハ別紙第三號雜形ノ本人差出シタル明細表及仕譯書請求證書

一 郵便稅ノ仕拂別紙第四號雜形ノ明細表

一 假拂及繰替拂ハ別紙第五六兩號雜形ノ仕譯書

第二十四條 諸物品ノ出納ハ別紙第七號雜形ノ通毎月其計算表ヲ調成翌月十日マテニ其地ヲ發遣シ本

局ヘ差出スヘシ

右各條ニ掲載無之廉ハ其時々伺ノ上處分スヘシ

土木局ヨリ各出張所ヘ達 十五年九月十二日

土木局會計員各工場派  
出願序



十六年九月二十七日派出  
順序ヲ更定ス  
檢査員派出條例ハ財政門  
總二載ス  
會計課職務順序ハ十五年  
八月十八日定ムル所本局  
ノ部ニ載ス

太政官布達檢査員派出條例ニ準シ本局會計員各工場派出順序別冊ノ通被相定候條此段相達候也  
會計員各工場派出順序

第一條 各工場派出土木局會計課處務順序第四條ニ基キ該場ニ整備スル諸帳簿ヲ始メ總テ金錢及器械  
物品等ノ出納并計算ノ實況ヲ審査スル爲メ主務官ノ命ヲ奉シ各工場著手ノ地方へ本課會計員ヲシテ  
巡回セシムヘシ

第二條 派出員ハ出納審査上需用ナル計算簿ヲ悉皆點檢スルコトヲ得ヘシ

第三條 工費受拂勘定書ノ調成稽滯スルモノハ其事件ト所由トヲ推問シ主務官ニ具申スヘシ

第四條 工費領收證ノ内成規ニ悖戾スル等ノ件アリ其事理不明了ニシテ成規ノ照準スヘキナキ歟或ハ  
該所長ノ專斷ニ出ルカ如キハ詳悉具狀シテ決テ主務官ニ請フヘシ

第五條 大藏省爲換方ニ於テ管守スル工費金及預金等總テ現金有高帳ニ照シ其員額ヲ審査スルコトヲ  
得ヘシ

第六條 工費殘金或ハ諸收入ノ納付スヘキモノアルトキハ速ニ完納ノ順序ヲ爲サシムヘシ

第七條 各工場ニ於テ一周年收支ノ目途ヲ立ルハ該年度豫算決定ノ金額ニ基クモノナリト雖モ或ハ成  
規ニ違ヒ其宜キヲ得サルモノアレハ具狀シテ決テ主務官ニ請フヘシ

第八條 月俸旅費其他雜給等ニ關スル規則或ハ計算ノ方法等曉解シ難キ條件アリテ諮問ヲ受クルトキ  
ハ例規ニ照シ事理判明ナルモノハ其趣旨ヲ以テ回答ヲナスヘシ

第九條 諮問ヲ受ケサル件ト雖モ審査ノ際該場ニ於テ成規ヲ誤解セシト認ムルモノアレハ其旨ヲ說明  
シテ法規ニ據ラシムヘシ

第十條 物品受拂ノ計算ニ於ケルモ前各條ニ掲載スル例規ニ準シ審査スヘシ

第十一條 派出員其流域内巡回ノ節ハ會計主任ヲシテ各場立會同行スヘシ

第十二條 派出員ハ巡回畢ルノ後會計上諸簿册審査ノ形狀ヲ始メ各場出納事務ノ實況計算方法ノ得  
失等ヲ詳悉シ以テ復命書ヲ作り之ヲ主務官ニ出スヘシ

各出張所移轉ハ内務省  
へ經伺スルモノトス

土木局ヨリ各出張所へ達 十六年二月十六日  
其出張所工務ノ都合ニ依リ出張所ヲ便宜地へ移轉セントスル時ハ豫メ其事由ヲ記シ略圖相添伺出候義  
ト可心得此旨相達候事

土木局議案 十八年二月六日  
從來各川出張所位置移轉ニ付テハ一定ノ御達無之候ヨリ豫メ經伺ノ上移轉取計候向ト既ニ移轉齊届出  
ル向トノ二途ニテ區々ニ有之候處右ハ一應伺出指令ヲ待テ移轉取計候方尤至當ノ義ト存候間此際更ニ  
左案ノ通各出張所へ御達相成可然哉此段相伺候也 十六年二月十日 決判

内務省記録節錄

十六年八月二十五日土木局出張所ヲ靜岡縣庵原郡中鄉村ニ設置ス

土木局會計課ヨリ土木局へ同 十六年八月十八日  
今般富士川出張所御設置相成候ニ付テハ十六年度該川改築工費ノ金額及豫算帳進達方向出張所長へ御  
達相成度左案相伺候 八月二十日 決判  
但改築工費ノ内金一万圓ヲ判任以下俸給雜給ニ充テ其他ハ工費ニ充用可然哉添テ相伺候  
工費主務官ヨリ富士川出張所へ達 十六年八月二十一日

一金五萬圓也  
右金額明治十六年度其川改築工費ニ被相定候條左記ノ金額ヲ目的ニ豫算帳調製可差出此旨相達候也  
一金五千圓也 判任御用係俸給雜給  
一金五千圓也 雇員以下俸給雜給  
一金四萬圓也 廳費以下科目之分

(備考)

十九年内務省功程報告節錄  
富士川ハ流長三十五里餘甲斐濃ヲ貫流シ海ニ入ル全川大半急流ニシテ險阻渺カラス共改修スヘキ區  
域ハ山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同郡南湖ニ至ル間又靜岡縣富士郡岩本村ヨリ蒲原河口ニ至ル間其里程  
大約二十一里其工費金六十一萬三千三百三十六圓餘ニシテ十六年度ヨリ十九年度迄ニ支消スル金額ハ  
十三萬五千四百三十二圓餘ナリ此殘金ト外ニ防禦工費トシテ山梨靜岡二縣ノ負擔スル若干金ト共ニ年  
々支出シテ二十六年年度ヲ期シ改修防禦ノ二工事トモ竣功セントス



土木局出張所會計掛處  
務順序改正  
十九年四月二十日出張所  
會計事務順序ヲ定ム

土木局ヨリ淀川信濃川木曾川利根川北上川富士川出張所へ達十六年九月十一日  
土木局出張所會計掛處務順序別冊之通改正候條來十月一日ヨリ施行可致尤帳簿ノ儀ハ書式ニ準シ七月  
一日ヨリ改訂可致此旨相達候也

出張所會計掛處務順序

- 第一條 會計掛ハ工費會計主務官ノ命令及公布公達ノ法律ニ依リ出張所會計ニ關スル一切ノ事務ヲ整理シ且其實ニ任スルモノトス
- 第二條 工費豫算ハ前年度十一月十日迄ニ翌年度豫算取調書書式第一號ヲ調整シ之ニ前々年度實費及前年度豫算額トニ對比シ増減見込書ヲ添ヘ本局へ送呈スヘシ
- 第三條 工費豫算決定額ハ前年度六月中本局ヨリ達ス可シ
- 第四條 第二條豫算額ノ内臨時支出ヲ要スル金額ヲ除キ通常支出ノ金額ヲ四分シ之ヲ一二三四期ト稱シ臨時支出ノ金額ハ其要スル期節ニ編入シ每期ノ前月ニ於テ第二號書式ニ準シ本局へ請求スヘシ  
但本條期節割合金額ハ前年度二月二十八日迄ニ第三號書式ノ取調書ヲ本局へ送呈スヘシ
- 第五條 工費ハ請求ニ應シ每一期分ヲ下與スヘキハ勿論ナリト雖モ時トシテハ其一期分金額ノ内若干圓ヲ本局ニ存シ以テ該出張所ノ費用ヲ支出スルコトアルヘシ  
但本局於テ該出張所ノ費用ヲ支出スルモ每一箇月分取纏翌月三日迄ニ報告スヘシ
- 第六條 本局ヨリ下渡金領收ノ上ハ直チニ第四號書式ニ倣ヒ領收證書ヲ廻送スヘシ  
但遞送金ハ大藏省出納局管守證書ヲ交付スルモノトス
- 第七條 下渡金ハ管守證書ヲ以テ交付スルモノトスト雖モ都合ニ依リ爲換券等ヲ以テ送付ノ節ハ管守順序ニ依リ出納支局又ハ大藏省現金取扱方ニテ管守證書ト交換ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 金錢ノ出納ハ管守順序ニ照シ切符ヲ發遣シ收支ヲ爲スヘシ現金ヲ取扱フコトヲ許サス  
但仕拂切符發遣ノ節ハ所長又ハ所長代理者ノ副印ヲ要スヘシ

十七年十月十日所長又ハ  
所長代理者ヲ監督又ハ監  
督代理者ト改正ス

第九條 總テ金錢物品ノ出納ハ所長又ハ所長代理者ノ檢印ヲ證トシ執行スヘシ尤工費會計主務官ノ命令及公布公達ノ法律ニ悖戻スル件ハ所長又ハ所長代理者ノ檢印アルモ出納ヲ爲スヲ許サス

第十條 伺ヲ經スシテ工費ヲ他ノ費用ニ操換又ハ豫算外ノ費用ヲ支出スルヲ許サス

但本省或ハ本局ノ命令アル旅行ニシテ至急ヲ要スル旅費ハ操換支出ノ上届出ヘシ

第十一條 不得已事故アリテ豫算小科目中彼是流用セントスルモハ第五號書式ノ調書ヲ添ヘ伺出ヘシ

但細科目ノ流用及豫算中ニナキ細科目ヲ設クルモハ其旨届出ヘシ

第十二條 甲月ニ屬スル費用ハ不得已事故アルノ外乙月ニ於テ仕拂フヲ許サス

但本條不得已場合ニ於テハ其事由詳悉第十五十六十八ノ三條ニ掲クル請求書及證書ヘ記入スヘシ

第十三條 一周年度工費仕拂ノ殘金ハ翌年度七月二十日ヲ限リ管守順序第十三條ニ依リ本局へ返納ノ手續ヲ爲シ其旨書式第六號仕譯書ヲ添ヘ上申スヘシ

第十四條 官吏ノ俸給ハ俸給仕出基簿ニ依リ仕出書ヲ調整シ所長又ハ其代理者ノ檢印ヲ得テ成規ノ通毎月十七日渡方ヲ取計フヘシ

但當日日曜日及大祭日ニ相當スルモハ翌十八日ヲ以テ執行スヘシ

第十五條 物品代價ハ物品納檢印牒職工人夫ハ出面檢印牒日給雇ハ公勤表ヲ調査シ第七號書式ノ請求書ヲ差出サシメ檢印牒等ト照合シ所長又ハ其代理者ノ檢印ヲ得テ仕拂切符ヲ調製スヘシ

第十六條 各工場ニ於テ購入ノ物品代價及職工人夫賃等ノ仕拂ハ會計掛所長又ハ其代理者ト共ニ毎月各工場ヲ巡回シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

但本條ノ請求書ハ工場主任者捺印ヲ爲スヘシ

第十七條 仕拂金ハ毎月一回各工場ニ於テ仕拂モノトス尤各工場ノ閉鎖或ハ巨大ノ事業ヲ爲スモハ臨時出納仕拂ヲ爲スモ妨ナシ  
但毎月一回ノ仕拂日ヲ豫メ定メ本局へ届出ヘシ且本條仕拂日ハ可成的月末ノ日ヲ以テスヘシ



- 第十八條 第十五條十六條ノ手續ヲ爲シ仕拂切符調製ノ上ハ乙號切符ヲ出納支局又ハ現金取扱方ニ送付シ甲號切符ハ第八號書式ノ請取證書ト交換請取人ニ渡方ヲ爲スヘシ
- 第十九條 前條請取證書ハ後チ本局ニ於テ決算ヲ證スルノ資トナルカ故ニ金員ニハ塗抹糊貼ヲ爲サシムルヲ許サス且可成的明細ニ認メシムヘシ
- 第二十條 第十五條第十六條ノ請取書ハ之ヲ各出張所ニ留置シ後證ニ備ヘ前條請取證書ハ每一箇月分ツ、取纏メ毎細科目ニ區分類聚シ第九號書式ノ勘定書ヲ副ヘ翌月十日ヲ限リ本局ヘ送付スヘシ
- 但郵便切手遣拂ハ第十號書式ノ表ヲ調製シ請取證書編冊中ヘ編入スヘシ
- 第二十一條 第二十四條ニ掲クルモノ、外前拂ヲ爲スヲ許サス假令ハ雇員日給一日ヨリ三十日マ尤月定メヲ以テ借入タル家賃ハ此限ニ非ス
- 但雇日給ハ出張巡回ノ節ニ限リ操上渡方ヲ爲スモ苦シカラス尤其事由請取證書ニ記載スヘシ
- 第二十二條 月手當ハ旅費ノ性質ヲ附帶スルカ故ニ每一箇月ヲ限リ概算ヲ以テ拂渡スモ苦シカラス
- 第二十三條 請負申付シ工事ニシテ竣工迄ハ二三箇月ヲ要スル見込アルモノハ每一箇月分宛落成箇所ヲ見積リ拂渡スモ妨ケナシ尤年度分界ノ際ハ必ス落成形ヲ以テ中仕切決算スヘシ
- 但落成箇所歩通拂渡ス分ハ中仕切決算ヲ除クノ外ハ假出拂ニナシ竣工ノ上一時ニ決算取計フヘシ
- 第二十四條 旅費月手當月俸日給及請負工事費用等概算並歩通渡ノ節ハ第十一號書式ノ請求書ヲ差出サシメ其事由ヲ審査スヘシ
- 但所長或ハ其代理者ノ檢印及工場主任者ノ捺印ヲ要スルハ第十五條十六條ノ通りタルヘシ
- 第二十五條 旅費月手當ハ每一箇月第十二號書式ノ如キ仕上明細表ヲ翌月三日ヲ限リ本人ヨリ差出サシメ其當否ヲ調査シ所長又ハ代理者ノ檢印ヲ得テ悉皆取纏メ本局ノ調査ヲ受クヘシ
- 但概算渡ノ分ハ本條ノ手續ヲ爲シ不足ハ追給シ殘金ハ直ニ返納ヲ爲サシメタル上本拂ニ更訂シ勘定仕上ヲ爲スモノトス
- 第二十六條 俸給日給ノ概算ハ渡シ期日經過ノ上本拂ニ更訂スヘシ

- 第二十七條 出張所計算諸牒簿ハ會計掛都テ之ヲ取扱フモノニシテ猥リニ他人ノ閱覽ヲ許ス可ラス
- 第二十八條 總テ計算諸牒簿ハ別紙雛形ノ如ク區分記載シ可成詳細明晰ナルヲ要スヘシ
- 但シ雛形ノ外簡易ニシテ明瞭ナル簿表ヲ適宜設クルモ苦ラス尤簿銘ト其要旨トヲ本局ヘ具狀スヘシ
- 第二十九條 出張所及各工場ニ於テ使用スル物品ハ所長又ハ其代理者ノ檢印アル請求書ヲ得テ會計掛ニ於テ渡方ヲ爲スヘシ尤請求高不相當ト認ルルハ其事由ヲ調査シ所長ノ辨明ヲ得テ相當ノ渡方ヲ爲スヘシ
- 第三十條 工業ニ用ユル物品モ亦前條ノ如シ然レモ時トシテハ工場主任者ヲシテ購求ヲ爲サシムルコアルヘシ然ルルハ豫メ購入物品ノ數量及凡積金額ノ通報ヲ爲サシメ所長ノ意見ヲ問ヒ差支ノ有無ヲ回報スヘシ
- 但本條ノ順序ヲ經サル物品代價ハ支出スヘカラス尤至急ヲ要スル場合ハ購求ノ上數量金額ト至急ヲ要スル事由トヲ通報セシムヘシ
- 第三十一條 前條購求ノ物品ハ代價支出ノ節各工場主任者ヨリ第十三號書式請取證書ヲ差出サシムヘシ
- 第三十二條 物品ヲ購求或ハ工事ヲ請負ハセントスルルハ可成廣ク其業體ノ者ヘ投票ヲ爲サシムヘシ
- 但各工場ニ於テ購求シ又ハ請負ハセントスルルモ本條ノ如ク投票ヲ爲サシメ會計掛出張ノ上所長ノ面前ニ於テ開票シ工場主任者立會スヘシ且工業用物品ノ購入ハ其主任者ト協議ノ上取計モノトス
- 第三十三條 出張所及各工場ニ備置ケル諸器械并備品ハ每歲曆年度六二度數量ヲ調査シ每歲一月第十四號書式ノ表ヲ製シ本局ヘ送呈スヘシ尤物品ノ増減アルルハ每一箇月届出ヘシ
- 第三十四條 工業用物品等請拂殘ヲ明瞭ナラシムル爲メ各工場主任者ヨリ從前用ヒ來リタル月計表ヲ差出サシメ之ヲ統轄シ置キ每一周年會計分界ノ際第十五號書式ノ表ヲ製シ本局ヘ報告スヘシ
- 第三十五條 小屋并不用物品又ハ損廢物品アルルハ數量及凡積金額ヲ付シ公賣方向出ヘシ



但裁可ヲ經テ賣却セシ代價ハ一箇月分取纏メ翌月五日ヲ限第十六號ノ仕譯書ヲ本局ヘ送付スヘシ  
尤金額ハ管守順序第十三條ニ依リ遞送方取計フヘシ  
第三十六條 諸物品器械等盜難或ハ水火災ニ罹リタルキハ速ニ其員數事由ヲ取調第十七號ノ調書ヲ製  
シ本局ヘ伺出ヘシ

但本文許可ノ上ハ其事由ヲ記載シ帳簿扣除スヘシ  
第三十七條 寄付金及物品ヲ地方廳ノ通牒ヲ得テ受領スルキハ時々本局ヘ具申スヘシ尤寄付金取扱方  
ハ國庫金ト同視シ管守順序ニ依ルヘシ然レモ諸牒簿ハ悉皆區別スヘシ

但寄付物品ヲ本局ヘ具申スルハ凡積代價ヲ付スヘシ  
第三十八條 工事ノ爲メ死傷スル者アルキハ各工場主任者ノ事情ヲ詳悉セル願末書及醫師兩名以上ノ  
診斷書ヲ得テ成規ニ照シ手當下付金額ノ見込書ヲ添ヘ本局ヘ伺出ヘシ

第三十九條 本省及本局ノ命令ニ非サル超衆勉勵及奇特功勞等ノ賞與ニ關スル金額ハ支出スルヲ許サ  
ス  
第四十條 一周年度ニ至リ第十八號ノ如キ工費決算表ヲ調製シ七月二十日限り本省ヘ送呈スヘシ

第四十一條 假拂繰換拂及消耗品ノ受拂ハ第十九號書式ノ如ク取調書調整シ毎月勘定書ト共ニ本局ヘ  
送付スヘシ  
第四十二條 金銀物品出納ノ現況検査ノ爲メ本局員派出ノ節利害得失ニ因リ其協議ニ應セサルモ復命  
ノ用ニ供スル書類ノ需メヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 會計事務ニ關スル伺稟請届及勘定書等ハ必ス所長ト連名捺印スヘシ  
但至急ヲ要スル件ニシテ所長不在ナルキハ其旨ヲ具狀シ伺稟請届等ヲ爲スヘシ  
第四十四條 各工場ノ懸隔ヲ示サンカ爲メ該川流域ヲ基トシ出張所及工場府縣廳ノ位置出張所ヨリ各  
工場府縣廳ヘノ里程工場ヨリ工場ヘノ里程ヲ記載セル第二十號圖式ノ畧圖ヲ本局ヘ差出ヘシ  
但工場ノ變換増減アルキハ時々本條ノ畧圖ヲ訂正差出ヘシ

第四十五條 出張所及各工場ニ於テ使用ノ器械其他物品ノ管守ハ所長及會計掛ニ於テ負擔スヘシ  
第四十六條 第四十五條ノ器械ハ本局ヨリ貸與又ハ出張所ニ於テ購入セシ分トニ關ハラ所長及會計  
掛連印ノ公借證書ヲ本局ヘ差出スヘシ  
但測量者等本局ニテ公借ノ上其地ニ於テ使用ノ分モ本條ノ如ク證書ヲ差出スヘシ且管守方ハ第四  
十五條ノ通タルヘシ  
第四十七條 公借ノ器械等不用ニ屬スルキハ速ニ處分方ヲ本局ヘ伺出ヘシ  
但器械使用者佗川出張所ヘ在勤換等ニヨリ不用ニ屬スルキハ兩川出張所所長熟議ノ上引繼方申出  
ヘシ  
第四十八條 出張所及各工場ニ於テ使用スル通常ノ器械其他ノ物品一箇代價金三圓以下ハ直ニ購求ス  
ルヲ得ル一箇代價金三圓以上及臨時ニ屬スル器械物品 測量及製圖用器械其 佗常ニ用ヒサル物品  
購求スルヲ得ス  
但工業ニ用ル物品 粗糸帶類ハ本條ノ限りニ非ス

土木局ヨリ各出張所ヘ達 十六年九月二十七日  
客歲九月第百四十四號ヲ以本局會計員工場派出順序相達置候處今般更ニ別册ノ通被定候條此旨相達候  
也  
土木局直轄工場検査員派出規程  
第一條  
一直轄工事ノ現狀及工費ノ會計ヲ検査シ事務停滯ノ患ナカラシメンカ爲メ内務卿ノ命ニ依リ検査員ヲ  
各工場ヘ派出セシメ專ラ検査ノ事ニ任セシム  
第二條  
一派田検査ハ通常臨時ノ二トス通常派出ハ每歲一同期節ヲ定メ派出ヲ爲シ臨時派出ハ特ニ其検査ヲ要  
ス

土木局會計員工場派出  
順序更正  
十九年四月二十日出席所  
會計職務順序ヲ定ム  
十九年五月三日検査派出  
日命令ヲ定ム



スル事件ノ起リシ時ニ臨ミ派出ヲ爲スモノトス

第三條

一 検査員ハ本局委任官一名ヲ以テ之ニ充テ判任官二名之ニ屬セシム

第四條

一 各出張所ニ於テハ検査員到達ノ前ニ兼テ定メタル諸牒簿ニ依リ左ノ計表ヲ製シ置キ検査員ノ査閱ニ供スヘシ

一 工費支拂表

二 物料受拂表

三 量水標建設箇所表

四 器械表

五 人員表

六 用度品受拂表

七 寄附金品表

八 創業以降工事一覽表

九 前年度前々年度物品價格比較表

十 各種ノ工事一個當リ價格表

十一 流域工場村名表

十二 流域工場工事景況畧圖

第五條

一 検査員ハ實地ニ臨ミ左ノ條項ニ據リ點檢シ所長ニ審問シテ其況狀及措置ノ可否ヲ詳ニスヘシ

一 工事操作ノ進歩

二 物料ノ品質及ヒ價位

三 職夫ノ巧拙及價格

四 器械ノ良否

五 村落山林保護民費工事等ノ景況

第六條

一 検査員ハ出張所ニ於テハ左記ノ諸帳簿ヲ點檢スヘシ尤左記帳簿ノ外必需ト認ムルモノハ便宜點檢スヘシ

一 豫算差引簿

二 勘定仕出基簿

三 俸給仕出基簿

四 現金請拂日計簿

五 假出簿

六 操換簿

七 物品請拂簿

八 器械基簿

九 備品基簿

十 雜品基簿

十一 寄附金品受拂簿

十二 請求書綴

十三 其他勘定ニ關スル一切ノ證書類

第七條

一 検査員工場ニ於テハ左ノ牒簿及計表ヲ點檢スヘシ

一 野牒

十六年十月二十五日計表  
體形ヲ定ムル財政門ニ據ス



- 二 箇所限日計簿
- 三 日計簿
- 四 月計簿
- 五 人夫出面牒
- 六 人夫檢印牒
- 七 小買物納牒
- 八 物品送狀綴
- 九 物品督促簿
- 十 其他検査上必需ト認ムル證書類

第八條

一出張所出納ノ現金ハ現金請拂日計簿ノ殘高ニ對照シ其現存スル所ノ員額ヲ大藏省出納支局又ハ現金取扱方ニ就キ認知スヘシ

第九條

一出納検査上ニ於テ左項ノ有無ヲ點檢シ其整理上怠慢ニ涉ルモノアルハ速ニ之カ完結ノ順序ヲナサシムヘシ

- 一 納付スヘクシテ未納ニ係ル件
- 二 假出納ノ決算未整理ニ係ル件
- 三 工費金ヨリ操替ヲナシタル金額ノ未償ニ係ル件

第十條

一各出張所ニ於テ一周年收支ノ目途ヲ立ルハ該年度豫算決定ノ金額ニ基クモノナリト雖モ或ハ成規ニ違ヒ其宜キヲ得サルモノアレハ改正ヲ爲サシムヘシ

第十一條

一工費受拂勘定書ノ調整ヲ稽滯スルモノハ其事件及所由トモ推問ヲ遂クヘシ

第十二條

一工費金取扱上於テ成規ニ悖戻スル等ノ件アリ而シテ若シ其事理不明瞭ニシテ成規ノ照準スヘキナキ歟或ハ所長ノ專斷ニ出ルカ如キモノアルハ詳悉其狀シテ處分方ヲ請フヘシ

第十三條

一俸給旅費其他雜給等ニ關スル規則或ハ計算ノ方法等ニ付曉解シ難キ條件アリテ其質問ヲ受クルハ例規ニ照シ事理判明ナルモノハ直チニ之ヲ指示スヘシ

第十四條

一質問ヲ受ケサル件ト雖モ検査ノ際該處於テ成規ヲ誤解セシト認ムルモノアルハ其説明ヲナシ成規ニ依ラシムヘシ

第十五條

一物品出納ノ検査ハ現物ニ就テハ品目數量ヲ詳查シ帳簿ニ就テハ其成蹟事由ヲ審閱スヘシ

第十六條

一物品検査上兼テ左ノ諸件ヲ検査スヘシ

- 一 故ナク不用物品ヲ貯蓄シアルヤ否
- 二 故ナク官用物品ヲ貸與シアルヤ否
- 三 受拂計簿外ニ物品ヲ貯蓄シアルヤ否

第十七條

一量水標ハ其建設ノ年號地名標號番人屬籍姓名給料雜費ノ支辦法等箇所限リ検査スヘシ

第十八條

一官營ノ建造物ハ其建坪所屬地坪所用ノ名稱保存ノ善惡注意ノ適否等ヲ検査スヘシ

第十九條



一 每項條件一切検査済ノ上ハ第六條ニ列記スル原簿ニ検査員捺印スヘシ  
第二十條

一 検査員ハ巡回畢ルノ後工事ノ伸縮村落ノ景況會計上諸般ノ得失等ヲ詳悉シ復命書ヲ作り第四條ニ掲  
クル諸表ヲ添付シ之ヲ内務卿ニ出スヘシ

土木局ヨリ内務省ヘ伺 十六年九月日  
當局直轄工場ノ儀ハ逐年工務擴張ニ及ヒ隨テ會計上ノ事務モ益繁劇ヲ加フルヲ以テ愈之カ嚴密整理ノ  
法ヲ要セサレハ動モスレハ或ハ紊錯ニ涉ルノ弊ナシトセテハ其實際ニ在リ擔當處辨スル如キハ素  
ヨリ各共責任者アリト雖モ之レカ整理ヲ務ムルニ至リテハ到底本局員ヲ派シ實地検査セシムルニ非  
上進々更正ヲ要スルモアルニ付更ニ別紙規則改正案編製仰高裁候也 十六年九月十九日決判

土木局出張所會計掛處務順序中改正追加 十六年十月九日

改正

第十四條 官吏ノ俸給ハ云々但書左ノ如ク改正

但各工場ニ出張ノ者俸給ハ毎月十七日以降工費支拂ノ爲メ出張ノ時ニ於テ渡方取計フヘシ  
追加

第二十條 第十五條云々每細科目ニ區分類集シトアルノ下(別紙書式第二十號ノ表紙ヲ付シ)ノ十四字  
本局ヘ送付スヘシトアルノ下(年度末月ニ限リ一箇月ヲ猶豫ス)ノ十四字ヲ追加ス

第三十五條 小屋并不用物品云々

但裁可ヲ經テ云々仕譯書トアルノ下(及其納金證書ト落札人ノ請書ト)ノ十四字ヲ追加ス

第三十八條 工事ノ爲メ死傷云々診斷書トアルノ下(及死者ハ本籍戸長ノ戸籍調書)ノ十三字ヲ追加ス

第四十八條 出張所及各工場云々

但工業ニ用ユル云々本條トアルノ下(經伺)ノ二字ヲ追加ス  
増補

土木局出張所會計掛處  
務順序中改正追加  
十九年四月二十日出張所  
會計事務順序ヲ定ム

第四十九條 第二十四條ニ掲グル所ノ假出拂ハ其假出拂ヲ爲スノ事由ヲ第十一號書式ノ請求書及請取  
證書ノ但書ニ記載セシムヘシ

第五十條 第二十四條ニ掲グル假出拂ノ分精算殘金返納證書ハ勘定仕上證書編冊中ニ編入スヘシ

第五十一條 請負工事等當初約定セシ證書類ハ精算仕上ノ證書編冊中ニ編入スヘシ

第五十二條 證書中單ニ名稱而已ニテ其使用ノ途ヲ分チ難キモノ何々用ナルコトヲ朱書ヲ以テ詳悉説  
明スヘシ

第五十三條 第十五條第十六條第十八條第二十四條ノ請求書及請取證書ハ細科目細科目ナキハ小科目毎ニ區分  
別紙ニ差出サシムヘシ

第五十四條 寄付金品ノ受拂ハ每一周年度統計シ第九號ノ書式ニ倣ヒ勘定書ヲ調整シ翌年度七月十日  
迄ニ本局ヘ差出スヘシ

第二十號

會計掛檢印

小科目

細科目

命ハ朱

一金何圓何十錢

但領收證書何通

土木工費會計主務官ヨリ内務省ヘ伺 十六年十月三日  
今般太會第四七八號ヲ以テ收支決算ノ儀ハ證書類ヲ以テ會計検査院ヘ證明スヘキ旨御達相成候ニ付テ  
ハ發ニ裁定相成リタル當局直轄川々出張所會計掛處務順序中別紙ノ通追加増補候様致度至急仰裁定候  
也 十六年十月八日決判

土木局ヨリ各出張所ヘ達 十六年十月二十五日

本年九月二十七日付第三百三十三號ヲ以相達候土木局直轄工場検査員派出規程第四條計表雜形別紙ノ通

土木局直轄工場検査員  
派出規程第四條計表雜  
形



相定候條右ニ照準調整可致尤難形ニ難據分モ有之候ハ、可成詳明ナル計表ヲ調整シ検査員ノ査閱ニ供スヘシ此段相達候也

別紙

例言

- 一 工費支拂一覽表ハ該年度初期ヨリ検査員到著迄ノ金額ヲ掲記スヘシ
- 一 物料請拂一覽表ハ一村工場毎ニ該年度初期検査員到著迄ニ請拂タル工業用物品ノ數量及金員ヲ掲記スヘシ且前年度ヨリ越高及引繼拂タル數量金員ハ朱記スヘシ
- 一 量水標建設箇所一覽表ハ現在設置ノ箇所及取扱人ヲ掲記スヘシ
- 一 器械其他備品雜品一覽表ハ現在ノ數量ヲ掲記スヘシ
- 一 人員一覽表ハ現在人員ヲ掲記スヘシ
- 一 消耗品請拂一覽表ハ前年度及該年度初期ヨリ検査員到著迄ノ請拂數量金員ヲ掲記スヘシ
- 一 寄付金品一覽表ハ創業ヨリ検査員派出ノ年月迄ニ寄付シタル物品數量金員ヲ毎年度區分掲記スヘシ且寄付物品ハ見積代價ヲ金員ノ野中ニ朱ヲ以テ掲クヘシ
- 一 創業以降工事一覽表ハ創業ヨリ検査員到著ノ年月迄ニ竣成シタル工事ノ種類ヲ區分シ計表ノ如ク掲記スヘシ
- 一 物價比較一覽表ハ検査員到著ノ前年度ト前々年度トノ工業需用物品ノ價格比較ヲ掲記スヘシ且現時ノ物價ヲモ區分シ記載スヘシ尤年度半途ニ際スレハ比較ニ及ハス
- 一 工事一箇價格一覽表ハ検査員到著ノ前月ニ於テ操時落成セシ工業ノ一箇當リ價格ヲ掲記スヘシ
- 一 工場村名一覽表ハ創業ヨリ検査員派出ノ現時ニ至ル工場村名ヲ掲載スヘシ尤一時中止又ハ竣工セシ工場ハ朱ヲ以テ記スヘシ

土木局庄川出張所ヲ設ク

十九年七月内務省令第十  
四號ヲ以テ土木監督區署  
位置ヲ定ム

土木局阿武隈川出張所  
ヲ設ク

十九年七月内務省令第十  
四號ヲ以テ土木監督區署  
位置ヲ定ム

内務省記録節錄

十六年十一月二十五日土木局出張所ヲ富山縣射水郡高岡驛ニ假設ス

内務省記録節錄

十七年四月十四日土木局出張所ヲ宮城縣伊具郡丸森村ニ假設ス

(備考)

十九年内務省功報報告節錄  
阿武隈川ハ流長五十里餘ニシテ運漕ノ利アルハ獨リ宮城縣伊具郡丸森村ヨリ下流十里餘間ナリトス然レハ川幅廣ク淺深一ナラズニシテ通船ニ便ナラス是ヲ以テ屈曲ヲ矯正シ幅員ヲ定メ護岸工防禦工ヲ施ササルヲ得ス而シテ共工費金四十五萬五千五百四十二圓餘ノ内十五年度ヨリ十九年度迄ニ消費スル金額ハ五萬四千四十二圓餘ナリ此殘金ト別ニ宮城縣地方稅若干ヲ以テ來ル三十年度ニ於テ竣工スルノ豫定ナリトス

内務省記録節錄

十七年七月十九日土木局出張所ヲ福岡縣御井郡久留米三本松町ニ設置ス

(備考)

十九年内務省功報報告節錄  
筑後川ハ大分縣豐後國日田郡隈町以下筑後國三潯郡大託間村川口迄二十二里間ヲ以テ改修區域トシ區域中五分ノテ工事著手緩急ノ順序ヲ定ム共要ハ舟楫ノ便ヲ得セシメ亂流ヲ防キ河底ヲ均一ナラシムルニ在リ或ハ危岩ヲ破碎シ屈曲ヲ矯正シ川敷ヲ開墾シ堤防ヲ改築スル等都テ改修防禦ノ二工事ニシテ共工費金六十八萬四千八百八十五圓餘ノ内十五年度迄消費スル金額ハ八萬三千三百四十六圓餘ニシテ其殘金ト福岡佐賀二縣ニ負擔セシムル金若干ヲ以テ來ル二十九年度ニ於テ竣工ノ豫定ナリ

土木局出張技師ヨリ土木局ヘ伺 十七年七月二十二日

測量事務取扱所ノ儀過般山形縣東田川郡清川村齋藤半九郎方ニ假定候様上申致置候處事務追々擴張致シ殊ニ今般會計官吏ヲモ出張被致候ニ付諸般ノ便利ヲ計リ兼テ伺濟ノ製圖所合テ飽海郡酒田ニ於テ事務取扱所金六圓内外ヲ以テ借入候テ可然候哉此段相伺候也

最上川出張所ヲ設ク  
十九年八月四日土木監督  
區署出張所ヲ設ク



追テ本文事務取扱所ノ儀御許可ノ上ハ最上川改修土木局出張所ノ名稱相用候テ可然候哉添テ相伺候也

(備考)

十九年内務省功報報告節録  
最上川ハ山形庄内ノ間運搬ノ要流ニシテ支流赤川モ亦運搬ノ便アルモ障多キヲ以テ共ニ改修セサルヘカラス共改修スヘキ區域ハ本川ニ在テハ羽前國北村山郡大石田村ヨリ羽後國飽海郡酒田町迄凡二十  
二里餘又赤川ニ在テハ羽前國西田川郡大寶寺村ヨリ阪ノ邊村迄凡五里間ナリ而シテ工費金八十七萬三  
千九百九十四圓餘ノ内十五年度ヨリ十九年度迄支消スル金額ハ七萬二千七百五十九圓餘ニシテ山形縣ニ  
負擔セシムル防禦工事ト共ニ來ル三十一年度ヲ期シ竣功セントス

吉野川出張所ヲ設ク

十九年七月内務省令第十  
四號ヲ以テ土木監督監務  
ヲ設ク

土木局出張所ヨリ土木局へ届 十七年八月六日  
當吉野川改築測量ノ爲メ左記ノ地へ從前製圖場設置有之候處今回工事著手ニ付テハ右製圖場ヲ以テ其  
儘出張所ト致候ニ付此段御届申上候也  
德島縣名東郡高崎村吉野川土木局出張所

(備考)

十九年内務省功報報告節録

吉野川ハ流長凡五十餘里ニシテ流域四國ニ跨リ運送貨物ヲ阿波國德島ニ輻湊スル要流ナリ然レ而水淺  
ク流急ナルヲ以テ勳モスレハ船脚ヲ膠スルノ患ナキニアラス故ニ流身ヲ集メテ水深ク保タシメ又屈曲  
ノ地ニハ水制工ヲ施シ以テ通船ニ便ナラシムルノ計畫ニシテ其改修區域ハ德島縣阿波郡西林村ヨリ河  
口迄凡十一里間トス其工費金八十八萬九千六百三十二圓餘ノ内十五年度ヨリ十九年度迄支消スル金額  
ハ七萬九千九百九十四圓ナリ此殘金ト德島縣地方稅若干ヲ合セ共ニ年々支出シテ二十九年年度ヲ以テ竣工ノ期限  
トス

土木局出張官心得

土木局ヨリ各出張所へ達 十七年九月十六日  
別紙出張官心得之義ハ夫々覺悟モ可有之筋ニハ候得共間或ハ不注意ノ向無之ヲ保シ難キニ付爲念此  
段内達及置候也  
別紙

出張官心得

- 一 治水修路築港等ノ起功ニ先タチ測量又ハ検査トシテ實地出張ノ節其事項ハ復命ノ上省議ニ決スルモ  
ノナレハ人民ハ勿論縣官郡村吏等ニ對シ自己ノ推測ヲ以其施否ヲ豫言ス可カラス
- 一 凡工事ノ利害得失ヲ直ニ人民ニ指示ス可カラス
- 一 施工出張中諸請負人用達等ト酒席ニ交ルハ勿論懇親ヲ通シ官吏ノ體面ニ關スル接待ヲ爲ス可ラス
- 一 府縣出張官吏ヨリ協議スルコトアラハ諸事懇到ニ應對ス可シ
- 一 地方人民ニ對シ威權ヲ挾ム如キ行爲アルヘカラス
- 一 出張員ノ内不品行ノ者アラハ互ニ忠告シ用ヒサル者ハ局長へ内報ス可シ

土木局ヨリ各課へ達 十七年九月十一日

今般出張所處務概目別紙之通被相定候條此旨相達候也

別紙

土木局出張所處務概目

一本局出張所ノ職員ヲ分ツ左ノ如シ

- 一 監督 一員
- 二 主事 一員
- 三 工事掛 無定員(工事ノ大小ニ據  
リテ人員ヲ定ム)
- 四 會計掛 二員

監督

- 一 部内一切ノ工事ヲ計畫シ局長ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ施行ス
- 二 部内主事以下ノ能否勤惰ヲ監視シ其進退黜陟ニ付意見ヲ局長ニ具申ス
- 三 部内工務ノ大體ニ關シ所見アレハ之ヲ局長ニ具申シ又ハ局長ヲ經由シテ之ヲ内務卿ニ具申スルヲ

土木局出張所處務概目  
十九年七月十二日土木監  
督署官制ヲ定ム



得  
四臨時ニ生スル重要ノ事件ハ局長ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ處理ス  
五地方掌管ノ工事ニ關シ局長ノ指揮アルニ當テハ臨時設計ニ從事シ又ハ之ヲ監視ス

主事

一監督ヲ輔ケテ諸般ノ事務ヲ幹理ス  
二監督不在若クハ事故アルトキハ特ニ監督ノ委任ヲ得テ其事務ヲ代理ス  
工事掛

一監督ノ指揮ヲ受ケテ諸工事ヲ計畫シ之ヲ施行ス  
會計掛

一處務順序ニ遵テ工費會計ノ事務ヲ掌ル

土木局ヨリ各川監督及會計掛へ達 淀利根木督 十七年十月十日

今般出張所處務概目相達候ニ付テハ土木局出張所會計掛處務順序中所長又ハ所長代理者トアルヲ監督又ハ監督代理者ト改正候條此段相達候也

土木局會計課ヨリ土木局へ伺 十七年十月十日

今般出張所處務概目被定監督ニ於テ一切ノ庶務ヲ整理セシメラレ候ニ付テハ出張所會計掛處務順序中所長及ヒ所長代理者ノ文字ハ監督又ハ監督代理者ニ改正各出張所三川ハ除ク御達相成度左案相伺候 十七年十月九日 局長決判

信濃川監督古市三等技師代理砂防工事主任中村七等屬ヨリ土木局へ届 十七年十月二十日

今般信州地方砂防工場ヲ分離シ信濃川出張所分所ヲ被置候ニ付長野縣下更級郡稻荷山町第三百三十八番地松木一郎所有ノ家屋別紙圖面ノ箇所ヲ一箇月金一圓宛ニテ借受本月二十日分所開廳事務取扱申候此段御届申上候也 圖面ハ略ス

土木局出張所會計掛處務順序中改正  
十九年四月二十日出張所會計事務順序ヲ定ム

信濃川出張所分所ヲ設ク

十九年七月内務省令第十七號ヲ以テ土木監督區署位置ヲ定ム

土木局記録節録

十八年四月二十日静岡縣下豊田郡中野村治河協力社ヲ以テ本局假出張所ト定メ天龍川ヲ改修ス

(備考)

土木局記録節録

十七年八月二十三日内務卿ヨリ天龍川改修直轄ノ事ヲ上請シテ曰天龍川改修ハ治河協力社長金原明善ヨリ資金上納レ工事ハ當省直轄アラシメテ見積リ更ニ伺ヒ出ヘキ旨指令アリ然ルニ此川タルハ亂流他ハ難聽届直轄ハ詮議ニ及フヲ以テ工費節略見積リ更ニ伺ヒ出ヘキ旨指令アリ然ルニ此川タルハ亂流他ニ比類稀ナル險峻ニシテ其水源沙防ヲ施ス等ノ工事百端爲ニ見積容易ニ成得難今ヤ實測中ナレハ結了ヲ待テ上申スヘキ見込ナレ 淀利根等十三川改修ノ例ニ準ヒ金三萬圓御下付アラシメテ上請ス九月二十九日太政官指令ニ曰上申ノ趣天龍川工事直轄ノ儀開届但本年度費用ハ淀利根等十三川豫算内ヲ以テ差繰支辨スヘシ  
十九年内務省功報告節録  
天龍川ハ六十里ノ長流ニシテ舟楫ノ利ハ長野縣伊那郡時又村ヨリ静岡縣豊田郡掛塚港ニ至ル凡三十里間通船危害ナルヲ以テ水防ヲ主トシ且ツ護岸工ヲ施スノ計畫ニシテ其工費ハ金四十七萬三千五百七十ニ圓餘此内金四萬九千七百十四圓餘ハ十七年度ヨリ十九年度迄ニ支消シ其殘金ト外ニ静岡縣ノ負擔スル防線工費トヲ以テ來々二十六年度ニ至リ竣工ノ見込ナリ

土木局ヨリ沖野四等技師へ達 十八年三月十四日

大井川出張所設置ノ儀ニ付本月八日伺出ノ趣聞届候此段答達候也

四等技師沖野忠雄ヨリ土木局へ伺 十八年三月八日

大井川ノ義是迄出張所ノ設無之候處志太郡善右衛門村ハ本川ノ沿岸村ニ有之且ツ東海道へモ接近ノ地ニテ至極便宜ノ地ニ有之候間該所へ出張所設置致度管轄廳へモ協議候處異存無之旨回答有之候ニ付適當ノ家屋取調候處幸ヒ確井三郎所有ノ明家一棟有之家賃モ一箇月金一圓五十錢ニテ不相當ニモ無之候間差向右家屋借入出張所設置致度依テ別紙圖面相添此段相伺候也 別紙

(備考)

十九年内務省功報告節録  
大井川ハ流長五十里共改修スヘキ區域ハ静岡縣榛原郡牛尾村ヨリ下流河口ニ至ル五里間トス本川暴水毎ニ瀾漫亂流スルヲ以テ常ニ防禦ヲ主トシ且ツ亂流ヲ制スル爲メニ制水工護岸工ヲ施サントス其工費金二十三萬五百四十七圓餘ノ内十五年度ヨリ十九年度迄支消スル金額ハ二萬八千八百八十一圓ナリ此殘金ト外ニ防禦工費トシテ静岡縣負擔ノ金若干トヲ以テ二十九年度ニ至リ共ニ竣工ヲ期ス

天龍川假出張所ヲ設ク

十九年七月内務省令第十七號ヲ以テ土木監督區署位置ヲ定ム

大井川出張所ヲ設ク

十九年七月内務省令第十七號ヲ以テ土木監督區署位置ヲ定ム



土木局出張所ニ交渉スル地方工事處理内規  
十九年三月二日局員出張内規ヲ定ム

土木局ヨリ各課へ達 十八年五月四日  
本局出張所ニ交渉スル地方工事處理内規左ノ通相定候條爲心得相違候也

本局出張所ニ交渉スル地方工事處理内規

- 第一 直轄河川改修區域内ニ於テ地方廳若クハ人民ニテ別ニ護岸制水等ノ工事ヲ要スル場合アリ其費用ヲ負擔スル旨ヲ以テ地方廳ヨリ當局ノ測量ヲ請ヒ若クハ當局ニテ引請施工セシメテ請フキハ局長ヨリ出張官ノ見込ヲ諮問スヘシ
  - 第二 出張官ニ於テ前項諮問ヲ承ケタルキハ右地方ニテ要スル工事ハ目下當局ノ設計外タリトモ早晚改修セサル可ラサル部分ニ屬スルモノト見込ムヤ否其緩急ヲ具シ答申スヘシ
  - 第三 右答申ニ依リ局長ハ其緩急ヲ量リタル上地方廳ノ請求ニ應シタルキハ其旨出張官へ指揮シ時宜ニ寄リ工費ノ幾分ヲ補助スルコトアルヘシ
  - 但地方廳ニテ測量ヲ始メ施工ヲモ悉皆擔理スルキハ出張官ハ右設計上ニ就キ豫シメ協議ヲ受ケテ便宜其方法ヲ指示シ且施工ニ臨ミテハ時々實況ニ就キ之ヲ監督スヘシ
  - 第四 直轄河川改修區域外ニ涉ル場所ノ工事ニ在テハ出張官ハ地方廳ヨリ支障ノ有無問合セニ應答スルニ止マリ其施工ハ地方廳ニテ悉皆擔理ス可キモノトス若シ地方廳ヨリ出張官ノ測量ヲ直チニ請求スルコトアラハ本局へ照會セシメ局長ノ指揮ニ依リ之ニ從事スヘシ
  - 但此場合ニ於テハ測量ニ係ル諸費ハ勿論出張員ノ旅費日當ヲモ地方廳ヨリ支辨セシムルモノトス
- 土木局ヨリ各出張所へ達 十八年六月二十三日  
本局直轄各地工場従事員在勤地ノ儀ハ自今該出張所所在地ヲ以テ在勤地ト相定候條其旨可被相心得此旨相違候也

土木局各出張所ニ在勤地ト定ム  
十九年十二月二十四日監督派出張所所在地ヲ在勤地ト爲ス

土木局出張内規

土木局員出張内規 十九年三月二日  
府縣ニ於テ道路開鑿治河築港其他之事業ヲ企圖シ其測量計畫ノ爲メ當局員之出張ヲ本省又ハ當局へ請求スルキハ凡左ノ目的ヲ以テ之ヲ調査スヘシ

但測量ハ該府縣ニ於テ取計ラハシムヘシ

- 一 直轄河川改修區域内ニ係ル事業(橋梁架設用水路疏鑿堤防修築等ノ計畫)ハ其請求ニ應スヘシト雖モ改修區域外ニ涉ルキハ該河川ノ流域タリモ事業ノ緩急ニ依リ其急要ナルモノニ限り該出張所員ヲシテ之ニ從事セシムルモノトス
- 二 國道線路ニ當ル開鑿事業ナレハ本局員又ハ最寄出張所員ヲシテ其請求ニ應セシムルモノトス
- 三 築港治河等利害ノ關係最大ニシテ國庫之補助ヲ許サルヘキ程ノ事業ハ當局ノ本分ニ於テ檢査ヲモ要スヘキモノニ付亦前項ニ同シ
- 四 縣道開修其他築港治河等ノ事業ニテモ其便利一地方ニ止リ國庫ノ補助ヲ許サレサル程ノモノハ一切其請求ニ應セサルモノトス
- 但本項事業ノ如キモ特別其請求ニ應スヘキ事由アリ及大臣ノ指揮ニ出ルモノハ此限ニ非ス

土木局ヨリ各川出張所へ達 十九年四月二十日

土木局出張所會計處務順序別冊之通改正候條本年度ヨリ右ニヨリ施行可致此段相違候也

但從前達指令等本文順序ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ト心得ヘシ

土木局出張所會計事務處理順序

第一章 總則

第一條 土木局各地出張所計算掛ハ此順序ニ依リ出張所ニ屬スル會計上一切ノ事務ヲ處辨シ且其責任ス可シ

第二條 會計事務上ニテ所長ト意見ヲ異ニシ實施シ能ハサルコトアルキハ事實ヲ具シ局長ニ伺出テ其

土木局出張所會計處務順序改正  
二十年七月二十一日土木監督會計事務取扱順序ヲ定ム



憲式八財政門出納規則ニ  
準ス

指揮ヲ請フ可シ

第三條 此順序中差出期限アルモノハ總テ其期限内ニ差出スコトヲ務ム可シ若シ期限内ニ差出シ難キトキハ事實ヲ具申シ猶豫ヲ請フヘシ

第四條 會計上支給ノ方法經費ノ決算及第二條ノ場合ヲ除キ其他ニ付本局ヘ何届報告等ハ之カ回議ヲ起シ所長ノ檢印ヲ受ク可シ

第五條 前條何届其他報告等ハ所長ト連署ス可シ  
第二章 豫算

第六條 歳入豫算ハ前年度四月十五日迄ニ第一號書式ニ據リ表ヲ調製シ其地發遣本局ヘ差出ス可シ

第七條 歳入歳出ハ率子左ノ區別ニ基キ豫算ス可シ

第一 歳入官有地及物品貸下拂下代即チ地所辨償金 即チ違建物品辨償金 約金ハ前々年度以前三ヶ年度實收ノ平均額ヲ標準トス

第二 歳出中官吏其他ニ支給ス可キモノニシテ豫期スルヲ得ルモノ即チ俸給給料手當ノ類ハ前年度四月一日ノ現人員ヲ標準トス

第三 歳出中官吏其他ニ支給ス可キモノニシテ豫期シ得サルモノ即チ隨時其額ヲ定ムル旅費出張手當惠與金及ヒ臨時備給ノ類ノ如キハ前々年度以前三箇年度實費ノ平均額ヲ標準トス

第四 歳出中物件ニ對シ支出ス可キモノニシテ豫期シ得サルモノ即チ物品買上代普通ノ廢費平常ノ營繕費修繕ノ類ハ前々年度以前三箇年度實費ノ平均額ヲ標準トス

第五 歳出中人員ト相伴フモノ賄料ノ類ノ如キハ第二項ニ基キ第四項ヲ酌量豫算ス可シ

第六 歳出中土木事業測量建築其他物件金高百圓以上ナルモノニ對シ支出スルモノハ目論見帳又ハ仕譯書ニ基キ豫算ス可シ

第八條 歳入豫算ニ對シ毎月増減ノ有無ヲ糾シ翌月五日迄ニ其地發遣本局ヘ報告ス可シ但増減アルハ

ハ其事由ヲ詳悉ス可シ

第九條 第七條第六項ノ目論見帳ハ工事主任ヨリ差出サシメ所長ノ檢印ヲ得テ後豫算調整ヲ爲ス可シ

第十條 歳出中各目以上互ニ流用スルヲ許サス不得已事故アリテ流用ヲ要スルコトアルハ第二號書式ニ據リ其事由ヲ詳悉シ調書ヲ製シ本局ヘ伺出ヘシ

第十一條 前條流用伺出ノ上本局ニ於テ認可ヲ爲シタルニ非サレハ豫算外ノ支出ニ係ル新規ノ契約其他物品購入等ヲ爲スヲ許サス

第三章 科目  
第十二條 歳入出科目表ハ別ニ之ヲ定ム科目表中廢置變更ヲ要スルコトアルハ其事由ヲ詳悉シ本局ヘ伺出可シ

第四章 金錢出納  
第十三條 總テ金錢ノ出納アルハ左項ノ手續ヲ了シ所長ノ檢印ヲ受ク可シ

第一 收入ス可キ金額ハ其金額事由及納人ノ姓名ヲ掲記シタル回議ヲ起ス可シ

第二 官吏ノ俸給ハ俸給仕出基簿ニ依リ俸給額受取人ノ官姓名轉免黜陟ノ事由ヲ掲記シタル支出回議ヲ起ス可シ

第三 賞與其他負傷手當ノ類ハ本省又ハ本局ノ辭令及指令ニ依リ其金額受取人ノ姓名事由ヲ掲記シタル支出回議ヲ起ス可シ

第四 傭員俸給及小使給料等ハ第三號甲書式ニ倣ヒタル請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ公勤表ト調査照合シ之ヲ支出回議ニ代フ可シ

第五 但毎月二十日迄ヲ以テ日給ノ締切日トス尤年度末月ハ此限ニアラス  
職工人夫賃ハ第三號乙書式ニ倣ヒタル請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ出面帳及檢印帳ト調査照合シ工場目論見金額差引簿ニ依リ金額超過ノ有無ヲ糾シ之ヲ支出回議ニ代フ可シ

第六 物品代價ハ第三號丙書式ニ倣ヒタル請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ物品納付檢印帳當初購入



第七 部外出張等ニテ俸給ヲ繰上旅費及部内出張手當ノ概算渡シヲ要スルキハ出發ノ前五日內ニ第三號丁戌書式ニ倣ヒタル請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ其日數ヲ審査シ過當ノ請求ニ非サレハ其請求書ヲ回議ニ代フ可シ

但出發ノ日ヨリ五日以前ニ渡スヲ許サス

第八 部内出張中ノ者出張數月ニ涉ル場合ニ於テ出張手當ノ請求アルキハ工場工費仕拂ノ爲メ出張ノ節翌月ニ屬スル出張手當中賄料而已ノ概算渡方ヲ爲スヘシ尤手續ハ前項ニ同シ

第九 請負工事又ハ建築等ニテ請負人ヨリ内渡ヲ請フアルキハ工事掛ヨリ出來形步通ノ報告ヲ得テ第三號己書式ニ倣ヒタル請求書ヲ請負人ヨリ差出サシメ審査ノ上之ヲ回議ニ代フ可シ

第十 請負工事又ハ建築等落成シ請負人ヨリ精算金渡方ヲ請フキハ工事掛ヨリノ報告ヲ得テ第三號庚書式ニ倣ヒタル請求書ヲ差出サシメ請負證書ト照合シ之ヲ回議ニ代フヘシ

第十一 旅費及出張手當等概算渡シノ分精算仕上ヲ爲シ追給ス可キ金額アルキハ第三號辛書式ニ倣ヒタル請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ概算渡書類及仕上明細表ト照查シ其請求書ヲ回議ニ代フ可シ

第十二 旅費及出張手當等概算渡シノ分精算ニ至リ殘餘アルキハ第三號壬書式ニ倣ヒタル返納證書正副二通ヲ納人ヨリ差出サシメ概算渡書類及仕上明細表ト照查シ其返納證書副書ヲ以テ回議ニ代フ可シ

但本項返納ハ精算仕上明細表ヲ差出シタル日ヨリ三日以内ニ返納告知書ヲ發ス可シ

第十四條 一會計年度ニ屬スル收入支出ハ毎年四月一日ヲ以テ開始シ翌年三月三十一日ヲ以テ了ル可シ

第十五條 第十四條ノ會計年度內ニ於テ歲出ノ仕拂ヲ結了セサルモノハ整理ノ爲メ翌年度六月三十日マテ該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スヲ得ヘシ

第十六條 第十五條ノ支出ヲ要スルコトアルキハ第四號書式ノ表ヲ製シ其支出ヲ要スル事由ヲ詳細具狀シ本局ノ認可ヲ受ク可シ

但本條具狀ノ期限ハ年度後十五日以内タルヘシ

第十七條 部外出張等ニヨリ俸給旅費其他部内出張手當等ノ前渡ヲ要スルキハ出發開始前ニ於テ支出スルコトヲ得ヘシ

第十八條 前條支出ヲ要スル場合ニ於テハ第五號書式ノ表ヲ製シ其支出ヲ要スル事由ヲ詳細具狀シ本局ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 第十三條第一項ノ手續キヲ了シタル上ハ納期豫定アルモノハ納期ノ十日已前豫定ナキモノハ其時々各納人ニ納額告知書ヲ發ス可シ此場合ニ於テハ總テ納額臺帳ニ依リ第六號書式ノ納額告知書ニ納人ノ姓名金員納期告知書番號所屬年度科目所屬曆年(納期ノ數回アルモノハ其納期共)納付先ヲ記載シ上納書ノ正副共同一ノ記入ヲナシ殊ニ納額告知書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記入シ之ニ實印ヲ捺シ書式二印ノ處ヘ臺帳ト割印スヘシ

第二十條 納額告知書ヲ發付シタルトキハ納人ヲシテ納額告知書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印セシメ納額告知書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ納期迄ニ金庫ヘ納付セシム可シ

第二十一條 違約金ハ出張所ヘ收納セシムルモ妨ナシ尤此場合ニ於テハ毎日取纏メ第七號書式ノ納付書ヲ添ヘ即日金庫ヘ納付ス可シ

第二十二條 金庫ヨリ納付濟ノ上上納副書ヲ送付シタルキハ之ヲ納額臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲ爲ス可シ

但本條副上納書ハ每六箇月取纏メ本局ヘ差出ス可シ

第二十三條 前上納副書若クハ領收ヲ證スル納付書ヲ受ケ之カ年度科目等ノ誤記ヲ發見スルキハ其事由ヲ詳記シタル回議ヲ起シ所長ノ檢印ヲ受ケ即時金庫ニ照會シテ訂正ヲ請求ス可シ

第二十四條 毎月納濟ノ金額ヲ取調ヘ第八號書式ノ歲入報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ其地發遣本局ヘ差



出可シ

- 第二十五條 既納ノ歳入中過納誤納ニテ下戻ヲ要スルコアルハ第九號書式ノ計算書ヲ製シ其下戻ヲ要スル事由ヲ詳細具狀シ本局ヘ開申スヘシ
- 第二十六條 前條既納金下戻ニ付本局ヨリ既納金拂戻證ノ交付ヲ受クルハ之ヲ受取人ニ交付シ其旨ヲ直ニ本局ニ届出可シ
- 第二十七條 會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルハ第十號書式ニ據リ會計年度内徵收未済報告書ヲ製シ年度後五日以内ニ本局ヘ開申ス可シ
- 第二十八條 毎年歳出豫算ノ達ヲ得タルハ支出月額ヲ定メ第十一號書式ノ仕譯書ヲ製シ達ヲ得タル日ヨリ二日以内ニ其地發遣本局ヘ差出シ認可ヲ受クヘシ
- 第二十九條 歳出月額仕譯書ノ認可ヲ得タル後期節ノ變更若クハ金額ノ増加ヲ要スルコアルハ第十號書式ニ據リ訂正仕譯書ヲ製シ本局ヘ差出シ更ニ認可ヲ受ク可シ
- 第三十條 歳出月額仕譯書中支出期節豫定シ難キモノニシテ其期節定マルハ第十三號書式ニ據リ追仕譯書ヲ製シ本局ヘ差出シ更ニ認可ヲ受ク可シ
- 第三十一條 第二十八條第二十九條及第三十條ノ認可ヲ受クルニ非サレハ支出スルヲ得ス尤會計年度初期月ニ限リ其年度各目ノ豫算金額十二分ノ一迄ハ認可ヲ受サルモ支出スルヲ得ヘシ
- 第三十二條 第十三條第二項乃至第十一項ノ手續ヲ爲スニハ歳出月額差引簿ニ依リ支出ノ金額認可ヲ得タル金額ニ超過セサルヤ否ヤヲ糾ス可シ認可ヲ得タル金額ヨリ超過ノ金額ハ支出スルヲ許サス
- 第三十三條 第十三條第二項乃至第十一項ノ手續ヲ了シタルハ仕拂切符ヲ製シ受取人ニ授付スヘシ
- 第三十四條 仕拂切符ヲ製スルニハ第十四號書式ニ依リ仕拂切符元帳ニ金員事由ヲ記載シ仕拂切符ニ番號金員要用ナレハ貨受取人姓名各切符發行ノ年月日ヲ記入シ記名捺印シ元帳仕拂切符案内書ト接續ノ所ヘ割印シ之ヲ切斷シテ案内書ハ金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付シテ其領收證書ヲ徵ス可シ

第三十五條 官吏出張先其他ノ地ヘ支出金額ヲ送遣セントスルハ第三十四條ノ手續ニ依リ金庫ニ宛テタル仕拂切符ヲ製シ該切符裏面ニ受取人ノ住所姓名ト現金遞送ヲ請求スル旨ヲ記載金庫ヘ送付ス可シ

第三十六條 前條遞送金ノ請求ヲナシ金庫ヨリ送金手形ヲ交付セラレタルハ之ヲ受取人ヘ送付シ其領收證書ヲ徵ス可シ

第三十七條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ發行ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユ可カラス又此期限ヲ超ユルハ金庫ニ於テ金額ヲ交付セサルヘシ

第三十八條 仕拂切符ハ一目毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルヲ許サス

第三十九條 金庫ヨリ仕拂切符ノ書式等成規ノ如クナラサルカ又ハ案内書ト符合セサルカヲ通知アリタルハ其理由ヲ審査シ該切符番號年月日ノ脱落書損金額ニ關セサル文字ノ誤謬又ハ汚染損傷シタルモ其真正ナルヲ保證シ得テ證書ノ効力ヲ失フニ至ラサルハ又ハ案内書ノ誤謬ナレハ其切符ハ正當ナルコトノ保證書ヲ金庫ヘ送付シテ仕拂ヲ請求ス可シ

第四十條 前條仕拂切符若シ金員ノ脱落書損塗抹檢印ノ脱落又ハ紙面ノ必要ナル點ニ改描ノ形蹟アルモノ又ハ汚染損傷ノ甚シクシテ眞實ノ鑑別シ難キモノ即證書ノ効力ヲ有シ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ金庫ニ回報シテ該切符ヲ持參人ニ返付センコトヲ請求スヘシ

但其偽造變造ニ係ルハ其旨ヲ金庫ニ報シ該切符持參人ノ住所姓名ヲ糾シ治罪法第九十六條ニ據リ其地ノ檢事ニ告發ス可シ

第四十一條 前條但書ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告發ト同時ニ本局ニ開申スヘシ

第四十二條 第三十七條及第四十條ノ仕拂切符ハ其所有者ヨリ書換ヲ請フハ第十五號書式ニ倣ヒタル請求書ヲ差出サシメ其書換ヲナスヘキ正當ナル理由アリト認ムルハ其請求書ヲ回議ニ代エ所長ノ檢印ヲ受ケ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス可シ

第四十三條 前條書換ヲ會計整理期限内ニ於テスルハ通常仕拂切符發行ノ手續キニ依リ仕拂切符竝



案内書ヲ製シ切符元帳ニハ朱書ヲ以テ金額事由ヲ記入シ割印シ切斷ス可シ  
但金額ノ更正ニ係ルモノハ本條ノ限ニ非ス

第四十四條 前條但書ノ場合ニ於テハ更ニ支出ヲ爲スト同一ノ手續キニ依リ仕拂切符ヲ發行シ舊仕拂切符ト交換ス可シ

第四十五條 會計整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲ爲スハ過年度支出トシテ更ニ通常ノ手續ニ依リ仕拂切符ヲ發行スヘシ  
但本條ノ場合ニ於テハ本局ノ認可ヲ受ク可シ

第四十六條 第四十二條第四十四條ニ依リ仕拂切符ヲ再發シテ交換シタルハ舊仕拂切符ニ消印ヲ爲シ所長ノ檢印ヲ受ク可シ

第四十七條 會計整理期限内ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナスハ第十六號ノ書式ニ依リ返納告知書ニ番號金員事由納期日納場所返納人ノ姓名年月日ヲ記入シ返納元帳ニハ番號金員事由納期日返納人ノ姓名告知書發付ノ月日ヲ記入シ元帳ト告知書ト接續ノ處ヘ割印ヲナシ切斷シテ之ヲ返納人ニ交付シ返納人ヲシテ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ納期迄ニ金庫ヘ納付セシム可シ

第四十八條 會計整理期限後ニ於テ過渡金ノ追徴ヲ爲スハ歳入ヲ徵收スルト同一ノ手續ニ由リ納額告知書ヲ發シテ之ヲ返納人ニ交付シ返納人ヲシテ通常ノ歳入ト同一ノ手續ニ由リ現金ヲ金庫ニ納付セシム可シ

第四十九條 金庫ヨリ返納通知ヲ得タルハ返納元帳ニ返納濟ノ記入ヲ爲ス可シ

第五十條 第十九條及第四十七條第四十八條ノ納額告知書返納告知書ヲ發シ其納期ヲ過キ金庫ヨリ納濟ノ通知ナキハ納人ヘ納付方ヲ督促ス可シ

第五十一條 會計年度經過ノ後ニ於テハ其會計年度ノ支出ニ屬スル契約ヲ爲スヲ許サス

第五十二條 毎月支出ヲ爲シタル金額ハ第十七號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ翌月三日迄ニ其地發遣之ヲ本局ヘ差出ス可シ

第五十三條 會計ノ整理期限マテニ概算ヲ以テ歳出シタル金額ノ精算未濟アルハ第十八號書式ノ精算未濟報告書ヲ製シ整理期限後三十日以内ニ其地發遣本局ヘ差出ス可シ

第五十四條 毎月歳出ノ報告ヲ差出シタル後金額ヲ改メテ再度仕拂切符ヲ發行シタルハ又ハ會計ノ整理期限ヲ過キ仕拂切符ヲ再發シ交換シタルハ既ニ差出シタル歳出報告中其事項ノ取消書ヲ毎月ノ歳出報告書ト共ニ本局ニ差出ス可シ

第五十五條 出納閉鎖ノ期ヲ過キテ仕拂切符ニ對スル仕拂ノ請求ナキ報告ヲ金庫ヨリ受ケタルハ五日以内ニ前年度ノ歳出報告中其事項ノ取消書ヲ製シ本局ニ差出スヘシ

第五十六條 前二條ノ取消又ハ科目ノ組違ヒニ依リ歳出報告書ノ更正ヲ要スルハ第十二號書式ニ倣ヒ調製ス可シ

第五十七條 仕拂切符ノ仕拂期限内受取人ヨリ金庫ヘ仕拂ノ請求ナキモノ、案内書ハ期限經過ノ後直ニ還付セラレンコトヲ金庫ニ請求ス可シ

第五十八條 前條案内書ヲ金庫ヨリ還付セラレタルハ仕拂切符ノ受取人ヲ呼出シ期限内仕拂ノ請求ヲ爲サ、ル事由ヲ尋問シ仕拂切符書換請求書ヲ差出サシメ仕拂切符再發ノ手續ヲ爲ス可シ

第五十九條 仕拂切符ヲ受取人ニ渡シタルハ徴ス可キ領收證書ハ第十九號甲乃至癸書式ニ倣ヒ本人ニ認メサス可シ  
但本人病氣又ハ無筆等ニテ辨用シ能ハサルモノハ他人ヲシテ認メ差出サシメ當省官吏備員ハ勿論小使ト雖モ一切代書スルヲ許サス

第六十條 前條證書ハ決算ヲ證明スルモノナレハ金員ニハ塗抹糊貼ヲ爲サシムルヲ許サス

第六十一條 領收證書ハ官吏備員小使ノ受取人其他惠與報勞等ニ係ルモノヲ除キ營業ニ關スルモノハ總テ證券印稅規則ニ依リ金高五圓以上一錢印紙ヲ貼用セシム可シ

第六十二條 工場ニ於テ支拂ヲ要スルハ毎月一回出張シ本章ノ手續ヲ爲シ支拂切符ヲ製シ受取人ニ授付ス可シ



但本條出張ノ場合ニ於テハ其出張ヲ爲ス可キ日ヲ定メ金庫へ出張ヲ請求ス可シ  
第六十三條 前條出張仕拂ノキハ案内書ヲ金庫出張員ニ送付スヘシ  
第六十四條 工場工費仕拂日ハ可相成の月末ノ日ヲ以テ豫メ定メ本局へ届出ヘシ  
但量水標費用ノ仕拂ハ工費仕拂ノ序ヲ以テス可シ尤懸隔ノ場所ハ三箇月纏メ又ハ半箇年ツ、取經  
メ渡方ヲ爲ス可シ

第五章 物品出納

第六十五條 器械器具、舟船、其他物品、工業材料ノ新調修繕一箇代價金三圓未満ハ出張所限リ購買シ又  
ハ修繕スルヲ得尤通常用ヒサル物品、器械器具及ヒ一箇代價金三圓以上ハ本局經伺ノ上ニ非サレハ購  
買シ又ハ修繕スルヲ許サス

第六十六條 器械器具、舟船、其他物品、工業材料ヲ購買又ハ修繕セントスルキハ豫メ第二十號書式ニ倣ヒ  
各地へ廣告シ望人ヲシテ投票規則ニ依リ投票セシメ其低價者ニ納方ヲ申付可シ

第六十七條 器械器具、舟船、其他物品購買又ハ修繕ニ際シ第六十六條ニ據リ難キ場合ニ於テハ其營業者  
二名以上ヨリ積書ヲ差出サシメ相當代價ヲ以テ納シメ又ハ修繕方ヲ申付可シ  
但見積金額一圓未満ニシテ本條ニモ據リ難キ場合ニ於テハ營業者一名ヨリ積書ヲ差出サシムルモ  
苦シカラス

第六十八條 第六十六條及第六十七條ノ手續キヲ以テ工業ニ用ユル器械器具、舟船、工業材料ヲ購買スル  
キハ工事掛ト協議ヲ遂ケ品質ノ精粗ヲ檢定ス可シ

第六十九條 投票開展ノ節ハ所長ノ立會ヲ要ム可シ  
但工業ニ用ユル器械器具、其他物品、工事掛ノ立會ヲモ要ム可シ

第七十條 購買セシ物品、器械器具、舟船、及材料等ハ其品名、數量ヲ直ニ基簿ニ登記ス可シ  
第七十一條 人民ヨリ寄付ノ物品、管廳ヨリ受取リタルキハ基簿ニ登記シ工場等へ渡方ヲ爲スニハ第七  
十三條ノ通り取扱フ可シ

十九年六月日附第七十三  
條へ一項ヲ追加ス

第七十二條 出張所ニ於テ使用スル普通ノ需用物品ハ渡帳ニ請取人ヲシテ品名、數量ヲ掲記セシメ渡方  
ヲ爲ス可シ

第七十三條 出張所及ヒ各工場ニ於テ使用スル器具、器械、舟船、各工場ニ於テ使用スル普通ノ需用品及ヒ  
工業材料等ハ各其使用スル官吏ヨリ請求書ヲ差出サセ所長ノ檢印ヲ受ケ渡方ヲ爲ス可シ  
但過當ノ請求ナルキハ其事由ヲ糾シ相當ノ渡方ヲ爲ス可シ

第七十四條 出張所及工場等へ渡シタル器械器具、舟船、其他物品、不用ニ屬スルモノアルキハ直チニ返納  
セシム可シ  
但測量器械等ハ其需用ヲ了リタル上ハ一先返納セシム可シ

第七十五條 工業材料ノ請求アルキハ其物品ノ數量ニ對スル金額、工場目論見金額差引簿ニ依リ超過セ  
サルヤ否ヤヲ調査ス可シ

第七十六條 總テ購買ヲ爲スニハ豫算ノ金額及月割金額ノ有無ヲ糾ス可シ  
第七十七條 工場ニ於テ材料等需用急劇ニシテ第七十三條ヲ履行シ能ハサル場合ニ於テハ直ニ工事掛  
ヲシテ購買セシムルヲ得尤此場合ニ於テハ其至急ヲ要スル事由ト入用材料ノ品名、數量及見積代金  
ヲ付シタル請求ヲ爲サシメ所長ノ檢印ヲ受ケ差支ノ有無ヲ回報ス可シ  
但本條ノ順序ヲ經サルモノ、代價ハ支出ス可ラス

第七十八條 器械器具、舟船、其他物品等盜難、火災ニ罹リ又ハ流失沈没遺失埋没セシキハ速ニ其員數事由  
ヲ取調第二十一號書式ニ倣ヒ調書ヲ製シ其物品等管守者ハ工事掛又ノ願末書ヲ添へ本局へ届出可シ  
但盜難流失遺失沈没セシモノ、品名、數量ヲ最寄警察署ニ通牒ス可シ尤工場ニ於テ此場合アルキハ  
工場ヨリ直ニ通報セシム可シ

第七十九條 器械器具、舟船、諸車ヲ新調セシキハ局名アル烙印ヲ捺シ番號ヲ付ス可シ

第八十條 舟船、諸車ハ其數ヲ最寄警察署へ通牒ス可シ尤通牒書ニ烙印影ヲ添付ス可シ  
但船車ノ賣却又ハ取毀チシキモ亦其數ヲ最寄警察署へ通牒ス可シ



第八十一條 器械器具舟船其他ノ物品不用<sup>到底用ナ</sup>又ハ損廢<sup>損所ヲ修繕スルモ到底用ヲ爲サハルモ</sup>ノ品名數量凡積金額ヲ付シ公賣所分方ヲ伺出可シ尤經伺公賣ニ付シ到底望人ナキモノハ更ニ牒簿扣除方向出可シ

第八十二條 前條ノ物品ヲ公賣スルハ豫メ各地ニ廣告シ望人ヲシテ投票セシメ高札ノ者ニ拂下ク可シ

但局名ノ烙印アルモノハ其印ヲ除去スルモノトス  
第八十三條 盜難ニ罹リ又ハ流失沈沒遺失埋沒セシモノハ充分搜索ノ上發見セサルハ牒簿扣除方向出可シ

第八十四條 第八十一條及第八十三條經伺ノ上ハ基簿扣除可シ

但火災ニ罹リタルモノハ第七十八條ニ依リ届出タル上直ニ基簿扣除可シ

第八十五條 器械器具舟船其他物品ノ消耗スルモ増減アルハ每一箇月第二十二號ノ書式ニ倣ヒ表ヲ調製シ翌月十日迄ニ其地發遣本局ヘ差出ス可シ

第八十六條 器械器具舟船其他物品ノ消耗スルモ毎歲十月現在ノ數量ヲ取調基簿ニ照合シ第二十三號書式ニ倣ヒ表ヲ製シ翌月二十日迄ニ其地發遣本局ヘ差出ス可シ

第八十七條 消耗スル物品<sup>廳中需</sup>ハ毎年度<sup>四月一日ヨリ三月三十一日迄</sup>ヲ製シ翌月二十日迄ニ其地發遣本局ニ差出ス可シ

第八十八條 工業用材料ハ毎年度<sup>四月一日ヨリ三月三十一日迄</sup>ノ受拂殘ヲ統計シ第二十五號書式ニ倣ヒ表ヲ製シ翌月二十日迄ニ其地發遣本局ニ差出ス可シ

第八十九條 器械器具舟船其他物品ノ購買修繕ハ積書ヲ回議ニ代ヘ所長ノ檢印ヲ受ク可シ

第九十條 工場等ヨリ器械器具舟船其他物品ノ渡方ヲ請求スルハ其請求書ヲ回議ニ換ヘ所長ノ檢印ヲ受ク可シ

第九十一條 器械器具舟船其他物品<sup>消耗スルモノ</sup>ヲ渡シタルハ總テ其公借證書ヲ差出サシム可シ

第九十二條 消耗スル物品ヲ渡シタルハ第七十二條ノ場合ヲ除キ總テ其領收證書ヲ差出サシム可シ

但工業材料等工事主任ヲシテ直ニ購入セシメタル場合ト雖本條ノ如ク領收證書ヲ徴ス可シ

第六章 決算

第九十三條 支出ヲ爲シタル金額ハ每一箇月科目ヲ區分シ第二十六號書式ニ倣ヒタル精算書ヲ調製シ翌月十日迄ニ其地發遣本局ヘ差出ス可シ

但年度末月ニ限り一箇月ヲ猶豫ス  
第九十四條 精算書ヲ差出スニハ左ノ書類ヲ添付ス可シ

本拂請取證書綴  
假出仕譯書  
第九十五條 請取證書綴ハ毎目ニ區分類聚シ表紙ヲ付シ之ニ合計ノ金額其所屬ノ科目及ヒ證書ノ枚數ヲ掲記ス可シ

第九十六條 證書ハ正當受取人ノ差出シタルモノニ限ル尤事實證書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル仕拂人ノ仕拂證書ヲ以テ代用シ其仕拂人ノ領收證書ヲ添綴ス可シ

第九十七條 證書中甲乙兩目ノ種類ヲ混併記載セシモノアルハ之ヲ甲科目ニ編入シ乙科目ノ分ハ金員ノ肩ニ其旨ヲ朱記シ乙科目ニ於テハ其所屬ノ金員及ヒ其事由ヲ朱記セル寫書ヲ編入ス可シ

第九十八條 事業營繕其他物品購買請負ニ係ル仕拂證書ニハ其契約書ヲ添綴ス可シ

但物品賣買ノ契約書ハ此限ニアラス  
第九十九條 精算ニ係ル證書ハ其假拂金額ノ領收證書及追給金ノ領收證書又ハ殘金返納證書等ヲ添綴ス可シ

第一百條 横文ナル領收證書ハ譯文ヲ添付ス可シ

第一百一條 證書中品名等方言又ハ洋語ニテ分ラサルモノハ譯名ヲ付シ或ハ事由簡單ニシテ支給ノ方法判明ナラサルモノ單ニ名稱而已ニテ其使用ノ途ヲ分チ難キモノハ其使用ノ途等ヲ別紙ニ説明スヘシ

第一百二條 郵便稅及電信料等ノ仕拂ハ第二十七號書式ノ仕拂明細表ヲ製シ證明ス可シ



但電信料ハ至急ヲ要スル事由ト其往復シタル要件ノ概畧ヲ別紙ニ説明ス可シ

第百三條 經伺ノ上支出シタル金額ノ領收證書ハ命令ノ年月日及ヒ番號ヲ別紙ニ記載シ差出ス可シ

第百四條 領收證書而已ニテ其仕様船舶器械ノ製造ノ新營修繕ノ類ノ判明ナラサルモノハ別ニ仕譯書ヲ製シ添付ス可シ

第百五條 各工場ノ材料等ヲ混併セシ代價ノ領收證書ハ別ニ各場工ニ分チタル仕譯書ヲ製シ差出ス可シ

第百六條 精算證書トハ旅費及出張手當ノ仕上明細表ニシテ第二十八號甲書式ニ倣ヒ本人ヨリ三通ヲ差出サシメ其當否ヲ調査シ一通ハ領收證書ニ添綴シ一通ハ證書綴ニ添へ本局ニ差出シ一通ハ出張所ニ保存シ置ク可シ

但本文明細表差出期限ハ工場等へ連月引續キ出張ノモノハ中仕切ヲ以テ前月分明細表ヲ翌月二日迄ニ差出サシメ出張所詰ノモノハ歸著ノ日ヨリ二日以内トス尤二日以内ニ再ヒ出張ヲナス場合ニ於テハ二旅行併セテ明細表ヲ差出サシムルモ苦シカラス

第七章 雜

第百七條 出張所及工營事務所見張小屋物置小屋等ノ新營模樣替ハ畧圖仕樣書及見積代價仕譯書等ヲ添へ其新營又ハ模樣替ヲ要スルノ事由ヲ具シ本局ヘ伺出可シ

第百八條 出張所及工營事務所見張小屋物置小屋等ノ修繕ハ一箇所見積金高五圓以上ハ前條ニ同シ尤畧圖ハ添付スルニ及ハス

第百九條 建家不用ニ屬スルキハ見積代價ヲ付シ公賣處分方ヲ本局ヘ伺出可シ

但本局ノ認可アルキハ豫メ各地ニ廣告シ望ノ者ヲシテ投票セシメ高價ノ者ニ拂下ク可シ

第百十條 投票人ヨリ差出シタル投票保證金又ハ請負人ヨリ差出シタル保證抵當證券等ハ所長及計算掛ニテ保存ス可シ

但最寄縣廳又ハ郡役所等へ預クルハ適宜ニ任ス

第百十一條 請負證書ハ證券印稅規則ニ依リ其金高ニ應シ相當ノ印紙ヲ貼用セシム可シ

第百十二條 請負人保證人ノ身元取調ヲ要スルキハ其管廳又ハ郡役所ニ照會ス可シ

第百十三條 物品ノ購買ニ際シ落札シタルキハ其投票人ニ物品ノ所在等篤ト尋問シ不都合ノアラサル様注意ス可シ

第百十四條 仕拂切符受取人病氣又ハ其他事故アリテ代理人ヲ以テ受取方申出タルキハ委任狀ノ有無ヲ糾ス可シ

第百十五條 小遣ヲ雇入レントスルキハ身元確カナル保證人ヲ立サセ保證書ヲ取置ク可シ

第百十六條 小遣ノ給料ハ一日金十八錢以内トシ各地ノ適宜ニ任ス

第百十七條 出張所及工營事務所物置小屋等ノ借入ヲ爲サントスルキハ圖面ヲ添へ本局ヘ伺出可シ

第百十八條 出張所及工營事務所物置小屋等ノ借入ヲ爲スルキハ貸借契約證ヲ取換ハス可シ

但材料置場苗圃地等ノ借入ハ出張所事務順序ニ依ルヘシ

第百十九條 借家賃一箇月出張所ハ金十圓以内工營事務所ハ金一圓五十錢以内トス

但材料置場ハ此制限外トス

第百二十條 物品家屋ノ寄付ハ管廳ヨリ本局ヘ照會ノ上本局ニ於テ承認シタル旨ヲ達シタルキハ管廳ヨリ受取方ノ手續ヲ爲ス可シ

但寄付金ハ本局ニ於テ收納シ直ニ金庫ニ納付スルモノトス

第百二十一條 仕拂切符用紙ハ堅牢ナル函ニ容レ嚴封シ出張所宿直員ニ預ク可シ

第百二十二條 流失遺失埋沒セシ物品ヲ鑿置拾得又ハ掘得タルモノアルキハ其物品ヲ評價セシメ漂流

物取扱規則又ハ遺失物規則ニ依リ報勞金支給方ヲ本局ヘ伺出可シ

第百二十三條 使役人夫工事ノ爲メ負傷セシアルキハ使役者工場主ヨリ負傷顛末書ヲ差出サシメ之

ニ醫師ノ診斷書ヲ添へ本局ヘ届出可シ

第百二十四條 前條負傷人夫治療ノ上全瘡セシキハ醫師二名以上ノ診斷書ヲ得テ官役人夫負傷手當規



則ニ依リ傷痕ノ等級ヲ調査シ療養料及扶助料等ノ支給方ヲ本局ヘ伺出可シ  
 第二百五條 負傷人夫直ニ死亡セシキハ醫師二名以上ノ屍體檢案書並負傷願末書ヲ添ヘ埋葬料遺族扶助料等ノ支給方ヲ本局ヘ伺出可シ  
 第二百二十六條 前條ノ場合ニ於テハ負傷本人ノ戶籍書寫竝ニ遺族ヨリ埋葬料扶助料下賜ノ願書ヲ添付ス可シ

但戶籍書寫遺族願書ハ在籍町村戶長ノ與書ヲ要ス

第二百二十七條 負傷人夫療養中死亡セシモノハ第二百二十四條及第二百五條ニ準シ取扱フ可シ  
 第二百二十八條 金庫ヨリ部内各地ヘ出張ノ旅費請求書ニ與書ヲ求ムルコトアルキハ其經歷ヲ審査シ相違ナキニ於テハ其相違ナキ旨ノ與書ヲ爲シ捺印ス可シ  
 第二百二十九條 本順序中ニ金庫ト稱スルハ金庫局現金支拂所國庫金取扱所ヲ云フ尤金庫局國庫金取扱所ハ歳入ヲ取扱ヒ金庫局現金支拂所ハ歳出金ヲ取扱フモノトス  
 土木局議案十九年四月十七日  
 出張所會計事務處理順序ノ儀印刷方會計局御照會相成屆候得共刷成迄ハ十數日ヲ消シ候趣ニ付不取敢  
 際本ヲ以テ各川出張所ヘ御達相成度左ニ御達案相伺候也

土木局達 十九年五月三日

土木局出張所會計上検査派員命令書別紙之通相定候條此段相達候也  
 (別紙)

土木局出張所會計上臨時検査派員命令書

第一條 検査員ハ左項ニ據リ出張所會計事務ノ察否ヲ檢糾スヘシ  
 第一項 事實推問ノ上特ニ理由書ヲ徴スルモノ  
 一 事務上成規ニ悖戻スルカ又ハ處分專斷ニ係ル件  
 二 物品受拂簿ト現在物品數量ト符合セサル件

土木局出張所會計上臨時検査派員命令書  
 十九年七月十二日土木監  
 啓要官制ヲ定ム

三 金錢收支符合セサル件

四 故ナク官用物品ヲ貸與シタルノ件

五 受拂牒簿外ニ物品ヲ貯蓄スルノ件

第二項 理由ヲ推問シ速ニ完結ノ順序ヲ爲サシムルモノ  
 一 納付セシムヘキモノニシテ未納ニ係ル件

二 渡スヘキモノニシテ未渡ニ係ル件

三 假出繰替ノ決算未整理ニ係ル件

四 牒記ノ未整理ニ係ル件

五 不用損廢物品ノ處分未濟ノ件

第三項 事務上直ニ更正セシムルモノ  
 一 牒簿ノ調理成規ニ悖戻スル件

二 牒記文字ノ不明瞭ナル件

三 事務取扱上不明瞭ニ涉ル件

第四項 検査上注意ヲ加フルモノ  
 一 物品ノ性質ニヨリ價格當否ノ件

二 器械物料等ノ貯藏方良否ノ件

三 不用物品ヲ貯蓄シタルヤ否ヤノ件

四 成規ヲ誤解セシト認ムルモノハ之レカ説明ヲ爲シ成規ニ依ラシムル件

第二條 検査上必要ト認ムル書類ハ總テ檢閱スルヲ得ル

第三條 検査上工營事務所ニ關係ヲ有シ已ムヲ得サル場合ニ於テ該所ニ臨ムコトヲ得ル

第四條 第一條第一項ノ場合ニ於テハ詳細ナル調書ヲ添ヘ具狀シ局長ノ處分ヲ請フヘシ

第五條 第一條第二項ノ場合ニ於テ完結ノ上ハ直ニ本局ヘ申報スヘシ



土木局出張所會計處理  
順序中追加  
二十年七月三十一日土木  
監督會計事務取扱順序  
ヲ定ム

第六條 検査上異状ナキ帳簿ハ何年何月何日查了ト記シ直下ニ檢印ヲ捺スヘシ  
第七條 検査ノ事件ハ遺漏ナク歸局ノ上復命書ヲ製シ局長ノ閱覽ニ供スヘシ  
土木局ヨリ各川出張所ヘ達 十九年六月日  
土木局出張所會計事務處理順序中左ノ通追加候條此段相達候也  
第七十三條ノ下一ノ字ヲ加ヘ  
第七十三條ニ各工場ヘ渡シタル工業材料等一會計年度毎ニ殘物品ヲ各工場ヨリ返納セシムヘシ  
但返納セシ物品ハ基簿ニ登記ス可シ

土木監督區署官制

内務省令 十九年七月十二日  
第十三號 府縣ヲ除ク  
土木監督區署官制左ノ通り定ム

土木監督區署官制

第一條 内務省直轄ノ工事及府縣土木ノ事業ヲ監督スル爲メ全國ヲ分チ土木監督區ヲ置ク其區域名稱ハ左ノ如シ  
第一區 武藏 上總 下總 常陸 上野 下野 安房 相模 伊豆 駿河 甲斐 遠江 信濃ノ内  
第二區 磐城 岩代ノ内 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後  
第三區 越後 岩代ノ内 越中 佐渡 能登 加賀 越前 飛彈ノ内 信濃ノ内  
第四區 三河 尾張 美濃 信濃ノ内 飛彈ノ内 伊勢 志摩 伊賀 近江 若狹 山城 大和 攝津  
第五區 河内 和泉 紀伊 丹波 丹後 但馬 播磨  
第六區 淡路 阿波 讚岐 伊豫 土佐 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 美作 因幡 伯耆 出雲 隱岐 石見  
第六區 豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 肥後 薩摩 大隅 日向 壹岐 對馬

第二條 土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ内務大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

土木巡視長 土木巡視 土木巡視補

第三條 巡視長ハ一等乃至三等ノ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ土木ノ事務ヲ管理ス

第四條 巡視長ハ其管轄部内ヲ巡迴シ府縣土木事業ヲ監視シ其利害得失ヲ精査シ報告書ヲ内務大臣ニ呈出スヘシ

第五條 巡視長ハ内務省直轄ノ河川堤防道路橋梁港灣ニ係ル土功ヲ計畫シ其意見ヲ内務大臣ニ具申スヘシ

第六條 巡視長ハ内務大臣ノ命令ニ依リ特ニ新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ検査スルトキハ其意見ヲ内務大臣ニ具申スヘシ

第七條 巡視長ハ内務大臣ノ招集ニ應ジ土木會議ヲ開キ全國土木事業ノ得失ヲ討議スルコトヲ得但會議ノ規則ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 巡視ハ三等乃至六等ノ技師ヲ以テ之ニ充ツ巡視長ノ命ヲ承ケ土木ノ事務ヲ分掌ス

第九條 巡視補ハ技師又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ受ケ庶務及土木ノ事務ニ從事ス

内務省請願 十九年七月六日  
府縣土木事業監督ノ方法ニ於テハ當省之ヲ講究スルハ已ニ久シト雖モ經費支辨ノ目途未タ相立タス共事舉行ニ及ハサリキ今ヤ來二十年度ヨリ定額金百五十萬圓ト開裁相成リタルニ付テハ其管理方法モ定メサルヲ得サルノ場合ニ立至レリ抑モ地方概子技術者其人ニ乏敷治水ニ道路ニ往々懸度胸量ノ醫慣法ヲ以テ計畫スルヤ其設計ヲ免カレサルモノ少シトモ是今ニシテ管理監督ノ制ヲ立テスンハ其弊害收拾スヘカラサルニ立至ルヘシ又直轄工事經費ノ如キニ於ケル豫算年々一定セズ各川區々ノ支出技師屬官等一人ノ増減交送スラ常ニ計算上紛雜ヲ生シ不便少カサルナリ今年額一定相成ル上ハ從前實際經驗スル所ヲ以テ工費一割五分ヲ目途トシ本省科目某川某工費中ヲ割キ金十五萬圓ヲ以テ直轄河川技師以下給與ニ充テ此内ヨリ旅費等ヲ支辨シ工事ノ仲縮ニ依リ彼是自由ニ交換使用致度然ルハ事業上諸般活潑ニ歸スルヨリヨリ事務會計整理上錯雜ヲ免カルヘシ就中土木監督區署ヲ置キ巡視長以下ヲ設置スル如キハ新規差置カキ事項ニ屬スルヲ以テ年々相當ノ經費別途増額アルヘキハ言ヲ俟タズト雖モ國費多端ノ際先ツ本省土木定額金中ヨリ五萬圓ヲ以テ目途トシ直轄河川技師以下給與及土木監督區署費ノ一項ヲ増設シ總額百五十萬圓ノ内ヨリ合計二十萬圓ヲ以テ之ヲ支辨セントス右閣議ヲ請フ  
指令 十九年七月十三日



稟議ノ趣認許ス  
 內閣書記官議案十九年七月九日  
 別紙內務大臣稟議ノ要旨ハ土木事業ノ義各地方概テ技術者其人ニ乏シク往々舊慣ニ依リ計畫スルヲ以テ認計ヲ免カレサルモ少シトセテハ從今其管理監督ノ制ヲ立テサルヘカラス依テ來ル二十年度ヨリ百五十萬圓直轄河川改築工費及地方補助費ニ増額セラレタルニ付該額ノ內十五萬圓ヲ直轄河川技師以下給與ニ充テ旅費等ヲ支辨シ工事ノ伸縮ニ依リ彼是交換使用シ且土木監督區署ヲ置キ巡視長ヲ増設シ合金二十萬圓ヲ以テ之ヲ支辨セントノ趣相當ノ處置ト認メラル依テ稟議ノ通決議可相成哉閣議ニ供ス

土木局ヨリ內務省ヘ伺十九年七月十日  
 來二十年度ヨリ直轄經費ヲ始メ地方工事ノ補助等ニ充ルニ其定額金百有餘萬圓ト決定相成タルニ付テハ其管理方法ヲモ定メサルヲ得サルノ場合ニ立至レリ抑直轄工事ハ年々百萬圓ノ巨資ヲ擲チ全川中緊要ノ部分ニ施工スルモノナルニ若シ其施工セサル場所又ハ其支派川ハ何様ノ工事ヲ施スモ地方廳ニ放任シテ不問ニ付スル如キ採掘等ノ業ヲ爲シタル等直轄工事ニ其弊ヲ受クル實ニ測ルヘカラス又地方工事ト雖モ何レノ地方モ大抵技術者其人ニ乏ク往々態度胸量ノ舊慣法ニ依ルモノナレハ道路開鑿ニ少シトセテ今ニシテ早ク之レカ管理ノ制ヲ立テスハ折角支消シタル工費モ或ハ水泡ニ屬スルノ恐アリ依テ今般土木監督區署ヲ設置シ之ヲ管理セシメラレ度左ニ省令案ヲ具シ此段相伺候十九年七月十日決判

府縣土木監督區署位置

二十一年九月二十一日第一區署ヲ東京ニ移シ同八月三日第三區署ヲ新潟區ニ移ス

土木監督署派出所設置

- 內務省令十九年七月十二日  
 第十四號 府縣土木監督署派出所設置
- 府縣土木監督區署位置左ノ通定ム
- 第一區 下總國東葛飾郡關宿
  - 第二區 陸中國西磐井郡一ノ關
  - 第三區 越後國中蒲原郡西島屋野島新田
  - 第四區 攝津國大阪
  - 第五區 阿波國名東郡德島
  - 第六區 筑後國御井郡久留米
- 內務省ヨリ土木局土木監督署ヘ訓令十九年八月四日  
 今般左ノ地ニ土木監督署派出所ヲ設置ス

二十一年三月三日第四區派出所ヲ伊勢國桑名郡桑名ニ移ス

土木監督署處務細則  
 二十一年七月八日總務部則ヲ改正ス

土木監督署處務細則 十九年八月四日

- 第一章 府縣工事
- 第一條 巡視長ハ一周年間ニ管轄部内ヲ巡回スルモノトス但臨時巡回ヲ要スルハ此限ニアラス
  - 第二條 命令ニ依リ實驗シタル工事ノ景況又ハ計畫書及官制第四條第五條第六條ノ報告書意見書ハ總テ土木局長ヲ經由シ內務大臣ヘ報告スヘシ
  - 第三條 巡視長巡回ノ際府縣ヨリ着手中ニ係ル工事ノ變更又ハ舊態修繕ノ實檢若シハ計畫ノ請求ヲ受ルトキハ便宜之ニ應シ追テ其趣ヲ土木局長ニ報告スヘシ
  - 第四條 巡視巡視補ノ部内巡回出張ハ巡視長之ヲ命スヘシ
  - 第五條 巡視巡視補ノ巡回ニ係ル事項ハ毎年六月十二月兩度ニ土木局長ヘ報告スヘシ但臨時重要ノ事項ハ其都度報告スルモノトス
  - 第二章 直轄工事
  - 第六條 凡ソ直轄工事ノ毎年度ニ施行スヘキ區域ハ既定ノ計畫ニ基キ監督署ヨリ差出シタル豫算計畫



- ニ就キ土木局長之ヲ調査シ内務大臣ノ指揮ヲ得ヘシ
- 第七條 豫算金額ヲ以テ前條ノ區域外へ新タニ起サントスル工事ハ監督署ヨリ差出シタル豫算計畫ニ就キ土木局長之ヲ調査シ内務大臣ノ指揮ヲ得ヘシ
- 第八條 豫算金額ヲ以テ區域内工事ノ變更ヲ要スルハ便宜施行ノ上年度末ニ詳細其事由ヲ具シ土木局長ニ報告スヘシ
- 第九條 暴風雨ノ爲メ工事破損スルハ第一號書式ニ依リ取調速ニ土木局長へ報告スヘシ
- 第十條 工事ノ爲メ地所買上ヲ要スルハ府縣廳ニ照會シテ其處分ヲ爲サシメ其事由ヲ土木局長へ報告スヘシ
- 第十一條 材料置場及苗圃等ノ爲メ民有地借上ヲ要スルハ出張府縣官ヲシテ取扱ハシムヘシ
- 第十二條 人民ヨリ物品家屋金錢等ヲ寄附セシコトヲ請フモノアルハ其官廳へ出願セシム可シ
- 第十三條 寄附ノ物品家屋ハ其使用方取調土木局長ノ承認ヲ受ク可シ
- 第十四條 直轄工事ニ關係ヲ有スル地方工事ニシテ其支障ノ有無府縣ヨリ照會若シクハ協議アルハ調査ヲ遂ケ直チニ回答ノ上土木局長へ報告スヘシ
- 第十五條 量水標建設山林作業取締等ノ事項ハ都テ該規則ニ依ルヘシ
- 第十六條 人夫賃金及操業時間ハ地方ノ狀況時間ノ長短ニ依リ之ヲ定メ土木局長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十七條 工事區域ノ竣功シタルモノハ其月日ヲ記シ速ニ土木局長ヲ經由シ内務大臣へ報告スヘシ
- 第十八條 工務ノ都合ニ依リ派出所ヲ移轉セントスルハ其事由ヲ具シ土木局長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十九條 報告書ノ表簿并進退期限左ノ如シ
  - 一 工事目論見帳附圖面
  - 右ハ第二號書式ニ據リ前年四月十五日迄ニ其地發遣遞送スヘシ
  - 一 竣工帳附圖面
  - 右ハ第三號書式ニ據リ每一箇年分取纏翌年度六月三十日迄ニ遞送スヘシ

書式ハ運轉河渠ノ部ニ載ス以下同レ

一 報告書

右ハ第四號書式ニ據リ一箇年分取纏翌年一月二十日迄ニ遞送スヘシ

一 水位表

右ハ第五號書式ニ據リ每一箇年分取纏翌年二月十五日迄ニ遞送スヘシ

第三章 雜則

第二十條 巡視長事故アリ不在ノトキハ巡視ヲシテ代理セシムヘシ但此場合ニ於テハ公文ニ署名スルヲ得

第二十一條 巡視長以下ハ命令ヲ得シテ管轄部内ニ出張スルヲ得ス

第二十二條 巡視以下ノ分掌ハ巡視長之ヲ定メ土木局長ノ承認ヲ受クヘシ

但計算主任ハ土木局長之ヲ命スルモノトス

第二十三條 巡視長ノ發着ハ其都度之ヲ土木局長ニ報告スヘシ

第二十四條 編製ノ圖籍ハ詳細之ヲ件名簿ニ登記シ置キ毎年二月十五日迄ニ土木局長へ遞送スヘシ

第二十五條 第六號書式ニ依リ公勤表ヲ每三ヶ月分取纏翌月二十日迄ニ土木局長へ遞送スヘシ

第二十六條 休日ハ總テ本省ニ準スヘシ各工營場ハ三大節大祭日ヲ除クノ外別ニ休日ヲ置カス

第二十七條 凡ソ金錢其他物品ノ出納ニ關スル一切ノ事項ハ土木監督署會計事務處理順序ニ依ルヘシ

土木局ヨリ監督署へ通達 十九年八月十四日

今般新置相成候派出所ニハ兼テ巡視長代理ヲ相定メ置其人各可被届出此段相達候也

土木巡視長代理

土木局ヨリ監督署へ通達 十九年十月一日

巡視長代理之義ハ監督署處務細則第二十條ニ明記モ有之候得共巡視長并ニ巡視共不在之節ハ本局限リ進達スヘキ公文中重要ノ事件ヲ除キ上席巡視補ヲシテ巡視長代理心得ノ名義ヲ以テ署名調印爲取扱可



然此段及通達候也

但シ右ノ場合ニ於テハ其都度人名前以テ通知可被致義ニ有之候

土木局ヨリ土木監督署へ通達 十九年十月八日

自今土木監督署派出所ニ於テ計算掛主任ヲ置キ派出所々管ノ工費ニ關スル會計責任ヲ負擔セシメ候條此段及通達候也

内務省ヨリ宮城縣へ訓令 十九年十月二十二日

北上東名兩運河ノ義來ル二十年以除其廳ノ所管ニ屬セシメ候條右水路ニ係ル修理保存方等渾テ擔理スヘシ

但引渡方ノ義ハ追テ土木局長ヨリ通知スヘシ

右訓令ス

土木局ヨリ内務省へ同十九年九月二十九日  
北上東名兩運河ノ義北上ノ方ハ明治十五年東名ハ明治十七年中全ク竣成致シ候處引續キ宮戸島突堤築設之御詮議有之タルヲ以テ右兩運河ノ如キモ其完成ヲ俟チ共ニ管轄廳へ引渡シノ運ヲ爲スヘク積リ依テ今日ニ至ルマテ北上川改築工費ノ内ヲ以テ之レカ維持費ニ充テ來候得共既ニ右突堤築設之義廢案ニ關シ候上ハ荏苒直轄河川改築工費ヲ割キ保存致シ候モ盡期無之次第且該運河ノ義ハ前陳ノ如ク既ニ竣成ヲ告ケ現ニ石卷鹽竈等地方著名ノ商區ニ聯絡ヲ通シ日々數十艘ノ船舶來往レ人民ノ利用スル處ト相成候ニ付テハ自今右兩運河ニ係ル諸修繕保存等悉皆管轄廳ノ負擔ニ付セラル可然存候尤モ本年度ハ既開會ニ先々チ左ノ通り御訓令可相成哉此段相伺候十九年十月二十二日決判

十九年内務省功報報告節錄  
北上川ハ流長七十六里餘岩手縣盛岡ヨリ貨物運搬ノ要流ニシテ宮城縣石卷ニ至ル上流五十里餘ノ間障碍多キヲ以テ改修ノ區域ト定メ務メテ水勢ノ緩急ヲ均一ナラシメントス其工費金百二十六萬千二百八十五圓餘ノ内十三年度ヨリ十九年度迄ニ消費スル金額ハ二十四萬八千三百五十五圓餘ナリ此殘金ト外ニ防禦工費若干宮城岩手二縣ニ負擔セシメ二十年度ヨリ三十二年度ヲ期シテ共ニ竣成スルノ見込ナリ

派出所計算掛主任ヲ新置ス

北上東名兩運河ノ管理ヲ宮城縣ニ屬ス

東名ハ即野田浦ナリ開港ノ着手ハ十一年四月十六日ニ在リ上ニ見ユ

巡視長分任收支命令官代理

土木監督署派出所ヲ在勤地ト定ム

第四區土木監督署派出所移轉

内務省ヨリ土木監督署へ達 十九年十二月二十四日

土木監督署費及工費收支命令土木局長ニ分任候ニ付巡視長其區内經費ノ收支ヲ命令スルハ分任收支命令官土木局長ノ代理者ト心得可シ

土木局ヨリ内務省へ同十九年十二月十六日  
先般省令第十三號ヲ以テ土木監督署官制御發令ニ付隨テ處務細則及會計事務處理順序等被相定會計上收支之儀ニ付テハ右官制ニ監督署分任收支命令官ノ明文無之ニ依リ巡視長ハ内務大臣ノ分任收支命令官ト相見ヘ然ルニ監督署費及直轄河川工費ノ豫算決算等ハ土木局ニ於テ管理致候儀ニ付巡視長ハ内務大臣ノ分任收支命令官即チ土木局長ノ代理者ト致候方可然ト存候仍テ左案ノ通各監督署へ御訓令相成度相伺候

内務省ヨリ土木監督署へ訓令 十九年十二月二十四日

土木監督署派出所詰ノ者ハ自今其派出所々在ノ地ヲ以テ在勤地ト定ム

土木局ヨリ内務省へ同十九年十二月十六日  
先般省令第十四號ヲ以テ土木監督署ヲ置カレ同署派出所勤務ノ者ハ區内出張ノ儀ニ付是迄旅費日當支給致來候處本署勤務ノ者ト不權衡ノ姿ニ相成候ニ付自今派出所勤務ノ者ハ其地ヲ以テ在勤地ト被定旅費日當支給セサルヲニ致サレ度尤御決定ノ上ハ本署ヨリ派出所へ在勤又ハ派出所ヨリ歸署等ハ巡視長ヨリ直ニ相達シ共旨土木局へ報告爲致候儀傳達致度依テ左案ノ通土木監督署へ御訓令相成度相伺候

土木局ヨリ内務省へ同二十年三月一日  
第四區土木監督署派出所移轉之儀ニ付別紙ノ通巡視長代理佐伯六等技師ヨリ申越候ニ付承認致度左案相伺候  
指令 二十年三月三日

書面之趣承認候也

第四區土木監督署派出所ヨリ土木局へ同二十年二月二十五日  
當派出所之義是迄岐阜縣下大垣町ニ設置有之候處木曾川改築之義ハ流末ヨリ起工候ニ付テハ是迄ノ如ク大垣ニ据置候テハ不便不抄候ニ付三重縣下桑名郡桑名驛ニ移轉候様致度右御承認相成度候也



土木局出張所會計事務處理順序中改正

大藏省令第二號ハ財政門出納規則ニ關ス

土木巡視長代理心得

計務掛主任ハ土木工費會計主務官ノ代理者トス

第五區土木監督區域内ノ七國ヲ管分第六區土木監督署ノ所轄ニ屬ス

土木監督署處務細則改正

土木局ヨリ巡視長へ通達 二十年三月十二日

本人大藏省令第二號ヲ以テ歲入歲出取扱順序中改正相成候ニ付二十年度ヨリ會計事務處理順序第四十七條中接續ノ處ハ切斷シテノ字ヲ刪除シ十六號書式ハ同例改正書式之通改正相成候此段及御通達候也

追テ返納告知書用紙之儀ハ目下印刷中ニ付不日回送可取計此段申添候也

土木局ヨリ土木監督署へ通達 二十年三月二十五日

昨年十月一日付丙發第一二九號ヲ以テ巡視長代理心得ノ義及通達候處右代理心得ハ單ニ工事掛巡視補ヲ指シ計算掛巡視補ハ取除キタルモノニ有之候條爲御心得此段申入候也

土木局ヨリ土木監督署へ通達 二十年三月二十八日

土木監督署並派出所計算掛主任ノ義ハ土木工費會計主務官ノ代理者ト可相心得此旨相達候也

内務省訓令 二十年五月二十日

第五區土木監督區域内安藝備後周防長門出雲石見隱岐ノ七國ヲ當分ノ内第六區土木監督署ノ所轄ニ屬ス

内務省ヨリ土木局土木監督署へ達 二十年七月八日

明治十九年八月戊第二十五號土木監督署處務細則別冊之通改正ス

土木監督署處務細則

第一章 府縣工事

第一條 巡視長ハ一周年間ニ管轄部内ヲ巡回スルモノトス但臨時巡回ヲ要スルキハ此限ニ在ラス

第二條 巡視長巡回ノ際府縣ヨリ著手中ニ係ル工事ノ變更又ハ舊態修繕ノ實檢若クハ計畫ノ請求ヲ受

ルトキハ便宜之レニ應シ追テ其趣ヲ土木局長ニ報告ス可シ

第三條 府縣稟申ノ工事ニ對シ土木局長ヨリ諮問ヲ受ルキハ巡視長ハ其利害得失ヲ調査回報スヘシ但

シ此場合ニ於テ實地檢査ヲ要スルトキハ便宜出張スルヲ得

第四條 巡視巡視補ノ部内巡回出張ハ巡視長之ヲ命スルモノトス

第五條 巡視巡視補ノ巡回ニ係ル事項ハ毎年六月十二月兩度ニ土木局長へ報告スヘシ但臨時重要ノ事

項ハ其都度報告スルモノトス

第二章 直轄工事

第六條 凡ソ直轄工事ハ監督署於テ既定ノ計畫ニ基キ其毎年度施行スヘキ工場毎ニ目論見帳ヲ調製シ

内務大臣ニ伺出ヘシ

第七條 前條各工場外ニ工事ノ施行ヲ要スルカ又ハ目論見金額ヲ増加他科目ヨリ流用又ハセントスル殘物品使用等ニ依リ

但シ各工場目論見金彼是互ニ流用スルハ本條ノ限ニアラス

第八條 工務ノ都合ニ依リ派出所ノ移轉ヲ要スルキハ其事由ヲ具シ内務大臣ニ伺出ヘシ

第九條 各工場内工事ノ變更修繕等ハ便宜施工ノ上年度末ニ至リ詳細其事由ヲ具シ土木局長へ報告ス

ヘシ

第十條 暴風雨ノ爲メ工事破損スルキハ第一號書式ニ依リ取調速ニ土木局長へ報告スヘシ

第十一條 工事ノ爲メ地所買上ケヲ要スルキハ本則第十九條第七項ノ手續ヲ了シタル上其買上方ヲ地

方廳へ通牒スヘシ

第十二條 人民ヨリ物品家屋金錢等ヲ寄附センコトヲ請フモノアルキハ其管廳へ出願セシムヘシ

第十三條 寄附ノ物品家屋ハ其使用方取調土木局長ノ承認ヲ受クヘシ

書式ハ巡視長河原ノ部ニ載ス以下同シ



第十四條 直轄工事ニ關係ヲ有スル地方工事ニシテ其支障ノ有無府縣ヨリ照會若クハ協議アルルハ調査ヲ遂ケ直チニ回答ノ上土木局長ヘ報告ス可シ

第十五條 量水標建設山林作業取締等ノ事項ハ都テ該規則ニ依ルヘシ

第十六條 人夫賃金及操業時間ハ地方ノ狀況時間ノ長短ニ依リ之ヲ定メ土木局長ヘ報告スヘシ

第十七條 工事區域ノ竣功シタルモノハ其月日ヲ記シ速ニ土木局長ヘ報告スヘシ

第十八條 進達スヘキ表簿并其期限左ノ如シ

一 工事目論見帳 附圖面  
右ハ第二號書式ニ據リ前年四月十五日迄ニ其地發遣遞送ス可シ

一 竣工帳 附圖面  
右ハ第三號書式ニ據リ每一箇年度分取纏メ翌年度六月三十日迄ニ遞送スヘシ

一 報告書  
右ハ第四號書式ニ據リ一箇年分取纏メ翌年一月二十日迄ニ遞送スヘシ

一 水位表  
右ハ第五號書式ニ據リ每一箇年分取纏メ翌年二月十五日迄ニ遞送スヘシ

第三章 會計

第十九條 凡ソ金錢物品ノ收支ニ就テハ巡視長ハ分任收支命令官土木局長ノ代理者タリト雖モ左ノ十項ハ土木局長ノ承認ヲ受クルニ非ラサレハ命令スルヲ得ス

一 歳入歳出豫算及ヒ増減流用ノ件

二 歳出月額及ヒ月額更正ノ件

三 年度前後及ヒ過年度支出ノ件

四 一箇代價五十圓以上ヲ要スル物品新調及ヒ修繕ノ件

五 一箇所五十圓以上ヲ要スル家屋新營模様替及ヒ修繕ノ件

二十年十二月二十二日第  
九項死傷手当ノ内官役人  
夫負傷療養料支給方ヲ定

太政官第十一號達ハ財政  
門豫算條規ニ關令第三號  
及大藏省令第四第五號ハ  
財政門出納規則ニ據ス  
大藏省訓令第五十九號ハ  
財政門總ニ據ス

六 家屋物品公賣處分ノ件

七 地所買上ノ件

八 水火災盜難及ヒ損廢流失等ニ罹リタル物品處分ノ件

九 報勞金及ヒ死傷手当給與ノ件

十 監督署及ヒ派出所ノ家屋借入ノ件

第二十條 左ノ二項ハ土木局長ニ報告スヘシ

一 歳入歳出報告ノ件

二 工營所其他ノ家屋及ヒ地所借入ノ件

第二十一條 計算掛主任ハ土木工費會計主務官ノ代理者トシテ巡視長ノ指揮ヲ受ケ主計一切ノ事ヲ處理スヘシ

第二十二條 左ノ三項ハ計算掛主任ヨリ土木工費會計主務官ニ差出スヘシ

一 歳入歳出證明ノ件

二 物品増減統計調ノ件

三 年度後精算未濟報告ノ件

第二十三條 歳入歳出豫算ニ關スル事項ハ十八年太政官第十一號達豫算條規ニ據ルヘシ

第二十四條 金錢出納ハ十九年閣令第三號歳入歳出出納規則及同年大藏省令第四號第五號歳入歳出取扱順序ニ據ル可シ

第二十五條 金錢出納ノ帳簿ハ十九年大藏省訓令第五十九號記簿規程ニ據ルヘシ

第二十六條 物品出納ノ基簿ハ左ノ三種トス

器具器械物品類聚基簿

需用物品受拂基簿

工業材料受拂基簿



第二十七條 土木監督署會計事務取扱順序ハ土木局長之ヲ定ムヘシ

第四章 雜

第二十八條 巡視長事故アリ不在ノ時ハ巡視ヲシテ代理セシムヘシ但シ此場合ニ於テハ公文ニ署名スルヲ得

第二十九條 巡視長以下ハ本則ニ掲ル場合ノ外命令ナク出張スルヲ得ス

第三十條 巡視以下ノ分掌ハ巡視長之レヲ定メ土木局長ヘ報告スヘシ

但計算掛ハ土木局長之ヲ命スルモノトス

第三十一條 巡視長ノ發着ハ其都度之ヲ土木局長ニ報告スヘシ

第三十二條 編製ノ圖籍ハ詳細之ヲ件名簿ニ登記シ置キ毎年二月十五日マテニ土木局ヘ遞送スヘシ

第三十三條 第六號書式ニ依リ公勤表ヲ毎三箇月分取纏翌月二十日迄ニ土木局ヘ遞送スヘシ

第三十四條 休日ハ總テ本省ニ準スヘシ各工營場ハ三大節大祭日ヲ除クノ外別ニ休日ヲ置カス

第三十五條 官制并本則ニ依リ巡視長ヨリ内務大臣ヘ經同若シクハ報告スヘキモノハ總テ土木局長ヲ經由ス可シ

土木局ヨリ土木監督署へ通達二十年七月三十一日

土木監督署處務細則第三章第二十七條ニ依リ土木監督署會計事務取扱順序別冊之通相定候此段及御通達候也

(別冊)

土木監督署會計事務取扱順序

第二章 總則

第一條 土木監督署會計事務ハ左ノ條項ニ據リ取扱フ可シ

第二條 總テ會計ニ關スル件ハ計算掛之レカ回議ヲ起シ巡視長ノ檢印ヲ受クヘシ

但會計事務上質疑ノ件ニ付テハ直チニ土木工費會計主務官ニ照會スルヲ得ヘシ

第二章 豫算

第三條 處務細則第二十三條ノ豫算ヲ調製スル時ハ左項ヲ參照スヘシ

一 豫算條規第七條第二項ニ據ルモノハ一定ノ額ヲ支給スヘキモノニシテ官吏ノ俸給傭人ノ給料及手當ノ類トス

二 豫算條規第七條第三項ニ據ルモノハ旅費惠與金及ヒ臨時傭給又ハ物件ニ對シ時々仕拂ヲ爲スモノ則チ物品代價普通ノ應費營繕費ノ類トス

三 豫算條規第七條第五項ニ據ルモノハ工事測量建築其他物件器械物品ノ購買費ニシテ一ノ類トス

四 歲出中人員ニ相伴フ物件及ヒ賄料ノ類ハ豫算條規第七條第二項ニ基ツキ第三項ヲ酌量スルモノトス

第四條 處務細則第十九條第一項ノ豫算ハ前年度四月十日迄ニ差出スヘシ

第三章 金錢出納

第五條 處務細則第二十四條歲入歲出ヲ取扱フニハ左項ノ手續ヲ爲スヘシ

納額告知書ヲ發スル時

收入スヘキ金額及ヒ事由納入ノ姓名ヲ掲記シタル回議ヲ起スヘシ

支拂切符ヲ發スル時

一 官吏ノ俸給ハ俸給仕出基簿ニ依リ俸給額受取人ノ官姓名及ヒ轉免黜陟ノ事由ヲ掲記シタル支出回議ヲ起スヘシ

二 賞與其他負傷手當ノ類ハ辭令又ハ承認書ニ據リ其金額受取人ノ姓名事由ヲ掲記シタル支出回議ヲ起スヘシ

三 傭員俸給及ヒ傭人ノ給料等ハ請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ公勤表ト照合調査シ支出回議ニ



二十一年五月土木局通達  
丙發第五六號ヲ以テ十一  
項中ヲ改正ス

- 代フヘシ
- 四 職工人夫賃ハ請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ出面帳及檢印帳ト照合調査シ工場目論見金整理簿ニ依リ金額超過ノ有無ヲ糾シ之ヲ支出回議ニ代フヘシ
- 五 物品代價ハ請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ物品納付檢印帳當初購入ノ約定アルモノハ約定證及ヒ物品送り狀等照合調査シ之レヲ回議ニ代フヘシ
- 六 區外出張等ニテ旅費ノ概算渡又ハ判任以下俸給繰上渡ノ請求アルトキハ審査ノ上其請求書ヲ回議ニ代ヘ渡方ヲ爲ス可シ尤出幾ノ日ヨリ五日以前ニ渡ス可ラス
- 七 區内出張員其出張數月ニ涉ル場合ニ於テ旅費ノ請求アルトキハ工場工費仕拂ノ爲メ出張ノ節翌月ニ屬スル日當ノミノ概算渡方ヲ爲スヘシ尤モ手續ハ前項ニ同シ
- 八 請負工事又ハ建築等ニテ請負人ヨリ内渡ヲ請フコアルトキハ工事掛ヨリ出來形步通リノ報告ヲ得テ請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ審査ノ上之ヲ回議ニ代フヘシ  
但一個當代價ヲ以テ受負ハシメタル工事ハ此限りニアラス
- 九 請負工事又ハ建築等落成シ請負人ヨリ精算金渡方ヲ請フトキハ請求書ヲ差出サシメ工事掛ノ報告ト請負證書ト照合シ之ヲ回議ニ代フヘシ
- 十 旅費等概算渡ノ分精算仕上ヲ爲シ追給スヘキ金額アルトキハ請求書ヲ受取人ヨリ差出サシメ概算渡書類及仕上明細表ト照查シ其請求書ヲ回議ニ代フヘシ
- 十一 旅費等概算渡ノ分精算ニ至リ殘余アルトキハ返納證書正副二通ヲ納人ヨリ差出サシメ概算渡書及ヒ仕上明細表ト照查シ返納證書副書ヲ以テ回議ニ代フヘシ  
但本項返納ハ精算仕上明細表ヲ差出シタル日ヨリ三日以内ニ返納告知書ヲ發スヘシ
- 第六條 前條ノ手續ヲ爲スニハ歲出承認額整理簿ニ依リ支出ノ金額承認ヲ得タル金額ニ超過セサルヤ否ヤヲ糺スヘシ
- 第七條 金庫ヨリ送金手形ノ交付アリタルトキハ之ヲ受取人ヘ送付シ其領收證書ヲ徴スヘシ

二十一年五月土木局通達  
丙發第五六號ヲ以テ第十  
三條中ヲ改正ス

- 第八條 仕拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊仕拂切符ニ消印ヲ爲スヘシ
- 第九條 納額告知書返納告知書ヲ發シ其納期ヲ過キ金庫ヨリ納濟ノ通知ナキトキハ納人ヘ納方ヲ督促スヘシ
- 第十條 科目ノ組違ニ依リ歲出報告書ノ更正ヲ要スルトキハ歲出訂正仕譯書ヲ差出スヘシ
- 第十一條 仕拂期限經過ノ後案内書ヲ金庫ヨリ還付セラレタルトキハ仕拂切符ノ受取人ヲ呼出シ期限内仕拂ノ請求ヲ爲サ、ル事由ヲ尋問シ仕拂切符書換請求書ヲ差出サシメ仕拂切符再發ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十二條 歲入歲出豫算達ヲ得タルトキハ收支月額ヲ定メ處務細則第十九條第二項ノ歲入歲出月額仕譯書ヲ製シ二日以内ニ其地發遣スヘシ
- 第十三條 處務細則第二十條第一項ノ歲入歲出ノ報告ハ翌月五日迄ニ其地發遣スヘシ
- 第十四條 處務細則第二十二條第三項年度後精算未濟報告ハ會計整理期限後三十日以内其地發遣スヘシ
- 第四章 物品出納
- 第十五條 物品ハ總テ投票ニ依リ購入スヘシ但投票ヲ爲サシメ難キ場合ニ於テハ其營業者ノ積書ヲ徴スヘシ  
但工業材料代價五百圓以下ハ此限ニアラス
- 第十六條 物品ノ購入修繕ハ積書ヲ回議ニ代ヘ巡視長ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第十七條 監督署又ハ派出所ニ於テ使用スル普通ノ物品ハ渡帳ニ需用者ヲシテ品名數量ヲ掲記セシメ渡方ヲ爲スヘシ
- 第十八條 諸器具器械其他各工場ニ於テ使用スル普通ノ需用品工業材料等ハ各其使用者ヨリ請求書ヲ差出サセ巡視長ノ檢印ヲ受ケ渡方ヲ爲スヘシ
- 第十九條 各工場へ渡シタル工業材料等會計年度毎ニ殘物品ヲ各工場ヨリ返納セシムヘシ

同上通達ヲ以テ第十八條  
中ヲ改正ス



二十一年五月土木局通達  
丙第五六號ヲ以テ第三  
十一條中ヲ改正ス  
同上通達ヲ以テ第三十二  
條中ヲ改正ス

- 但返納セシ物品ハ基帳ニ登記スヘシ
- 第二十条 工場へ渡シタル器械器具舟船其他物品不用ニ屬スルモノアルトキハ直ニ返納セシムヘシ  
但測量器械等ハ其使用ヲ了リタル上ハ一先ツ返納セシムヘシ
- 第二十一条 工業材料ノ請求アルトキハ其物品ノ數量ニ對スル金額工場目論見金整理簿ニ依リ超過セサルヤ否ヤヲ調査スヘシ
- 第二十二条 器械器具舟車等ヲ新調セシトハ監督署名アル烙印ヲ捺シ番號ヲ付スヘシ
- 第二十三条 舟車ハ其數ヲ最寄警察署へ通牒スヘシ此場合ニ於テハ通牒書ニ烙印影ヲ添付スヘシ  
但賣却又ハ取毀チシトモ亦其數ヲ通牒スヘシ
- 第二十四条 器械器具其他物品ノ消耗スルモノヲ渡シタルトハ總テ其公借證書ヲ徵スヘシ
- 第二十五条 工業材料及ヒ消耗スル物品ヲ渡シタルトハ第十七條ノ場合ヲ除キ渾テ其領收證書ヲ徵スヘシ
- 第二十六条 人民ヨリ寄附ノ物品管廳ヨリ受取りタルトハ基簿ニ登記シ而シテ工場等へ渡方ヲ爲スニハ第十八條ノ通り取扱フヘシ
- 第二十七条 處務細則第十九條第八項ノ承認ヲ得ントスルトキハ其品名員數調書及ヒ願末書ヲ添付スヘシ
- 第二十八条 處務細則第十九條第六項中物品公賣處分方ノ承認ヲ得ントスルトキハ其品名員數見積金額ノ調書ヲ添付スヘシ
- 第二十九条 公賣處分方ノ承認ヲ得タルトキハ投票セシメ高札者ニ拂下ケヘシ  
但署名ノ烙印又ハ署名ノ記シアルモノハ之ヲ除去スヘシ
- 第三十条 物品ノ消耗セサノ増減ハ每一箇月表ヲ調製シ翌月五日マテニ其地發遣スヘシ
- 第三十一条 毎歲十月消耗セサル現在物品ノ取調表ヲ製シ翌月五日迄ニ其地發遣スヘシ
- 第三十二条 各工場ニ於テ受拂セシ工業用材料及職工人夫ノ月計表ヲ取纏メ翌月五日迄ニ差出スヘシ

同上通達ヲ以テ第三十四  
條中ヲ改正ス

會計検査院ノ通達附件共  
附政門決議ノ部ニ載ス

漂流物取扱規則ハ海陸門  
法律ニ遺失物規則ハ警察  
門行政警察ノ部ニ載ス

- 第三十三条 物品ノ消耗スル及ヒ工業用材料ハ毎年度受拂殘ノ統計表ヲ製シ翌年度五月二十日迄ニ其地發遣スヘシ
- 第三十四条 郵便及ヒ電信切手ノ仕拂ハ每一箇月仕拂明細表ヲ製シ翌月五日迄ニ其地發遣スヘシ  
但電信切手仕拂明細表ニ其要件ノ概畧ヲ説明スヘシ
- 第五章 決算
- 第三十五条 歳入金額上納副書及ヒ歳出金額領收證書ハ每一箇月取纏メ十六年九月會計検査院通達證書調理順序及ヒ十九年五月會計検査院通達歳出決算證明書式ニ據リ毎月整理シ翌月五日マテニ其地發遣スヘシ
- 第三十六条 證書中品名等方言又ハ洋語ニテ分明ナラサルモノハ譯名ヲ附シ或ハ事由簡單ニシテ需用ノ途分明ナラサルモノ或ハ單ニ名稱ノミニテ其使用ノ途ヲ分チ難キモノハ其使用ノ途等ヲ別紙ニ説明スヘシ
- 第三十七条 領收證書ノミニテ其仕様 船舶器械ノ製造家ノ判明ナラサルモノハ別ニ仕譯書ヲ添付スヘシ
- 第三十八条 旅費仕上表ハ本人ヨリ三通ヲ差出サシメ其當否ヲ調査シ一通ハ監督署ニ存シ置キ二通ヲ領收證書綴ニ添付差出スヘシ  
但本文仕上表ハ工場等連月引繼キ出張ノモノハ中仕切ヲ以テ前月分仕上表ヲ翌月二日迄ニ差出サシメ其他ハ歸著ノ日ヨリ二日以内ニ差出サシムルモノトス尤二日以内ニ再ヒ出張ヲ爲ス場合ニ於テハ二旅行併セテ仕上表ヲ差出サシムルモ皆シカラズ
- 第六章 雜
- 第三十九条 處務細則第十九條第九項ノ承認ヲ得ントスルモノハ左項ノ手續ヲ爲スヘシ
  - 一 流失遺失埋没セシ物品ヲ繫置拾得又ハ掘得タルモノアルトキハ其物品ヲ評價セシメ漂流物取扱規則又ハ遺失物規則ニ據リ報勞金額ヲ取調承認ヲ受クル關係書類ヲ添付スヘシ



二十一年五月土木局通達  
丙發第五十六號ヲ以テ但書  
中ニ追加ス

二十一年五月土木局通達  
丙發第五十六號ヲ以テ但書  
中ニ追加ス

同上達ヲ以テ但書中ニ追  
加ス

官役人夫死傷手當規則ハ  
八年四月定ムル所實地門  
扶助ノ部ニ載ス

- 二 使役人夫工事ノ爲メ負傷セシキハ左ノ書類ヲ要ス  
使役者ノ願末書  
醫師ノ診斷書
  - 三 前項ノ人夫治療セシキハ左ノ書類ヲ要ス  
醫師二名以上ノ診斷書  
療養料請求書
  - 四 二三四等傷ニ當ル者ハ自己扶助料下賜ノ願書  
使役人夫治療中死亡セシキハ左ノ書類ヲ要ス  
醫師二名以上ノ診斷書  
本人戸籍書寫  
但區戸長ノ與書ヲ要ス  
埋葬料及ヒ遺族扶助料下賜ノ願書  
療養料請求書
  - 五 使役人夫工事ノ爲メ直チニ死亡セシキハ左ノ書類ヲ要ス  
使役者ノ願末書  
醫師二名以上ノ屍體檢案書  
本人戸籍書寫  
但區戸長ノ與書ヲ要ス  
埋葬料及ヒ遺族扶助料下賜ノ願書
  - 六 三項ヨリ五項マテノ場合ニ於テハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ其等級ヲ調査シ承認ヲ受クルハ  
ハ其關係書類ヲ添付スヘシ
- 第四十條 處務細則第十九條第五項ノ承認ヲ得ントスルキハ仕様書及ヒ費用積書略圖等ヲ添付スヘシ

二十一年五月土木局通達  
丙發第五十六號ヲ以テ第  
四十一條ヲ改正ス

土木監督署處務細則第  
十九條第九項死傷手當  
下賜方  
八年第五十四號通達ハ實地  
門扶助ノ部ニ載ス

地理寮職制章程  
九年一月二十九日改ム

- 第四十一條 處務細則第十九條第十項ノ承認ヲ得ントスルキ及ヒ同則第二十條第二項ノ報告ヲ爲サ  
トスル場合ニ於テハ其略圖竝ニ借上料金ノ取調書ヲ添付スヘシ
  - 第四十二條 物品家屋ノ寄附ハ管廳ヨリ土木局ヘ照會ノ上土木局ヨリ承認シタル旨ノ通知ヲ得タルハ  
ハ現品ヲ領收シ處務細則第十三條ノ手續キヲ爲スヘシ  
但寄附金ハ土木局ニ於テ收納シ直チニ金庫ニ納付スルモノトス
  - 第四十三條 金庫ヨリ區内各地ヘ出張ノ旅費請求書ニ與書ヲ請フアルキハ其經歷ヲ審查シ計算掛主  
任之ニ與書スヘシ
  - 第四十四條 監督署及ヒ派出所ニ於テハ記簿規程及ヒ處務細則中ニ掲ケアル帳簿ノ外ニ左ノ補助簿ヲ  
設ク可シ  
工場目論見金整理簿  
器具器械物品配付簿  
需用品渡簿
- 土木局ヨリ土木監督署及派出所ヘ達二十年十二月二十二日
- 土木監督署處務細則第十九條第九項死傷手當ノ内官役人夫負傷療養料ハ八年第五十四號公達官役人夫  
死傷手當規則第四條ニ依リ自今巡視長限リ下賜候事ニ決定相成候尤下賜之上時々報告可有之此段及御  
通達候也
- 地理寮職制 七年一月九日
- 寮中諸官員ノ首長ニシテ全國州郡村里ノ經界山林原野池沼河海區別ノ事務ヲ掌ル  
寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各分局分課ノヲ幹理ス



寮中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有ス  
掌管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シテ其當否ヲ辯論スルヲ得

各分局分課ヲ廢立更正シ又ハ其官員ヲ左右交換スル等ノコアラハ卿ノ差圖ヲ乞テ之ヲ處置ス  
寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ之ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿ニ呈シ其差  
圖ヲ乞フ

權頭

職掌責任頭ニ亞ク

一課又ハ一局ヲ分テ之ヲ統管スルコアレハ其課中ノ事務ヲ調理スルニ於テハ卿ニ對シテ殊ニ其責任  
ヲ有ス

但此時ニ於テハ課中ノ官員ヲ便宜指令シテ其處務ヲ修整セシムルヲ得

助

寮中分局又ハ各課ノ事務ヲ擔當スルヲ掌ル各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭ニ對シテ其責任ヲ有  
ス

權助

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬 中屬 權中屬 少屬 權少屬

頭ノ指令ニ從テ寮中ノ事務ヲ掌ル

以上之レヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ閑劇ニ從テ増損アルヘシ

同事務章程

第一條 地理寮ハ全國州郡村里ノ經界山林原野沼池河海區別ノ事務ヲ掌ル處ナリ

第二條 頭ハ寮中ノ事務ヲ總管シ權頭ハ或ハ便宜課ヲ分テ之ヲ掌管シ又ハ他方ニ出張スルコアリ助權  
助ハ寮中分課ノ事務ヲ擔當シ大屬以下ハ各課ニ就テ事務ヲ掌ル

第三條 凡ソ土地ノ規則ヲ設ケ或ハ之ヲ更正シ或ハ新ニ地圖ヲ製シ地籍地券ノ法ヲ立ル等ハ處分法案  
ヲ作り卿ノ差圖ヲ乞テ之ヲ處置ス

第四條 州郡ノ經界ヲ畫定シ府縣村市ノ制置及土地ノ名稱ヲ更正シ又ハ内地運輸ノ爲メ諸港津ヲ開閉  
シ其規則ヲ設立更正スル等ハ都テ其處分ノ法案ヲ作り卿ノ差圖ニ從テ之ヲ處置ス

第五條 平地山林池河海岸等一管理中又ハ他ノ管轄ニ交渉スルノ検査及田畑山林屋敷地ヲ變シ及潰地  
亡所或起返開墾等ノ類土地ニ關スル地方ノ申牒ハ成規恒例ニ照シテ便宜處分シ其成例ナキハ審案具

狀シテ卿ニ申呈シ其指圖ヲ乞フ

第六條 全國官私森林ノ調査及繁息セシムルノ方法時勢適度ニ審案具狀シ卿ノ指圖ヲ得テ處分スルヲ  
掌ル

第七條 全國各區舊蹟保安ノコヲ掌ル

第八條 凡ソ地方ヨリ申牒シテ請問諮決スル事務既定ノ條規例格ニ照準シテ指令スヘキハ卿ノ名ヲ以  
テ之ヲ處置シ條規例格ナキハ考案ヲ具シ卿ノ差圖ヲ得テ之ヲ處置スヘシ

第九條 凡ソ寮中掌管ノ事務地方ヘ布達シ或ハ諸省等ニ掛合スルハ都テ卿ノ名ヲ以テシ其布達掛合ノ  
事件ニ付照會推問督促等ハ頭ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

第十條 寮中ノ諸書類諸簿冊ハ順次ニ之ヲ編纂シテ後考ニ便スルヲ要ス

第十一條 本寮一切ノ事務毎件之ヲ收録シテ毎月毎三月毎一年ト之ヲ區分シ其事務ノ部類ヲ分テ詳明  
ナル實務ノ考課狀及計表ヲ作り之ヲ卿ニ呈ス

第十二條 寮中官員ノ人名官祿俸給及寮中ニ屬スル公費旅費其他ノ諸雜費ハ毎月之ヲ集録シ計表ヲ添  
ヘテ卿ニ呈ス

但官祿旅費其他經費ノ請取方ハ本省ノ手續ニ準スヘシ



七年二月日閣分課ヲ改ム

第十三條 凡ソ寮中ノ諸費用及當務ニ關スル一切ノ經費出納簿冊ヲ製シテ詳明登記シ每件頭ノ檢印ヲ以テ之ヲ證ス

第十四條 凡ソ寮中一切ノ事務ヲ掌理スルハ本省職制及事務章程ニ照シテ之ヲ處分シ施爲ノ際矛盾ヲ誤ナキヲ要ス

第十五條 寮中要領ノ事務分テ三課トス

經界課

土地ノ經界ヲ畫定シ規則ヲ設ケ名稱ヲ更正シ名區舊蹟ヲ保安シ或ハ新ニ地圖ヲ製シ又ハ內地運輸ノ諸港津ノ規則ヲ更正スル等ヲ掌ル

森林課

官私ノ森林ヲ調査シ之カ規則ヲ設ケ全國ノ良木ヲ繁茂セシムルノ處分ヲ掌ル

本課

地籍地券ノ法ヲ立及田畑山林居屋敷ヲ變シ及潰地亡所或起返シ開墾等ノ土地ニ關スル地方ノ申牒ヲ處分スルヲ掌ル

地理寮ノ分課及掛ヲ改ム

七年八月日閣分課ヲ改ム

地理寮府縣管轄事務ヲ行ス

八年六月四日第一局ニ屬ス庶務局ノ部ニ屬ス

測量司ヲ置キ地理寮ニ屬シ內史所管ノ地誌課ヲ本寮ニ合ス

內務省記錄節錄 七年二月日閣

地理寮中稅地木石計算諸務圖書ノ五課及文書受付ノ二掛ヲ置ク

內務省記錄節錄 七年七月十四日

庶務課所管ノ府縣管轄ノ事務ヲ管ス

內務省へ達 七年八月三十日

八年九月達第百六十七號ヲ以テ地誌課ヲ修吏局ニ并ス

其省中測量司被廢地理寮へ量地課ヲ置キ內史所管地誌課ヲ同寮中へ合併候條此旨相達候事

達 第七年八月三十日 省使府縣

內務省中測量司被廢同司從前ノ事務ハ地理寮ニ於テ取扱候條此旨相達候事

外史申牒 七年八月三十日

今般測量司被廢候ニ付院省使府縣へ御達案左ニ相伺候也

史官ヨリ地理寮へ通牒 七年十月十四日

今般地誌課御寮へ合併相成候ニ付是迄同課ニ於テ用ヒ來候製圖器械其他諸具御寮へ御引繼可及候條其筋へ御引合可有之此旨申入候也

地理寮ヨリ史官へ掛合 七年九月二十二日

今般正院地誌課當寮へ合併被仰出候處從前ノ通於正院中事務取扱候ニ付テハ大舍人宿直ヲ始小舍人使部直丁等使役ノ分一時俄然分界相立候テハ事務上障害ノ虞不渺候ニ付先當分ノ內是迄通御据置相成度追テ小舍人以下課中雜仕ニ給シ候分當寮定規ヲ以テ履替可申見込ニ候處大舍人宿直ノ儀ハ寮ヨリ院中取締向ニ關係致シ候事故向後共御据置相成度且從前地誌課需用ノ物品等逐テ當寮一定ノ成規相立候迄ハ總テ是迄通り御院用度課中ヨリ請取置本月一日ヨリ以後月末精算ノ上當寮ヨリ右費額御院用度課へ送致候様致度右等ノ條件併セテ及御掛合候也

追テ非常駈付人足地誌課分四人從前御雇入相成居候分モ從前ノ通御据置相成共雇費ハ毎月取束御院用度課へ送致致度此段モ申添候也

用度課意見 七年九月二十九日

本文地誌課大舍人宿直ノ儀院中取締向ニ關係云々ト有之候へ共大舍人以下宿直ノ儀同課ニ限リ候儀ニ付爾後相廢候テ可然カ是迄通り据置候儀ニ候へハ大舍人一人小使一人分賄料外經費同様月末取束ネテ受取候様致度其他地理寮掛合ノ通りニテ差支無之候也

史官ヨリ地理寮へ回答 七年十月三日

地誌課正院中ニ於テ事務取扱候ニ付大舍人宿直始使役ノ者共當分是迄ノ通被据置度旨御掛合ノ趣致承知候然處大舍人宿直ノ儀ハ官中一切ニ關係候儀ハ勿論ニ候へ同課ニ限リ是迄別ニ分番爲致候儀ハ此際廢止可致ト存候尤小舍人以下ハ追テ御寮定規ヲ以テ御履替相成候迄當分据置且諸經費繰替等ノ儀異存無之候此旨御答旁申入候也

地理寮分課

九年一月二十九日事務章程ヲ定ム

地理寮分課 七年八月日閣

第一部 地籍課

第二部 地誌課

官職門 官制 內務省二



八年二月日置地籍課ノ事務分掌ヲ改正ス

地籍課從前ノ事務ハ太政官內史事務章程ニ見ユ八年九月邊第百六十七號ヲ以テ復々地籍課ヲ正院ニ屬ス  
量地課從前ノ事務ハ下ノ測量司事務章程ヲ參照ス八年七月日置地籍課分掌事務ヲ定ム

- 第三部 量地課
- 第四部 山林課
- 第五部 會計課
- 第六部 諸務課
- 文書掛

地籍課

第一部 地籍法ニ從ヒ全國ノ土地種類ヲ區分登記シ及ヒ官地民地官民共有地ノ增減ヲ注記シ簿表ヲ編制スル事

第二部 官有地中外人民ヘ貸渡簿ヲ編制シ會計課ニ通知シ貸地料ヲ收メシムル事

第三部 官地貸渡年期ヲ案シ返地或ハ繼年期等督促ノ事

地誌課

當分如從前

量地課

當分如從前

山林課

本課ハ各地派出ノ官林調査官員歸京ノ上實地經驗ノ事情參酌ノ上取調可相伺積

會計課

第一部 寮中金穀ニ關スル諸回議其他員數ニ關スル事件正算ノ事

第二部

寮中各課處分既濟官有地貸渡料土地林木并官地生立ノ肥草萱秣菌草等其他用品拂下代價或ハ土地買上及營繕費料下渡等ノ金穀收授傳票之事

第三部

寮中用度ノ事ヲ掌ラシムル事

第四部

寮中處分既濟官有地貸渡料并拂下及營繕費等一切金銀出納ノ事ヲ掌ラシムル事

諸務課

第一部 本寮各課ニ關セサル一切ノ事務及寮則例規ニ涉ル諸件ヲ檢シ或ハ新規創設ノ事件頭ノ指令ヲ受ケ考案起草ノ事

第二部

官民有ノ土地規則ニ照シ處分案ヲ草シ官有地貸付賣下代料及ヒ民有地買上代調查ノ事

第三部

府縣營繕ノ事

文書掛

寮頭ニ直隸シ頭ノ指令ヲ奉シ寮中處務月報及ヒ寮典類聚ヲ編纂シ圖書ヲ整理シ及ヒ公文ヲ受付スル事

スル事

地理寮ヨリ內務省ヘ伺七年八月日興  
當寮章程中大藏省處務上ト交互錯接連絡ノ廉權限分界兩様御談判ノ上章程御改正ノ儀既ニ此程正院ヘ御上申御裁可相成候ニ付テハ從來寮中分掌ノ事務變換仕候ニ付從テ各課分掌ノ事務分界ノ體裁モ亦不  
得不改正故ニ右御伺濟ノ趣意ニ基キ各課分掌擔保ノ事務ト將來ノ施設目今ノ奉行共事務ノ順序繁閑參  
考候處當寮ノ儀ハ元來事務多端ニシテ一月以來平均一箇月受付ノ公文不降千六百六十餘通然ルニ此上  
猶地誌測量ノ二務ヲ相加ヘ候ヘハ縱令事務中ノ幾分ヲ割キ大藏省ニ分付候モ事務今日ニ增加可仕ハ必  
然ノ勢彼是寮議ヲ遂ケ寮中ノ體面ヲ一變仕更ニ別紙一號ノ通六課一掛ヲ置第二號ノ通課中事務ノ部類  
ヲ分チ申度存候最章程規則等ノ儀ハ追テ詳細取調可奉伺候得共先以寮中分掌分課ノ大綱領ヲ伺定其他  
ハ尙詳細取調可相伺候間前條伺ノ次第至急奉仰御高裁候也

地理寮定

八年二月日興

本課事務分掌ノ儀別紙ノ通相定候儀頭ノ決判ヲ請候間來三月二日ヨリ履行有之度候也  
但從來擔掌ノ事務ハ各主任ニテ處分可有之候也

當課第一二部ノ事務齟齬矛盾遲緩ノ憂勿ラシメン爲メ今般種類ヲ分別シ更ニ左ノ三部トナシ從來之  
第三部ヲ四部トナシ擔保掌管爲致候方可然存候尤實踐ノ上事務ノ煩勞ヲ斟酌シ尙小變更モ可仕候得  
共當分ノ内左ニ取極置申度此段申上候也  
但來三月二日ヨリ改正仕度存候

地籍課ノ事務分掌ヲ定  
九年一月二十九日事務章  
程ヲ定ム

章程御改正ノ事本寮ノ部  
ニ載ス



第一

- 一 土地名稱處分之事
- 一 地券ノ方法施行ノ事
- 一 土地賣買借貸質入書入等方法及處分ノ事
- 一 社寺土地處分ノ事
- 一 土地ノ便否ヲ案シ各府縣ノ本支廳ヲ調査シ轉移廢立スル事
- 一 神社寺院ノ境内外ヲ畫定スル事
- 一 外國人ヘ關涉ノ地所處分ノ事
- 一 大中小學校及ヒ病院教院敷地處分ノ事
- 一 府縣ノ分合離合併調査ノ事
- 一 神社佛閣轉移或ハ與廢敷地收授ノ事

第二

- 一 府縣管轄及ヒ國郡村市ノ經界混淆ヲ查定スル事
- 一 諸官省使廳府縣ノ用地ヲ撰定授受ノ事
- 一 國郡村市ヲ分合及増減スル事
- 一 論所地ノ事
- 一 官有ノ土地ヲ拂下ル事
- 一 民有ノ土地ヲ買上ル事
- 一 城廓屯營廨舍邸宅與廢ノ土地處分ノ事
- 一 華土族邸地處分ノ事
- 一 埋葬地處分ノ事
- 一 公園地ノ事

第三

- 一 官地貸渡處分ノ事
- 一 道路附替切開ノ事
- 一 國事殉難ノ墓所招魂場保存處分ノ事
- 一 荒地損地無地ノ事
- 一 從前潰地反別引買上之事
- 一 鳥獸獵免許地之事
- 一 反別組替反別入ノ事
- 一 潰地起返反別引ノ事
- 一 檢地ノ事
- 一 潰地處分ノ事
- 一 開墾地及其他荒潰地起返等ノ年季ヲ定ムル事
- 一 荒地處分ノ事
- 一 亡所處分ノ事
- 一 新田開發之事
- 一 海面埋立之事

第四部

一 府縣營繕之事務

各部共件銘簿ヲ一冊トシ各部長之ヲ統括シ日々之ヲ課長ニ便閱セシムルモノトス各部掌管ノ事務ヲ分ツト雖モ各部長ハ互ニ協心戮力勿論タルヘシ尤異例ノ事務ハ各部ヘ回覽ニ供シ意見ヲ問フヘシ各部中各員擔保之事務專管處分スルハ勿論ナレモ其主任不快引籠等ノ節ハ部中ニ於テ助勤スルハ勿論タルヘシ



各部中各月受付ノ件數翌月二日マテニ取纏既濟未濟ノ數ヲ調査シ各員分別一覽表ヲ製シ頭ノ便覽ニ供スルモノトス  
各部事務ノ中員數ニ係ルモノ會計課へ差廻ス以前各主任ニテ查算之上主任之モノ員數ノ下部へ檢印スルモノトス

地理土木二寮ノ主管事務ヲ分劃ス

內務省議定 八年四月二十五日  
道路隄防等ノ土地ニ關スル一切ノ事務地理寮ノ主管トシ其工事ト水利ニ係ル事件ヲ可否スルハ土木寮ノ主管トス

地理寮及地租改正局ノ權限ヲ分劃ス

地理寮議定 八年五月日  
一 地租改正ノ際ニ當リ土地ノ廣狹ヲ丈量シ耕宅地等ノ廣狹郡村ノ經界ヲ正シ雜郡村ト此郡村ト犬牙錯其所有ヲ定メ官民有未定ノ所有其名稱ヲ區別スル等ハ地租改正局ノ權トス  
一 全國測量及ヒ論地等ニ付臨時測量ニ屬スルモノ國郡村市ノ分合改稱ニ關係スルコト官有地ノ所分ニ係ルコト潰地處分開拓許可等ニ係ルコトハ都テ地理寮ノ權トス  
但地租改正局ニテ其章程ニヨリ土地關涉ノ事務ヲ處分スルハ地租改正以前ノ分ニ限り都テ地租改正既濟後ノ處分ハ地理寮章程ノ通りタルヘシ

量地課ノ分掌事務ヲ定ム

量地課分掌事務 八年七月日  
第一 陸地ヲ實測シ并原圖寫圖縮圖ヲ製ス

八年十二月日關分掌事務ヲ改正ス

第二 營繕并課中用度ノ事ヲ管シ定夫ヲ督促シ器械書籍ヲ管ス

量地課ヨリ地理寮へ伺

第三 文案ヲ起草シ官印名簿公勤錄ヲ整頓シ宿直ヲ定メ記錄編輯及翻譯通辦之事ヲ管ス  
量地課ヨリ地理寮へ伺 八年七月十五日  
當課從前ノ諸掛ヲ廢シ分掌事務左ノ通相定度此段相伺候也

地理寮所管雜地公園事務ヲ第一局ニ屬ス

九年二月十九日再ヒ本寮ニ屬ス

內務省ヨリ第一局へ達 八年九月十四日  
別紙ノ通地理寮へ相達候條此旨相達候事  
內務省ヨリ地理寮へ達 八年九月十四日  
其寮章程第十五條中葬地公園處分ノ儀ハ自今第一局於テ主管シ其寮へ合議候儀ト可相心得此段相達候事

地理寮ノ地誌課ヲ正院ニ屬シ修史局ニ合ス

十年十二月達第九十八號ヲ以テ再ヒ地理局ニ屬ス

太政官ノ部ニ屬ス

第九十七號達ハ文書問記錄表ノ部ニ屬ス

內務省へ達 八年九月二十日  
地理寮中地誌課正院へ被付修史局へ合併候條此旨相達候事  
但本年六月第九十七號ヲ以テ相達候皇國地誌編輯例則ニ照準シ取調候分ハ自今修史局へ可差出事  
塚本權大內史伺 八年八月十日  
地誌課ノ儀ハ明治五年九月正院中ニ被創置內史所管ニ有之候處七年八月地理寮へ合併ノ儀御達相成候然ルニ今般九十七號全國地誌編輯例則御達相成逐次若手可仕處博ク古今ノ沿革ヲ致據致シ確實ヲ得候ハ毎々修史局ト相需テ取調不申候テハ難明晰儀時々有之且兵備礦物社寺等ニ至リテハ府縣ニテ記載候ノモノニテハ其全ヲ不得各主務ノ省察へ詢問シ廣ク網羅不致候テハ精細ニ難及類不少地理寮中ノ一部分ニテハ行届兼候廉モ有之候ニ付審考仕候處同課ヲ再ヒ正院へ被建置候ハ、各省府縣へ往復調査致候モ却テ簡捷ニシテ過ク採摭ノ効ヲ遠ケ易ク將修史局ト相並ヒ共ニ便宜ヲ得候ノモノナラス追々圖誌成稿印書局へ依頼印刷致シ候モ手數相省候儀ニ有之尤地理寮事務トハ關涉ノ條件多項ニ付官員ノ儀ハ是迄同寮於テ本課勤務ノ者正院官吏ニ拜命或彼此兼官等被命候様仕度左候ハ、互ニ補助相勸同寮事務於テモ差支有之間敷且地誌ノ儀ハ資政ノ典籍ニ付廟堂へ被備置內史所管ニ屬シ至當ノ儀ト被存加之費額モ七年百四十七號史誌兩般ノ費用ニ支給候様御達相成修史局ト隔リ候テハ不都合ノ件不少勞以再ヒ地誌課ヲ正院ニ被置候方可然哉奉存候依之御達奏取調此段奉伺候也



地租改正局別報 八年十月十四日

本年五月乙第一號ヲ以相達置候所有未定ノ地所處分ノ儀ニ付當局ト内務省ト管掌ノ分界左ノ通り相定ム

第一條

一官民有未定地ノ所有ヲ判定スルノ際全ク官地ニ屬スヘキモノト雖從來ノ縁故ヲ酌量シ直チニ民地ト定ムル等ノ處分ハ本局ノ掌管トス

第二條

一官有ト確定セシ地ヲ無代價下渡即チ學校敷地ノ如キ官地其他官省布達ニ照シ本年内務省乙第百十府縣ニテ判然官地ナルコトヲ視認タル土地及ヒ士族拜借地舊神官僧侶自宅地等ヲ低價或ハ相當價又ハ一般ノ入札ヲ以テ拂下ノ處分ハ内務省ノ掌管トス

地理寮ヨリ内務省ヘ伺 八年十月二十九日

從前當寮ニテ社地交換ハ勿論社殿造營及修繕等乃官國幣社及招魂社ノ如キノ儀取扱來候處先般當寮中府縣營繕事務第一局ヘ被付候付テハ官國幣社及招魂社々殿造營及修繕事務ハ同局ヘ引送相成候得共新ニ社地ヲ撰定或ハ交換等ノ儀ハ當寮ニテ取扱居候然ルニ建物乃社殿等ト地所乃社地トハ何レモ聯結シ別箇ニ爲ス可カラサルモノニ有之候處社殿造營及修繕乃官國幣社及招魂社云フ事務ノ儀ハ同局ニテ取扱社地ヲ新ニ撰定或ハ交換等ノ事務ハ當寮ニテ取扱候ニ付頗ル事務多岐ニ涉リ徒ラニ事務淹滞ノ弊害ヲ醸シ不都合ニ候間事務左ノ通區別相定度仍テ其分界左ニ一官國幣社及招魂社地ヲ新ニ撰定スルト既ニ撰定セル社地ヲ交換或ハ移轉スルトヲ問ハス渾テ官費造營ニ屬スル分ニ限リ第一局主管ニテ地理寮ヘ合議スヘキ事右之通事務取扱分界相定候様致度此段相伺候也 八年十一月七日 決刊

官民有地處分方地租改正局及内務省官掌ノ分界ヲ定ム

乙第一號達ハ郡村ノ境界ヲ更正スル等ノ處分方ナリ土地門土地部則ノ部ニ載ス十四年六月達第五十九號ヲ以テ地租改正局ヲ廢ス

内務省乙第百十三號達ハ廢合寺院并建物處分ノ件ナリ土地門土地部則ニ載ス

地理寮第一局ノ事務取扱分界ヲ定ム

十年一月十七日官國幣社ノ營繕事務ヲ社寺局ニ屬ス社寺局ノ部ニ載ス

量地課分掌事務 八年十二月日 第一節 氣象ヲ實驗シ全國ヲ實測シ地圖ヲ調製シ記録ヲ編輯スル等ノ事ヲ掌ル

第一部

附器械書籍ヲ管預シ定夫ヲ督促ス

第二節 金銀ヲ出納シ費額ヲ精算シ用度營繕等ノ事ヲ掌ル

量地課ヨリ地理寮ヘ伺 八年十二月二十七日 當課分掌事務之儀ニ付去七月十五日別紙之通伺濟相成候處更ニ左之通改定仕度此段相伺候也(別紙上ニ見)

内務省議定 九年一月日

一七年内務省乙第七十二號 社寺上地 處分規則 八年地租改正局乙第三號 一般ノ官民所有 四號 社寺境内外區別 其 他同局成規ニ係ル事件ト雖トモ耕宅地改租濟ノ府縣土地處分ハ地理寮ノ主管トス

但租稅ニ關スルコトハ限外ナリ

一一般ノ耕宅地山林原野等改租未濟及山林原野ノミ改租未濟府縣トモ改租調査ノ際改租ト交渉ノ件ニ 關スル土地所有定方ハ地租改正局ノ主管トス

但一等二等三等ノ官林河脈湖沼其地ヘ賦稅セサルモノハ地理寮ノ主管トス且彼我關涉ノ件ハ重キ 方ヲ主任トシ合評スヘシ

内務省ヨリ地理寮ヘ達 九年一月二十九日

其寮職制及事務章程客歲授與候處其後職名増置及局課等釐革ニ因リ更ニ別冊之通改正候條最前相渡置 候分引換可申此旨相達候事

地理寮職制及事務章程

地理寮ハ土地調査森林保護國郡村市ヲ廢置スル等ノ事ヲ掌トル所其事務ヲ支分シテ六課ト爲ス

地籍課 量地課 山林課 會計課 諸務課 文書課

地籍課ノ分掌事務ヲ改 正ス

十年八月十五日編修國家ノ事務ヲ併セ量地課ト改 正ス

地理寮及地租改正局ノ 分掌事務ヲ分劃ス

十四年六月達第五十九號 地籍課ノ部ニ載ス 大藏省ノ部ニ載ス 内務省乙第七十二號及地 租改正局乙第三號第四號 達ハ共ニ土地門土地部則 二載ス

地理寮職制章程

十年一月達第三號ヲ以テ 寮ヲ廢シ局ト爲ス 客歲云云ハ國書局ノ部ヲ 參照スヘシ

十年八月十五日量地課ヲ 改 正ス



十一年一月十日地誌課ヲ  
設ク  
十二年一月十一日各課順  
序ヲ定ム  
九年四月十八日會計課ヲ  
附算課ト收ム

職制

頭

第一 本寮ノ諸官員ヲ指揮シ寮中一切ノ事務ヲ管理シ以テ土地ヲ整頓シ森林ヲ保護シ國郡村市ヲ配置スル等ノ事ヲ掌トル

權頭

第二 寮中諸官員ノ勤惰ヲ監視シ其事務ヲ獎督シ能否ヲ識別シテ其黜陟ヲ要スル時ハ之ヲ卿ニ具狀ス

助

職掌責任頭ニ亞ク

權助

頭ノ職掌ヲ助ケ頭事故アルトキハ一切ノ事務ヲ代理スルヲ得

職掌助ニ亞ク

大屬 權大屬 中屬 權中屬 少屬 權少屬 史生 寮掌

事務章程  
寮中ノ事務大別シテ上下二款トナス其上款ハ頭意見ヲ具シ卿ノ議判決定ニ據ツテ施行スルモノトス其下款ハ頭委任ノ權ヲ以テ決判施行スルヲ得

上款

第一條 土地ニ關スル諸法則ヲ制定改正スル事

第二條 量地ノ法則及ヒ製圖ノ方法ヲ制定改正スル事

第三條 量地ノ基點ヲ定ムル事

第四條 地籍編製ノ法則ヲ改正スル事

第五條 地券ノ法則ヲ改正スル事

第六條 森林列樹ノ法則ヲ制定改正スル事

第七條 動植物法則ヲ制定改正スル事

第八條 府縣管轄及ヒ國郡村ノ經界ヲ査定スル事

第九條 工部省所轄外ノ土石坑鑿ノ方法ヲ制定釐革スル事

第十條 官有地ヲ撰定授受スル事

第十一條 府縣本支廳廢立及ヒ移轉ノ地ヲ處分スル事

第十二條 民有土地及ヒ民有木竹等ヲ買上ル事

第十三條 官有土地及ヒ官有木竹等ヲ拂下ル事

第十四條 論地及ヒ官民有未定地處分ノ事

第十五條 量地及ヒ其他ノ事業着手スル場所ヲ定ムル事

第十六條 外國人ニ關スル土地ノ事務ヲ處分スル事

第十七條 温泉ノ制度ヲ立ツル事

第十八條 海面境界ヲ査定スル事

第十九條 村市ヲ分合スル事

第二十條 寮中各課ヲ廢置分合スル事

第二十一條 本寮掌管ノ事務ニ於テ府縣ニ指令布達シ又ハ院省使等ニ稟議照會スル事

第二十二條 寮規外ノ事件ヲ處分スル事

第二十三條 定額外ノ物品ヲ購求スル事

以上

下款

第二十四條 土地ノ名稱ヲ成規ニ據リテ區分スル事

第二十五條 量地ノ事務ヲ施行スル事

第二十六條 地籍編纂ノ事務ヲ處分スル事



- 第二十七條 地券授與ノ事務ヲ規程ニ照シテ處分スル事
- 第二十八條 土地賣買等ノ事件ヲ規程ニ照シテ處分スル事
- 第二十九條 大中小學校及ヒ病院教院其他慈善勸業ニ關スル敷地ヲ規程ニ照シテ處分スル事
- 第三十條 社寺土地及ヒ境内外ノ未定ヲ査定スル事
- 第三十一條 社寺轉移及ヒ廢立敷地ヲ處分スル事
- 第三十二條 陸軍省所轄外城郭屯營廨舍邸宅等ノ敷地ヲ處分スル事
- 第三十三條 開墾埋立及溜池潰地荒地損地亡所ノ事務成規ニ據テ處分スル事
- 第三十四條 官有地ヲ貸下ケ動物植物土石ヲ拂下ケ其代料ヲ認許シテ領收スル事
- 第三十五條 收入ノ金ハ毎月集合シテ證書并ニ小譯書ヲ添ヘテ大藏省ニ送致スル事
- 第三十六條 森林培養及ヒ植付伐木ノ事務ヲ施行スル事
- 第三十七條 森林看守人ヲ配置シ其人員及ヒ給料ニ關スル事務ヲ施行スル事
- 第三十八條 御陵及ヒ墓地公園名所舊跡地ノ事務ヲ處分スル事
- 第三十九條 五十圓ニ過サル費額ヲ以テ寮中要需ノ物品ヲ買辦シ或ハ器械ノ欠乏ヲ補ヒ又ハ之ヲ修繕スル事
- 第四十條 寮規ニ照據ノ事件ヲ處分スル事
- 第四十一條 本寮掌管ノ事務ニ於テハ頭ノ名ヲ以テ府縣へ推問督促照會シ又ハ院省使等ノ推訊疑問ニ據リ之ヲ説明回答スル事
- 第四十二條 本寮掌管ノ事務ニ於テ各寮局課等ニ交渉スルモノハ合議處分スル事
- 第四十三條 寮中ノ簿書類纂整頓スル事
- 第四十四條 寮中官員ノ俸給旅費及ヒ收入税ノ金額雇夫給料其他一切ノ諸費各其部類ヲ分チ毎月毎歲計表ヲ製スル事
- 第四十五條 寮中一切ノ事務各部類ヲ分チ月報年報ヲ製スル事

葬地公園事務ノ地理寮ニ屬ス

地理寮中會計課ヲ計算課ト改稱ス  
十八年六月二十五日本省官務條例ヲ定メ計算課ヲ廢ス

地理寮地課ヲ廢坂下ニ存置ス  
十三年六月十一日測量課ヲ舊本城内ニ定ム

地理局各課ヲ改ム  
十一年一月十一日順序ヲ改正ス  
十二年五月内務省達乙第二十一號ヲ以テ山林局ヲ廢シ  
十年八月十六日測量課ヲ測量課ト改ム

第四十六條 寮中一切ノ費用ハ簿册ニ詳録シ每件頭ノ檢印ヲ以テ之ヲ證スル  
第四十七條 寮中各課ノ官員ヲ左右交替スル

内務省ヨリ庶務課へ達 九年二月十九日  
葬地公園處分ノ儀其課主管ノ旨去ル明治八年九月中相達候處自今最前ノ通地理寮ニテ主管可致ニ付右事務同寮へ可引渡此旨相達候事

内務省記録節録 九年四月十八日  
地理寮中會計課ヲ改メ計算課ト稱ス

地理寮ヨリ内務省へ伺 九年六月廿日  
當寮量地課是迄發坂下用地ニ假設有之本省經營落成ノ上ハ右へ可相移管ニ候得共該課ノ儀ハ他ノ事務ト違ヒ高燥ノ地ニ無之候テハ原圖器械保存ノ爲メ障害不少候處該地ハ恰モ適當ノ地位ニシテ非常火災等ノ豫防モ相立且險象臺モ設置有之旁以永遠同所ニ据置候様致度此段相同候也 九年六月二十六日決判

地理局ヨリ局中へ達 十年一月十三日  
本局中左ノ五課ヲ設置ス

- 地籍課
- 山林課
- 量地課
- 計算課
- 文書課



地理局地誌課ニ於テ司  
天編曆ノ事務ヲ管ス  
十四年八月二十四日編曆  
課ノ事務ヲ圖畫局ト分  
割ス

十三年六月十一日測候  
建設地ヲ務本城內ニ定ム

地理局地誌課ヲ測候課  
ト改稱ス  
十一年一月十一日各課順  
序ヲ定ム

地理局中地誌課ヲ設ク  
十八年六月二十五日本省  
職務條例ヲ定メ第三部ト  
爲ス

地理圖書兩局ヨリ内務省へ伺 十年八月八日  
維新以來事大小トナク進進ノ御趣意被爲達候處御國用多端ナルヲ以テ今司天臺ノ儀ハ御設立不  
相成乍去編曆ノ設アル以上ハ必シモ亦該臺ノ設ケナカル可カラサルノ故ヲ以テ豫テ御下命ノ趣モ有之  
候ニ付熟考候處本邦ノ如キハ世界最モ東洋ニ偏在スルヲ以テ觀天ノ事大ニ歐米諸國ノ注目參考スル所  
トナルハ必定ニ付之ヲ設立センニハ必ス將來永遠變換ヲ要セサル充分ノ土地ヲ撰ヒ大ニ爰ニ之ヲ與シ  
且觀測ニ所要ノ新式精巧ノ器械ハ各種咸ク之ヲ整備セサルヲ得サル儀ト存候果シテ此ノ如クセンニハ  
一時支出ノ諸費モ亦莫大ニシテ容易ノ事ニ非サルナリ加フルニ假令今是等ノ裝置悉皆整頓スルモ恐ク  
ハ當初之ニ對スル熟練ノ學士ニモ亦或ハ乏シカルヘクト存候就テハ目下ニ於テ新ニ該臺ヲ御設立相成  
候事ハ今暫ク三四年ノ後ニ讓リ此際司天編曆ノ事業ヲ當局量地課ニ合併シ同課量地用器械ノ融用シ得  
ヘキモノハ是ヲ需用シ以テ觀天ノ業ニ著手候ハ、簡便法ニシテ大ニ實際ノ都合ヲ得可申然カシテ漸ク  
規模體裁眞成ノ場合ニ臨ミ候ハ、更ニ司天臺御設立相成候方ト存候可然被思召候ハ、別記ノ人員御充  
定相成且定額常費ノ儀モ別紙ノ通別途御下渡相成候様仕度此段相伺候也 十年八月十三日決判 別記別紙共ニ省ク  
附從前略曆等刊行願出候者有之節圖書局於テ訂查致候ニ付編曆推歩專務ノ者ハ同局兼務御申付相  
成度見込ニ御坐候

地理局ヨリ内務省へ伺 十年八月十五日  
今般編曆觀天ノ業量地課へ一併ノ儀御決裁相成候ニ付テハ該課名ノ儀測量課ト改稱候方可然哉相伺候  
也 十年八月十六日決判

地理局ヨリ内務省へ伺 十一年一月十日  
修史館中地誌編修事務當局へ被爲付候旨過日御達相成候ニ付テハ本局中左ノ一課設置致度此段相伺候

也 十一年一月日關決判

地誌課

地理局ヨリ内務省へ伺 十一年一月十日  
官地所分ノ儀ハ從來本局地籍課中ニ於テ取扱來候處政府本分ノ職務ト政府私産ノ所置ト一併取扱候テ  
ハ不都合ニ付昨冬以來地籍課中ニテ分界取扱來申候乍去官林ト官地トハ巨多ノ關係ヲ有シ候ニ付以  
來土地ノ官民有テ處分スルカ如キハ地籍課ニテ取計官地貸渡等ノ處分ハ山林課ニ相合申度此段相伺  
候也 十一年一月日關決判

地理局長ヨリ局中へ達 十一年一月十一日  
本局中各課順序左ノ通り改正ス

- 測量課
- 地籍課
- 地誌課
- 山林課
- 計算課
- 文書課

地理局ヨリ内務省へ伺 十一年五月二日  
地質學之儀ハ土石之發掘樹木ノ繁殖ハ不及申旁測量農事幕々モ巨多之利益有之候ニ付本局中ニ於テ地  
質ノ一課ヲ設度存候最費用之儀ハ當局常額中ニテ相辨可申候此段相伺候也 十一年五月日關決判

地理局中地籍山林兩課  
所管ノ官地事務ヲ分別  
ス  
十二年五月内務省達乙第  
二十一號ヲ以テ山林局ヲ  
設ク

地理局中各課順序ヲ定  
ム  
十八年六月二十五日本省  
職務條例ヲ定メ各部ヲ改  
稱ス  
十二年五月内務省達乙第  
二十一號ヲ以テ山林局ヲ  
設ク  
十一年五月日關決判

地理局中地質課ヲ設ク  
十三年三月五日地質測量  
ノ事務ヲ勘定局ニ屬ス



地理局ニ官林作業課ヲ置ク  
十二年五月內務省達乙第  
二十一號ヲ以テ山林局ヲ  
置キ之ニ屬ス  
地理局及內務省ノ地方  
事務主管ヲ分刻ス

十八年六月二十五日內務  
省達ニ其事務ヲ官房ニ屬  
ス

十八年六月二十五日內務  
省達ニ其事務ヲ官房ニ屬  
ス

山林局主管ノ事務ヲ地  
理局ニ分管セシム

山林局ハ十二年五月內務  
省達第二十一號ヲ以テ設  
ク所

內務省記錄節錄 十一年六月二日  
地理局中官林作業課ヲ置ク

內務省ヨリ局課へ達 十一年七月三十日

內局地理局庶務局等ノ事務主管ノ儀ニ付別紙ノ通相達シ候ニ付爲心得此旨相達候事

地方官吏 府縣官郡區吏町ノ官職及ヒ懲戒令ニ係ル事務ハ其局ニ於テ主管スヘシ此旨相達候事

地方區畫ニ係ル事務ハ其局ニ於テ主管スヘシ此旨相達候事

地方稅及ヒ府縣會議ニ係ル事務ハ其局ニ於テ主管スヘシ此旨相達候事

內務省ヨリ地理局へ達 十二年六月二十四日

山林局取扱事務中別紙記載ノ件々自今於其局可取扱此旨相達候事

一土地拂下

內

官地入札拂 同縁故拂 同借地續本人へ相當拂 同地續所有人へ相當拂  
地先湖海面干潟地元へ相當拂 池沼堀敷等用水引方又ハ開墾等ノ爲メ相當拂 社寺土地縁故拂  
同素地相當拂 同寄附地相當拂 舊神官僧侶舊修驗居住地半價拂 舊藩縣許可開墾未着手相當拂  
侵墾地素地相當拂 還祿者へ半價拂 同上拂下地重複又ハ官ノ都合又ハ本人見込連等ニ付拂下取消  
同換地拂下 同制限外一區内ノ餘地相當拂 同上ニ付元開墾買得主へ換地下渡又ハ地代金償還  
士族授産開墾ノ爲メ十箇年間無代貸渡年期明素地相當拂 同拂下地代金年賦金延納 同轉賣許可特

例 士族現住官舎敷地半價拂 存城内士族拜借地換地半價拂 學校敷地及ヒ資本地拂下  
社寺移轉地說教所病院敷地等相當拂 神社旅所遙拜所敷地及ヒ招魂紀念碑建設地等相當拂 義倉社  
倉庫藏敷等相當拂 溜池敷拂下 一里塚拂下 埋葬地燒場地拂下 舊行刑場拂下 舊揚示場敷地拂  
下 舊牢屋敷拂下  
一土石其外拂下  
內

石垣拂下 土石使用人へ拂下 同開坑營業者へ拂下 水陸動植物採取料 但海面湖川之外  
葎萱入札受負拂 氷取料

一土地貸渡

內

官有地肥草刈取ノ爲メ貸渡 同植樹ノ爲メ貸渡 同稻干場船置場其他種々使用之爲メ貸渡  
池沼堀敷等魚鳥料等ノ爲メ貸渡 同蓮植付養魚等ノ爲メ貸渡 學校敷地又ハ資本地ノ爲メ貸渡  
社寺境内地學校へ特別貸 同出稼ノ者へ月限貸 郡村市街ノ隙地願人へ貸渡  
郡村耕宅地貸渡 並木敷空地貸渡 温泉貸渡 温泉場貸渡  
官舎官倉敷地貸渡 藏敷料貸 渡船守橋番居所敷地貸渡 水車稼ノ爲メ水路貸渡  
川源附寄洲田畑又ハ桑植付ノ爲メ貸渡 流木留メ杭建設ニ付川敷内貸渡 塵捨場貸渡  
堤塘仕用料 水防道具置所無代貸渡 消防道具同斷 用水溜井戸敷無代仕用  
道路堤塘一時行商ハ不問 道路共同修繕ノ爲メ土取ハ無代 但官林原野ニ關スル者ハ此限ニ非ス

內務省ヨリ地理局へ達 十三年三月五日  
其局中地質測量之事務自今於勸農局爲取扱候條同局へ可引渡此旨相達候事

地理局中地質測量事務  
ヲ勸農局ニ屬ス  
十四年四月七日勸農局ヲ  
廢シ其事務ヲ地理局ニ  
屬ス







內務部議案十三年六月十五日  
別紙內務省測量臺位置ノ儀ヲ案スルニ舊本九天守臺ヲ以テ測量臺ニ相用候儀ハ至極便宜ト存候間御  
開屆相成可然裁仰高裁候也  
川村參議附箋十三年六月十六日  
測量臺轉移建築ノ儀ハ當時費用節減ノ折柄ニ付建築轉移取止メ置可然當時ノ測量臺ニ於テ實測出來可  
申候ニ付御開屆不相成事  
內務部議案十三年六月二十六日

別紙內務省測量臺位置變更ノ儀ニ關シテハ主務ノ官吏ニ就實際ヲ諮詢シ其更革ノ理由ヲ查明シテ更  
ニ上京スヘキノ命アリ依テ查スルニ舊本九天守臺ノ地タル四望開豁周圍濠塹車馬往來ノ爲メニ絶テ動  
搖ノ患ナク其築營ノ日ヨリ今ニ至ルマテ殆ント三百年ノ久シキヲ經ルモ猶地平坦然曾テ參差高低ヲ生  
ゼシコトナシ地盤ノ鞏固ナル斷シテ疑ヲ容レサルナリ而シテ願テ紀尾井町ヲ問ヘハ則其他道路ニ接近シ  
地盤ノ鞏固ナラサル常ニ震動ノ虞アリト云フ他日觀象臺ヲ建造シ學科上ノ事業ヲ執行セントスルニ當  
テハ必ス其地盤ヲ修營セサルヲ得ス之ヲ修營セント欲スルトキハ無算ノ費用ヲ取ルノ利アルナリ抑モ彼是ヲ  
考較スルトキハ其優劣得失ノ差何ツ宮ニ天壤ノ異ナラン寧ロ此ヲ捨テ彼ヲ取ルノ利アルナリ抑モ彼是ヲ  
ヲ待タシヤ是レ即今內務省測量臺位置變更ノ儀ニ關シテ觀象臺ノ地ヲ定メ機熟シ時至ルノ日ヲ待テ  
更ニ具申シ命ヲ得テ後漸次事ヲ施サントスルニ在リ是レ以テ測量事務所ノ如キモ客年裁可ヲ經テ六千圓  
ニ費額ト定メ材料ヲ蒐集シテ新築ノ準備既ニ整頓スト雖モ今ヤ內務省深ク費用節制ノ大要ニ注意シ將  
ニ驟然新築ノ前議ヲ捨テ城郭內現存ノ舊厦ヲ流用スルノ新案ヲ起シ以テ今日ノ需用ヲ塞カントス之ヲ  
要スルニ本議ハ惟テ位置變更ノ裁可ヲ請フニ止マリテ其事毫モ費用ニ推及スルモノニ非ナリ今若  
シ位置變更ノ事許スヘカラストスル時ハ穀下ノ廣大ナルモ恐クハ測量課ヲ容ルノ地ナキニ至ルヘ  
前議ニ依リ紀尾井町ニ復セン乎是レ地盤ノ鞏固ナラサル動搖ノ患害アリ無算ノ費用ヲ要スルナリ然ラ  
ハ則チ葵町ニ歸ラン乎是又地盤ニ高低アリ地形紀尾井町ニ下ルコト數等加フルニ該地素ト備外國人ノ居  
館地ニ備ヘタルモノニシテ現ニ地質探究ノ爲ニ備入タル外國人四名ヲシテ愛ニ住居セシムルニ因リ今  
之ヲ流用セントスル時ハ他ニ其居館ヲ覓ムルノ外ナシ而シテ彼ノ四名ニ給スヘキ宿料ハ一箇月一名ニ  
付五十圓ト假算スルモ猶一年四人分總計二千四百圓ヲ要ス之ヲ其任期五箇年ニ乘算スレハ乃チ一萬  
二千圓ト巨額ニ達スルナリ然ラハ四千六百圓内外ノ少額ヲ以テ內務省前議ノ通り新築ヲ舉行シ以テ其  
巨額費消ノ途ヲ塞クノ益ヲ執ラサルヲ得ス況ンヤ宿料ニ費スノ巨額ハ全ク消耗シテ其跡ヲ遺サハモ  
六千圓ヲ費ス所ノモノハ十年ノ後幾干歟其現品ヲ存留スヘキニ於テヤ假令本議ノ行ハレサルトモ內  
務省ノ前議ニ復スヘカラスルノ事情夫レ此ノ如ク止ムヲ得サルモノアリ然レ本議ヲ以テ果シテ許ス  
ヘカラストスル時ハ內務省共務ヲ執ルノ任アリテ其事ヲ施スノ地ナシ該省頗ル殿前寔後ノ感ナキ能ハ  
サルナリ依テ主務官吏ニ就テ諮詢セシモノ、要領ヲ採擷シ本部ノ意見ヲ附加シテ以テ前案ノ通り御裁  
可相成ランコトヲ乞フ

地理局ニ於テ地租改正  
事務局長中社寺境内  
外ノ官地ヲ管ス

地租改正事務局長ハ十四年  
六月迄第五十九號ヲ以テ  
廢ス大藏省ノ部ニ屬ス

地理圖書兩局主管ノ編  
曆圖書事務ヲ分劃ス

十八年六月二十五日閣議  
局ヲ廢シ地理局ニ圖書編  
曆事務ヲ移シ圖書編曆  
ヲ廢シ圖書編曆ノ事務ヲ  
地理局ニ屬ス

地理局處務規程  
十八年六月二十五日日本  
省處務規程ヲ定メ分課組織  
ヲ柄ノ本省ノ部ニアリ

大藏省ヨリ內務省ヘ照會十四年七月二十一日  
今般地租改正局被廢殘事務ハ當省ニ於テ可取扱之處社寺境内外區別之儀ハ同局開設中過半調査相濟僅  
ニ數縣ノミ調査未濟ニ有之然ルニ右境内外判別上之儀ハ官地ノ處分ニ係リ候儀ニ付自今御省ニ於テ御  
掌管相成候方便宜ト存候ニ付此際濟未濟ノ分トモ共儘及御引繼候様致度此段及御協議候也

內務省回答十四年八月六日  
今般地租改正局被廢殘事務ハ於御省御取扱可相成處社寺境内外區別之儀ハ官地ノ處分ニ係ルヲ以自今  
於當省主管候方便宜ニ可有之旨御協議之趣致承知候右ハ異存無之ニ付以後於當省主管可致候條此段及  
御回答候也  
追テ書類引繼等之儀貴省租稅局ヨリ直ニ當省地理局江協議候様御取計有之度候也

圖書地理兩局ヨリ內務省ヘ伺十四年八月二十四日  
編曆之事務ハ明治九年舊圖書寮ニ屬シ續而圖書局ニ於テ管理致居候處十年八月地理局量地課ニ合併致  
シ爾來兩局共任ノ姿ニ相成居候ニ付猶實際上之都合ヲ謀リ今般兩局協議ノ上該事務ヲ分別シテ編曆事  
務ハ地理局ノ專掌願曆事務ハ圖書局ノ專掌ト爲シ各自ニ區域ヲ定メテ擔任致候様仕度此段高裁ヲ仰キ  
候也十四年八月日閣決判

地理局處務規程 十五年四月日閣假定  
本局主管ノ事務左ニ列記スルモノ局長其意見ヲ具シ卿ノ決判ヲ受フ

第一條 土地ニ關スル事務ノ事  
第二條 測量及ヒ觀象測候編曆ノ事  
第三條 府縣管轄國郡區町村區域ノ名稱變更ノ事  
第四條 府縣郡區廳位置ノ事



- 第五條 地所名稱ノ區別及ヒ地種變換ノ事
- 第六條 地籍ノ整理及ヒ地誌編纂ノ事
- 第七條 官用地々券ノ事
- 第八條 官用地授受ノ事
- 第九條 公用土地買上ノ事
- 第十條 官民有未定地及社寺地處分ノ事
- 第十一條 舊跡名所公園地ノ存廢ニ關スル處分ノ事
- 第十二條 海面漁場地區域ノ事
- 第十三條 土石堀取ノ事
- 第十四條 水面埋立ノ事
- 第十五條 官有地及ヒ其生産物ノ事
- 第十六條 外國人ニ關スル土地處分ノ事

各課事務順序 十六年二月二十八日改正

測量課七部二分ツ

測量部

全國ノ三角測量細區及ヒ高低測量ヨリ其地ノ經緯方位測量等ノ如キ土地ニ關スル一切ノ測量及之カ推算ヲ負擔ス

製圖部

地圖ヲ調製シ兼ネテ活版印刷等ノ事務ヲ負擔ス

氣象部

氣象ノ觀測ヲナシ及ヒ衛生農業航海土工其他百般ニ關スル緊要ノ諸象ヲ考究シテ之ヲ報告シ及ヒ暴風

地理局各課事務順序  
十八年六月二十五日日本行  
處務條例ヲ定メ各部ヲ改  
定ス

警報ノ事務ヲ負擔ス  
中外ノ報告ニヨリテ各種ノ圖表ヲ調製ス  
常ニ器械ヲ整理ス

編曆部

曆ヲ編製ス

觀象部

星辰ノ位置運行及ヒ日月ノ食諸曜ノ掩食ヲ實測シテ既ニ推算ノ曆ヲ調査シ各地經緯測量ノ業ヲ補助ス  
臨時觀測及ヒ之カ推算ヲ掌トル  
所用ノ器械ヲ整理ス

庶務部

各部主管外ノ事務ヲ調理シ及ヒ公文ノ授受簿冊ノ編輯等ヲ管掌ス  
門衛ヲ監シ宿直ヲ定メ課中ノ取締ヲ負擔ス

倉庫部

本課所備ノ器械書籍地圖等ヲ保藏シ之カ出納ヲ監ス  
定夫ヲ監ス

地籍課二部二分ツ

議案部

府縣國郡町村ノ區域名稱ノ組替官有地ノ授受官民有地ノ區分其他官有山林地處分及原野ノ下渡貸渡拂  
下并ニ山林原野官民有區分ヲ除クノ外全國ノ土地處分ニ關スル一切ノ文案ヲ調理ス

簿記部

全國ノ地籍土地ノ廣袤計數及ヒ議案部ニテ調理セル者ヲ簿記シ日表年報等ヲ調製ス  
參考トナルヘキ數量ニ係ル編料ヲ編纂ス



地誌課三部ニ分ツ

編纂部

全國ノ地誌ヲ編纂ス

製圖部

全國ノ地圖ヲ調製ス

雜務部

文書ヲ起案シ公文ヲ授受シ課中主管ナキ事務ヲ處分ス

計算課三部ニ分ツ

檢算部

局中金穀ニ關スル諸回議其他計數ニ涉ル事件ノ正算ヲ掌リ及官有物拂下代貸渡料等ノ價格當否ヲ監査ス

簿記部

官有物拂下代貸渡料等ヲ簿册ニ明記シ而シテ傳票ノ事ヲ掌ル

雜務部

諸物品ノ出納及經費其他雜務ヲ管掌ス

文書課三部ニ分ツ

庶務部

各課主管外ノ事務ヲ調理シ及ヒ日表年報等ヲ蒐輯編製ス

本局主管ノ公文ヲ授受シ及ヒ官省往復府縣指令達等ヲ淨書シ之ニ屬セル圖書ノ謄寫ヲ管ス

編纂部

府縣町村合字改稱郡區役所ノ變更及ヒ地方所轄ノ沿革ヲ調査ス

土地處分ニ關スル諸例規ヲ類纂ス

圖書部

地理局職務條例

十九年一月十六日國務條例ヲ改正ス

本局編製ノ圖書類印刷等ノ事務ヲ管理シ及ヒ所備ノ書簿記圖等ヲ保藏シ之レガ出納ヲ管ス

職員係

局長ノ命ニ隨ヒ文案ヲ草シ特命ニ依リ秘書ヲ錄ス

局員進退ニ屬スル文書局長ノ命ニ隨テ書記ス

官省ノ布告達府縣ノ地圖及測候書類ヲ類別整頓ス

本局職員錄ヲ整頓シ閱覽ノ便ニ供ス

出勤簿ヲ檢シ之カ勤惰表ヲ製シ及ヒ宿直ヲ定ム

内務省處務條例節錄 十八年六月二十五日(全文ハ本省ノ部ニ載ス)

地理局

長 一人 次長 一人

第一部

長 一人 課僚 若干員

一地籍調整ノ事

第二部

長 一人 課僚 若干員

一官有地管理ノ事

一公用土地買上ノ事

一地所名稱并地種目變換ノ事

一官民有未定地及社寺地處分ノ事

一舊跡名所公園地等存廢處分ノ事

一外國人居留地地所ノ事



- 一 海面漁場區域并水面埋立ノ事
  - 一 土石掘取ノ事
  - 一 官有地生産物處分ノ事
- 第三部
- 長 一人 課僚 若干員
- 一 地誌編纂ノ事
  - 一 地圖ヲ調製スル事
- 第四部
- 長 一人 課僚 若干員
- 一 觀象測候ノ事
  - 一 曆書調査ノ事

地理局職務條例  
 十九年二月勅令第三號ヲ  
 以テ官制ヲ定ム

地理局

内務省處務條例節錄 十九年一月十六日(前文ハ本  
 省)

- 長 一人 次長 若干員
- 地籍課
- 長 一人 課僚 若干員
- 一 地籍調整ノ事
  - 一 官有地管理ノ事
  - 一 公用土地買上ノ事
  - 一 地所名稱并地種目變換ノ事
  - 一 官民有未定地及社寺地處分ノ事

- 一 舊跡名所公園地等存廢處分ノ事
  - 一 外國人居留地地所ノ事
  - 一 海面漁場區域并水面埋立ノ事
  - 一 土石掘採ノ事
  - 一 官有地生産物處分ノ事
- 地誌課
- 長 一人 課僚 若干員

- 一 地誌編纂ノ事
  - 一 地圖調製ノ事
- 觀測課
- 長 一人 課僚 若干員
- 一 觀象測候ノ事
  - 一 曆書調査ノ事

地理局官制

二十一年十二月勅令第八  
 十二號ヲ以テ第二十四條  
 中觀測ヲ氣象ト改メ此時  
 觀象編纂事務ヲ文部省ニ  
 屬ス

内務省官制節錄 十九年二月二十六日(前文ハ本  
 省)

- 第二十四條 地理局ニ地籍課地誌課及觀測課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
  - 第二十五條 地籍課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 地籍調整ニ關スル事項
  - 二 官有地管理ニ關スル事項
  - 三 公用土地買上ニ關スル事項
  - 四 地所名稱并地種目變換ニ關スル事項
  - 五 官民有未定地及社寺地處分ニ關スル事項



- 六 舊跡名所公園地等ニ關スル事項
- 七 外國人居留地所ニ關スル事項
- 八 海面區域并水面埋立ニ關スル事項
- 九 土石掘採ニ關スル事項
- 十 官有地生産物ニ關スル事項
- 第二十六條 地誌課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 地誌編纂ノ事
  - 二 地圖調製ノ事
- 第二十七條 觀測課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 觀象測候ノ事
  - 二 曆書調査ノ事

二十一年十二月勅令第八十二號ヲ以テ第二十七條ヲ改正ス  
 二十年八月勅令第四十一號ヲ以テ氣象測候所條例ヲ定ム土地門測量ノ部ニ設ス

測量司編制事務章程  
 測量司ハ七年一月九日工部省ヨリ轉屬スル所本省ノ部ニ設ス  
 七年八月達第百十二號ヲ以テ同ヲ廢シ地理院ニ地誌課ヲ設ク

内務省ヨリ測量司へ達 七年一月十四日

別紙職制事務章程御下渡相成候ニ付爲心得相違候事

測量司職制

司中諸官員ノ首長ニシテ土地ノ測量一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル  
 司中諸般ノ事務其章程ト成規トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿ニ對シ擔保ノ責任ヲ有ス  
 掌管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シ其當否ヲ論スルヲ得ル  
 司中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ之ヲ増減シ或ハ各分課ヲ廢置スル等ハ審案具  
 狀シテ卿ニ呈シ差圖ヲ乞フヘシ

權正

職掌責任正ニ亞ク

正缺席スルカ又ハ缺員ノ時ハ其職掌ヲ代理ス

課ヲ分チ之ヲ統轄スルコトアレハ其課中ノ事務ヲ調理スルニ於テ卿ニ對シテ特ニ其責任ヲ有ス

但此時ニ於テハ課中ノ官員ヲ便宜指令シテ其處務ヲ修整セシムルヲ得ル

以上之ヲ奏任官トス

大令史

權大令史

中令史

權中令史

少令史

權少令史

正ノ指令ニ從テ司中ノ事務ヲ處分ス

以上之ヲ判任官トス

大令使以下ノ人員ハ事務ノ繁簡ニ從ヒテ増損アルヘシ

測量司事務章程

第一條 測量司ハ水陸ヲ測量シテ圖誌ヲ製述シ邦土ノ廣袤山壑ノ高低江河ノ直曲島嶼ノ位置其他都城

澳港ノ所在等天度ニ徴シ地勢ヲ盡シ詳密明確ナラシムル一切ノ事務ヲ掌管スル處ナリ

第二條 凡測量ノ法則ヲ創立シ又ハ従前ノ成規ヲ更革スル等ノ重件ハ意見ヲ具陳シ卿ノ指圖ニ由テ其

草案ヲ起スヲ得ヘシ

第三條 本司要務ノ諸術傳習ノ法則ヲ設立更正スルモ亦前條ニ同シ

第四條 外國人ヲ傭使シ或ハ傭役ノ期滿テ再期ヲ約シ又ハ傭中退職セシムル等凡テ立約ニ關スルコトハ

卿ノ指圖ヲ乞フテ處分スヘシ



- 第五條 外國人ノ俸給ヲ増減シ及ヒ其功罪ニ因テ處置スルハ其狀ヲ具シテ又卿ノ指圖ヲ乞フヘシ
- 第六條 測量上ニ用ユル一切ノ諸器械ヲ購買スル等ハ卿ノ指圖ヲ乞テ之ヲ處分スヘシ
- 第七條 各課ノ官員ヲ左右交替スルコトヲ得ヘシ
- 第八條 各處ニ於テ其地ノ人民ヲ役スルコトアル時ハ其管轄廳ト商議シ便宜處置スル事ヲ得ヘシ
- 第九條 司中雇夫等工業ノ爲メ死ニ就キ又ハ傷ヲ負フ者ハ追賞扶助金ヲ與フルハ成規ニ準據シ成規ナキハ法案ヲ具シ卿ノ差圖ヲ得テ之ヲ處分スヘシ
- 第十條 傭工ノ勤惰ヲ勸懲スルニ於テハ便宜其方法ヲ設ケテ處置スルヲ得トイヘル勸ハ二圓五十錢以下ノ金ヲ與フルニ限リ懲ハ面縛等ニ止ル可シ
- 第十一條 通辨翻譯諸技術ニ長セル者ヲ急務ニヨリテ擧用スルハ其本實ノ官廳ニ通達シ雇ノ名ヲ以テ一時使役スル事ヲ得ヘシ
- 第十二條 測量ヲ要スルノ地卿輔ノ指令ヲ承ケ實地事ヲ施スノ際其技術ノ精良ヲ盡シ確實ノ測圖速成スルヲ要ス
- 第十三條 測量ノ事務ニ於テ備使スル外國人任職ノ件ハ都テ其條約ノ制限ニヨリテ勉勵從事セシムルヲ要ス
- 第十四條 地方ヨリ申牒シテ請問諮決スル事務既定ノ例規ニ照準シテ指令スヘキハ卿ノ名ヲ以テシ例規ナキハ考案ヲ具シテ卿ノ差圖ヲ得テ之ヲ處置スヘシ
- 第十五條 凡司中掌管ノ事務地方ヘ布達シ或ハ諸省等往復スルハ都テ卿ノ名ヲ以テシ其布達往復ノコトニ付照會推問等ハ正ノ名ヲ以テスルヲ得ヘシ
- 第十六條 凡司中百般ノ事務各寮司課ニ交渉スル事件ハ必ス其寮司課ニ合評熟議シ之ヲ處分スヘシ
- 第十七條 本司測量セシ圖誌ハ必ス副本ヲ備ヘ其他ノ諸書類諸簿冊ハ順次ニ之ヲ編纂シテ後考ニ便ナラシムルヲ要ス
- 第十八條 司中一切事務ノ工程ト其費用ノ總計ハ其事務ノ部類ヲ分チ詳細ナル月報考課狀及ヒ計表ヲ

作り之ヲ卿ニ進呈ス

- 第十九條 本司諸官員以下備使スル外國人ノ姓名ヲ詳記シ官祿俸給旅費諸雜費其他買辦ノ物品代價等ハ其分類ヲ詳悉シ大藏省ノ成規ニ基キ各費目明細表ヲ作りテ毎月之ヲ卿ニ呈ス  
但官祿旅費其他經費ノ請取方ハ本省ノ手續ニ準スヘシ
- 第二十條 司中ノ諸費用及ヒ當務ニ關スル一切ノ經費ハ出納簿冊ヲ製シテ詳明ニ登記シ每件正ノ檢印ヲ以テ之ヲ證ス
- 第二十一條 凡司中一切ノ事務ヲ掌理スルハ本省職制事務章程其他條令及ヒ司中ノ成規等ニ照準シテ之ヲ處置シ施爲ノ際矛盾註誤ナキヲ要ス
- 第二十二條 司中要領ノ事務分テ左ノ四課トス  
主記課  
往復編輯譯文名簿受付等ノ事ヲ掌ル  
算計課  
出納賜金倉庫精算等ノ事ヲ掌ル  
授業課  
生徒ヲ教導シ勤惰ヲ監督シ考課試業シ并ニ書籍出納スル等ノ事ヲ掌ル  
技術課  
實測製圖器械出納地誌刊行ノ事ヲ掌ル  
此章程中他日増損ヲ要スルコトアレハ其事由ヲ詳明ニシ卿ノ指圖ニ因テ加除更正スヘシ  
右測量司職制及ヒ事務章程  
上裁ヲ經テ決定スル處ナリ各員能ク之ヲ守リ其程度ヲ愆ルナカレ



山林局分課ノ定ム  
山林事務ハ初ノ大蔵省租  
務省地理課ノ所管タリ内  
務省ニ移クニ及テ地理課  
ニ屬シ此ニ至テ局ト爲シ  
十四年四月達第二十五號  
ヲ以テ農商務省ニ屬ス

山林局事務地理局設置  
ノ道ニ依ラシム

山林局分課ノ定ム

十二年五月十九日各課中  
ニ掛テ置キ更ニ計課課ヲ  
置ク  
十二年六月六日官林作業  
課ヲ廢シ五課ヲ置ク

山林局各課中掛ヲ置ク  
此月又分課ヲ改置ス

山林局中計課置ク  
此月課中ノ掛ヲ置ク

山林局ヲ取調局ノ次ニ  
列ス

十四年四月七日山林局ヲ  
農商務省ニ屬ス本省分課  
事務ノ部ニ置ス

内務省達 乙十二年五月十六日

當省中山林局ヲ置候條此旨相達候事

内務省上申 十二年五月十五日  
當省中山林局ヲ置候條此段上申候也

内務省ヨリ山林局へ達 十二年五月十五日

其局山林事務之儀總テ從前地理局ニテ取扱候例規ニ據リ可取扱此旨相達候事

山林局長ヨリ局中へ達 十二年五月十七日

本局分課ノ儀左ノ通り相定メ候條此旨相達候也

本課 官林課 文書課 官林作業課

山林局長ヨリ局中へ達 十二年五月十九日

本課中ニ林制試驗場ノ二掛官林課中ニ本林區ノ二掛文書課中ニ圖書統計報告謄寫受付局長附書記ノ六掛ヲ置候條此旨相達候也

山林局長ヨリ局中へ達 十二年五月十九日

本局中更ニ計算課ヲ設ケ文書課ノ次ニ列シ候條此旨相達候也

内務省ヨリ各局課掛へ達 十二年五月二十三日

山林局ノ位置取調局ノ次ト可相心得此旨相達候事

山林局分課ノ定ム

十二年六月日關山林局事  
務章程ヲ定ム

山林局中官林作業課ヲ  
廢シ五課ヲ置ク

十三年六月九日植樹以下  
五課ヲ廢シ事務ヲ官林課  
ニ屬ス

山林局課務條例

十四年四月七日山林局ヲ  
農商務省ニ屬ス本省分課  
事務ノ部ニ置ス

内務省記錄節錄 十二年五月日關

山林局中本課 林制掛 官林課 本掛 文書課 圖書掛 報告掛 受付掛 計算課 經費掛 用度掛 稅外收入掛 作業課ノ五課ヲ置ク

山林局長ヨリ局中へ達 十二年六月六日

官林作業課ヲ廢シ更ニ左ノ五課ヲ置候條此旨相達候也

但植樹課ヲ計算課ノ次ニ列ス

殖樹課 伐木課 運材課 運船課 出納課

内務省山林局達 十二年六月日關

當局課務條例別冊ノ通相定候條此旨相達候也

山林局課務條例

山林局ハ全國山林ノ事務ヲ掌管スル所ナリ分テ九課トス課務條例左ノ如シ

本課

當課ハ全國森林ノ贏縮得失ヲ慮リ木材ノ需用供給ヲ考ヘ制度ヲ草シ例規ヲ守リ及樹木試驗等ヲ掌ル者トス其事務左ノ如シ

林制掛

第一 官民林全體ニ普及スル一切ノ制度ヲ改メ又ハ創ムル爲メ其草案ヲ起ス事

第二 山林地及竹木官民ノ區別ヲ定ムル事

第三 山林沿革史編修ノ事

第四 山林例規編纂校補ノ事



- 第五 山林主副産物輸出入月年表編制ノ事
  - 第六 官民林箇所反別樹數増減統計ノ事  
試驗場掛
  - 第一 山林學術上ノ方法得失ヲ考究スル事
  - 第二 木實苗木ヲ栽培シ及樹木ノ適否効用ヲ試驗報知スル事
  - 第三 林鑑及諸器械等ヲ蒐集シ山林學ノ考證ニ供スル事
  - 第四 西ヶ原試驗場掌管ノ事
  - 第五 日本樹木誌編修ノ事
  - 第六 山林叢書編修ノ事
  - 第七 雜報編纂ノ事
- 官林課
- 當課ハ官林ノ事務ヲ掌ル者トス其目左ノ如シ
- 本掛
- 第一 林區掛ノ諸議案ヲ考查スル事
  - 第二 各林區特擔セサル事務處分ノ事
  - 第三 各林區巡視監守傭助手等ノ姓名簿ヲ作ル事
- 林區掛
- 第一 殖樹掛ノ事務ニ屬スル各林區出張所及各府縣ノ稟議ヲ分任調査スル事
  - 第二 官林ノ經界ヲ正シ及之ヲ保護スル事
  - 第三 月々官林ノ盛衰官木増減ヲ調査報告スル事
  - 第四 監守人巡視人ヲ配置監督スル事

- 第五 官林繁殖ヲ謀リ及官林輪伐洗伐ノ見込ヲ立漸次之ヲ陳スル事
  - 第六 官林不時伐ノ時ニ當リ命ヲ承テ見込ヲ陳シ及一等伐木ノ箇所ヲ申立ル事
  - 第七 一等伐木ノ時ニ當リ林木ヲ伐木課へ渡シ三等伐木ノ時ニ當リ林木ヲ拂受人へ渡シ及伐木跡ヲ檢シテ之ヲ受取事
  - 第八 二等伐木ノ時ニ當リ木材ヲ運材課へ引渡ス事
  - 第九 來年度苗圃移植苗木栽植ノ費用ヲ豫算シテ之ヲ申立ル事
  - 第十 伐木ノ際時々林中ヲ監視スル事
  - 第十一 官林原野貸渡及拂下ノ事
  - 第十二 官林原野中主副諸産物處分ノ事
  - 第十三 官林原野貸地料拂下料隨時増減ノ見込ヲ立ル事
  - 第十四 各所苗圃ノ事務ヲ考查スル事
  - 第十五 除害銃鑑札ノ事
  - 第十六 立枯風折虫付根返燒木等處分ノ事
  - 第十七 部分林處分ノ事
  - 第十八 各出張先ノ木材相場ヲ調査報告スル事
- 文書課
- 當課ハ官林簿圖ノ整頓公文ノ授受及其謄寫編纂保存等ヲ掌リ併テ本局官員身分上ニ關スル事ヲ取扱フ者トス其事務左ノ如シ
- 圖書掛
- 第一 官林簿及官林圖ヲ整頓スル事
  - 第二 各林區ノ官林原野箇所反別及主副産物ノ増減ヲ細記シ日月年表ヲ作ル事
  - 第三 各種ノ圖書ヲ整頓保存シ又ハ之ヲ貸借出納スル事



- 第四 諸官省府縣ノ申牒及出張局員ノ往復書圖等ヲ整頓保存スル事
- 第五 本局編纂ノ書圖刊行及洋文翻譯取扱ノ事
- 第六 山林局別報編纂ノ事
- 報告掛
- 第一 各課ノ日月年表ヲ蒐輯シ全局ノ報告ヲ調製スル事
- 第二 圖書掛ヨリ送致スル官林箇所反別樹木ノ増減表及各課各掛ヨリ報告スル諸表ヲ精査シ及之ヲ統計スル事
- 受付掛
- 第一 本局一切ノ文書ヲ付受スル事
- 第二 公文付受日月年表ヲ作ル事
- 謄寫掛
- 第一 指令文及往復書等ヲ謄寫スル事
- 第二 諸圖ヲ製シ及之ヲ謄寫スル事
- 局長附書記
- 第一 局長ノ直命ヲ受ケ文書ヲ起草シ書記シ及ヒ之ヲ檢閱スル事
- 第二 局中告達ヲ傳フル事
- 第三 局長手本ノ書圖ヲ整頓保護スル事
- 第四 山林局日誌ヲ編スル事
- 第五 官員錄及官員印鑑簿ヲ製スル事
- 第六 官員ノ増減出張勤惰等ノ日月年表ヲ作ル事
- 第七 黜陟轉免ヲ計算課經費掛又ハ出納課へ通知スル事
- 第八 公勤錄ヲ管理スル事

第九 宿直ヲ割當ル事

第十 官員身上ニ屬スル願何届等ヲ執達スル事

計算課

當課ハ本局定額金ノ出納及稅外收入金ノ出納ヲ掌ル者トス其事務左ノ如シ

經費掛

- 第一 定額金ノ豫算ヲ調査シ其過不足ヲ謀リテ見込ヲ具陳シ及計表ヲ草スル事
- 第二 局長ノ印可ヲ得テ定額金ヲ出納スル事
- 第三 日計月計年計及勘定報告表ヲ作ル事
- 第四 局中給仕ノ配置ヲ掌ル事

用度掛

- 第一 局中ノ需用品ヲ支辨シ及遣拂ノ精算ヲ爲ス事
- 第二 局中ノ器物及消耗品増減ヲ改メ日月年表ヲ作ル事
- 第三 貨物ヲ各所ニ運送スル事

稅外收入掛

- 第一 官林原野ニ屬スル諸收入ノ豫算ヲ調査スル事
- 第二 稅外收入金ノ増減ヲ成規ニ從ヒ大藏省へ通知スル事
- 第三 直轄官林拂下代金及貸地料又ハ動植物拂下代金等ヲ受取り之ヲ會計局へ送致スル事
- 第四 各拂下代金貸地料ノ日月年表ヲ作ル事

殖樹課

當課ハ樹木ノ繁殖ヲ掌ル者トス其事務左ノ如シ

- 一 掌林區掛ニ同シ但シ第一條及原野へ關スルコトハ此限ニアラス

伐木課

十三年六月三十日殖樹以下ノ五課ヲ廢ス



當課ハ官林ノ伐木ヲ掌ル者トス其事務左ノ如シ

- 第一 事業ノ爲官林ヲ調査スル事
- 第二 一等伐木ノ時ニ當リ豫算ヲ立ル事
- 第三 一等伐木ニ當リ境界ヲ正シ伐木區内ノ林木ヲ該林區長ヨリ受取り例規ニ從ヒ伐木スル事
- 第四 一等伐木ノ時ニ當リ例規ニ從ヒ助手柚日雇ヲ傭フ事
- 第五 伐木セル木材ヲ網場又ハ貯木所ヘ渡ス事
- 第六 伐木ノ際契約ヲ爲シタル銀行ニ現金ヲ取扱ハシムル事

運材課

當課ハ木材ヲ運搬シ及其收蓄發賣ヲ掌ルモノトス其事務左ノ如シ

- 第一 伐木造材ノ初ニ當リ需用ノ大小長短ヲ調査申告スル事
- 第二 伐木課ヨリ木材ヲ受取り及之ヲ仕分ケ收藏スル事
- 第三 貯木所ノ廢置又ハ變換ノ見込ヲ陳スル事
- 第四 木材定價ヲ伺定メ又ハ其定價ヲ伺改ル事
- 第五 木材ヲ入札又ハ相當拂ニスル事
- 第六 木材ノ適否ヲ考ヘ運搬ノ見込ヲ立テ又ハ運搬費ヲ調査シ之ヲ運搬スル事
- 第七 各貯木所木材増減日月年表ヲ作ル事
- 第八 各所木材相場月年表ヲ作り及ヒ之ヲ報告スル事
- 第九 木材ノ需用又匱乏ノ時ニ當リ不時伐木ヲ申立ル事

運船課

當課ハ本局直轄ノ船舶ヲ運轉スルヲ掌ル者トス其事務左ノ如シ

- 第一 運材課ヨリ木材ヲ受取り及之ヲ海運スル事
- 第二 海運シタル木材ヲ運材課ヘ引渡ス事

第三 航海中例規ニ從ヒ臨機慰勞手當ヲ給與スル事

第四 航海日記ヲ作り之ヲ申報スル事

第五 一航海毎ニ費用ノ精算ヲ立テ之ヲ申報スル事

出納課

當課ハ作業費ノ出納ヲ掌ル者トス其事務左ノ如シ

- 第一 作業費ノ豫算ヲ調査シ其過不足ヲ謀リ見込ヲ具陳シ及計表ヲ作ル事
- 第二 局長ノ印可ヲ得テ作業費ヲ授受納拂スル事
- 第三 興業營業ヲ區分シ之ニ屬スル財産ノ簿表ヲ精理スル事
- 第四 單賦費分賦費ヲ調査配當スル事
- 第五 日計月計三月年計簿表及報告ヲ作ル事
- 第六 局中官員貯金出納ノ事

用度掛

一 掌計算課用度掛ニ同シ

總則

- 一 前條ヤノ如ク課務ヲ分任スト雖モ時宜ニヨリ特別ノ調査ヲ命スルコトアルヘシ
- 一 金錢ノ出納ハ勿論其他鑽細ノ事務タリト雖モ局長ノ檢印ヲ得スシテ專行スルヲ許サス
- 一 各課長ハ局長ニ對シ課中事務ノ責ニ任スト雖モ課務ニ付若シ其ノ考案終ニ主任ト相背馳スルトキハ強テ之ヲ改メシメス其意見ヲ附箋シテ局長ノ決ヲ請フヘシ
- 一 但意味一同ノ場合ニ於テ其文字ヲ添削スルカ如キハ本文ノ限ニアラス
- 一 日表ハ即日月表ハ翌月二日限年表ハ翌月十日限ニ之ヲ報告掛ニ出シ報告掛ハ日表ハ即日月表ハ翌月五日年表ハ翌月二十日限局長ニ差出ス者トス
- 一 官林反別木數ノ増減ニ關スル諸回議ハ主務課長若クハ筆頭者ニ於テ圖書掛要記載又ハ圖書掛不要



記載ノ印ヲ捺スヘシ若シ其印ヲ捺セサルトキハ主務課長若クハ筆頭者其責ニ任ス  
 但其回議ハ圖書掛ヨリ差戻ス者トス  
 一 別報ニ掲載シ又ハ後來ノ例規トナスヘキ諸回議ハ主務課長若クハ筆頭者ニ於テ別報要記載又ハ別報不要記載ノ印ヲ捺スヘシ若シ其印ヲ捺セサルトキハ主務課長若クハ筆頭者其責ニ任ス  
 但其回議ハ圖書掛ヨリ差戻ス者トス  
 嗣後改正増補スルコトアルトキハ其都度申達スヘシ

內務省届 十二年六月十六日

官林ノ儀調査ハ勿論重モナル植付伐木等從前總テ當省ニテ直ニ致著手調査費監守給ノ如キモ總テ當省ヨリ相給平時ノ些務ハ地方官ヘ任置候處客歲伺濟ノ上作業著手候ニ付テハ事務ノ都合モ有之場所ニヨリ官林細大ノ事務總テ當省ニテ直ニ致管理候間此段及御届置候也

(參照)

內務省山林作業費ノ儀ニ付伺  
 山林繁殖ハ人生ニ於テ緊急ノ要務ナルヲ以テ明治七年本省新設ノ初首トシテ吏員ヲ派出シテ全國ノ官林ヲ調査シ傍民林ノ景況ヲ察セシメ明治八年ニ至リ山林規則ヲ伺タリ然ルニ當時佐賀臺灣ノ役後ニ際センヲ以テテ直ニ裁可ヲ得ルコト能ハス由テ定額費ヲ以テ特ニ官林ノ監守樹藝ニ從事セントス然ルニ明治十年定額減殺ノ命アリシカ故ニ重テ意見ヲ陳セント欲セシモ西南事變ノ踵起シタルヲ以テ已ムコトヲ得ス往昔經過シテ今日ニ至リタリ  
 本來我カ邦産銀ナキニ非スト雖モ其量歐洲諸國ニ及ブコト能ハス而シテ樹木ニ至リテハ其高遠ク歐洲諸國ノ上ニ出ツ利用上ヨリ立論スルモ固ヨリ樹木繁殖ノ事ヲ務メサルヲ得ヘカラス況シテ氣候ノ調和水泉ノ發源等皆山林ニ資ス厚生上ニ就テ立論スル亦其繁殖ヲ謀ラサルヲ得ス  
 然ルニ無識ノ細民ノ唯目前ノ小利ヲ觀視シ其所有林ヲ濫伐スルノミナラス官林ニ放火シ官木ヲ盜伐シ林政衰頹日月ニ倍徙シ之ニ加フルニ比年工事日ニ進ムカ故ニ官伐亦益々多ク現ニ別紙第一表ニ記上セル如ク明治九年度ノ官林樹藝數ト研伐數トヲ比較スルニ研伐數ヲシテ五多ノ増加ヲ生セシムルニ至ル若シ速ニ改良ノ策ヲ講セサルハ數年ヲ出スシテ全國ノ山林ハ皆髡秃ニ屬シ從テ氣候ノ不調水泉ノ涸竭ヲ醸サントス(別紙省ク)

故ニ今日ノ急務トスル處ハ壯樹ヲ護シ老樹ヲ洗シ新樹ヲ殖スルニアリ然レトモ三者ノ舉行皆資金ヲ需メサルヘカラス願クハ年來手入伐木ヲ爲シ木曾秋田青森門楯山四箇所ニ貯タル木伐ヲ發賣シ右代金一旦大藏省ヘ納付シタル上來ル十一月度ヨリ金十萬圓ヲ別途ニ御渡相成作業費ノ法ヲ以テ五箇年ヲ限リ之ヲ連シ第二表第三表ノ通り監守ヲ置キ巡視ヲ配シ盜伐ヲ防キ焚燒ニ備ヘ壯樹ヲ護シ新樹ヲ殖シ而シテ木曾飛騨美濃秋田青森高知六所官林ノ老樹ヲ洗伐シテ之ヲ發賣シ右收入ヲ以テ其費ニ供シ正條ノ如前稅外ニ此事務ノ收入及既定ノ本省經費ニ限リハ餘額ニ出ルカ放ニ從テ後五箇年ニ至リ經歷ノ實際ニ據リ更ニ見込ヲ立テテ之ヲ稟議セントス  
 夫レ五箇年間ノ研伐數ヲ合計スレハ百十二萬五千六百九十本トス議者或ハ其過多ヲ疑ハン然レモ樹木亦天壽アリ之ヲ伐ラサルモ自ラ朽腐スル者トス之ヲ伐ラステ朽腐セシムルハ之ヲ伐テ人用ニ供スルニ如カス且ヤ百十二萬五千六百九十本ハ第四表ノ通り全國官木總數ノ一萬分ノ七箇餘第五表ノ通り木曾飛騨美濃秋田青森高知六所官木總數ノ一千分ノ九箇餘ナルカ故ニ決シテ過多ナルノ憂ナキハ確信シテ慮思セサル所ナリ然レモ前項ノ建議ハ財政ニ關スルヲ以テ大藏卿大隈重信ニ協議セシニ是亦同意ナル旨ヲ回答セリ由テ山林作業費豫算調書ヲ添ヘ鄙見ヲ陳述シ親可ヲ恭請ス表五乘略ス  
 指令 十一年五月七日  
 伺ノ趣聞届候事

內務省届 十二年七月二日

官林事務當省直轄ノ儀ハ過日致御届置候處右ハ當省山林局ニ於テ爲致管理候間此段及御届置候也

地理山林兩局ヘ達 十二年十月七日

山林原野ニ係ル事務左之通可取扱此旨更ニ相達候事  
 一 一般山林原野地ノ處分方ハ總テ山林局ニテ主管シ其處分ノ山林事務外一般ノ處分ニ關係ヲ有スル事ハ地理局ヘ合評スルモノトス但地理局ヘ合評セサルモノニテ地理目ノ變換  
 一 社寺土地ト雖モ山林原野ノ名稱ヲ負フモノハ山林局主管シ地理局ヘ合評スルモノトス  
 地理山林兩局ヨリ內務省ヘ伺十二年九月三日  
 右兩局事務取扱方ノ儀別紙第一號ノ通本年五月御達相成其從前取扱ハ別紙第二號ノ通ニ有之尙又本年六

山林局官林事務ヲ管ス  
 十四年四月七日農商務省  
 二屬ス本省分課事務ノ部  
 二撤ス  
 山林原野ニ係ル事務ヲ  
 地理山林兩局ニ分割ス



月別紙第三號ノ通御達相成候處此三號ハ拂下貸渡ニ係ル儀ニ付其餘ノ處分上ニ涉リテ往々錯雜シ且統計上ニオイテモ誤脱重複ノ恐レ有之仍テハ更ニ左記ノ通事務主管ノ分界御達相成度此段相伺候  
但原野ノ部分目ハ本月二十六日御決判即チ別紙第四號ノ通可相心得哉別紙皆省ク

(備考)

内務省議定十二年九月二十八日  
山林地理兩局主管分離御達相成則山林原野ハ當局主管ナル處右原野トハ總稱ニシテ或ハ秣場柴地草生地ト稱シ又ハ登生地小笹生地藪地ト稱シ確名ナルモノニハ無之候ヘ共右六種ニ限リ都テ原野ト心得可然哉  
但御決定ノ上ハ前頭六種ノ外ハ地理局取調ルモノトス尤一反歩以上ノ分ハ勿論假令一反歩以下タルモ山林原野中ニ點在スルモノハ合議スルモノトス且本局取調六種ノ分トイヘ共同様地理局ヘ合議スルモノトス

山林局長ヨリ殖樹伐木運材運船出納ノ五課ヘ達 十三年六月九日

當十二年度限り其課相廢候條事務官林課(出納課ハ計算課)ヘ引繼可申此旨相達候也

山林局長ヨリ局中ヘ達 十三年六月九日

殖樹外四課ヘ別紙寫ノ通り相達候條此旨相達候也

山林地理兩局ヨリ内務省ヘ伺 十三年十一月二十日

道路竝木處分方ニ係ル各府縣稟申ハ從來判然タル成規無之ヨリ山林地理兩局ニ於テ取扱來候ヘ共右ハ道路幅員内ノ樹木ニシテ林地ノ名稱無之モノニ付地理局ノミニテ管掌候儀ト相心得可然哉相伺申候十三年十二月三日決判

内務省伺 十年一月十二日

今般教部省ヲ敬廢是迄同省掌管ノ事務當省ニ被付候ニ付テハ省中社寺局ヲ置キ右事務取扱可申候得共教務并教導職ノ者進退等ノ事ニ至ル迄總テ當省ニ於テ可取扱儀ニ候哉此段相伺候條至急御指令有之度

山林局中殖樹以下五課ヲ廢シ事務ヲ官林課ニ屬ス  
十四年四月七日官林事務ヲ農商務省ニ屬ス  
山林地理兩局管掌中道路幅員内ノ樹木ニシテ林地ノ名稱ナキ者ハ地理局ニ專管セシム  
内務省中社寺局ヲ置キ教務一切ノ事ヲ管ス  
社寺局ハ前日置ノ所本省分課事務ノ部ニ置ス

候也

指令 十年一月二十六日

伺ノ通

社寺局ヨリ内務省ヘ伺 十年一月十六日  
九年四月内務元教部兩省達ニ付是迄兩省ニ相關候左ノ件々爾後如何處分可然哉

- 一 官國幣社新築並修繕伺
- 一 同上境内地ニ關スル伺
- 一 御陵墓木柵池堤等新築並修繕伺
- 一 同上境内地ニ關スル伺
- 一 一般社寺境内地模樣替ニ關スル伺
- 一 同上境内地伐木種樹伺

但社寺共除稅地ニ限ル

内局議案 十年一月十六日

此伺ノ諸件ハ專ラ庶務局ト地理局トニ關係ノ事項ニ付此二局主トシテ取扱フ事項ハ社寺局ニ稟議シ社寺局主トシテ取扱フ事項ハ此二局ニ稟議シ共ニ内務卿ノ名ヲ以テ施行スヘク而シテ其取扱ノ主客ヲ區分スルハ元教部立省中内務省ト主客ヲ區別シタル規則ヲ一ツモ變更ス可ラストシテ可然儀ト存候  
右乞高裁

地理局長 議決

内務少輔 議決

第二四五項ハ地理局主管社寺局ヘ合議第六項ハ社寺局主管地理局ヘ合議相成可然存候事

第一及第三項ハ會計局ヘ合議スルノミ庶務局ヘハ其儀ニ不及候

内務省ヨリ社寺局ヘ達 十年一月十七日

庶務局管理府縣營繕事務之内官國幣社並御陵墓ニ關スル分ハ自今其局於テ管理可致此旨相達候事  
但本文事務受取方之儀ハ庶務局ヘ可及協議事

社寺局事務ノ庶務地理二局ニ關涉スル者ヲ區分ス  
十年一月二十日事務分掌ヲ定ム  
九年四月兩省達ハ教部省達第十二號ナリ文書門受付ノ部ニ置ス  
社寺局官國幣社并御陵墓ノ營繕ヲ管ス  
十一年六月二十四日御達  
事務ヲ當内省ニ屬ス



社寺局事務分掌假定  
十一年三月日 社寺局事務分掌ヲ定ム

社寺局事務分掌假定 十一年一月二十日

第一項

社寺ノ創建例格ノ變更等ニ關スル議案文案并一般神社ヘ關スル諸達ノ事  
府縣神社ニ關スル具狀ノ事  
官社奏任以上神官進退ノ事

第二項

諸官省及各局往復ニ關スル書案并一般寺院ニ關スル諸達ノ事  
府縣寺院ニ關スル具狀ノ事  
六級以上寺院住職進退ノ事  
政表報告ノ事

第三項

右第一第二二八兩項ニ分ツト雖モ互ニ相評合議シ且局中諸課ノ回議ヲ調閱スヘシ  
尤陵墓ニ關スル文案ハ此限ニアラス  
官社々頭ニ關スル願伺ノ事  
官社神官進退ノ事  
府縣神社ニ關シ例規アル具狀ノ事  
祠官掌進退調査ノ事

第四項

官社神官一身上ニ關スル願伺ノ事  
寺院ニ關シ例規アル諸達ノ事  
府縣寺院ニ關シ例規アル具狀ノ事  
附寺院住職進退調査ノ事

第五項

陵墓ノ檢定并其例制更革等ニ關スル議案文案及一般陵墓ニ關スル諸達ノ事  
府縣陵墓ニ關スル具狀ノ事

第六項

陵墓ニ關シ例規アル諸達ノ事  
府縣陵墓ニ關シ例規アル具狀ノ事  
附陵墓掌丁進退調査ノ事

第七項

教則ノ改定并教派ノ分合等ニ關スル議案文案及一般教義ニ關スル諸達ノ事  
府縣并教導職ニ關スル具狀ノ事  
六級以上教導職進退ノ事

第八項

教義ニ關シ例規アル諸達ノ事  
府縣并教導職教義ニ關シ例規アル具狀ノ事  
七級以下教導職進退ノ事  
并試補進退調査ノ事

第九項

社寺并教法ニ關スル考證ノ事  
神名帳編纂ヲ兼  
社寺ニ關スル考證ノ事  
教法ニ關スル考證ノ事

第十項



官社并陵墓造修ニ關スル仕様積書ヲ調査シ年額ヲ計量スル事  
局中用度會計ノ事

第十一項 局中文書受付往復ノ事

第十二項 社寺明細帳へ神社區別帳ノ事

第十三項 局中記録ノ事

第十四項 局中官員并官社神官教導職々員録及ヒ同上履歷書ノ事  
第十五項 諸文書々寫ノ事

外ニ

官社神官并教導職及六級以上寺院住職懲戒掛 未發文書預リ 書籍預リ 辭令淨書掛アリ

神官并官國幣社神官ノ  
願向手續ハ教部省ノ舊  
ニ仍ル

内務省達丁十年一月二十九日 官國幣社神官  
今般教部省被廢是迄同省掌管之事務當省へ被附候條向後諸願同等總而從前之手續ヲ以當省へ可差出此  
旨相達候事

内務省達乙十年一月二十九日 第四號府縣

別紙丁第一號ノ通神官并官國幣社へ相達候條此旨爲心得相達候事

社寺局ヨリ内務省へ伺 十年五月一日

社寺庶務兩局並官區分

十一年三月日關聯制事務  
章程ヲ定ム

一 廢合寺院處分ニ關スル件

一 社寺所有財産處分ニ關スル件  
右ハ庶務局主管之事務ニ候處社寺局被設候ニ付テハ今後同局掌管ニ可被屬哉

一 廢寺ノ上官收セシ等府縣所屬ニ歸スル建物處分ノ件

右ハ自今社寺局發議庶務局へ合議可然哉  
右仰裁定 十年五月十二日 決判

社寺局職制及事務章程 十一年三月日關

社寺局ハ官社及一般神社寺院及宗教ニ關スル事務ヲ管掌スル所トス

職制

局長 内務卿ノ命ヲ以テ書記官中ヨリ之ニ補ス

本局屬官ヲ董督シ局中一切ノ事務ヲ管理ス

本局屬官竝御用掛ノ勤惰ヲ監視シ能否ヲ識別シテ其進退黜陟ハ之ヲ内務卿ニ具狀ス

官社神官ノ勤惰ヲ監視シ能否ヲ識別シ其進退黜陟ハ之ヲ内務卿ニ具狀ス教導職ノ進退ハ管長ノ撰舉  
ヲ審案シ之ヲ内務卿ニ具上ス

六級以上ノ教導職ニシテ寺院住職タル者ノ進退ハ地方官及ヒ本寺法類ノ申請ヲ點檢シテ之ヲ内務卿  
ニ具狀ス

副局長 内務卿ノ命ヲ以テ書記官中ヨリ之ニ補ス

局長ノ職掌ヲ助ケ局長事故アルトキハ其事務ヲ代理スルヲ得

屬官 内務屬官ヨリ分課ス

局長ノ指揮ニ從ヒ局中ノ事務ヲ分掌ス

事務章程

社寺局職制及事務章程  
十三年九月三十日事務章  
程ヲ改正ス



局中ノ事務ヲ分ツテ五款トス其第一款ハ局長ノ意見ヲ具シ内務卿ノ議判ヲ經上裁ヲ仰キ然ル後決定施行ス第二款ハ局長ノ意見ヲ具シ内務卿ノ裁可ヲ經テ施行シ其檢閲ニ止ルモノハ回覽ニ付ス第三款ハ例規ニ照シ局長之カ案ヲ作り關係アル他局ニ合議シテ施行ス第四款ハ例規ニ照シ局長之ヲ專行スルヲ得第五款ハ府縣及官社竝教導職ノ申牒例規ニ違フヲナキモノ局長ノ檢閲ヲ以テ完結シ内務卿ノ覽閱ヲ經ルニ及ハサル者

以上五款ノ事務ニ於テハ内務卿ニ對シ局長皆其責ニ任ス

第一款

第一條 神社寺院創建ノ事

第二條 官社金額五百圓以上新築及模様替ニ係ル修繕ノ事

第三條 官社社費豫算外臨時増額ヲ要スル事

第四條 奏任以上神官六級以上教導職ヲ進退シ及勅任神官勅補教導職ヲ懲戒スル事

第五條 社寺ノ例格ヲ改正スル事

第六條 教義ニ關スル諸規則ヲ制定シ若クハ之ヲ改正スル事

第七條 宗派ヲ新定シ若クハ之ヲ禁止シ及ヒ其分合改正竝宗名ヲ變革スル事

第八條 局務ニ關シ太政官ノ布告公達ヲ要スル事

第二款

第九條 神社寺院再興竝復舊ノ事

第十條 官社修繕及諸器新調ノ事

第十一條 官社判任神官進退ノ事

第十二條 由緒アル社寺廢合移轉及改號ノ事

第十三條 教則ニ照準シテ教務ヲ處置スル事

第十四條 教義上ノ訴願ヲ判決スル事

第十五條 七級以下教導職進退ノ事

第十六條 院省使ニ關スル事務卿名ヲ以テスル往復ノ事

第十七條 局務ニ關スル布令達書ノ事

第十八條 例規外ノ局務ヲ處分スル事

第十九條 定額外ノ物品ヲ購求スル事

第二十條 局中官員ヲ國內各地ニ派出スル事

第二十一條 局中官員竝官社奏任以下ノ神官及三級以下教導職懲戒ノ事

第二十二條 局中官員歸省養痾ノ願ヲ許可スル事

第三款

第二十三條 官社年度廳中費ニ關スル事

第二十四條 官社修繕費下付ノ事

第二十五條 官有地ノ社寺廢合移轉跡地ニ關スル事

第二十六條 公園地内社寺存廢ノ事

第二十七條 社寺除稅地境内伐木種樹ノ事

第二十八條 廢寺官收ノ建物處分ノ事

第四款

第二十九條 官社私營建物ニ關スル事

第三十條 官社私祭ニ關スル事

第三十一條 官社常雇ノ事

第三十二條 官社々入金遣拂ノ事

第三十三條 官社寄附物品ノ事

第三十四條 官社神官歸省出京養痾及教導派出ノ事

第三十五條 官社經費調査大藏省検査局ト往復ノ事



第三十六條 由緒ナキ社寺廢合移轉及改號ノ事  
 第三十七條 遙拜所竝小祠小堂廢置分合ノ事  
 第三十八條 社寺寶物古文書其他什物竝所有財産ニ關スル事  
 第三十九條 教院說教所竝教會講社廢置分合ノ事  
 第四十條 府縣及官社竝教導職具狀ノ疑事推問照會ノ事  
 第四十一條 局中ノ簿書ヲ編纂整頓シ及ヒ政表年報ヲ製スル事  
 第四十二條 局中官員ニ掌管ノ事務ヲ分任スル事  
 第四十三條 既定費額ヲ以テ一時雇及寫字ヲ命シ職工ヲ雇入ル、事  
 第五款  
 第四十四條 官社祭典濟屆竝社務受渡濟屆ノ事  
 第四十五條 官社神官奉務表竝同神官及教導職履歷書ノ事  
 第四十六條 官社神官竝教導職一身上ニ關スル通常諸屆ノ事  
 第四十七條 官社々々入表竝寄附物屆ノ事  
 第四十八條 社寺明細書竝員數增減表ノ事  
 第四十九條 祠官祠掌寺院住職教導職試補進退屆ノ事  
 第五十條 教導職試補員數表ノ事  
 第五十一條 社寺内小教院分講社設置屆ノ事  
 第五十二條 教院移轉ノ事  
 第五十三條 官社神官轉籍移住屆ノ事  
 第五十四條 局中官員所勞不參屆ノ事

社寺局議案十一年三月二十一日  
 當局ノ儀ハ教部廢省本省へ合併以來事務ノ章程制定無之干今舊教部省職制章程ヲ遵奉罷在不都合不少候ニ付新ニ現今處務ノ狀況ニ付キ社寺局職制章程ヲ草シ候尤其内追々可改正見込ノ箇所モ有之候得共

一應仰高裁度候也 十一年三月日關社寺局長決判

内務省へ達 十一年六月二十四日

其省所轄御陵墓地自今官内省所轄ニ被定候條引渡方可取計此旨相達候事

社寺局分課 十三年二月九日

第一部 府縣申牒中無例規モノ及ヒ官社申牒(除經費營繕等事務)神官教導職直轄寺院住職ノ進退黜陟教會講社ノ事務ヲ掌リ局中官員進退ノ機務ニ關ス  
 第二部 受付ノ事務ヲ提掌シ文案簿書對校ノ事ニ從フ  
 第三部 諸記録ヲ整頓シ年報政表ヲ編製シ社寺明細帳ヲ檢案シ局中ノ書籍ヲ掌ル  
 第四部 諸掛リニ於テ起草シタル文案ヲ舊規例格諸告達ニ照シテ檢討スルヲ掌ル  
 第五部 官社及招魂社ノ經費營繕等ニ關スル計算古社寺保存費局中定額金ノ支出用度ノ庶務并諸申牒書ノ文案起草ヲ掌ル  
 右第五部ニ分ツト雖モ各部互ニ相助ケ事務ノ暢達ヲ要ス且局長ハ各員ヲシテ臨時部外ノ事ヲ調査セシムルコトアルヘシ

社寺局事務章程 十三年九月三十日

局中ノ事務ヲ分ツテ五款トス其第一款ハ局長ノ意見ヲ具シ内務卿ノ議判ヲ經上裁ヲ仰キ然ル後決定施行ス第二款ハ局長ノ意見ヲ具シ内務卿ノ裁可ヲ經テ施行シ其檢閱ニ止ルモノハ回覽ニ付ス第三款ハ例規ニ照シ局長之カ案ヲ作リ關係アル他局ニ合議シテ施行ス第四款ハ例規ニ照シ局長之ヲ專行スルヲ得第五款ハ府縣及ヒ官社并教導職ノ申牒例規ニ違フ事ナキモノ局長ノ檢閱ヲ以テ完結シ内務卿ノ覽閱ヲ經ルニ及ハサル者

御陵墓地ヲ官内省ニ屬ス

社寺局分課 十六年十二月二十八日各部ヲ廢シ課ト爲ス

社寺局事務章程 此章程ハ太政官ノ照會ニ基キ十一年三月所定ノ舊ヲ修正シ局長ノ決判ニ依ル者ト云十六年十二月二十八日就ニ分課ヲ定ム



以上五款ノ事務ニ於テハ内務卿ニ對シ局長皆其責ニ任ス

第一款

- 第一條 官社ヲ定メ稱號ヲ改ムル事
- 第二條 官社及招魂社等金額五百圓以上新營及神殿等模様替ニ係ル事
- 第三條 官社經費變革ノ事
- 第四條 新置ノ官社經費ヲ定ムル事
- 第五條 奏任以上神官六級以上教導職ヲ進退シ及勅任神官勅補教導職ヲ懲戒スル事
- 第六條 社寺ノ例格ヲ改正スル事
- 第七條 教義ニ關スル諸規則ヲ制定シ若クハ之ヲ改正スル事
- 第八條 宗派ヲ新定シ若クハ之ヲ禁止シ及ヒ其分合改正并宗名ヲ變革スル事
- 第九條 局務ニ關シ太政官ノ布告公達ヲ要スル事

第二款

- 第十條 官社經費豫算外臨時増額ヲ要スル事
- 第十一條 官社及招魂社等金額十圓以上修繕并五百圓未滿十圓以上新營及諸器新調ノ事
- 第十二條 官社判任神官ノ進退ノ事
- 第十三條 官社事務ノ例規ヲ改ムル事
- 第十四條 古社寺保護ノ事
- 第十五條 一般社寺ニ關シ例規ナキ條件ノ事
- 第十六條 教則ニ照準シテ教務ヲ處置スル事
- 第十七條 教義上ノ訴願ヲ判決スル事
- 第十八條 七級以下教導職進退ノ事
- 第十九條 院省使ニ關スル事務卿名ヲ以テスル往復ノ事

第二十條 局務ニ關スル布令達書ノ事

第二十一條 例規外ノ局務ヲ處分スル事

第二十二條 定額外ノ物品ヲ購求スル事

第二十三條 局中官員ヲ國內各地ニ派出スル事

第二十四條 局中官員并官社奏任以下ノ神官及三級以下教導職懲戒ノ事

第二十五條 局中官員歸省養病ノ願ヲ許可スル事

第三款

第二十六條 官社經費ニ關スル事

第二十七條 官社等新營并修繕許可費金下付ノ事

第二十八條 官有地ノ社寺廢合移轉跡ニ關スル事

第二十九條 公園地内社寺廢存ノ事

第三十條 社寺官有地境内伐木種樹ノ事

第三十一條 廢社寺官收ノ建物處分ノ事

第四款

第三十二條 官社私營建物ニ關スル事

第三十三條 官社私祭ニ關スル事

第三十四條 官社常雇ノ事

第三十五條 官社社入金遣拂ノ事

第三十六條 官社寄附物品ノ事

第三十七條 官社神官歸省出京養病及教導派出ノ事

第三十八條 官社經費調查大藏省調查局ト往復ノ事

第三十九條 府縣社以下ノ社格ヲ定ムル事



- 第四十條 式内神社并文明十八年以前創立ノ社寺移轉廢合改稱ノ事
- 第四十一條 一般廢合寺院處分ニ關スル事
- 第四十二條 社寺寶物古文書其他什物并所有財産ニ關スル事
- 第四十三條 各府縣下從軍殉國者ノ墳墓及招魂社ノ事
- 第四十四條 教院說教所并教會講社廢置分合ノ事
- 第四十五條 府縣及官社并教導職具狀ノ疑事推問照會ノ事
- 第四十六條 局中ノ簿書ヲ編纂整頓シ及政表年報ヲ製スル事
- 第四十七條 局中官員ニ掌管ノ事務ヲ分任スル事
- 第四十八條 既定費額ヲ以テ一時雇及寫字ヲ命シ職工ヲ雇入ルノ事

第五款

- 第四十九條 官社祭典濟屆并社務受渡濟屆ノ事
- 第五十條 官社神官奉務表并同神官及教導職履歷書ノ事
- 第五十一條 官社神官并教導職一身上ニ關スル通常諸屆ノ事
- 第五十二條 官社々入表并寄附物品屆ノ事
- 第五十三條 社寺明細書并員數増減表ノ事
- 第五十四條 教導職試補進退屆ノ事
- 第五十五條 教導職試補及祠官祠掌寺院住職員數表ノ事
- 第五十六條 社寺内小教院分講社設置屆ノ事
- 第五十七條 教院移轉屆ノ事
- 第五十八條 官社神官轉籍移住屆ノ事
- 第五十九條 局中官員所勞不參屆ノ事

内務省社寺局ヨリ同省内局へ申報十三年九月三十日  
谷森權大書記官ヨリ照會ニ付事務章程差出候様御回達ノ趣有之候ニ付當局現行ノ分別冊差出申候也

社寺局分課  
十八年六月二十五日廳務  
條例ヲ定ム

社寺局分課 十六年十二月二十八日

本局分テ三課ト爲シ各課項目ヲ設クルコト左ノ如シ  
社務課

- 第一項 神社祠宇及ヒ神道ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル
- 第二項 神社ノ新置保存及ヒ更改改稱ノ事
- 第三項 神社ノ規則ヲ新設シ又ハ更改スル事
- 第四項 神官教導職及ヒ官社雇人ノ進退ニ關スル條件ヲ處辨スル事
- 第五項 府縣社以下ノ社格ヲ調査スル事
- 第六項 府縣廳官社及ヒ管長ノ申牒ヲ調理スル事
- 第七項 祠宇、教會及ヒ講社ノ事項ヲ調理スル事
- 第八項 皇典講究所ノ願伺等ヲ調査スル事

寺務課

- 第一項 寺院及ヒ佛道ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル
- 第二項 寺院ノ創立、保存及ヒ更改改稱ノ事
- 第三項 寺院ノ規則ヲ新設シ又ハ更改スル事
- 第四項 教導職及ヒ住職ノ進退ニ關スル條件ヲ處辨スル事
- 第五項 直轄寺院ニ關スル諸事ヲ調査スル事
- 第六項 府縣廳、寺院及ヒ管長ノ申牒ヲ調理スル事
- 第七項 宗派及ヒ教會講社ノ事項ヲ調理スル事

庶務課

營繕、會計、用度、受付、淨書及ヒ記錄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル



- 第一項 官社及ヒ招魂社ノ經費營繕等ニ關スル計算ノ事
  - 第二項 局中定額金ノ支出及ヒ用度ニ關スル雜務ノ事
  - 第三項 諸申牒ヲ受付ケ文案ヲ對校シ及ヒ淨書スル事
  - 第四項 局中圖書記録及ヒ社寺明細帳ヲ整頓シ年報政表ヲ編製スル事
- 右三課ニ分ツト雖モ各課交渉ノ事件ハ關係諸課互ニ協議ヲ遂ケ處務ノ抵觸稽滯ナキコトヲ要ス

但局長ハ各員ヲシテ臨時課外ノ事ヲ調査セシムルコトアルヘシ

社寺局ヨリ内務省ヘ伺十六年十二月二十四日

本局事務分擔之儀別紙甲號ノ如ク定置候處第一部主任ノ件ニ對シ第五部ニテ起草シ第四部ノ檢討ニ付スル等殆各部和關涉候ヨリ勢專擔ノ氣力ヲ薄クシ從テ事務淹滯ノ基トモ相成候ニ付テハ各部ヲ廢シ更ニ別紙乙號ノ如ク分課相定度此段仰明裁候也別紙甲號ハ十二年十二月二十八日決分課ナリ前ニ據ス

社寺局處務條例

十九年一月十九日條例ヲ改正ス

内務省處務條例節錄 十八年六月二十五日(全文ハ本省ノ部ニ據ス)

社寺局

長 一人 次長 一人

第一部

長 一人 課僚 若干員

一 神社寺院ノ創立及存廢ノ事

一 神社社格ノ事

一 神佛各宗派教規宗制認可等總テ宗教上取締ノ事

第二部

長 一人 課僚 若干員

一 官社及招魂社ノ經費營繕等ノ事

一 古社寺保存及財產取締ノ事

一 記録明細帳等ノ事

社寺地理兩局監督事務區分

社寺局處務條例 十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム

内務省議定 十八年十二月十八日

社寺所有地ハ社寺財產中ノ重且大ナルモノニシテ本省處務條例ニ掲ル社寺局第二部第二項中ノ事タルハ論ヲ俟タス尤其處分即チ區分判定及地種組換等ハ地理局第二部第四項ニ依テ之ヲ主管スヘシ又社寺境內木竹監督ハ社寺局ニ於テ之ヲ取扱フモノトス然レトモ社寺所有地ハ地理局ニ交渉スルヲ以テ宜シク協議スヘキモノトス

社寺所有地トハ民有地第一種若クハ第二種ノ地ナリ

右ノ與廢及賣買等ハ社寺局ノ主管トス

右ノ區分判定及其地種組換ハ地理局ノ主管トス

内務省處務條例節錄 十九年一月十六日(全文ハ本省ノ部ニ據ス)

社寺局

長 一人 次長 一人

神祇課

長 一人 課僚 若干員

一 神宮及官國幣社ニ關スル事

一 神社ノ創立及存廢ノ事

一 神社社格及明細帳ニ關スル事

一 官社及招魂社ノ經費營繕等ノ事

一 古社保存及社寺財產ニ關スル事

一 神道各派ノ教規等ニ關スル事

寺院課

官職門 官制 内務省一



- 長 一人 課僚 若干員
- 一 寺院ノ創立及存廢ノ事
- 一 寺院明細帳ニ關スル事
- 一 古寺保存並寺院財産ニ關スル事
- 一 佛道各宗ノ宗制等ニ關スル事

勅令節錄 十九年二月二十六日(全文ハ本質)

第二十八條 社寺局ニ神社課及寺院課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二十九條 神社課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 神宮及官國幣社ニ關スル事項
  - 二 神社社格及明細帳ニ關スル事項
  - 三 官社並招魂社ノ經費營繕等ニ關スル事項
  - 四 古社保存並神社財産ニ關スル事項
  - 五 神道各派ノ教規等ニ關スル事項
- 第三十條 寺院課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 寺院明細帳ニ關スル事項
  - 二 古寺保存並寺院財産ニ關スル事項
  - 三 佛道各宗ノ宗制等ニ關スル事項

神宮祭主朝彥親王へ達 十五年三月二十四日

造神宮使被仰付候事

内務大書記官櫻井能監へ達 十五年二月十四日

社寺局官制

造神宮職員ヲ區ク

二十年十二月勅令第六十八號ヲ以テ造神宮使職官制ヲ定ム

造神宮奉行被仰付候事

内務省へ達 十五年二月十四日

今般神宮式年御造營被爲行候ニ付テハ左ノ職員ノ儀ハ其省ニ於テ可申付此旨相達候事  
但忌鍛冶以下ノ者ハ造神宮奉行ヨリ可申付儀ト相心得ヘシ

- 一作所
- 一頭并ニ頭代
- 一忌鍛冶并ニ小工

内務省上申 十五年一月二十一日

一造神宮使 一員

右ハ神宮祭主之ヲ勤ムルハ不可動ノ大典ト存候ニ付祭主久邇宮へ被仰付度候

但從前造神宮使職掌ノ内役員補任ノ廉ハ左ニ書職ノ通取計度候

一造神宮奉行 一員

右ハ幕政ノ頃山田奉行ニテ相勤維新後度會府知事之ヲ勤メシト雖モ縣治ノ制往時ト異ル故三重縣令之ヲ勤ムルモ實際支那可有之且從前行事官ニテ擔當セシ御裝束神寶調進等ノ儀モ造神宮奉行ニテ同一取扱候方可然ト存候旁社寺局長へ被命度候

一作所 二員

右ハ内務省屬官ノ内ヲ以テ之ヲ兼務セシメ内務省ニ於テ相命度候

一頭并頭代

右ハ神宮神官判任ノ内ヲ以テ兼務セシメ内務省ニ於テ同斷

一忌鍛冶并小工

右ハ職工等ノ内ヨリ人選シ造神宮奉行ヨリ之ヲ爲命度候

右今般兩宮ヲ始式年御造營被爲行候旨被仰出候ニ付テハ造神宮使以下職員前書ノ通被置候様致度尤右ノ外小作所其他附屬役員ノ儀ハ當省并三重縣屬官神宮神官等ノ内ヲ以テ適宜可申付見込ニ有之右ハ此度御指令費額取調等ノ爲メニ其擔當員可相定ノ處重複ニ涉リ且ハ既ニ當春山口祭執行ノ儀ニモ有之抽出檢分并現地下定等廉々取調向差急且造神宮使ハ本年二月可被仰付式例ニ付同時一般職員古儀ノ通至急御裁決相成度依テ爲御參看明治二年度役員付立別册一摺相添此段及上申候也別册ニ付別段區別不相立見込但作所以下從前ハ兩宮各自ニ被命候ヘシ現今ハ神宮ト雖モ合一ニ相勤候儀ニ付別段區別不相立見込

第二局議案 十五年二月一日

別紙内務省上申神宮式年御造營職員ノ儀ヲ案スルニ右ハ造神宮使并ニ奉行等各職員任補ノ儀古例ニ據ルヘキハ勿論ニ候得共今日ノ官制往時ト異ナル所モ有之候ニ付其勤カス可カラサル式ヲ除クノ外必ス

官職門 官制 内務省一



シモ古例ヲ墨守スルヲ要セサル儀ニ有之且最前御造營伺出ノ砌費額取調可申出旨御指令相成居候ニ付  
テハ同省ニ於テ特ニ擔當員ヲモ定ムヘキ處共重複ニ涉ルノミナラス既ニ着手向順序モ差掛リ居候儀ナ  
レハ旁上申ノ趣ヲ採用セラレ左ノ通御決裁相成可然哉諸案取調仰高裁候也  
内務省  
二十年二月一日  
造神宮

造神宮事務取扱區分 十六年二月六日  
内務省定

内務卿

造神宮事務ヲ總裁シ使奉行以下ノ權限ヲ指定シ造神宮掛リ役員ヲ進退シ該事業經費ノ用途ヲ立テ  
之レヲ伺定メ其處分ヲ爲ス

社寺局長

造神宮ニ係ル文書ヲ普通法ニヨリ査理ス

造神宮奉行

使主管事務ノ外造神宮一切ノ事務ヲ管理シ例規アルモノハ專行シ例規ナキモノハ内務卿ニ稟議ス  
御用掛作所小作所頭頭代奉行附屬作所付屬ノ進退ハ内務卿ニ具狀シ雇忌鍛冶小工ノ進退ハ專行ス  
御用掛  
奉行ヲ輔ケ庶務ヲ整理ス

奉行付屬

諸文書ヲ勘査整頓シ兼テ立案起草ヲ掌ル  
臨時奉行ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

雇  
作所

諸工作事務ヲ担当監督ス

小作所

但處務ノ順序ハ奉行ノ指揮ヲ受ケ執行ス

頭  
掌作所ニ亞ク

使奉行ニ兩屬シ祭儀工作ノ事業ニ從事ス  
祭典ニ係ルモノハ使ニ稟議シ工作ニ係ルモノハ奉行若クハ作所ニ稟議ス

頭代

掌頭ニ亞ク

作所付屬

作所ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

忌鍛冶

小工

○ 造神宮使

祭典儀式ノ執行及舊儀再興修正等ノ意見ヲ具狀ス

御用掛

使ヲ輔ケ庶務ニ從事ス

政所

付屬

内務省ヨリ造神宮奉行へ達 十六年十二月二十八日  
社寺局ニ於テ取扱來候造神宮事務ノ儀自今悉皆引請取扱可申尤回議ノ節ハ社寺局へモ合議可致此旨相  
達候事

勅令 二十年十二月二十五日  
第六十八號

官職門 官制 内務省一

造神宮事務取扱區分  
二十年十二月勅令第六十八號ヲ以テ造神宮使職官制ヲ定ム

社寺局監督ノ造神宮事務ヲ奉行ニ委ス

二十年十二月勅令第六十八號ヲ以テ造神宮使職官制ヲ定ム

造神宮使職官制



朕造神宮使廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造神宮使廳官制

- 第一條 造神宮使廳ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ新宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ主掌ス
- 第二條 造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク  
造神宮使 造神宮副使 造神宮主事 造神宮屬
- 第三條 造神宮使ハ一人勅任トス神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ管理ス
- 第四條 造神宮使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ專行ス
- 第五條 造神宮副使ハ一人奏任トス内務省社寺局長ヲ以テ之ニ充ツ造神宮使ノ事務ヲ佐ケ造神宮使事故アルトキハ内務大臣ノ命ヲ受テ其事務ヲ代理ス
- 第六條 造神宮主事ハ一人奏任三等以下トス使副使ノ命ヲ承ケ新宮造營神寶裝束等調進ノ事務ヲ處辨ス
- 第七條 造神宮屬ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ造營ノ事務ヲ分任シ職工ヲ使役シ記録計算ヲ掌ル

内務省請願二十年十二月二十二日  
 過ル十八年内閣以下官制更定後凡百ノ制度井然確立凡官吏ヲ以テ組織セル官衙ノ爲メニハ公式ヲ以テ共官制ヲ發布セラレタリ然ルニ造神宮職員ハ十五年中使以下ヲ被命タル儘ニテ未共官制ヲ公示セラレズ自然制度外ニ擱カレタル姿ナルハ宗廟御崇敬上允當ナラサルカ如シ且造神宮使造神宮奉行ノ組織モ專ラ近古ノ流例ニ基キタル者ニテ職掌責任明白ナラズ一事ニ兩首長アルカ如ク事務上自ラ複雜ノ虞無キ能ハス勞從前ノ職員ヲ廢シ更ニ造神宮使廳ヲ置キ別紙ノ如ク官制確定アラントシテ之ヲ依テ勅令案ヲ具シ閣議ヲ請フ

法制局議案二十年十二月二十三日  
 別紙内務大臣請願造神宮使廳官制制定ノ件ヲ案スルニ各官制井然確立ノ今日ニ於テ造神宮使廳ノ官制ヲ定ムルハ當然ノ事ニ付裁可ノ上公布セラレ可然ト認ム

内務省ヨリ戸籍寮へ達 七年一月十日  
 其寮司職制及事務章程追テ相渡候迄總テ從前之通事務取扱可申事

戸籍寮職制章程ニ依ル  
 此月十三日閣制章程ヲ下

付ス

(備考)

内務省第一次年報節錄  
 戸籍局 本局ノ沿革其草創ノ始ニ遡リテ變更轉換ノ述ヲ通觀スルニ明治二年四月八日民政部官ヲ置カレ戸籍ノ事務ヲ總判セシム七月八日民政部官ヲ廢シ民政部省ヲ置カレシト全國人口戸數ヲ詳明スルノ職制ヲ定ム三年九月二十二日民政部省中地理司ヲ置キ司中戸籍掛ヲ設ケ專ラ戸籍ノ事務ヲ掌理セシム四年四月二十四日府藩縣一般戸籍法改正ノ舉アリ七月二十七日民政部省ヲ廢シ大藏省中更ニ戸籍司ヲ置キ戸籍貫屬社寺聽訟ノ事務ヲ掌理セシム八月十日更ニ戸籍寮ト改稱シ二等寮ニ定ラルル七月華士族卒祿高及人名等ノ調方ヲ發令セリ九月寮中聽訟ノ事務ヲ分テ本省ノ直管トナシ五年三月寮中社寺ノ事務ヲ割テ教部省ノ所管トス六年三月ニ至テ全國戸籍簿三萬一千有餘冊全ク整頓ニ就ケリ十一月十日内務省ヲ置カレ戸籍寮之ニ屬シテ戸籍教育褒典ノ事務ヲ掌理ス

戸籍寮職制 七年一月十三日

寮中諸官員ノ首長ニシテ全國社寺戸數人員及人民身分ニ關スル事務ヲ管理シ褒賞常變救窮ノ施設ニ關與スルヲ掌ル

寮中諸官員ノ處務ヲ指令シ各分局分課ノコトヲ幹理ス

寮中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修整スルニ於テハ卿ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有ス

掌管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シテ其當否ヲ辯論スルヲ得

各分局分課ヲ廢立更正シ又ハ其官員ヲ左右交換スル等ノコトアラハ卿ノ差圖ヲ乞テ之ヲ處置ス

寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ之ヲ増減スル等ハ審案具狀シテ卿ニ呈シ其差圖ヲ乞フ

權頭

職掌責任頭ニ亞ク

頭 欽席又ハ欽員ノ時ハ其職掌ヲ代理ス

一課又ハ一局ヲ分テ之ヲ統管スルコトアレハ其課中ノ事務ヲ調理スルニ於テハ卿ニ對シテ殊ニ其責任

戸籍寮職制章程  
 九年一月二十九日改正



ヲ有ス

但此時ニ於テハ課中ノ官員ヲ便宜指令シテ其處務ヲ修整セシムルヲ得ル

助

寮中分局又ハ各課ノ事務ヲ擔當スルヲ掌ル各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭ニ對シテ其責任ヲ有

ス

權助

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ奏任官トス

大屬 權大屬 中屬 權中屬

少屬 權少屬

以上之ヲ判任官トス

大屬以下ノ人員ハ事務ノ閑劇ニ從テ増損アルヘシ

事務章程

第一條 戶籍寮ハ全國社寺戶數人員及人民身分上ニ關スル事務ヲ管理シ褒賞救窮ノ施設ニ關與スル處

ナリ

第二條 頭ハ寮中ノ事務ヲ總管シ權頭ハ或ハ便宜課ヲ分テ之ヲ掌管シ又ハ他方へ出張スルコトアリ助權

助ハ寮中分課ノ事務ヲ擔當シ大屬以下ハ各課ニ就テ事務ヲ掌ル

第三條 凡ソ戶籍及族類身分ニ係ル改正或ハ民産ノ豊否ヲ檢スル等之カ規則ヲ定メ又ハ從前ノ成法ヲ

改革シ或ハ之ヲ實務ニ施爲スル利害得失ヲ判定シ實際ノ當否理義ノ曲直ヲ酌量シテ其法案ヲ具シ卿

ノ差圖ヲ乞テ之ヲ處置スヘシ

第四條 毎年府縣ニ於テ改正セシ戸口ノ總數歲々一表紙ニ綴録シテ之ヲ卿ニ呈シテ每歲首之ヲ天皇陛

下ニ上奉ス

第五條 忠孝節義又ハ人民救助國益成構等ノ偉蹟アルモノハ褒賞ノ事

第六條 全國有益ノ偉事ヲ發明シタルモノハ褒賞ノ事

第七條 國事勳功アルモノニ養老料下賜ノ事

第八條 各所救育所病院等ノ施行并乞テ消絶スル方法ノ事

第九條 非常ノ災變ニ罹リ流亡セシ人畜土地家屋ヲ調査スル事

第十條 天災變禍ニ連ル人民へ救助ヲ與ル事

第十一條 地方ヨリ申牒シテ請問諮決スル事務既定ノ條規例格ニ照準シテ指令スヘキハ卿ノ名ヲ以テ

之ヲ處置シ條規例格ナキハ其事狀ヲ審ニシ其目的ノ可否ヲ明ニシ民害ヲ生セス官費ヲ要セス其事ノ

可ナルハ考案ヲ具狀シテ決ヲ卿ニ取ルヘシ

第十二條 新ニ戶籍ノ方法ヲ設ケ及從前ノ規則ヲ更正スル等ハ其處分ノ案ヲ作り卿ニ進呈シテ其差圖

ヲ乞フ

第十三條 凡ソ寮中掌管ノ事務地方へ布達シ或ハ諸省等ニ掛合スルハ都テ卿ノ名ヲ以テシ其布達或ハ

掛合ノ事件ニ付照會推問督促等ハ頭ノ名ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ

第十四條 寮中ノ諸書類諸簿冊ハ順次ニ之ヲ編纂シテ後考ニ便スルヲ要ス

第十五條 本寮一切ノ事務毎件之ヲ收録シテ毎月毎三月毎一年ト之ヲ區分シ其事務ノ部類ヲ分テ詳明

ナル考課狀及計表ヲ作り之ヲ卿ニ呈ス

第十六條 寮中官員ノ人名官祿俸給及寮中ニ屬スル公費旅費其他ノ諸雜費ハ毎月之ヲ集録シ計表ヲ添

テ卿ニ呈ス

但官祿旅費其他諸經費ノ請取方ハ本省ノ手續ニ準スヘシ

第十七條 凡寮中ノ諸費用及當務ニ關スル一切ノ經費出納簿冊ヲ製シテ詳明登記シ每件頭ノ檢印ヲ以

テ之ヲ證ス

第十八條 凡寮中一切ノ事務ヲ掌理スルハ本省職制及事務章程ニ照シテ之ヲ處分シ施爲ノ際矛盾註誤

ナキヲ要ス



第十九條 寮中要領ノ事務分テ左ノ三課トス

戸籍課

一切戸籍ノ總管社寺ノ調査身分上ノ處分民産豊否等ヲ収録シ及災變ニ罹リ流亡セシ人畜土地家屋ヲ調査スル等ノ事務ヲ掌ル

褒典課

一切褒賞ノ事務及養老扶持等ノヲ掌ル

救育課

救育所病院及天災變禍不時救助ノ事務ヲ掌ル

慈惠ノ建設ヲ保護スルノ事務ヲ掌ル

此章程中他日増損ヲ要スルコトアルハ卿ノ裁制ニ依ルヘシ

右戸籍寮職制及事務章程上裁ヲ經テ決定スル處ナリ各員能ク之ヲ守リ其程限ヲ愆ルナカレ

月 日

内 務 卿

戸籍寮中要領事務ヲ本  
省ニ屬ス

八年八月日編纂務順序  
定ム

戸籍寮中要領事務ヲ本  
省ニ屬ス

八年九月二十五日編纂  
務其他戸籍ニ關スル宜興  
事務ヲ管ス

戸籍寮處務順序

九年一月二十九日戸籍寮  
事務章程ヲ改正ス

第十九條 寮中要領ノ事務分テ左ノ三課トス

戸籍課

一切戸籍ノ總管社寺ノ調査身分上ノ處分民産豊否等ヲ収録シ及災變ニ罹リ流亡セシ人畜土地家屋ヲ調査スル等ノ事務ヲ掌ル

褒典課

一切褒賞ノ事務及養老扶持等ノヲ掌ル

救育課

救育所病院及天災變禍不時救助ノ事務ヲ掌ル

慈惠ノ建設ヲ保護スルノ事務ヲ掌ル

此章程中他日増損ヲ要スルコトアルハ卿ノ裁制ニ依ルヘシ

右戸籍寮職制及事務章程上裁ヲ經テ決定スル處ナリ各員能ク之ヲ守リ其程限ヲ愆ルナカレ

月 日

内 務 卿

戸籍寮中要領事務ヲ本  
省ニ屬ス

八年八月日編纂務順序  
定ム

戸籍寮中要領事務ヲ本  
省ニ屬ス

八年九月二十五日編纂  
務其他戸籍ニ關スル宜興  
事務ヲ管ス

戸籍寮處務順序

九年一月二十九日戸籍寮  
事務章程ヲ改正ス

編纂課ヲ置ク

戸籍局局務纂要節錄 八年五月五日

戸籍寮中褒典ノ事務ヲ本省ニ轉屬ス

戸籍寮處務順序 八年八月日開

第一章

一本寮中事務ヲ部分シテ四課トス則戸籍救育編纂庶務各課ソノ管掌ノ事務ヲ辨理セシム

第二章

一院省使府縣等ヨリ來ル諸公文ハ最初本省ニ於テ一切之ヲ受ケ大少丞檢閱ノ上當寮ニ關スルモノハ順序ヲ經テ頭之ヲ領收シ頭缺席スルハ庶務課ニ命シテ其件名及題號月日ヲ簿冊ニ詳記セシメ直ニ各課長ニ分付シテ每件證印ヲ徵ス可シ

但至急ヲ要スル事件或ハ其事柄ニ依リ頭ヨリ上局ヘ具狀シ或ハ各課主任ヘ直ニ命スルコトアルヘシ

第三章

一各課長ハ則頭ヨリ領收スル諸公文ヲ檢閱區分シ其緩急順序ヲ量リ課中適宜ニ之ヲ分賦シ各課限リノ簿冊ニ每件受付セシモノ、檢印ヲ證スヘシ

但各課長ヨリ時々其主任ヲ督促シ事務ノ延滞ナカラシムヘシ

第四章

一各課主任ニ於テモ簿冊ヲ製シ置キ之ニ一々其件名及月日ヲ登記シ然ル後其事件定例アルハ其例ニ照準シ漸々之カ回議ヲ起草シ但受付セシ日ヨリ凡七日間ヲ限リ課中檢印ヲ乞フヘシ尤モ其回議ハ順次檢印了テ直ニ各課長ニ呈スヘシ

但其時々各自ノ簿冊ヘ回付セシモノ、證印ヲ取り置キ他日錯亂ノ患ナカラシムヘシ

第五章

一金穀ニ關スル事件ハ第一類等ノ手續ニ從ヒ其回議ヲ起草シ干渉スル寮局ヘ合評スヘシ

但大藏省合評ノ雛形或ハ傳票通知等ノコトニ至テハ處務參考事類ニ從フヘシ

第六章

一凡ソ定例ナキ事件ニテ正院何ヲ經ヘキモノハ其稟議ヲ添テ回議ヲ起草スヘシ

第七章

但頭助ノ命ニヨルカ或ハ命ナキモ其事柄ニ依リ編纂課ヘ合議シ又ハ同課ニ於テ直ニ起草スルコトアルヘシ



一頭限り決判ノ後卿ノ各ヲ以テ往復又ハ指令スヘキノ回議其他書面中不分明等ノ廉有之照會推問ノ事

件ハ何レモ決判ノ後庶務課ニ回付シテ傳達セシムヘシ  
但卿ノ各ヲ以テ指令又ハ往復スヘキモノハ都テ本省ニ於テ淨書シ頭ノ各ヲ以テ處分スヘキモノ而  
已庶務課ニ於テ直ニ之ヲ淨書傳達セシム尤之ヲ淨書スル并訛謬誤脱ハ補正スヘシト雖行文ノ可  
否ニ至リテハ論スヘカラス

第八章

一諸回議決判ノ後順序ヲ經テ主任ニ戻ラハ各自ノ簿册ヘソノ月日ヲ記入シ原書ヲ添テ庶務課ニ回付シ  
指令往復等ソノ手續ニ從ヒ傳達セシムヘシ

但各主任ノ簿册毎件既濟未濟ヲ明瞭ニシテ他日稽緩見易カラシムヘシ

第九章

一諸回議處分濟騰寫了テ第二局ヨリ回送アラハ庶務課ニ於テ之ヲ受ケ件名簿ニ記載シテ直ニ編纂課ヘ  
送ルヘシ

但編纂課ニ於テハ每件其部類ヲ分テ漸々編輯シテ他日參考ノ便ヲ要スヘシ

第十章

一諸回議中至急ヲ要スル事件ハ其回議面ヘ赤紙ヲ貼スヘシ尤ソノ事柄ニ依リ時限ヲ爭フカ如キモノハ  
主任自ラ其回議ヲ持參シ事情ヲ述テ直ニ檢印ヲ乞フヘシ

第十一章

一諸回議中各課或ハ他家 異見有之トキハ相互ニ其主任ヘ面談シ可成符箋ヲ貼セサル様ソノ事理ヲ辯明  
スヘシ尤ソノ事柄ニ依リ相互ニ辯明シ難キモノハ處務參考事類ニ照準空シク時日ヲ費スヘカラス

第十二章

一院省往復ノ文書或ハ府縣申牒ノ書類ハ都テ延滞ナカラシメンカ爲メ既濟未濟ヲ詳ニシ月表及日表  
凡一週日ヲ一ヲ製シテ頭ノ一覽ニ供スヘシ

但本省ヨリ毎月三回稽緩目錄ヲ以テ照會アラハ其都度速ニ其頭末ヲ具狀スヘシ

第十三章

一凡ソ他方ノ官員ニ接待諮問スルハ頭助之ニ任スヘキモノト雖頭助ノ指揮ニ依リ屬官之ニ接待諮問ス  
ルヲアルヘシ

第十四章

一凡ソ他方ノ官員來リテ請謁ヲ乞フ仕丁ヨリ其名刺ヲ取り請謁ノ本員ニ達シ應接所ニ出テ接待スヘ  
シ

第十五章

一御用柄ニヨリ他方ノ官員呼出スヘキキ奏任以上ハ本省ヨリ達シ判任以下ハ頭ノ各ヲ以テ庶務課ヨリ  
直ニ達書ヲ出スヘシ尤其時々呼出帳ニ其事柄ヲ概記シ頭助ノ檢印ヲ乞フテ後庶務課ニ回付シ執レモ  
書式ニ倣ヒ傳達セシムヘシ

第十六章

一公布日誌其他板本ノ類都テ本省ヨリ回送アラハ庶務課ニ於テ之ヲ受ケ直ニ頭助ノ一覽ニ供シ後部類  
ヲ分チ漸々編輯シテ後考ニ便ナラシムヘシ

但各課事務上關係ノモノハ頭助一覽ノ後庶務課之ニ回文ヲ添テ各主任ヘ順覽セシメ而後編輯スル  
ヲ本文ニ準スヘシ

第十七章

一諸規則及諸法令ヲ扣除更正シ或ハ新ニ立制スル等ノ事件ハ編纂課ニ於テ擔任スヘキト雖各課主任ニ  
於テモ其利害得失ヲ辯論シ各自協議スルヲ要スヘシ

但其事柄ニ依リ臨時會議ヲ開クヲアルヘシ尤其順序ハ編纂課議會略則ニ從フヘシ

第十八章

一編纂課ニ於テハ叢典類纂及月報年報臺帳其他既濟ノ事件ハ漸次ニ之ヲ編輯シ後考ニ便ナラシムヘシ



但事務ノ繁閑ニ依リ寫字生ヲ指揮シ或ハ能否勤惰ヲ視察増減スル等都テ寫字生規則ニ準スヘシ

第十九章 一 寮中官員ノ月給及旅費公費或ハ寫字生ノ給料其他諸需用品ニ至ルマテ庶務課ニ於テ之ヲ受與シ一箇月毎ニ審明ナル勘定帳及月表年表等ヲ製シ卿輔及頭助ノ一覽ニ供シ後之ヲ編輯シテ員數見易カラシムヘシ

第二十章 一 毎朝出勤ノ時限ハ本省ヨリ布達アル時限ヲ愆ルヘカラス  
但出勤ノ上直ニ頭ノ前ニ於テ名簿ニ押印スヘシ

第二十一章 一 寮中官員一身上ノ諸願伺届奏任以上ハ本省ニ出スヘシ尤判任以下ハ頭ニ呈シ檢印ノ後庶務課ヨリ本省ニ進達スヘシ

但諸願伺届ノ書式ハ處務參考事類ニ照準シ孰レモ調印ノ上差出スヘシ尤判任以下所勞届ノ如キハ頭檢閱ノ後庶務課ニ於テ之ヲ一括シ毎日出勤簿ヲ調査シ公勤表ヲ製シテ卿輔ノ一覽ニ供スヘシ

第二十二章 一 各地ニ派出スル官員歸京ノ上百里外ハ三日五十里外ハ二日二十五里外ハ一日ノ休暇ヲ賜フヘシ  
右之通概畧其順序ヲ定ムルト雖モ他日事務ノ變革アラハ又増減スルコトアルヘシ

戶籍局局務纂要節錄 八年九月二十五日  
濟貧恤窮其他戶籍ニ關スル賞與ノ事務ヲ本寮ノ主管ニ復ス

戶籍寮事務分課取扱概則 八年十月三日  
戶籍課

戶籍寮再ヒ整理事務ヲ管ス  
戶籍寮事務分課取扱概則  
九年一月二十九日戶籍寮事務章程ヲ改正ス

一 全國ノ戶籍職分寄留等ノ員數ヲ調査シ或ハ區畫區戶長ノ廢置脱籍無籍復籍行倒人華士族合分家貫屬替其他婚姻繼嗣分産養子或ハ舊神官僧尼編輯等ニ至ルマテ總而士民身分上戶籍ノ事ニ關スル條件ハソノ利害得失ヲ考查審案シ官省往復府縣ヘ布達指令照會等ノ文書ヲ起草スルコトヲ掌ル

救育課

一 震火風水等總テ非常ノ變災ニ罹ル救助米金小屋掛料農具代ノ貸下及棄兒ノ養育或ハ癡疾ヤ病權害怪我人終身扶助米手當其他農用牛馬ノ死失或ハ濟貧恤窮ノ者等ヘ賞與ノ事ニ至ルマテ總而救育ノ事ニ關スル條件ハソノ利害得失ヲ考查審案シ官省往復府縣ヘ布達指令照會等ノ文書ヲ起草スルコトヲ掌ル

編纂課

一 本寮ノ事務ニ關スル諸規則法令ヲ改正増補シ或ハ新タニ立制スル等ノ事及ヒ諸申牒ノ内異例ノモノ等ソノ利害得失ヲ商議考案シ其他歐米各國ノ成範定規ヲ和譯シ及寮典類纂ノ編纂或ハ諸決議ノ文書ヲ謄寫部分シ詳明ナル月報月表ヲ製シ或ハ各寮局ヨリ合評アル回議文書ヲ輯録シ後考ニ便ナラシムル等ノ事ヲ掌ル

庶務課

一 院省使府縣ノ文書ヲ受付シ之レカ往復照會指令等ヲ淨書シ或ハ各府縣ヨリ戶籍救育ノ事ニ付請求スル金穀ノ傳票通知及諸申牒受付ノ件數既濟未濟ヲ調査シ其他寮中ノ公費各官員ノ月給旅費或ハ諸需用品鑑札等ノ受取渡其他公布日誌布達等ヲ編輯シ參考ニ便ナラシムル等ノ事ヲ掌ル

戶籍寮ヨリ第二局ヘ回答 八年十月三日  
客月二十七日附ヲ以テ御掛合有之候當寮處務順序ノ儀ハ別冊ノ通施行致居候得共尙實際ノ便否ニ據リ追テ正定ノ上上陳可致積ニ候且又此外ニ處務參考事類等モ有之候條御入用ニ候ハ、御廻シ可申此段モ爲念申添候也

戶籍寮職制章程 九年一月二十九日

戶籍寮ハ戶數人員ヲ調査シ人民身分上及ヒ民産ニ關スル等ノ事ヲ掌ル處其事務ヲ支分シテ四課ト爲ス

戶籍寮職制章程改正  
九年四月御告第百七十七號ヲ以テ寮ヲ廢シ局ト爲ス



戸籍課 民産課 編纂課 庶務課

職制

第一 本寮ノ諸官員ヲ指揮シ寮中一切ノ事務ヲ管理シ以テ戸籍人員ヲ調査シ人民身分上及民産ニ關スル事等ヲ掌ル

第二 寮中諸官員ノ勤惰ヲ監視シ其事務ヲ獎督シ能否ヲ識別シテ其黜陟ヲ要スルハ之ヲ卿ニ具狀ス

職掌責任頭ニ亞ク

助

頭ノ職掌ヲ助ケ頭事故アルトキハ一切ノ事務ヲ代理スルヲ得

權助

職掌助ニ亞ク

大屬 權大屬 中屬 權中屬

少屬 權少屬 史生 寮掌

事務章程

寮中ノ事務ヲ大別シテ上下二款トナス其上款ハ頭意見ヲ具シ卿ノ議判決定ニ據リテ施行スルモノトス其下款ハ頭委任ノ權ヲ以テ決判施行スルヲ得

上款

第一條 戸籍ノ法ヲ更正シ人民ノ族類身分ヲ處分シ及ヒ之カ例規ヲ定ムル事

第二條 人民ノ財産ヲ處分シ又ハ其規則ヲ制定釐革スル事

第三條 棄兒迷子養育ノ規程ヲ更正スル事

第四條 區畫ヲ更正スル事

第五條 區戸長ノ職制ヲ制定更正スル事

十一年七月三日地方區畫ノ事務ヲ地理寮ニ屬シ區戸長職制ノ事務ヲ内局ニ屬ス

- 第六條 脫籍歸籍ノ徒ヲ處分シ又ハ其規則ヲ釐正スル事
- 第七條 寮中各課ヲ廢置分合スル事
- 第八條 本寮掌管ノ事務ニ於テ府縣ニ指令布達又ハ院省使等ニ稟議照會スル事
- 第九條 寮規外ノ事件ヲ處分スル事
- 第十條 定額外ノ物品ヲ購求スル事
- 下款
- 第十一條 非常ノ災變ニ罹リシ人畜家屋ヲ調査スル事
- 第十二條 使府藩縣上達ノ戸籍表ヲ檢査シ完全ノ一覽表ヲ製スル事
- 第十三條 人民ノ財産ヲ調査シ完全ノ一覽表ヲ製スル事
- 第十四條 寮規ニ照據ノ事件ヲ處分スル事
- 第十五條 本寮掌管ノ事務ニ於テハ頭ノ名ヲ以テ府縣へ推問督促照會シ又ハ院省使等ノ推訊疑問ニ據リ之ヲ説明回答スル事
- 第十六條 本寮掌管ノ事務ニ於テ各寮局課等ニ交渉スルモノハ每事合議處分スル事
- 第十七條 寮中ノ簿書類纂整頓スル事
- 第十八條 寮中官員ノ俸給旅費等一切ノ諸費各其部類ヲ分チ毎月毎歲計表ヲ製スル事
- 第十九條 寮中一切ノ事務各部類ヲ分チ月報年報ヲ製スル事
- 第二十條 寮中一切ノ費用ハ簿冊ニ詳録シ每件頭ノ檢印ヲ以テ之ヲ證スル事
- 第二十一條 各課ノ官員ヲ左右交替スル事

内務省ヨリ戸籍局へ達 九年四月十七日 其局處務順序ノ義ハ適宜掛ノ名ヲ以テ各項ヲ分チ事務取扱候儀ト可相心得此旨相達候事

戸籍局事務適宜掛ノ名ヲ設ケシム  
戸籍局ハ本寮ヲ屬シテ設ケル事  
九年九月一日開局事務ノ部ニ載ス  
定メ十年一月一日開局事務規程ヲ設ク



戸籍局事務章程  
十四年二月十日事務章程  
ヲ定ム

戸籍寮ヨリ庶務局へ回答 九年八月七日  
當局事務章程御送致可致旨御掛合ノ趣致承知則別冊御送致申候右ハ舊戸籍寮ノ事務章程ニ候ヘトモ諸  
事右ノ章程ニ據リ事務取扱候義ニ付左様御承知有之度候也  
追テ別冊御一覽濟御返却有之度此段申添候也

戸籍局處務順序 九年九月日閣

戸籍局處務順序  
十八年六月二十五日本省  
處務條例ヲ定ム本省ノ部  
ニ服ス

第一章

一 院省使廳府縣ヨリ内務卿宛ニ來ル一切ノ文書ハ皆本省ニ於テ之ヲ受ケテ大少丞檢閱ノ上戸籍ノ事務ニ  
關スル者ハ往復課ヲ經由シテ局長之ヲ領取シ局長缺席ノトキハ補之ヲ代理ス直ニ庶務掛ニ命シテ簿冊ニ其件名番號  
月日ヲ登記セシメ乃チ補ニ交付シテ證印ヲ徴ス  
但重大ノ事件カ或ハ至急ヲ要スルモノハ局長直ニ卿輔ニ具狀シ又ハ主任ニ命シテ即時調査セシム  
ルコアルヘシ

第二章

一 院省使廳府縣寮局課等ヨリ當局宛ニ來ル文書ハ局長直ニ之ヲ領收ス局長缺席ノトキハ補之ヲ代理ス庶務掛ニ命シテ  
簿冊ニ其件名番號月日ヲ登録セシメ乃チ補ニ交付シテ證印ヲ徴ス  
但同上

第三章

一 補ハ局長ヨリ受ケタル諸文書ヲ檢閱シ其事ノ緩急順序ヲ量リ適宜ニ各主任ヘ分附シテ調査セシムヘ  
シ

第四章

一 各掛主任ハ長補ヨリ受ケタル諸文書ヲ調査シ例ニ照ラシテ回議案ヲ作り 此間五日ヲ過クヘカラス尤  
重大ノ事件カ或ハ大部ノ文  
但補ハ時々其主任ヲ督促シ事務ノ澁滞ナキヲ要ス

書ニシテ調査數日ニ涉ルモノハ別帳  
ニ共事故ヲ記載シ長補ニ差出スヘシ該掛組合ノ者ト商議シ組合ノ内一人之ヲ調査シ直ニ補ニ差出ス  
ヘシ

第五章

一金穀受納ニ關スル事件ハ其事ノ關涉スル省寮局課ヘ合議シ後チ庶務掛ニ於テ傳票通知等其書式ニ倣  
ヒ之カ手續ヲナスヘシ

第六章

一 諸回議ノ内至急ヲ要スル者ハ赤紙ヲ貼スヘシ尤瞬時モ忽ニスヘカラス至急ノ者ハ主任自ラソノ回  
議ヲ持參シテ其先々ニ就テ直ニ檢印ヲ乞フヘシ

第七章

一 諸回議ノ中卿輔決判ヲ乞フヘキモノ及他寮局課等ヘ合評スヘキ者ハ局長補決判ノ後庶務掛ヘ下附シ  
庶務掛之ヲ簿冊ニ記シテソノ向々ヘ回送ス然後七日ヲ待テ決判無之モノハ補ニ具狀スヘシ其事柄ニ  
因リ補若クハ局長ヨリ直談スルカ又ハ主任ニ命シテ催促セシムルコアルヘシ

第八章

一 諸回議決判濟各主任ヘ戻ラハ原書ヲ添テ庶務掛ニ送り庶務掛ニ於テ之ヲ淨書シ正院伺又ハ指令照會  
推問等其原文ニ從ヒ傳達スヘシ其後正院伺ハ三十日ヲ待テ指令無之各地方官ヘ照會推問ノ類ハ往復  
日數ノ外十五日ヲ過キ回答無之者ハ孰レモ其手續ニ從ヒ催促ヲナスヘシ故ニ庶務掛ニ於テハ時々其  
日數ヲ調査シ粗漏ナカラシムヘシ

第九章

一 他省寮局課ヨリ合評ノ回議來ラハ主務ノ掛申合速ニ謄寫シ後一人調印シテ補ニ出スヘシ尤至急ノ事  
件カ或ハ大部ニシテ即時謄寫シ難キ者ハ要再回ノ印ヲ押シ決判處分ノ後全文又ハ其要旨ヲ謄寫スル  
コアルヘシ  
但其回議書中異見有之トキハ一應立案ノ主任ヘ面談ノ上懇切ニ其當否ヲ辯明スヘシ若シ辯論ニテ



決シ難キトキハ局長ニ具申シ指揮ヲ乞テ付箋スヘシ

第十章

一 諸規則ヲ更正増補等編纂掛ニ於テ草案スル者ハ各掛ノ主任ニ於テモ其利害得失ヲ辯論商議スルヲ要ス

第十一章

一 諸回議處分濟圖書局ニ於テ謄寫ノ上回送アラハ庶務掛之ヲ受ケ簿冊ニ記入シ編纂掛ニ送り同掛ニテ各部類ヲ分チ逐次之ヲ編輯保存シ或ハ年報計表等式ニ依テ編製スルヲ要ス

第十二章

一 府縣申牒ニ添ヘタル規則或ハ圖表等其府縣ニテ刊行セシ類後日ノ參考ニ備フヘキ者ニシテ局ニ存スヘキ副本ナキトハ主任ヨリ局長ニ稟シ局長ヨリ地方官ニ徵求シテ之ヲ編存シ置クヘシ

第十三章

一 謄寫スヘキ書類アリテ寫字生ヲ要スルトキハ其主任ヨリ局長ニ申立テ局長ヨリ庶務掛ニ命シ寫字生ヲ雇ハシメ書寫ノ用ヲ辨スヘシ

第十四章

一 毎月三回稽緩目錄ヲ以テ未濟ノ件々本省ヨリ照會アラハ庶務掛ニ於テ其件名ヲ突合せ或ハ各主任ニ就テ既濟未濟ヲ督問シ明瞭ニ其事由ヲ記入シテ速ニ回答スルヲ要ス

第十五章

一 各員主務ノ擔任アリト雖モ事務ノ繁簡ニ依リテハ互ニ補助協力シ局事ノ整頓ヲ謀ルハ勿論ニシテ或ハ事務ノ都合ニヨリ手透ノ事等有之節ハ速ニ長補へ申出ヘシ

第十六章

一 御用柄ニヨリ地方ノ官員ヲ呼出スヘキモ奏任官以上ハ本省職務掛ニ申出テ傳達セシメ判任官以下ハ呼出帳ニ其事由ヲ概記シ局長ノ檢印ヲ乞フテ後庶務課ニ付シテ傳達セシム

第十七章

一 凡ソ他方ノ官員ト應接諮問スルハ長補之ニ任スヘキ者ト雖モ長補ノ指揮ニ依リ屬官之ニ應接諮問スルコトアルヘシ

第十八章

一 凡ソ他方ノ官員來リテ面謁ヲ乞フコトアルアラハ<sup>仕丁</sup>給仕<sup>其名刺ヲ取り請謁ノ本員ニ達シ應接所ニ出テ面接スヘシ</sup>

第十九章

一 局中器具物品等都テ本局ニ屬スルモノハ諸務掛ニ於テ之ヲ調査シ每事局長ノ檢印ヲ受ケテ後仕拂フヘシ

第二十章

一 但其仕拂タル物品等ハ毎月毎一年ト區分シ仕拂帳及年報等ヲ製スヘシ

第二十一章

一 局中諸官員ノ願伺届ハ奏任官以上ハ本省ニ上達シ判任官以下ハ無宛ニテ直ニ局長ニ呈シ局長之ニ添翰ヲ附シ<sup>届書ハ添翰ニ及ハ</sup>諸務掛ニ命シテ本省職務掛へ差出サシムヘシ

第二十二章

一 毎朝出勤ノ時限ハ本省ヨリ布達アル定限ヲ愆ルヘカラス尤各自出勤ノ上局長ノ前ニ於テ出勤簿へ捺印スヘシ

第二十三章

一 但事務繁劇ノ時ハ定刻ニ拘ハラズ早ク昇省シ遅ク退省シテ事務ノ速ニ整理スルヲ要スヘシ平常共退省ノ時限ニ及フト雖モ長官ニ先テ退出スヘカラス尤長官別用アリテ退出セサルトキハ其旨ヲ達シ退出セシムヘシ

戶籍局分務規程

戶籍掛

議案 計算

戶籍局分務規程  
十一年三月二十六日各掛  
ヲ收區ス

十一年一月廿四日



十一年七月三日地方區畫事務ハ地理院ニ屬シ區戶長稱制事務ハ内局ニ屬ス

- 民産掛
- 議案
- 編纂掛
- 立案
- 校正
- 年報
- 編冊
- 諸務掛
- 書記
- 受付
- 一掛中分掌ヲ設ケ類ニ依テ事務ヲ分別シ各其責任ヲ守リ錯雜ナキヲ要ス依テ處務ノ規程ヲ立ル左ノ如シ
- 戶籍掛
- 議案
- 一戶籍式例ヲ訂正スル事
- 一區畫制置區戶長職制等ヲ考定スル事
- 一人民族籍ノコヲ處分スル事
- 一婚姻繼嗣養子其他人民ノ身分上ノコヲ處分スル事
- 一全國人民ノ職業ヲ調査スル事
- 一無祿華士族ノ人員ヲ取調ル事
- 一棄兒迷兒養育料等ヲ調査スル事
- 計算
- 一戶籍及總計算表ヲ調査スル事
- 一毎年一月一日調ノ戶籍職分寄留表ヲ計算シ詳明ナル全國戶籍表ヲ編製スル事
- 一死亡表ヲ調査シテ前年比較ノ表ヲ製スル事
- 民産掛

議案

- 一人民ノ財産ニ關スル事務ヲ處分スル事
- 一人民ノ財産ヲ調査スル事

編纂掛

立案 校正

- 一諸規則法制ニ關スルコヲ立案及ヒ校正スル事
- 一諸申牒及回議等異例ノ者ハ局長ノ指揮ニ依テ調査スル事
- 一衆議ヲ要スヘキ事件ハ局長ノ指揮ニ依テ臨時局會議ヲ起シ其事ノ當否ヲ論定スル事 局會議規則別冊ニアリ省ク

年報 政表

- 一局中掌管事務既往ノ成跡ヲ陳ヘ現今ノ實況ヲ詳ニシ將來ノ形情ヲ考ヘ年報書ヲ編製スル事
- 一全局戶口増減比較表回議文書増減比較表官員増減比較表諸經費増減比較表等年報ノ諸表ヲ編製スル事

編冊

- 一正院ヨリ達セラレタル政表ノ調當局主管ニ屬スル者毎年調製シテ圖書局ニ回送スル事
- 一諸官省布告布達及本局處分ノ事件成規定例トナルヘキ者ハ其部目ヲ類別シテ之ヲ内外兩編ニ纂收スル事

- 一諸回議處分濟騰寫ノ分ハ各其部類ヲ區別シ逐次之ヲ編輯スル事

- 一布告布達日誌其他一切ノ書類ヲ類別保存シ參照ニ便ナラシム

諸務掛

書記 受付

- 一局中處務ノ諸規則ヲ改正又ハ増補シ或ハ省中ノ布達ニ就テ處務參考書類ヲ編製スル事
- 一諸申牒ヲ受付シ之カ件銘ヲ簿冊ニ記入シ各掛ニ授與スル事



- 一 諸回議決判ノ後指令照會達文等ヲ淨書シ該官ヘ傳達スル事
- 一 公布日誌其他諸公文ヲ受付シ諸回達ヲ謄寫シ又ハ之ヲ順達スル事
- 一 局中職員ノ履歷ヲ集録スル事
- 一 局中官員ノ諸願同届ヲ受付シ或ハ之ヲ上達スル事
- 會計 傳票
- 一 本局定額金ノ出納ヲ詳細ニシ之カ勘定帳ヲ製スル事
- 一 局中官員ノ月給旅費其他器具物品等受取渡シヲ扱フ事
- 一 諸申牒ノ内金穀ニ關スル傳票通知ヲ取扱フ事

戸籍局局務纂要節錄 十一年三月二十六日  
 戸籍局二戸籍以下ノ四掛ヲ置ク  
 十二年一月三十一日各掛ヲ改置ス

戸籍局局務纂要節錄 十一年七月三十日  
 戸籍局局務纂要節錄 十二年一月三十一日  
 從前主管ノ事務中府縣會ノ事務ヲ庶務局ニ地方區畫ノ事務ヲ地理局ニ區戶長職制ノ事務ヲ内局ニ分屬ス(回達文各局ノ部ニ載ス)

戸籍局中各掛ヲ改置ス  
 十三年十二月二日分任概則ヲ定ム

戸籍局事務分任概則  
 十五年六月六日更正分任假則ヲ定ム

第一條 本局ノ事務ハ左ノ掛ニ於テ分管主查スヘシ  
 校案掛 人事掛 財產掛 戸籍掛 編纂掛 諸務掛

- 第二條 校案掛ハ各掛ニ於テ主查シタル議案ヲ校閱檢視スヘシ
- 第三條 人事掛ハ出產死亡婚姻養子女家名相續族籍失踪後見親族稱呼其他人事ノ身上ニ關スル事務ヲ主查スヘシ
- 第四條 財產掛ハ財產相續契約賣買貸借質入書人其他人民ノ財產ニ關スル事務ヲ主查スヘシ
- 第五條 戸籍ハ戸籍掛簿式加籍除籍戶口總計遞送入棄兒其他戸籍ニ關スル事務ヲ主查スヘシ
- 第六條 編纂掛ハ本局ノ管掌ニ屬スル法規ヲ纂輯シ年報ヲ編撰シ稟議質問決議ノ事件ヲ編冊シ其他局中ノ書籍ヲ主管スヘシ
- 第七條 諸務掛ハ諸公文受付記録謄寫其他局中一切ノ雜務ヲ主管スヘシ
- 第八條 各掛ニテ專任主查スヘキ事務ハ掛中ノミ捺印スヘシ
- 第九條 數掛ニ關涉スル申牒ハ首件ノ掛ニテ主查シ關係ノ掛ニ合評スヘシ
- 第十條 主查ノ掛定リタル事務ト雖モ局長ヨリ特ニ某掛又ハ某員ニ主查又ハ起草ヲ命シ又ハ其意見ヲ問フコトアルヘシ

内務省ヨリ戸籍局ヘ達 十四年二月九日  
 從來庶務局ニ於テ取扱候賞典及救助慈惠ニ係ル事務并舊警視局中軍籍掛ニ於テ取扱候從軍ノ警察吏賞典扶助等ノ事務共自今總テ其局所管ト相定候條警視廳庶務局ヨリ可謂取此旨相違候事

- 戸籍局處務規程 十四年二月十日
- 本局主管ノ事務左ニ列記スルモノ局長其意見ヲ具シ卿ノ決判ヲ受ク
  - 第一條 戸籍ノ整理及其統計表ノ事
  - 第二條 族籍姓名變更ノ事
  - 第三條 家名ノ興廢分合ノ事

戸籍局賞典及救助慈惠ニ係ル事務ヲ管ス  
 十八年六月二十五日賞典事務ヲ總務局第一部門ニ屬ス

戸籍局處務規程  
 十八年六月二十五日處務規程ヲ定ム



- 第四條 親屬稱呼家督相續婚姻養子女等身分ノ事
- 第五條 後見人及代人ノ事
- 第六條 失踪逃亡者棄兒迷子復籍人及行旅病人倒死人ノ事
- 第七條 内外國人轉籍ノ事
- 第八條 服忌ノ事
- 第九條 財産ノ相續贈遺契約貸借遺囑等ノ事
- 第十條 民有地々券等ノ授與并土地建物賣買讓渡質入書入ノ事
- 第十一條 賞典賞與ノ事
- 第十二條 賑恤救窮ノ事
- 第十三條 陸海軍恩給扶助退隱料ノ事

○此處務規程ハ内局ノ起草ニ止マリ未タ實施ニ至ラサルモノナレトモ十六年十一月内閣ノ請需ニ應シ  
 卿輔ノ決判濟ノ上内閣ヘ差出シタル由職務課ヨリ傳聞セリト云

戸籍局事務分任假則

十八年六月二十五日總務  
條例ヲ定ム

戸籍局事務分任假則 十五年六月六日

當局事務分任假則并掛員別紙ノ通相定候條此旨相達候事

- 戸籍掛 賞惠掛 編纂掛 諸務掛
- 第二條 戸籍掛ハ人民ノ身分財産及戸籍ニ關スル事ヲ掌ル(第一條ヲ關キタルハ)
- 第三條 賞惠掛ハ褒賞恤救及陸海軍恩賜ニ關スル事ヲ掌ル
- 第四條 編纂掛ハ年報製表及簿書編纂ニ關スル事ヲ掌ル
- 第五條 諸務掛ハ文書受付謄寫及局中雜務ヲ掌ル
- 第六條 主管ノ事務ハ其掛中回議スヘシ
- 第七條 申牒等各掛ニ關スル事務ハ首件ノ掛ニテ擔理シ關涉ノ掛ニ合議スヘシ

第八條 主管ノ掛定リタル事務ト雖局長ヨリ特ニ他掛又ハ他員ニ調査ヲ命シ及其意見ヲ問フコトアル  
 ヘシ

戸籍局處務條例

十九年一月十六日局ヲ廢  
シ總務局中戸籍課ヲ置ク

内務省處務條例 十八年六月二十五日

戸籍局

長 一人 次長 一人

第一部

長 一人 課僚 若干員

- 一 戸口調査ノ事
  - 一 戸籍編製ノ事
  - 一 族籍姓名變換ノ事
  - 一 内外國人轉籍ノ事
- 第二部
- 長 一人 課僚 若干員

- 一 人民身分ニ關スル事
- 一 民有地所有權ニ關スル事
- 一 土地建物賣買讓渡質入書入公證ノ事
- 一 失踪逃亡者棄兒迷兒復籍人旅行病人行倒人及遺留財産處分ノ事

内務省ヨリ各局ヘ達 十九年一月十六日  
 本省中戸籍局ヲ廢シ候條此旨相達ス

戸籍局ヲ廢ス



各寮司職制章程下付マ  
テ總テ前規ニ依ラシム  
此月十五日事務章程ヲ假  
定ス

內務省ヨリ各寮司ヘ達 七年一月十日  
其寮司職制及事務章程追テ相渡候迄總テ從前ノ通事務取扱可申事

(備考)  
內務省第一次年報節錄  
勸業寮 爰ニ本寮ノ起原ヲ尋ヌルニ大政維新ノ後朝廷夙ニ民業ヲ勸メ物産ヲ開クヲ以テ時務ノ急トナ  
シ明治二年四月八日始テ民政部官ヲ置キ主トシテ開墾物産等ノ事務ヲ處辨セシメ五月三日官中更ニ開墾  
局ヲ設ケ六月二十三日民政部大藏兩省ヲ聯置シ以テ民政ヲ管理ス三年八月兩省分轄ニ際シ物産開墾種藝  
等ノ事務ヲ民政部ニ屬ス四年正月二十日大藏省通商司ノ主掌セル牧畜ノ事務ヲ以テ民政部ニ屬ス七月二十  
七日民政部廢セラレ大藏省中ニ勸業司ヲ置カル八月十日司ヲ陞セテ三等寮トナシ尋テ勸業ト改稱ス五  
年十月九日勸業寮ヲ廢シ始ラク共事務ヲ租稅寮ノ外部課中ニ屬シ幾クモナク勸業課ノ設ケアリ七年一  
月九日內務省中勸業寮ヲ置カレ以テ農工商及ヒ編纂ノ四課ヲ管理セシム

勸業寮事務章程 第七  
七年三月日閣議制章程ヲ  
定ム

勸業寮事務章程 七年一月十五日  
受付課

一本省録ヨリ受付スル總テノ文書ヲ受ル時ハ速カニ日月番號件銘ヲ記シ定例アルハ助權助ノ一覽ヲ經  
テ其主任ノ掛ヘ付送シ新規例格ナキハ助權助ノ指揮ヲ乞ヒ各掛ヘ付送シ或ハ錄ヘ返達スヘシ  
一各掛ニテ文書ノ處分案或ハ往復案ヲ草シ直ニ助權助ノ檢印ヲ受ケテ了テ此掛ヘ下付アルハ最初ノ件  
名ノ下ニ其月日ヲ注シ頭心得ノ檢印ヲ受テ本省ヘ出ル時ハ右ノ如ク其月日ヲ注シ廻議受付ノ錄ヘ  
送り御輔ノ檢閱ヲ乞フハシ  
但他寮ヘ廻送スヘキハ頭檢印ノ上順次其寮ヘ廻送スヘシ  
一本省檢印濟下付アルハ再ヒ其日月ヲ其草案ト件名簿ニ記シ助權助ノ一覽ヲ經テ淨書掛ニ送ルヘシ  
同掛ニ於テ本書ヲ淨書シ再ヒ此掛ヘ出サハ錄返達ス錄ニテ達濟ノ上其草案ヲ返送セハ其掛ヘ返達ス  
ヘシ  
一常ニ件名簿ヲ檢シ廻議遲滯スルハ其掛ヘ催促スヘシ若本省或ハ他寮ニ滯ルハ助權助ニ告ケ決議ス  
ヘシ

淨書掛

一各掛ニテ草シタル諸文書處分案及ヒ往復案都テ長官ノ檢印濟ヲ受付掛ヨリ付送スルハ速ニ之ヲ淨  
書シ其草案ト共ニ受付係ヘ返送スヘシ  
但臨時長官其他ヨリ囑スル諸淨書モ速ニ淨寫スヘシ

往復掛

一府縣屬官ノ呼出アルハ兼テ呼出帳ヲ製シ置キ其帳ヘ其主任ノ掛屬要旨ヲ摘記シ證印ヲ押シアレハ  
第十二時ヲ限リ助權助ノ一覽ヲ經テ左ノ書式ニ倣ヒ之ヲ淨書シテ其府縣ヘ送達スヘシ  
一長官及其他ヨリ諸局ヘ往復スルコトアレハ其由ヲ淨書シ速カニ之ヲ送達スヘシ

庶務掛

一官員錄ヲ製シ寮中諸員ノ願伺屆書ヲ長官ヘ執達シ且其命令ヲ傳致スヘシ  
一判任以下日々ノ出勤簿ヲ製シ置キ日々之ヲ披閱シ不參ノ由ヲ届出レハ其事故ヲ注記シ翌月ニ至リテ  
別ニ一帳ヲ製シ各員ノ姓名ヲ記シ其上ニ皆勤或ハ不參ノ日數ヲ注記シ頭助ニ呈シテ考課ニ供ス  
一寮中月々ノ經費官員ノ月給旅費ノ授受ヲ掌リ一箇月毎ニ其多寡ヲ決算シ計表ヲ作り頭助ノ檢印ヲ以  
テ之ヲ本省ニ進呈スヘシ  
一寮中一切需用ノ筆墨紙薪炭及諸器械ノ類ヲ用度及土木寮ヨリ受取リ且之ヲ配達給供ス  
一寮中破損ノ補理掃除其他一切ノ雜事ヲ通知シ仕丁給仕小使等ノ取締ヲ掌ル  
勸業寮ヨリ內務省ヘ同 七年一月十五日  
當寮事務章程御渡ノ上一般ノ處務條例ヲ作り取扱振相同候迄今日ノ現務ニ對シ姑左ノ通假定置度此段  
相伺候也

勸業寮職制

七年三月日閣

頭

寮中諸官員ノ首長ニシテ全國農工商ノ諸業ヲ勸勵實著盛大ナラシムルノ事務ヲ掌管ス

勸業寮職制章程  
八年九月二十四日閣議制  
程ヲ改正ス



寮中諸官員ノ所務ヲ指令シ各局分課ノ事ヲ幹理ス  
 寮中諸般ノ事務成規ト章程トニ照シテ之ヲ踐行修正スルニ於テハ卿ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有ス  
 掌管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シテ其當否ヲ論辯スルヲ得ル  
 各分局分課ヲ廢立更正シ又ハ其官員ヲ左右交替スル等ノ事アラハ卿ノ決判ヲ乞テ之ヲ處置ス  
 寮中諸官員ノ能否勤惰ヲ監視シテ之ヲ進退黜陟シ又ハ増減スル等ハ審案具狀シテ卿ニ呈シテ其決判ヲ乞フ

權頭

頭 欽席スルカ又ハ或方ニ派出シタル時ハ頭ノ代理タルヘシ  
 一課又ハ一局ヲ分テ之ヲ統管スルコトアレハ其課中ノ事務ヲ調理スルニ於テ卿ニ對シテ其責任ヲ有ス  
 但シ此時ニ於テハ課中ノ官員ヲ便宜指令シテ其處務ヲ修整セシムルヲ得

助

寮中各分局又ハ分課ノ事務ヲ擔當スルヲ掌ル  
 各掌管ノ事務ヲ整理スルニ於テハ頭ニ對シテ其責任ヲ有ス  
 權助

職掌責任助ニ亞ク

以上之ヲ委任官トス

大屬 權大屬 中屬 權中屬 少屬 權少屬

頭ノ指令ニ從テ寮中ノ事務ヲ處ス

以上之ヲ判任官トス

同事務章程

第一條 勸業寮ハ全國農工商ノ諸業ヲ勸獎確實盛大ナラシムル事務ヲ掌管スル所ナリ

第二條 凡勸業ノ當務ハ農工商從來ノ諸業ヲ倍々勸勵シ精巧盛大蕃殖牢實ヲ盡サシメ未曾有ノ業ハ其實地ノ効驗ヲ開示シ是レカ法則ヲ設ケ國民衣食濟生ノ器財金穀及諸物産都テ時勢ノ沿革ニ隨ヒ適宜ノ融通ヲ得各自ヲシテ其業ヲ專治セシメン爲メニ諸會社ヲ勸誘シ益全國天造人造ノ諸物産ヲ擴充スルヲ圖ルヘシ

第三條 凡勸業ノ事務ヲ處スル能ク其方法ヲ考究シ新ニ之カ規則ヲ定メ又ハ實務ヲ施行スル等豫シメ其時開化ノ度ト經費ノ多少ヲ算シ其盛業得失ノ目的ヲ定メ實際ニ施行シテ妨害ナキヲ商リ其法案ヲ具シ卿輔ノ決判ヲ取テ之ヲ處置スヘシ  
 第四條 勸業ノ道ヲ謀ルニヨリ或ハ便利ノ方ヲ授ケ或ハ有用ノ發明書ヲ出版シ或ハ農家有益ノ珍種ヲ分配スル等措畫ノ法案ヲ具シ可否ノ決ヲ卿ニ取ル可シ  
 第五條 地方ヨリ申牒シテ請問諮決スル事務既定ノ條例先格ニ照準シテ指令スヘキハ卿ノ名ヲ以テ之ヲ處置シ條規例格ナキハ考案ヲ具シテ卿ノ決判ヲ取リ之ヲ處置ス可シ  
 第六條 凡一切寮中ノ事務ニ依リ法則規程ヲ定メ或ハ例格トナルヘキ件ハ卿ノ決ニ依テ定ム可シ  
 第七條 地方官及ヒ其他ヨリ開墾牧畜製造貿商等諸會社ノ免許ヲ請フノ申牒ハ其事狀ト目的トヲ審明ニシ民害ヲ生セス官費ヲ要セサル者ハ一定ノ法則ニ憑準シ之ヲ準允スルヲ得ヘシ  
 第八條 農業學校及ヒ勸農會社ノ制度ヲ創定ス  
 第九條 諸工場建築人民健康上ニ害アルモノハ之カ法則ヲ草案シ之ヲ卿ニ申呈シ其指圖ニ由リテ之ヲ施行スヘシ  
 第十條 凡ノ國民一般有益ノ物品製造ヲ發明シ或ハ固有ノ物ト雖モ更ニ其精巧ヲ極メタル者アルトキハ之ヲ具狀シ卿ニ申呈シ指圖ヲ得テ褒賞スルヲ掌ル  
 第十一條 國民諸工藝發明ノ申告ヲ審理シ其具狀ヲ卿ニ呈シ其指圖ヲ得テ專賣免許特別免許等ヲ與フルニハ皆其成規定例ニ因ルヘシ  
 第十二條 勸農ノ道ヲ圖リ或ハ荒地開墾スル等ニヨリ利便ノ方法ヲ授ケ又ハ生殖ノ方法ヲ與フル等發



明説ヲ考索シ其原理ヲ推覈シ實効試驗ヲ經テ其事ノ正確ナルヲ徵シ其案算ヲ詳シ措畫ノ法案ヲ具シ  
 卿ニ申呈シ其指圖ニ由リ尙其所轄地方官ト協議シ之ヲ處置スヘシ  
 第十三條 諸會社ノ法則ヲ考索シ卿ニ申呈シ其指圖ニ依リテ之ヲ施行ス可シ  
 第十四條 凡ソ勸業ハ民權及ヒ其貨財ヲ保護シ拘束ノ弊ヲ除キ萬民ヲシテ寬裕安堵シテ各自其業ヲ勉  
 勵セシムルニ在レハ勤テ其障礙トナル者ヲ審察シ若シ其障礙ノ原由政法ニ在ル時ハ之ヲ改正スルノ  
 方法ヲ審案シ若シ其原由民間ニ在ル時ハ之ヲ救正スルノ方法ヲ策シ卿ニ申呈スヘシ  
 第十五條 農業興ヲス諸穀牧畜植物等蕃殖セサルアレハ其興蕃セサル所以ヲ調査詳明ニシ是レニ付テ  
 之ヲ興蕃セシムルノ方法ヲ審案シ卿ニ申呈スヘシ  
 第十六條 貿易商業衰凋スレハ其衰凋スル所以ヲ調査詳明ニシ之ヲシテ振起セシムルノ方法ヲ審案シ  
 卿ニ申呈スヘシ  
 第十七條 諸築建技藝工業等盛大ナラサルアレハ其所以ヲ調査シ之ヲシテ盛大ナラシムルノ方法ヲ審  
 案シ卿ニ申呈ス可シ  
 第十八條 勸農時宜ニ依リテハ夫食種穀農具代等ヲ貸與スル等ノ方法ヲ立預シメ卿ノ指圖ヲ受ケテ之ヲ  
 地方ニ施行ス可シ  
 第十九條 毎年農工商天造人造諸物品ノ多寡及其運轉海關輸入出物品ノ員數代價等一切ノ合算彼此較  
 計詳明ニシ來年勸業ノ目途ト爲スヘシ  
 第二十條 新ニ勸業ノ方法ノ設ケ及ヒ從前ノ規則ヲ改正スル等ハ其處分ノ案ヲ造リ卿ニ呈シテ其裁制  
 ヲ乞フ  
 第二十一條 凡ソ寮中掌管ノ事務他方ヘ指令布達スルハ都テ卿ノ名ヲ以テシ照會推問督促等ハ頭ノ名  
 ヲ以テ往復スルヲ得ヘシ  
 第二十二條 寮中諸書類簿冊ハ順次ニ之ヲ編纂シテ後考ニ便スルヲ要ス  
 第二十三條 本寮一切ノ事務毎件之ヲ集録シテ毎月毎三月毎一年ト之ヲ區分シ其事務ノ部類ヲ分テ詳  
 明ナル實務ノ考課狀及計表ヲ作リ之ヲ卿ニ呈ス  
 第二十四條 寮中官員ノ人名官祿俸給及寮中ニ屬スル公費旅費其他ノ諸雜費ハ毎月之ヲ集録シ計表ヲ  
 添テ卿ニ呈ス  
 但官錄旅費其他諸經費ノ請取方ハ本省用度ノ制度ニ準スヘシ  
 第二十五條 凡ソ寮中ノ諸費用及ヒ當務ニ關スル一切ノ經費出納簿冊ヲ製シテ詳明登記シ毎件頭ノ檢  
 印ヲ以テ之ヲ證ス  
 第二十六條 凡ソ寮中一切ノ事務ヲ司掌スルハ本省職制及ヒ事務章程ニ照シテ之ヲ處分シ施爲ノ際予  
 盾註誤ナキヲ要ス  
 第二十七條 此章程中他日増損ヲ要スルアレハ卿ノ決判ヲ乞テ便宜加除更正スルヲ得ヘシ  
 右勸業寮職制及事務章程  
 上裁ヲ經テ決定スル所ナリ各員能之ヲ守リ其程限ヲ愆ルナカレ

勸業寮職制及事務章程 八年九月二十四日  
 勸業寮ハ農工商ノ諸業ヲ勸誘スル事務ヲ管掌スル所ナリ

勸業頭何某殿

内務卿

勸農局 沿革 節錄  
 七年三月職制及事務章程ヲ立テ處務ノ順序ヲ示ス 農務課 新橋試驗場 本場内ニ設ケテ分科ハ 農學 編輯 明瞭 規  
 則及ヒ 餘則ハ 植物試驗 地假 餘則 場内 規 工務課 富岡製絲場 上田 同 武藏 深谷 同 原 商務課 編纂 課 受  
 付 往復 庶務 簿書ノ 四掛 及ヒ 寮頭 付書記 等トス

九年九月日勸業寮ノ詳  
 掛ヲ更正ス  
 勸業寮職制章程改正  
 九年一月十二日職制ヲ改  
 正文

職制  
 第一 本寮所屬ノ官吏ヲ管率シ内務卿ヨリ此職制ニ於テ委任サレタル權限ニ由リ章程ニ掲載スル事務



- ヲ擔當シ之ヲ稽查及處辨スルヲ得ヘシ
  - 第二 掌管ノ事務ニ於テハ卿ニ對シテ擔保ノ責任ヲ有シ其便否ヲ明辯スルヲ得ヘシ
  - 第三 掌管ノ事務ニ付推問督促照會通知ノ爲メ各省察及各地地方官ヘ文書往復シ或ハ便宜各人民ヘ直ニ推問督促スルヲ得ヘシ
  - 第四 寮中ニ限ル必用ノ條例定規ヲ草案シ卿ノ決ヲ乞テ之ヲ施行スルヲ得管率ノ判任官吏ニ委任ノ權内ヲ以テ一事務ヲ特任シ又ハ卿ニ乞テ各地方ニ派出セシムルヲ得ヘシ
  - 第五 元老院及地方官會議卿ノ命ニ由リ代理トシテ出席スルヲ得ヘシ
  - 第六 諸公文卿ノ決定ヲ請フト雖モ尋常ノ事件ニシテ處分上既定ノ例格アルモノハ之ヲ專決シ卿ノ名ヲ以テ施行スルヲ得ヘシ
  - 第七 定額内百圓以下及事務施設上卿ノ決ヲ受シ金額ハ便宜專決スルヲ得ヘシ
  - 第八 寮中判任官吏ノ進退及各課ノ廢置分合ハ卿ニ具請スルヲ得ヘシ
- 職掌責任頭ニ亞ク
- 助
  - 第一 寮中分課ノ事務ヲ調理治辨スルヲ掌ル
  - 第二 各課中ノ事務ヲ調理スルニ於テハ頭ニ對シテ其責任ヲ有ス
- 權助
- 職掌責任助ニ亞ク
  - 大屬 權大屬 中屬 權中屬 少屬 權少屬
  - 頭助ノ差圖ヲ受ケ寮中ノ事務ヲ分掌シ文書ヲ管守スルヲ掌ル
- 事務章程
- 第一條 農工商ノ事務ヲ試驗講究シ其利害得失ヲ開示スル事

勸業寮制章程改正  
 十年一月十一日察ヲ經シ  
 局ト爲ス本省分課事務ノ  
 部ニ並ス  
 十年三月二日勸業寮各課  
 場所事務章程ヲ定ム

- 第二條 農工商ノ習學場ヲ設立シ其業ヲ振起スル事
  - 第三條 物産ヲ蕃殖シ有無流通ノ便ヲ得セシムル事
  - 第四條 勸業必需ノ圖書ヲ出版シ及器具ヲ調整スル事
  - 第五條 諸會社ヲ處分スル事
  - 第六條 博覽會ノ事務ヲ處分スル事
  - 第七條 獵漁ニ屬スル事務ヲ處分スル事
  - 第八條 諸業ノ振起ヲ要スル爲メ資本ヲ給貸スル事
  - 第九條 術藝器械及製作物調和物等ヲ發明シタル者ヘ褒賞ノ特典ヲ與ヘ其權利ヲ保護スル事
  - 第十條 商賣品ノ號標ヲ保護スル事
  - 第十一條 物産ノ多寡及ヒ價格ヲ調査スル事
  - 第十二條 輸出入ノ物品ヲ較量シ貿易上ノ便益ヲ謀ル事
  - 第十三條 諸業ノ盛衰ヲ審查シテ之カ適度ヲ得セシムル事
- 內務省第一次年報節錄
- 八年九月二十四日寮中ノ規程ヲ盤革シ更ニ課ヲ設クル第一ヨリ第十二ニ至ル共第一課ハ庶務受付往復淨  
 世用度第二課ハ會社魚獵第三課ハ編纂報告表第四課ハ牧畜開墾農具第五課ハ植物虫魚種庫第六課ハ  
 學校農業博物館分析第七課ハ養蠶製絲製茶第八課ハ漆器陶器染工其他百工第九課ハ商業第十課ハ博覽  
 會ノ事ヲ分管シ課外ニ寮頭付書記ヲ置ケリ
- 內務省ヨリ勸業寮ヘ達 九年一月十二日
- 其寮職制及事務章程客歲授與候處其後職名増置及局課等釐革ニ因リ更ニ別冊之通改正候條最前相渡置  
 候分引換可中此旨相達候事
- 勸業寮職制及事務章程
- 勸業寮ハ人民ノ産業ヲ勸メ或ハ之ヲ保護スル等ノ事ヲ掌ル處其事務ヲ支分シテ十課トス
- 第一課 第二課 第三課 第四課 第五課 第六課 第七課 第八課 第九課 第十課



職制 頭

第一 本寮ノ諸官員ヲ指揮シ寮中一切ノ事務ヲ管理シ以テ農工商ノ諸業ヲ勸奨シ之ヲ保護スル事  
第二 寮中諸官員ノ勤惰ヲ監視シ其事務ヲ監督シ能否ヲ識別シテ其黜陟ヲ要スルハ之ヲ卿ニ具  
狀ス

權頭

職掌責任頭ニ亞ク

助

頭ノ職掌ヲ助ケ頭事故アルトキハ一切ノ事務ヲ代理スルヲ得

權助

職掌助ニ亞ク

大屬 權大屬 中屬 權中屬 少屬 權少屬 史生 寮掌

事務章程

寮中ノ事務大別シテ上下二款トナス其上款ハ頭意見ヲ具シ卿ノ議判定ニ據ツテ施行スルモノトス  
其下款ハ頭委任ノ權ヲ以テ決判施行スルヲ得

上款

第一條 全國農工商ノ諸業ヲ獎勵シテ蕃殖精巧善實盛大ナラシムル事

第二條 農工商ノ事業ヲ試驗シ其得失利害ヲ開示シ便宜ノ用法ヲ授クル事

第三條 國民濟生ノ器財金穀及諸物産等都テ適宜ノ融通ヲ得セシメ各人民ヲシテ其業ヲ專治セシムヘ  
キノ處分ヲ爲ス事

第四條 勸業ノ道ヲ獎勵スル爲メ之カ有用ノ書籍ヲ出版シ或ハ器械雛形繪圖等ヲ調整スル事

第五條 農工商ノ技術ヲ講究シ之カ生徒ヲ育養スル事

第六條 金券發行會社ヲ除クノ外諸會社ノ規則ヲ制定釐正スル事

第七條 農工商ノ事業振起ノ爲メ要用ノ資本ヲ給貸スル事

第八條 博覽會ノ事務ヲ處分スル事

第九條 國益ノ偉業ヲ興セシ者ヲ褒賞スル事

第十條 獵漁ノ事務ヲ處分スル事

第十一條 商賣品ノ號標ヲ保護スル事

第十二條 各地生産ノ物價ヲ報告スル事

第十三條 開港場貿易ノ盛衰ヲ通知シ物品ノ輸出入ヲ較量シ各業ヲ保護スル事

第十四條 農工商ノ諸業振起セサルアラハ勉メテ其障礙ノ原由ヲ審明ニシテ之ヲ救正振起セシムル事

第十五條 寮中各課ヲ廢置分合スル事

第十六條 本寮掌管ノ事務ニ於テ府縣ニ指令布達シ又ハ院省使等ニ稟議照會スル事

第十七條 寮規外ノ事件ヲ處分スル事

第十八條 定額外ノ物品ヲ購求スル事

下款

第十九條 禽獸草木其他有益ノ良種器械等ヲ成規ニ據ツテ便宜分與スル事

第二十條 農工商修業ノ生徒ヲシテ成規ニ據ツテ出入ヲ許ス事

第二十一條 諸業試驗ノ爲メニ使役スル農夫工男女ノ類ヲ緩急増減シ或ハ其賃錢ヲ適宜増減スル事

第二十二條 諸業試驗ノ際農夫工男女ノ類及ヒ雇人等ヲ使役スルニ於テ其勤惰ヲ勸懲スル爲メニ糊  
ハ二圓五十錢ニ止リ懲ハ面縛ニ止マルノ處分ヲ爲ス事

第二十三條 每歲各地方物産ノ員數及其價格ヲ統計シ一覽表ヲ編製スル事

第二十四條 本寮所屬ノ物品諸拂代ノ類一切ノ收入金ヲ調査シ各其部類ヲ詳明ニシ毎月每歲一覽表ヲ  
編製スル事

九年三月第二十二條中於  
テノ下ニ「(五)ノ二字ヲ  
加ヘ勸懲スルノ下」事ヲ  
一字ヲ加ヘ爲メ以下ノ二  
十八字ヲ削ル



- 第二十五條 本寮所屬禽獸ノ出產死亡ヲ詳明ニシ各其種類ヲ分チ毎月每歲一覽表ヲ編製スル事
- 第二十六條 五十圓ニ過サル費額ヲ以テ寮中要需ノ物品ヲ買辦シ或ハ器械ノ欠乏ヲ補ヒ又ハ之ヲ修繕スル事
- 第二十七條 寮規ニ照據ノ事件ヲ處分スル事
- 第二十八條 本寮掌管ノ事務ニ於テハ頭ノ名ヲ以テ府縣へ推問督促照會シ又ハ院省使等ノ推訊疑問ニ據リ之ヲ説明回答スル事
- 第二十九條 本寮掌管ノ事務ニ於テ各寮局課等ニ交渉スルモノハ每事合議處分スル事
- 第三十條 寮中ノ簿書類纂整頓スル事
- 第三十二條 寮中一切ノ事務各部類ヲ分チ月報年報ヲ製スル事
- 第三十三條 寮中一切ノ費用ハ簿冊ニ詳録シ每件頭ノ檢印ヲ以テ之ヲ證スル事
- 第三十四條 寮中各課ノ官員ヲ左右交替スル事

勸業寮事務章程中改正

十年一月十一日寮ヲ廢シ勸業局ヲ置ク

內務省ヨリ勸業寮へ達 九年三月三十日

其寮事務章程中第二十二條左ノ通改正候條此旨相達候事

諸業試驗ノ際農夫工男女ノ類及ヒ雇人等ヲ使役スルニ於テ便宜其勤惰ヲ勸懲スル事

勸業局沿革錄節錄

九年九月(勸業)各課掛ヲ更正シ處務條例ヲ定ム(處務條例農務局ニ實スニ舊記更ニナシト云フ以下條例ヲ闕クモノ皆然リ)

- 農務課 植物動物農具開墾
- 農務課 養蠶製糸製茶
- 工務課 分析陶器染物木具
- 農學課 學校農業博物學分析

勸業寮中課掛ヲ更正ス

十年一月十一日寮ヲ廢シ勸業局ヲ置キ其十二月處務條例及ヒ各課事務假章程處務條例ヲ更定ス

庶務課 庶務會社獵漁受付

編纂課 往復博覽會製表報告

主計課 正算用度修繕

寮頭付書記

農業試驗場 植物動物農具

工業試驗場 分析陶器染物漆物

下總牧羊場

取香種畜場

嶺岡種畜場

富岡製糸所

塚紡績所

新町紡績所

羅紗製織所

內務省ヨリ勸業局へ達 十年二月十二日

庶務局掌管種籾夫食農具小屋掛料耕牛馬代貸下之事務自今其局ニテ管理可致此旨相達候事

勸業局處務假條例 十年十二月日

第一條

局中諸般ノ事務ヲ處スルハ職制及章程ニ遵ヒ阻勉奉行スヘシ

第二條

局中諸務ノ部門ヲ分テ責任ヲ專ニセシム即各課ノ章程ト準據シ各其本分ノ事務ヲ擔當整理シ

庶務局掌管ノ種籾等件下事務ヲ勸業局ニ屬ス勸業局ハ十年一月十一日置ク所本分課事務ノ部ニ屬ス勸業局處務假條例 十三年三月二十二日各課及處務條例ヲ改正ス



テ互ニ其程限ヲ愆ルヘカラス

但各課事務ノ繁閑ニ因リ臨時長官ノ命ヲ以テ他ノ事務ヲ補助セシムルコトアルヘシ

第三條

府縣ノ申牒并ニ諸向往復書類等本省ヨリ送付アラハ受付掛ニ於テ擔當シ庶務課長ノ一覽ヲ經テ後其主務ノ課ニ付スヘシ

第四條

前條ノ書類ハ其主務ノ課ニ於テ反覆熟議シテ之カ法案ヲ作り成規例格ナキ事件及章程上款ニ係ルモノハ決ヲ卿輔ニ取り成規例格ノ判然シタルモノ若シクハ章程下款ニ在ルノ件ハ局長ノ判決ニ據リ卿名ヲ以テ其指令ヲ淨書シ受付掛ヲ經テ本省往復課ニ送り卿ノ印ヲ請ヒ府縣ニ達スヘシ

第五條

成規例格ノ有無ニ拘ハラス他ニ交渉スルモノハ必ス之ヲ合議スヘシ其體裁ノ如キハ合議書式ニ據ルヘシ

第六條

前條合議ニ於テ若シ異議アルモノハ其主務ノ課ニ於テ之レカ答辯ヲナシ又ハ其議ニ從フテ之レヲ改作シ局長ノ決ヲ得テ再ヒ之レヲ送致スヘシ

第七條

府縣申牒中ノ事理ニ於テハ素ヨリ恟悞推問スルコトアルヘシト雖徒ラニ字句ノ間ニ拘泥セス其本主ヲ參酌シ事ノ便シ易キヲ旨トシ若シ誤謬アリテ調整シ難キハ局長ニ申告シテ其府縣ニ照會書ヲ發スヘシ

第八條

地方官ヨリ農産物ノ諸業ヲ改良シ或ハ之ヲ興起センカ爲メ資本金ヲ要請スル申牒ハ其主務ノ課ニ於テ謹テ事ノ成敗得失ヲ審察シ措置ノ法案ヲ作り卿輔ニ具狀シテ太政官ノ允裁ヲ仰クヘシ

第九條

金錢出納ニ關スル件ハ每事庶務課ニ協議スヘシ同課ニ於テ算査ヲ遂ケ決議ノ後傳票等ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條

金員貸與ノ件ニシテ太政官ノ裁可ヲ乞フヘキモノハ先以大藏省ヘ合議スルヲ順序ト爲ス

第十一條

府縣申牒諸向往復ノ文書ニシテ指令ニ及ハス回答ヲ要セサル文書ハ回覽ニ供スヘシ

第十二條

諸回議決判達濟ノモノハ受付掛ヨリ其主任ニ送ラシム主任ハ其事ノ首尾完結ヲ待テ件名番號ヲ送達簿ニ記載シ受付掛ヲ經テ圖書局ニ送致スヘシ

第十三條

他ノ省局ヨリ合議ノモノハ主務ノ課ニ於テ之ヲ檢シ其意ノ解シ難キハ之ヲ推問シ或ハ其異議ノ條ニ附箋シ局長ノ檢印ヲ經テ其省局ヘ返付スヘシ

第十四條

各省局ヨリ合議ノ書册ハ局議了テ受付掛ニ達シ來ラハ必ス之ヲ報告課ニ回送シテ謄寫ヲ要シ他日ノ參照ニ備フヘシ若シ至急ノ廻議ナレハ要再回ノ印ヲ捺シ速ニ順達シ再回ヲ待テ謄寫スヘシ

第十五條

蠶種製造取締ノ爲ニ原紙ヲ排下ケ且印紙下付ノ手續ヲ爲スヘシ委クハ製造課ノ條例ニ載ス

第十六條

銃獵取締ノ爲免狀ヲ下渡スヘシ委クハ庶務課條例中ニ載ス

第十七條

刊行頒布ヲ要スヘキ文書ハ必ス報告課ニ協議スヘシ同課ニ於テハ再ヒ之ヲ訂正シ決議ノ後上梓ノ手續



ヲ爲スヘシ

第十八條

各官員出勤セハ直ニ出勤簿ニ調印スヘシ若シ疾病忌服其他父母ノ祭日等ニ因テ缺廳スルトキハ必ス届書ヲ差出スヘシ

第十九條

各員身上ニ屬スル願届等ノ事アルトキハ之ヲ書記ニ達スヘシ書記ハ例規ニ照シテ之ヲ調成シ局長ノ檢印ヲ名ヒテ之レヲ内局若クハ職務掛ニ送付スヘシ

但長官ノ願届等ハ直ニ之ヲ本省へ達スヘシ

第二十條

本省回達書ハ往復掛局長若シクハ職務掛ヨリノ達ハ書記之ヲ掌リ各課長限可心得モノハ其長宛ヲ以テシ各員一般ニ可達ハ各課宛ヲ以テスヘシ

第二十一條

前條各員ニ示スヘキ達書ハ各課宛ヲ以テスト雖トモ各員悉ク之ヲ閱覽セハ回達遷延ノ憂アルヲ以テ課長檢印シテ之ヲ順達シ其寫ヲ以テ課中へ回覽セシメ必ス各員洩ル、コトナカルヘシ

第二十二條

宿直ハ常ニ二人ヲ以テス心得方ハ宿直規則ニ據ルヘシ

第二十三條

以上ノ事務ヲ分掌セシメン爲メ各課ヲ設置スル左ノ如シ

- 動植課 製造課 農學課
- 報告課 庶務課 局長書記
- 下總牧羊場 富岡製絲所 千住製絨所
- 新町紡績所 新宿試驗場 三田育種場 取香種畜場

以上ノ課目ヲ定メ以テ局務ヲ分掌セシムト雖モ將來事業ノ進歩ト一般知見ノ上達トニ因リ尙増減改置スルコトアルヘシ

勸農局各課場所事務分課

勸農局

- 動植課 種藝 牧畜 農具 開墾 水産
- 製造課 養蠶 製絲 製茶 機織
- 農學課 學校 分析 農業 博物
- 報告課 修成 通報 翻譯 製表 簿書
- 庶務課 雜務 算查 受付 往復 淨書
- 局長書記
- 下總牧羊場
- 富岡製絲所
- 千住製絨所
- 新町紡績所
- 新宿試驗場
- 三田育種場
- 取香種畜場



各課場所事務假章程

各課其主務ヲ擔當シ若シ事ノ擧ラサルアレハ課長其責ニ任ス

動植課

- 一 植物栽培ノ方法地質風土ノ適否種類ノ良否等ヲ參酌シ之カ利害ヲ徴シ一般ニ開示シテ利益ヲ興ス事
  - 一 穀菜菓樹及各用植物改良ノ道ヲ開キ併セテ蕃殖ヲ謀ル事
  - 一 各地方ノ需ニ隨フテ草木ノ種苗ヲ頒賦シ撰種ノ方法ヲ授ケル事
  - 一 動物家畜ノ方法利害得失及種類ノ良否ヲ識別シ以テ之カ繁殖改良ヲ謀ル事
  - 一 各地方ノ需ニ隨フテ牛馬羊ノ種畜ヲ貸與スル事
  - 一 農用諸器械ノ便否ヲ參酌シ之カ利害ヲ徴シテ人民ニ開示シ以テ農業ノ便益ヲ興ス事
  - 一 原野沮澤及廢蕪地開墾ノ事業ヲ勸勵シ益農產ヲシテ増殖セシムル事
  - 一 池塘溝洫ニ注意シ農耕ノ便益ヲ謀ル事
  - 一 池澤河海ノ漁獵海苔水藻及養魚燒鹽等ニ注意シ其繁盛ヲ謀ル事
  - 一 製造課外ニアル諸農產物ノ製造方法ハ一切之ヲ掌リテ勸奨保護ノ道ヲ盡シ益天產ノ利用ヲ極メ愈營業ノ種類ヲ増シ以テ各種分業ノ實益ヲ興ス事
  - 一 農業諸會社及ヒ各組合營業ノ本課ニ屬スル部分ヲ保護シ之カ便益ヲ得セシムル事
  - 一 夫食種穀及農具小屋掛料耕牛馬代等ヲ臨時貸與シ農業保護ノ道ヲ施ス事
- 製造課
- 一 養蠶術ノ得失桑葉種類ノ適否及蠶病豫防等ノ方法ヲ開示シ該業ヲシテ益隆盛ナラシムル事
  - 一 製絲ノ巧拙精粗機械ノ便否得失ヲ參酌シ其製ヲシテ益精良ナラシムル事
  - 一 各種製茶ノ方法ヲ監查シテ益精良ナラシメ就中内外人民ノ嗜好スル所ヲ詳ニシテ其製法ヲ酌量シ該業ヲシテ益繁盛ナラシムル事

- 一 各織物ノ巧拙精粗機械ノ便否得失ヲ參酌シ該業ヲシテ益隆盛精巧ナラシムル事
- 一 農業諸會社及各組合營業ノ本課ニ屬スル部分ヲ保護シ之カ便益ヲ得セシムル事

農學課

- 一 農業諸般ノ利害得失ヲ講明シ之カ生徒ヲ教育スル事
- 一 農業有益ナル博物場ヲ開設シ以テ衆目ヲ開キ農事ノ進歩ヲ促ス事
- 一 農產ノ諸物土質等ヲ分析シテ其養分効用ヲ經驗シ併セテ栽培肥養ノ利害得失ヲ講窮開示シテ益農民ノ智識ヲ開暢セシムル事

報告課

- 一 博ク中外ノ諸書ニ就テ勸農有益ノ件ヲ索メ農書ヲ編製シ及ヒ參考書類ヲ收整スル事
- 一 各課ニ於テ刊行セントスル所ノ書類ノ訂正翻譯ヲ掌リ全局ノ書籍ヲ管守シテ併セテ刊行書報告文等刊行ノ事ニ從フ事
- 一 動植物產ノ景況本局經驗ノ成跡若シクハ外國ノ信報新聞及府縣申牒等ノ内ヨリ勸農上ノ要件ナル者ヲ鈔録シテ地方ニ報告スル事
- 一 農事ノ得失試驗ノ成跡等常ニ府縣ト相報通シ或ハ動植物ノ生育農間豐碩ノ情況等臨時問題ヲ揭テ之ヲ申報セシメ全國ノ氣脈ヲシテ聯絡セシムル事
- 一 全局中一歲ノ實務ヲ檢閲シ其緊要ナル者ヲ摘録シテ年報ヲ編製スル事
- 一 各地方郡村ノ產品人民生業ノ方ヲ調査シ從ツテ農家物產表ヲ編製スル事
- 一 全局ノ諸簿冊ヲ編輯整頓シテ異日ノ考證ニ備フル事

庶務課

- 一 各課ニ關セサル府縣ノ申牒諸向ノ往復及ヒ臨時ノ文書ヲ審案措置スル事
- 一 農業諸會社及組合營業ノ規則ニ係ルモノヲ條例ニ照シテ調査スル事
- 一 獵漁營業ノ取締方法ヲ設立シ或ハ規則ノ當否ヲ監查シ免狀授與ノ手續ヲ爲ス事